岐阜県文化財保護センター
調査報告書　第115集

中屋敷遺跡・中屋敷古墳

2010
岐阜県文化財保護センター

中屋敷遺跡・中屋敷古墳

2010

岐阜県文化財保護センター

序

清らかな長良川が市域を西流し、緑豊かな金華山がそびえる岐阜市は、斎藤道三や織田信長にまつわる岐阜城や、古来から受け継がれてきた鵜飼漁など、豊かな歴史的・民俗的景観に恵まれ、情緒ある文化を守り育てている町です。

このたび、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所による国道156号岐阜東バイパス建設事業に伴い、岐阜市岩田西に所在する中屋敷遺跡・中屋敷古墳の発掘調査を実施しました。

今回の調査では、横穴式石室をもつ古墳や、古代瓦が出土した竪穴住居跡、室町時代から江戸時代にかけての集落跡などを発見しました。特に安土桃山時代から江戸時代初期にかけて構築された地下式坑は県内３遺跡目の事例となり、とても貴重な発見となりました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、岐阜市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成23年３月

岐阜県文化財保護センター
所長　高橋　照美

例言

1　本書は、岐阜県岐阜市岩田西に所在する中屋敷遺跡（岐阜県遺跡番号21201-11303）・中屋敷古墳（岐阜県遺跡番号21201-11327）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、国道156号岐阜東バイパス建設事業に伴うもので、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター（平成21年度から岐阜県文化財保護センターに改組）が実施した。

3　宇野隆夫国際日本文化研究センター教授の指導のもとに、発掘調査は平成20年度に、整理作業は平成21年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当は、本書第１章第２節に一括掲載した。

5　本書の執筆・編集は小野木が行った。

6　発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量、景観撮影などの業務と、出土遺物の洗浄・注記は、株式会社ユニオンに委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

8　発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）

朝田公年、井川祥子、内堀信雄、設田健一、千藤克彦、中野晴久、八賀晋、藤澤良祐、
溝口彰啓、薮下浩、横幕大祐、吉田真由美、渡邉博人、岐阜市教育委員会、
財団法人岐阜市教育文化振興事業団

9　本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用している。

10　土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄2006『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

11　調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例言
第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過と方法 …… 4
第２章　遺跡の環境 …… 8
　第１節　地理的環境 …… 8
　第２節　歴史的環境 …… 9
第３章　調査の成果 …… 12
　第１節　基本層序と遺構確認面 …… 12
　第２節　遺構概要 …… 14
　第３節　遺物概要 …… 16
　第４節　奈良時代以前の遺構と遺物 …… 21
　　１　中屋敷古墳 …… 21
　　２　竪穴住居跡 …… 45
　　３　土坑 …… 48
　　４　出土遺物 …… 50
　第５節　平安時代以降の遺構と遺物 …… 70
　　１　掘立柱建物跡 …… 70
　　２　溝 …… 74
　　３　盛土遺構 …… 78
　　４　近世墓 …… 81
　　５　地下式坑 …… 82
　　６　土坑・遺物集積 …… 87
　　７　出土遺物 …… 98
第４章　総括 …… 150
報告書抄録

挿図目次

図1　遺跡位置図 …… 2
図2　調査区位置図 …… 2
図3　試掘坑位置図 …… 3
図4　グリッド設定図・地形測量図 …… 5
図5　発掘調査区周辺の地形 …… 8
図6　周辺遺跡位置図 …… 11
図7　地形測量図と調査区壁面土層図 …… 13
図8　遺構分類模式図 …… 14
図9　遺構全体図 …… 15
図10　遺物種別ごとの出土位置・接合線 …… 19
図11　瓦の部分名称・計測位置 …… 20
図12　中屋敷古墳周辺の地形測量図 …… 22
図13　中屋敷古墳全体図 …… 23
図14　中屋敷古墳土層図 …… 25, 26
図15　中屋敷古墳の遺物出土位置・接合線 …… 27
図16　古墳周辺の遺構実測図 …… 29
図17　横穴式石室実測図（１） …… 30
図18　横穴式石室の遺物出土位置・接合線 …… 31
図19　横穴式石室実測図（２） …… 32
図20　横穴式石室実測図（３） …… 33
図21　横穴式石室実測図（４） …… 35, 36
図22　横穴式石室の石材の積み方 …… 38
図23　石室内の遺構実測図 …… 43
図24　横穴式石室出土須恵器の位置と接合関係 …… 44
図25　ＳＢ１実測図（１） …… 46
図26　ＳＢ１実測図（２） …… 47
図27　ＳＢ２実測図 …… 47
図28　ＳＫ275実測図 …… 48
図29　ＳＢ３実測図 …… 49
図30　出土遺物実測図（１） …… 52
図31　出土遺物実測図（２） …… 53
図32　出土遺物実測図（３） …… 54
図33　出土遺物実測図（４） …… 55
図34　出土遺物実測図（５） …… 56
図35　出土遺物実測図（６） …… 57
図36　出土遺物実測図（７） …… 58
図37　出土遺物実測図（８） …… 59
図38　出土遺物実測図（９） …… 60
図39　出土遺物実測図（10） …… 61
図40　出土遺物実測図（11） …… 62
図41　出土遺物実測図（12） …… 63
図42　出土遺物実測図（13） …… 64
図43　出土遺物実測図（14） …… 65
図44　出土遺物実測図（15） …… 66
図45　出土遺物実測図（16） …… 67
図46　出土遺物実測図（17） …… 68
図47　出土遺物実測図（18） …… 69
図48　ＳＨ１・２実測図（１） …… 70
図49　ＳＨ１・２実測図（２） …… 71
図50　ＳＨ３・４実測図（１） …… 72
図51　ＳＨ３・４実測図（２） …… 73
図52　ＳＤ１・２・12実測図 …… 74
図53　ＳＤ４・６実測図 …… 75
図54　ＳＤ８・10・11実測図 …… 77
図55　ＳＶ１・２実測図（１） …… 78
図56　ＳＶ１・２実測図（２） …… 79
図57　ＳＤ12西端甕出土状況図 …… 80
図58　ＳＺ１実測図 …… 81
図59　ＳＫ540実測図（１） …… 82
図60　ＳＫ540実測図（２） …… 83
図61　地下式坑と中屋敷古墳 …… 84
図62　ＳＫ564実測図 …… 85
図63　ＳＫ41実測図 …… 86
図64　ＳＫ14・20・22実測図 …… 87
図65　ＳＫ３実測図 …… 89
図66　ＳＫ35・39・51・71実測図 …… 91
図67　ＳＫ215実測図 …… 92
図68　ＳＫ79・95・303・304実測図 …… 93
図69　ＳＫ433・513・552、ＳＵ２実測図 …… 95
図70　ＳＫ467・518・555実測図 …… 97
図71　出土遺物実測図（19） …… 100
図72　出土遺物実測図（20） …… 101
図73　出土遺物実測図（21） …… 102
図74　出土遺物実測図（22） …… 103
図75　出土遺物実測図（23） …… 104
図76　出土遺物実測図（24） …… 105
図77　出土遺物実測図（25） …… 106
図78　出土遺物実測図（26） …… 107
図79　出土遺物実測図（27） …… 108
図80　出土遺物実測図（28） …… 109
図81　出土遺物実測図（29） …… 110
図82　出土遺物実測図（30） …… 111
図83　出土遺物実測図（31） …… 112
図84　出土遺物実測図（32） …… 113
図85　出土遺物実測図（33） …… 114
図86　出土遺物実測図（34） …… 115
図87　出土遺物実測図（35） …… 116
図88　出土遺物実測図（36） …… 117
図89　出土遺物実測図（37） …… 118
図90　出土遺物実測図（38） …… 119
図91　出土遺物実測図（39） …… 120
図92　出土遺物実測図（40） …… 121
図93　出土遺物実測図（41） …… 122
図94　出土遺物実測図（42） …… 123
図95　遺構全体図割付図 …… 142
図96　遺構全体図分割図１ …… 143
図97　遺構全体図分割図２ …… 144
図98　遺構全体図分割図３ …… 145
図99　遺構全体図分割図４ …… 146
図100　遺構全体図分割図５ …… 147
図101　遺構全体図分割図６ …… 148
図102　遺構全体図分割図７ …… 149
図103　長良川流域の横穴式石室 …… 151
図104　中世から近世における遺構変遷図 …… 154
図105　器種・時期・産地別の遺物数グラフ（１） …… 156
図106　器種・時期・産地別の遺物数グラフ（２） …… 157

表目次

表１　試掘・確認調査結果 …… 3
表２　周辺遺跡一覧表 …… 10
表３　検出遺構一覧表 …… 14
表４　出土遺物点数等一覧表 …… 16
表５　編年対応表 …… 17
表６　石器・石製品一覧表 …… 20
表７　側壁石材の大きさ …… 40
表８　遺構観察表（1） …… 124
表９　遺構観察表（2） …… 125
表10　遺構観察表（3） …… 126
表11　遺構観察表（4） …… 127
表12　遺構観察表（5） …… 128
表13　遺構観察表（6） …… 129
表14　遺構観察表（7） …… 130
表15　遺構観察表（8） …… 131
表16　遺構観察表（9） …… 132
表17　出土遺物数一覧表（1） …… 133
表18　出土遺物数一覧表（2） …… 134
表19　土器類観察表（1） …… 135
表20　土器類観察表（2） …… 136
表21　土器類観察表（3） …… 137
表22　土器類観察表（4） …… 138
表23　土器類観察表（5） …… 139
表24　石器・石製品観察表 …… 140
表25　古代瓦観察表 …… 140
表26　近世以降の瓦観察表 …… 141
表27　金属製品観察表 …… 141
表28　古代瓦の属性分類と集計結果 …… 152
表29　出土遺物破片数量表（古瀬戸・大窯） 158
表30　出土遺物破片数量表（登窯） …… 158
表31　出土遺物破片数量表（登窯） …… 159

挿入写真目次

写真１　表土掘削前風景 …… 4
写真２　表土掘削風景 …… 4
写真３　遺構検出風景 …… 4
写真４　景観写真撮影風景 …… 6
写真５　現地説明会風景 …… 6
写真６　石室解体風景 …… 6
写真７　石室東側壁の石材の裏小口面に接して出土した土師器皿 …… 24
写真８　墳丘北側の石列 …… 24
写真９　石室埋土上面の崩落石 …… 34
写真10　石室埋土中程の崩落石 …… 34
写真11　３層上面出土の須恵器と古代瓦 …… 34
写真12　解体した奥壁 …… 34
写真13　奥壁東長手面下方 …… 37
写真14　奥壁西長手面下方 …… 37
写真15　奥壁西長手面 …… 37
写真16　中屋敷古墳石室解体工程 …… 39
写真17　玄門立柱石検出状況 …… 41
写真18　ＳＫ280検出状況 …… 41

写真図版目次

図版１　調査区遠景
図版２　調査区近景（１）
図版３　調査区近景（２）・中屋敷古墳（１）
図版４　中屋敷古墳（２）
図版５　中屋敷古墳（３）
図版６　中屋敷古墳（４）
図版７　竪穴住居跡
図版８　掘立柱建物跡・整地遺構・溝
図版９　地下式坑（１）
図版10　地下式坑（２）・近世墓・土坑（１）
図版11　土坑（２）
図版12　奈良時代以前の遺物（１）
図版13　奈良時代以前の遺物（２）
図版14　奈良時代以前の遺物（３）
図版15　奈良時代以前の遺物（４）
図版16　奈良時代以前の遺物（５）
図版17　奈良時代以前の遺物（６）
図版18　平安時代以降の遺物（１）
図版19　平安時代以降の遺物（２）
図版20　平安時代以降の遺物（３）
図版21　平安時代以降の遺物（４）
図版22　平安時代以降の遺物（５）
図版23　平安時代以降の遺物（６）
図版24　平安時代以降の遺物（７）
図版25　平安時代以降の遺物（８）
図版26　平安時代以降の遺物（９）

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

中屋敷遺跡と中屋敷古墳（以下、当遺跡と記載する。）は岐阜市岩田西地内に所在する（図１・２）。今回の発掘調査は、岐阜市を通過する国道156号岐阜東バイパス建設事業に伴い実施した。

国道156号岐阜東バイパスは、岐阜県羽島郡岐南町八剣から岐阜県関市山田までを結ぶ13.4kmの道路である。これまで、国道156号は通勤時に断続的な渋滞が発生しており、平成17年４月１日に国道156号と並行していた名鉄美濃町線が廃止され、代替手段としてバスの増加や新規バス停が設置されるなど、国道への依存がさらに増大した。そこで、交通混雑の解消やバスの定時性の確保等のため、岐阜東バイパスの建設事業が計画された。

国土交通省中部地方整備局は、平成６年度から当遺跡を含む岐阜東バイパス３工区の事業を開始した。そして、道路建設区域内における埋蔵文化財の有無及び内容等を確認するため、平成18年度に試掘・確認調査を岐阜県教育委員会に依頼した。

試掘・確認調査の対象となる範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地である岩田西遺跡及びその周辺のみであったが、現地踏査の結果、岩田西遺跡の南西側にある河岸段丘上でも遺物が採集できたために、試掘・確認調査の対象範囲を広げることとなった（試掘・確認調査の時点では、当遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地として未登録であった）。

試掘・確認調査は、岩田西遺跡と当遺跡付近の事業予定地内に、調査坑を合計20箇所（ＴＰ１～20）を設定し、平成18年10月４日に財団法人岐阜市教育文化振興事業団がＴＰ１・２を、平成18年11月13日から11月21日まで岐阜県教育委員会がＴＰ３～20を実施した。そして、重機により表土以下を掘削し、必要に応じて人力により遺構検出及び遺構掘削等を実施した。

当遺跡周辺の試掘坑は10箇所設定した（図３：試掘坑番号は試掘・確認調査時の名称を記載した）。その結果、ＴＰ５・16～19において、中世以前の遺物を伴う遺構を検出した。また、ＴＰ16の北側では、古墳と想定される墳丘状の高まりと、頂部に長さ約１ｍのチャートの角礫を２個確認した。さらに、墳丘状の高まりには、赤土採掘坑と呼ばれる近代以降の攪乱坑があり、その壁面にて人為的な盛土層を確認できたことから、この高まりが古墳と判明した。また、ＴＰ18では中世以降の盛土層と、その周辺に存在する土坑を確認した。遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗や瀬戸美濃陶器などの中近世陶磁器、瓦等が出土した。そのうち、瓦の内面には布目痕跡が明瞭に残り、当遺跡において中世以前における瓦の使用が想定された。

これらの結果を踏まえて、平成18年12月７日に岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会を開催し、中屋敷遺跡862㎡の本発掘調査が必要であると判断した。また、当遺跡の北東側に展開する岩田西遺跡の本発掘調査も同時に実施することとなった。なお、当遺跡は岐阜県遺跡地図に未登録であったため、岐阜県教育委員会により中屋敷遺跡（遺跡番号21201-11303）として平成19年12月27日に岐阜県遺跡地図に登載された。

また、本発掘調査を進めた結果、竪穴住居跡と掘立柱建物跡が調査区外まで延びることが判明し、

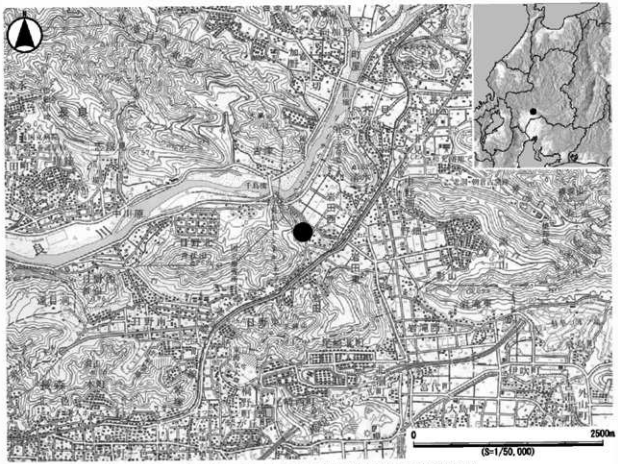


図1　遺跡位置図（国土地理院発行1:50,000地形図「岐阜北部」）

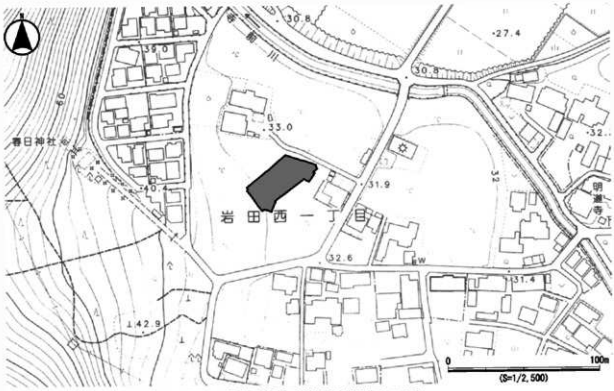


図2　調査区位置図（岐阜都市計画図　No.60）

発掘調査面積を36㎡を追加して、最終的な本発掘調査面積は898㎡となった。さらに、試掘・確認調査の結果、当遺跡内で確認した古墳は岐阜県教育委員会により中屋敷古墳（遺跡番号21201-11327）として平成21年３月18日に遺跡地図に登載された。

本書は、平成20年度に国土交通省中部地方整備局から岐阜県が委託を受け、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター（平成21年４月１日に岐阜県文化財保護センターに改組）が実施した、中屋敷遺跡及び中屋敷古墳898㎡についての本発掘調査成果の記録である。

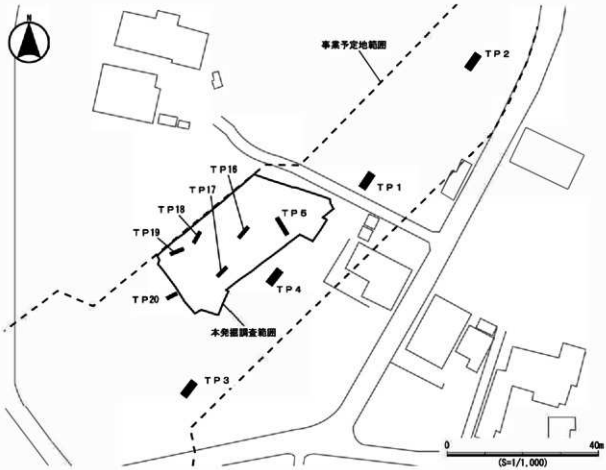


図３　試掘坑位置図

表１　試掘・確認調査結果

試掘坑	検出遺構	縄文土器	弥生土師器	須恵器	中近世陶磁器	その他	合計	その他の内容
ＴＰ１	－	0	0	0	0	1	1	近代磁器１
ＴＰ２	－	0	0	0	3	0	3	
ＴＰ３	土坑６、溝１	0	1	1	13	7	22	近世以降の瓦４、鉄釘１、土鈴１、不明１
ＴＰ４	土坑２、溝１	0	0	0	2	0	2	
ＴＰ５	土坑13、溝２	1	4	3	9	1	18	近世以降の瓦１
ＴＰ16	土坑１	0	2	0	3	4	9	中世以前の瓦３、不明１
ＴＰ17	土坑４	0	0	3	4	1	8	中世以前の瓦１
ＴＰ18	土坑２	0	0	1	15	2	18	近世以降の瓦１、不明１
ＴＰ19	土坑３	0	1	0	12	0	13	
ＴＰ20	土坑１	0	0	1	51	3	55	土鈴１、近世以降の瓦２
合計	土坑32、溝４	1	8	9	112	19	149	

第2節　調査の経過と方法

1　発掘調査の経過と方法

当遺跡の発掘調査は、岩田西遺跡の発掘調査と併行して実施した。そして、両遺跡の調査を効率的に進めるために、人力掘削作業や景観撮影等の日程を調査の進捗状況に応じて調整した。また、調査区画は当遺跡と岩田西遺跡との関係を把握しやすくするために、両遺跡を包括して設定した。すなわち、世界測地系座標をもとに100m四方の大グリッドを設定し、北から南へAから日、西から東へ1から6とした。そして、大グリッド内に5m四方の小グリッドを設定し、北から南へaからt、東から西へ01から20とした（図4）。そのため、当遺跡の北東隅のグリッドはG1s15、南西隅のグリッドはH1e07となる。なお、本書においても、大グリッドと小グリッドを併用して表記する。

発掘調査に先立ち、古墳の墳丘の残存状況や近世以降の土地の改変状況を把握するために、平成20年5月に現況地形測量を行った（図4）。その後、試掘・確認調査で確認した土層を基に、基本層序としてI層からIV層までを設定した上で、7月2日から重機による表土掘削作業を開始した。発掘調査区の現況は竹林であり、遺構を傷つけることがないよう重機での伐根作業を慎重に行ったが、伐根を行わずに株を残した箇所もある。なお、試掘・確認調査で把握できた古墳の墳丘と中世以降の盛土は、表土から人力で掘削作業を実施した。

写真1　表土掘削前風景

写真2　表土掘削風景

表土掘削後グリッド杭を打設し、8月22日から人力による掘削作業を開始した。遺物包含層掘削は、基本的にねじり鎌等の小型道具を用いて実施した。しかし、竹など樹木の株の掘削は、ツルハシ等の大型道具を使用した。遺構検出後は速やかに遺構配置略図を作成し、遺構の性格に応じた土層観察用畦を設定して、遺構掘削を実施した。

古墳と中世以降の盛土は、地形測量図を基に中軸線を設定し、表土掘削を開始した。そして、古墳の内部主体、盛土上面の遺構の平面形が明確になってから、新たに中軸線を設定し、内部主体等の掘削や墳丘・盛土の掘削を実施した。

出土遺物は、遺物包含層掘削時から出土座標を測定して取り上げた。また、遺構内にて遺物が集中して出土した場合や、包含層掘削時に一個体が

写真3　遺構検出風景

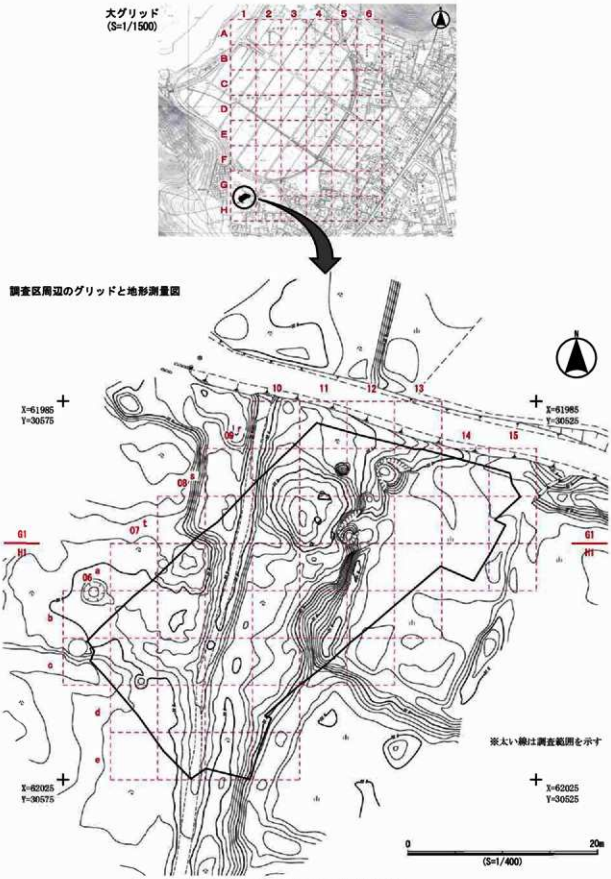


図４　グリッド設定図・地形測量図

潰れたような状況で出土した場合は、可能な限り、遺物出土状況図を作成した。遺構は半割又は四分割等で掘削し、記録写真を残して土層断面図を作成した。また、石室や石組遺構などは、必要に応じて見透し図やエレベーション図を作成した。そして、遺構の完掘後に、完掘状況の写真撮影及び図化作業を行った。

景観写真撮影は、10月16日にラジオコントロールヘリコプターにより実施した。また、11月1日に現地説明会を開催し、213名の参加があった。現地説明会開催後に、竪穴住居跡と掘立柱建物跡の規模を把握するために、発掘調査区を36㎡拡張し、表土を重機で掘削した後に人力掘削作業を行った。また、古墳の墳丘掘削作業、石室解体作業、近世以降の盛土掘削作業等をすべて人力で実施した。石室解体作業は石室の横目地に沿って慎重に除去し、目地ごとの平面図作成を併行して実施した。しかし、長さ1m以上の大きな石材は、重機を使用して除去せざるを得なかった。そして、墳丘や盛土等の下において新たに検出した遺構を対象に、12月11日にラジオコントロールヘリコプターによる景観撮影を実施し、12月18日に発掘調査作業を終了した。

写真4　景観写真撮影風景

写真5　現地説明会風景

写真6　石室解体風景

以下、発掘調査日誌から抜粋して、週ごとの調査経過を記述する。

第1週(7/ 2～ 7/ 4) 表土掘削開始(7/2)。
第2週(7/ 7～ 7/11) 表土掘削終了(7/7)。
第3週(8/18～ 8/22) 遺物包含層掘削作業開始(8/22)。
第4週(8/25～ 8/29) 中屋敷古墳表土掘削開始(8/26)。
第5週(9/ 1～ 9/ 5) ＳＵ2から近世常滑甕がまとまって出土(9/1)。
第6週(9/ 8～ 9/12) ＳＶ1主体部（ＳＫ62）完掘、中屋敷古墳石室石材の上面が見え始める(9/9)。
第7週(9/16～ 9/19) ＳＺ1石組及び墳丘周辺の石材検出(9/16)。
伊藤秋男南山大学名誉教授来訪(9/17)。
第8週(9/22～ 9/26) 中屋敷古墳石室覆土内にて須恵器と瓦がまとまって出土(9/24)。
ＳＫ39にて大窯製品出土(9/25)。
第9週(9/29～10/ 3) H1d09グリッドにて、古代瓦がまとまって出土(9/30)。

八賀晋三重大学名誉教授現地指導(10/1)。
ＳＺ１の蓋石を除去し、内部から近世陶器が出土(10/3)。
第10週(10/ 6～10/10)　ＳＫ３完掘。円礫の石組遺構であることが判明(10/8)。
第11週(10/14～10/17)　H1c-d07グリッドのⅣ層中にて土坑が連結し、地下式坑であることが判明(10/15)。　第１回景観撮影実施　(10/16)。
第12週(10/20～10/24)　ＳＢ１床面の遺構検出(10/23)。
第13週(10/27～11/ 1)　現地説明会実施(11/1)。
第14週(11/ 4～11/ 7)　拡張部分の重機掘削(11/4)。11/5～11/19作業なし。
第15週(11/17～11/21)　墳丘、盛土等の人力掘削作業開始(11/20)。
第16週(11/25～11/28)　横幕大祐池田町教育委員会文化課係長現地指導(11/27)。
宇野隆夫国際日本文化研究センター教授現地指導(11/28)。
第17週(12/ 1～12/ 5)　石室石材解体開始(12/3)、古墳墳丘下で竪穴住居跡検出(12/3)。
第18週(12/ 8～12/12)　石室側壁３段目除去後に、石室掘方検出(12/8)。
第２回景観写真撮影実施(12/11)。
第19週(12/15～12/18)　石室奥壁除去(12/17)。発掘調査作業終了(12/18)。

２　整理作業の経過

出土遺物の洗浄・注記等の一次整理作業は、平成20年７月１日から平成21年１月16日まで、発掘調査と併行して実施した。また、出土遺物の接合、実測、トレース、写真撮影、挿図・表の作成、本文執筆等の二次整理作業は平成21年度に実施した。

３　調査体制

発掘調査及び整理作業の体制は以下のとおりである。なお、平成21年４月１日に、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターから、岐阜県文化財保護センターに改組した。

理事長	広瀬利和（平成20年度）
副理事長	伊藤克己、吉田康雄（平成20年度）
常務理事兼センター所長(H21：センター所長)	梅村恒男（平成20年度）、後藤満（平成21年度）
経営課長(H21：総務課長)	加藤美好（平成20年度）、長屋忠司（平成21年度）
調査部長(H21：調査課長)	北村厚史（平成20年度）、小谷和彦（平成21年度）
調査担当課長(H21：調査担当チーフ)	谷村和男（平成20・21年度）
担当調査員	石井照久、北村昌弘、柏木賢一（平成20年度）、小野木学（平成20・21年度）
整理作業員	家岡久美、石原美帆、坂井田照子、知本俊美、丹羽香、林浩美、堀三恵、薮下賀代子

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

当遺跡は、長良川によって形成された低位段丘面上に位置する。この段丘面は長良川左岸に広く展開しており、その土壌は多湿黒ボク土壌で、黒色又は黒褐色を呈する腐食含量に富む細粒質～微粒質土である。また、当遺跡から北東に約100m進むと高さ約３mの段丘崖があり、段丘崖に沿って寺前川が流れている（図５）。この川は北に向かって流れているので「逆川」と呼ばれており、過去には台風等の洪水時に長良川の水が逆流し、寺前川の堤防が決壊して、段丘下の水田等が多くの被害を受けた。段丘崖の下には畑地と水田が広がる。これらは、それぞれ長良川によって形成された自然堤防と後背湿地上に造成されており、水田部分は細粒灰色低地土壌で、概ね灰色を呈する腐食含量の比較的低い細粒～微粒質土である。

一方、当遺跡の西側には、標高262.1mの船伏山から連なる山地と、標高169.1mの兎走山が位置し、その境には谷状地形が南東から北西方向に延びている。また、その南端には小扇状地が広がり、表面には崩積性堆積物を確認することができる。なお、船伏山と兎走山の大半はチャートから成り、周辺の古墳の石室石材等に多く使用されている。

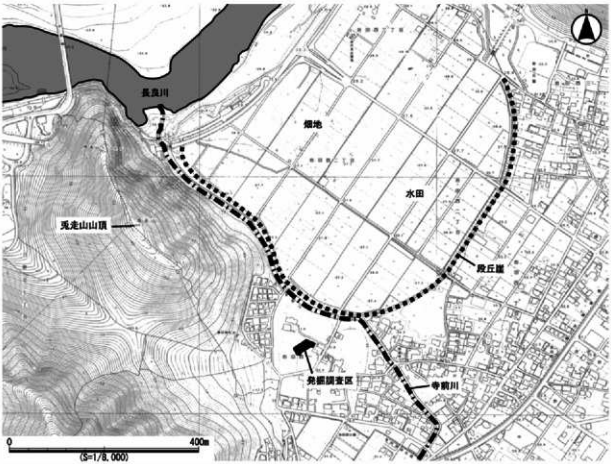


図５　発掘調査区周辺の地形（岐阜都市計画図　№50・51・60・61を改変）

第２節　歴史的環境

当遺跡周辺には数多くの遺跡が分布しており、その中には発掘調査によって性格等が明らかとなった遺跡もある。本節では、それらの概要及び当遺跡との関連性が想定される神社の沿革等を中心に、時代順に記す。なお、図６は『改訂版岐阜県遺跡地図』（岐阜県教育委員会2007）を基に作成し、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表２、図６と一致する。

旧石器時代　岩滝Ａ遺跡（28）では、昭和53年の発掘調査によりナイフ形石器や有舌尖頭器などが出土した。また、寺田遺跡（47）、日野遺跡（49）では、昭和60・61年、平成５年の発掘調査等により後期旧石器時代から縄文時代草創期の礫群や配石、土坑等を検出し、ナイフ形石器や角錐状石器などが多数出土した（岐阜市教育委員会1979、1987、1995）。

縄文時代・弥生時代　芥見町屋遺跡（15）では、昭和47年の発掘調査により弥生時代後期の竪穴住居跡５軒を検出し、１号住居跡からは鉢、器台、高坏、壺、甕など、残存状況の良好な一括資料が出土した。岩田東Ａ遺跡（21）では、平成20年度の発掘調査により弥生時代中期の竪穴住居跡や弥生時代後期頃の方形周溝墓４基などを検出した。岩滝Ａ遺跡（28）では、縄文中期後半から後期の土器数点と石鏃19点、打製石斧、石錘などが出土した。また、弥生時代後期の隅丸方形を呈する竪穴住居跡を検出した（岐阜市教育委員会1979、岐阜県文化財保護センター2009）。

古墳時代　七反田番場山古墳群（８）は、平成15年に７・10・11号墳の発掘調査を実施した。その結果、７号墳は直径約13.8ｍの円墳、10・11号墳は墳形、規模ともに不明であった。７号墳の内部主体は両袖式横穴式石室で、石室規模は全長6.0ｍ、玄室長3.2ｍ、奥壁幅1.3ｍであり、須恵器や土師器が出土した。また、11号墳の内部主体は木棺直葬で、須恵器や土師器、鉄鏃等が出土した。大蔵山古墳（13）は、大正14年に発掘調査を実施した。円墳で墳丘規模は不明であるものの、横穴式石室内部に長さ90㎝の砂岩製長持型石棺があり、人骨が残存していた。簑笠山古墳群（18）は２基の円墳から成り、１号墳は直径12ｍ、高さ2.4ｍ、２号墳は直径８ｍ、高さ1.8ｍである。内部主体は不明であるものの、１号墳から須恵器が出土した。岩田古墳群（19）は、『岐阜市史史料編考古・文化財』では７基の円墳から成るとされている。そのうちの１号墳（智照院古墳）は昭和53年に部分発掘調査が実施された。墳丘は直径約16ｍ、高さ約2.5ｍで、内部主体は片袖式横穴式石室である。石室規模は全長7.9ｍ、玄室長4.9ｍ、奥壁幅1.2ｍ、石室最大幅1.9ｍで、須恵器、金環、銀環等が出土した。また、『岐阜市史史料編考古・文化財』の岩田古墳群６号墳は中屋敷古墳に該当し、須恵器高坏が採集されている。朝倉古墳群（23）は４基の古墳から成り、大正年間に発掘調査が実施された。古墳の規模はいずれも７～11ｍで、内部主体は横穴式石室である。遺物は、１号墳から金環、直刀、須恵器、２号墳から須恵器、鉄片、３号墳から管玉、須恵器、４号墳から須恵器が出土している。雨池遺跡（45）では、土師器の台付甕の台部片が採集されている（岐阜市教育委員会1979、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。

奈良・平安時代　芥見長山遺跡（17）では、昭和55年の発掘調査により竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡３棟、土坑43基、溝２条などを検出した。その時期は概ね８世紀中葉から９世紀初頭と考えられており、なかでも三彩の出土は注目できる。また、平成15年の試掘調査でも、古代には埋没していたと考えられる竪穴住居跡２軒を検出した。老洞古窯跡群（22）は、昭和53年に１号窯窯体と１～３号

窯灰原の発掘調査を実施した。１号窯は全長9.３ｍの須恵器窯であり、その灰原から「美濃」、「美濃国」刻印須恵器が出土し、全国的に注目された。日野古窯跡群（51）は５基の窯の存在が知られており、１～４号窯は灰釉陶器窯、５号窯は瓦窯で丸瓦と平瓦が採集されている。奥洞古窯跡群（37）、岩田坂古窯跡群（39）は、いずれも灰釉陶器窯である（岐阜市教育委員会1979、2004）。

なお、養老年間（西暦717～723年）の駅伝制で定められた駅路のうち、岐阜市内を通過するのは東山道である。その道筋の全容は定かでないものの、長良古津遺跡（14）付近から岩田西遺跡（20）付近で長良川を渡河したとする説もある。また、岩田古墳群（19）の範囲内には伊波乃西神社が位置する。伊波乃西神社は、延長５年（西暦927年）に奏進された『延喜式』に各務郡七座のうちの一つとして、また天慶年間から天暦・天徳年間（西暦938～960年）に成立したと推定されている『美濃国神名帳』に各務郡座二十三社のうちの一つとして記載されている（岐阜市教育委員会1980、岩史誌編纂委員会2007）。

鎌倉時代以降　芥見長山遺跡（17）では、平成10年の試掘調査により戦国時代の溝３条や方形竪穴１基を検出した。また、岩田西遺跡（20）は、平成20年度の発掘調査により室町時代の水田区画を広域にわたって検出し、擬漢式鏡や双魚文をもつ青磁等が出土した。なお、中屋敷遺跡（１）の南側に位置する墓地内には15～16世紀頃の五輪塔数基が、岩田古墳群（19）の範囲内に位置する林陽寺の墓地内には15～16世紀頃の宝篋印塔と五輪塔数基が存在している（岐阜市教育委員会1999、岐阜県文化財保護センター2009）。

表２　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	中屋敷遺跡	集落跡	古墳～近世
2	中屋敷古墳	古墳	古墳
3	加野番場山古墳群	古墳	古墳
4	溝口番場山古墳群	古墳	古墳
5	北長塚古墳群	古墳	古墳
6	北長塚遺跡	散布地	縄文
7	石原番場山古墳群	古墳	古墳
8	七反田番場山古墳群	古墳	古墳
9	七反田番場山２号古墳	古墳	古墳
10	七反田番場山１号古墳	古墳	古墳
11	加野西畑遺跡	散布地	古代・中世
12	加野南遺跡	散布地	古代・中世
13	大蔵山古墳	古墳	古墳
14	長良古津遺跡	散布地	古代・中世
15	芥見町屋遺跡	散布地	弥生
16	大船山古墳群	古墳	古墳
17	芥見長山遺跡	集落跡	古代
18	簑笠山古墳群	古墳	古墳
19	岩田古墳群	古墳	古墳
20	岩田西遺跡	散布地	古代・中世
21	岩田東Ａ遺跡	散布地	古代・中世
22	老洞古窯跡群	生産遺跡	古代
23	朝倉古墳群	古墳	古墳
24	朝倉古窯跡群	生産遺跡	古代
25	朝倉遺跡	散布地	縄文～古代
26	岩田東Ｂ遺跡	散布地	旧石器

番号	遺跡名	種別	時代
27	岩滝古墳群	古墳	古墳
28	岩滝Ａ遺跡	散布地	旧石器～中世
29	岩滝西Ｂ遺跡	散布地	旧石器～中世
30	岩滝西Ａ遺跡	散布地	旧石器～中世
31	岩滝西Ｃ遺跡	散布地	旧石器～中世
32	北洞遺跡	散布地	弥生～近世
33	宮代遺跡	散布地	旧石器～近世
34	南洞古墳群	古墳	古墳
35	尾崎大平古窯跡群	生産遺跡	古代
36	南洞古窯跡群	生産遺跡	古代
37	奥洞窯跡群	生産遺跡	古代
38	岩田７号古墳	古墳	古墳
39	岩田坂古窯跡群	生産遺跡	古代
40	岩田坂古墳群	古墳	古墳
41	尾崎古墳群	古墳	古墳
42	観音寺古墳群	古墳	古墳
43	桐野遺跡	散布地	旧石器～近世
44	雨池東遺跡	散布地	旧石器
45	雨池遺跡	散布地	弥生
46	山手古墳群	古墳	古墳
47	寺田遺跡	集落跡	旧石器～弥生
48	寺田森遺跡	散布地	旧石器
49	日野遺跡	集落跡	旧石器～弥生
50	日野北石神遺跡	散布地	縄文
51	日野古窯跡群	生産遺跡	古代
52	船伏山古墳群	古墳	古墳

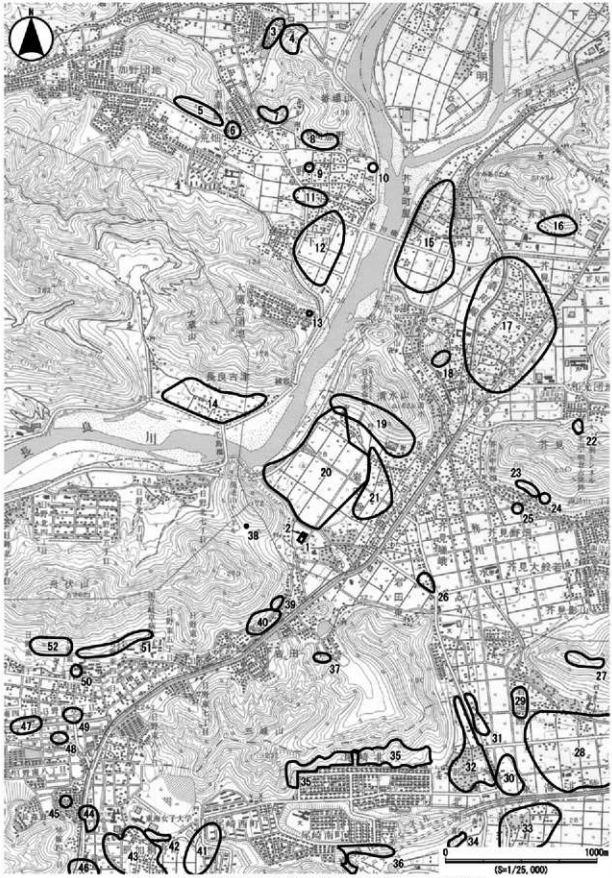


図6　周辺遺跡位置図（国土地理院発行 1:25,000 地形図「岐阜北部」）

第３章　調査の成果

第１節　基本層序と遺構確認面

当遺跡は長良川の河岸段丘上に位置し、基盤となる面は段丘堆積層である。また、明治時代の地籍図では、当遺跡周辺は宅地及び藪・山林として記載され、明治時代以降は畑地としての土地利用もあったとのことである。そのため、段丘堆積層より上の堆積は土壌化が進行し、宅地造成等により土の移動が広範囲にて行われたようである。

調査区内には、東側と西側に平坦面があり、東側が西側より約1.３m低い（以下、東側を下段、西側を上段と記載する）。そして、その境にある傾斜地はＬ字状に屈折しており、下段には旧表土であるⅣ層を確認できなかったことから、下段は明治時代以降の宅地造成に伴い、大規模に削平されたと考えられる（図７）。なお、調査開始前は、調査区全体に竹林が広がっていた。

以下、基本層序のＩ層からＶ層までの詳細及び遺構確認面について記載する。

Ｉ層　10YR4/2灰黄褐色土～10YR3/1黒褐色土　表土

現代の表土や明治時代以降の宅地・畑地造成土などをまとめてＩ層とした。竹の根が多く、土壌化作用が進行している。調査区全面において認められ、層厚は上段で約0.20m、下段で約0.15mである。古墳時代から現代までの遺物を含む。

Ⅱ層　10YR3/1～10YR3/2黒褐色土　遺物包含層

江戸時代以降に堆積、または搬入・改変された土と推定され、竹の根が多く、土壌化作用が進行しており、Ⅳ・Ⅴ層の黄褐色土を含む。調査区全面において認められ、層厚は上段で約0.30～0.50m、下段で約0.20mである。古墳時代から近代までの遺物を含み、Ⅱ層中もしくはⅡ層除去後に、近世の遺構や遺物集積を確認した。

Ⅲ層　10YR2/1黒色土　遺物包含層

土壌化作用が進行しており、暗褐色ブロックをわずかに含む。上段のみで認められ、層厚は約0.30mである。古墳時代から近代までの遺物を含む。

Ⅳ層　10YR5/2灰黄褐色土　旧表土、無遺物層

上段のみで認められ、層厚は約0.20mである。上段では主にⅣ層上面（Ⅲ層除去後）が遺構確認面であり、古墳の墳丘や近世以降の盛土（ＳＶ１）はⅣ層上面に構築されている。なお、Ⅳ層中に遺物は含まれない。

Ⅴ層　10YR7/4にぶい黄橙色土～10YR7/6明黄褐色土　地山、無遺物層

調査区全面において認められ、上段での深掘り調査では層厚1.00m以上であった。下段ではⅤ層上面（Ⅱ層除去後）が遺構確認面であり、上段と下段の境にある傾斜地では、遺構確認面がⅣ層上面からⅤ層上面へと漸移的に変化する。なお、上段では、Ⅳ層とⅤ層の間に白色粒を多く含む黒褐色土が部分的に広がっており、その黒褐色土及びⅤ層中に遺物は含まれない。

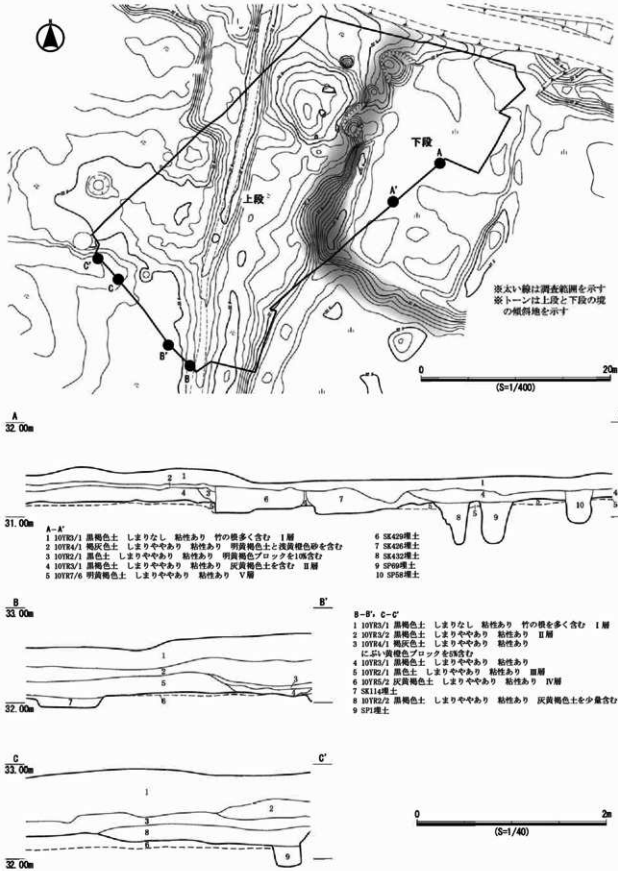


図7　地形測量図と調査区壁面土層図

第２節　遺構概要

今回の調査では、弥生時代終末期と古墳時代終末期、室町時代から江戸時代までの遺構を検出した。遺構は調査区のほぼ全面で検出した。そのうち、中屋敷古墳は調査区北側に位置し、古墳東側の調査区下段では室町時代以降の掘立柱建物跡（ＳＨ１～４）や区画溝（ＳＤ８・11）などを検出した。また、古墳南側から西側にかけての調査区上段では、室町時代から安土桃山時代の平行する２条の溝（ＳＤ４・６）や地下式坑（ＳＫ41・540・564）、江戸時代の整地遺構（ＳＶ１・２）などを検出した。さらに、古墳の盛土や江戸時代の整地遺構を除去した後に、弥生時代終末期（古墳時代早期）の竪穴住居跡（ＳＢ３）や室町時代の土坑（ＳＫ518）などを検出した（図９）。

遺構の種類と検出数は、表３のとおりである。そのうち、単独の柱穴跡（ＳＰ、以下、括弧内のアルファベットは遺構略号を示す。）は、遺構内の堆積土中で柱痕跡を確認したもの、もしくは遺構底面にて柱当たりの痕跡を確認したものである。これは合計110基を数え、なかには掘立柱建物跡や竪穴住居跡の柱穴跡（Ｐ）である遺構も存在する可能性がある。しかし、発掘調査時から整理等作業にかけて、同一規模の柱穴跡のまとまりや並びを確認できなかったため、今回は単独の柱穴跡として報告する。整地遺構（ＳＶ）は広範囲にわたって土などを盛り、その上面を平坦に整えている遺構である。ＳＶ１は調査区縁辺部でわずかに確認したのみであるが、地形測量図（図４・７）から広範囲にわたる盛土遺構の一部と判断した。なお、今回検出した竪穴住居跡の床面では、明確に柱痕跡を確認できた柱穴はない。そのため、竪穴住居跡は建物跡と表現しても良く、床面上で検出した穴は、すべて土坑（ＳＫ）として報告する。

表３　検出遺構一覧表

遺構の種類	略号	検出遺構数	掲載数
竪穴住居跡	ＳＢ	3	3
掘立柱建物跡	ＳＨ	4	4
土坑	ＳＫ	578	29
溝	ＳＤ	13	8
単独の柱穴跡	ＳＰ	108	0
遺物集積	ＳＵ	2	2
整地遺構	ＳＶ	2	2
古墳	－	1	1
近世墓	ＳＺ	1	1
掘立柱建物跡の柱穴跡	Ｐ	22	22
竪穴住居跡内土坑	ＳＫ	12	12
竪穴住居跡内カマド跡	ＳＦ	1	1
竪穴住居跡内溝	ＳＤ	5	5
合計		752	90

なお、本報告書において、遺構の挿図や写真は、竪穴住居跡や掘立柱建物跡、古墳、地下式坑など、遺跡の性格を理解する上で必要なものを中心に掲載した。また、時期や性格が不明の土坑などは、図８の遺構分類模式図に基づき、遺構観察表（表８～16）に分類名を記載するのみに止めた。

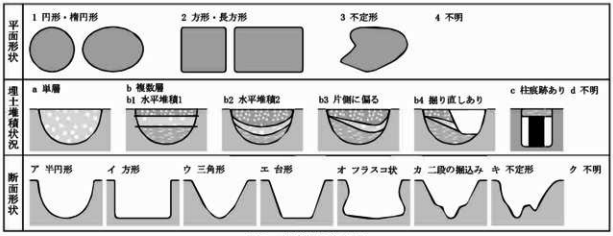


図８　遺構分類模式図

遺構全体図１
中屋敷古墳の墳丘と
SV1・SV2の整地土あり
中屋敷古墳
SD11
SV2
SK513
SV1
SH4
SH3
SH2
SH1
SK3
SD8
SK41
SK39
SB1
SK79
SB2
SD4
SD6
古墳時代の主な遺構
中屋敷古墳
ＳＢ１～３（竪穴住居跡）
室町～安土桃山時代の主な遺構
ＳＨ１・２（掘立柱建物跡）
ＳＫ41・540・564（地下式坑）
ＳＫ39・79・518
（遺物が多数出土した土坑）
ＳＤ４・６（平行する２条の溝）
ＳＤ11（区画溝）
江戸時代の主な遺構
ＳＨ３・４（掘立柱建物跡）
ＳＫ３・513（石組遺構）
ＳＫ555（常滑甕設置遺構）
ＳＶ１・２（整地土）
ＳＤ２・８・11・12（区画溝）
遺構全体図２
中屋敷古墳の墳丘と
SV1・SV2の整地土除去後
SB3
SD12
SK540
SK518
SD2
SK555
SK564
0
10m
(S=1/300)

図９　遺構全体図

第3節　遺物概要

1　出土遺物数と掲載遺物数

出土遺物は、接合前の破片数で合計10,582点である（表4）。そのうち、主に室町時代から江戸時代までの中近世陶磁器は、全体の出土遺物数に対する割合が約40％と最も多く、次いで弥生土器・土師器、中近世土師器（土師器皿、鍋、釜等）、近世以降の瓦などが多い。また、その他の種別として須恵器や古墳時代終末期頃の瓦（以下、古代瓦と記載する。）などが出土しているものの、全体の出土遺物数に対する割合はいずれも10％以下である。なお、接合率（表4のb/a）の高い種別は中近世陶磁器であり、次いで古代瓦、弥生土器・土師器などである。

掲載遺物数は合計554点であり、接合後破片数の7.35％である。その抽出方法は、遺構出土遺物のうち、遺構の性格や時期等の検討する上で必要なものや、遺物包含層出土遺物のうち、遺跡の性格を端的に示すものや分類別の代表的なものを中心に選択している。

表4　出土遺物点数等一覧表

種別	接合前破片数(a)	接合後破片数(b)	(b)の全体に対する割合(%)	b/a	掲載点数(C)	c/b
縄文土器	9	8	0.1	0.89	1	0.13
弥生土器・土師器	1,177	920	12.2	0.78	14	0.02
須恵器	653	534	7.1	0.82	54	0.10
古代瓦	631	454	6.0	0.72	44	0.10
灰釉陶器	25	23	0.3	0.92	1	0.04
中近世陶磁器	5,368	3,283	43.6	0.61	283	0.09
中近世土師器	1,080	916	12.2	0.85	43	0.05
近世以降の瓦	1,464	1,238	16.4	0.85	39	0.03
石器・石製品	67	57	0.8	0.85	28	0.49
金属製品	49	49	0.6	1.00	36	0.73
その他(土製品等)	59	53	0.7	0.90	11	0.21
合計	10,582	7,535	100.0	0.71	554	0.07

2　時期区分

本報告書における時期区分は一般的に使用されている時代呼称を用い、その年代観に対応する土器様式等は既存の研究に従った（表5）。また、本報告書における中世はおよそ平安時代後半から安土・桃山時代、近世はおよそ江戸時代に対応する。なお、出土した遺物について、以下の方々から土器様式名、産地、時期などの指導を得た。しかし、本書における記載内容の責任は編集者にある。

須恵器・古代瓦：渡邊博人（各務原市役所）、

土師器皿・古代瓦・近世以降の瓦：井川祥子（岐阜市教育委員会）

中近世陶磁器：藤澤良祐（愛知学院大学）、常滑焼：中野晴久（常滑市民俗資料館）

石器・石製品の石材：三島誠（岐阜県文化財保護センター）

3　遺物概要

ここでは種別ごとの所属時期、分布、接合関係などについて記す（図10）。

(1) 縄文土器

出土点数は9点と少なく、しかも大半は細片である。そのうち、時期の推定できる資料は縄文時代後期の深鉢1点のみである。

(2) 弥生土器・土師器

出土遺物の所属時期は、弥生時代終末期（古墳時代早期）及び古墳終末期である。その出土位置は

表５　編年対応表

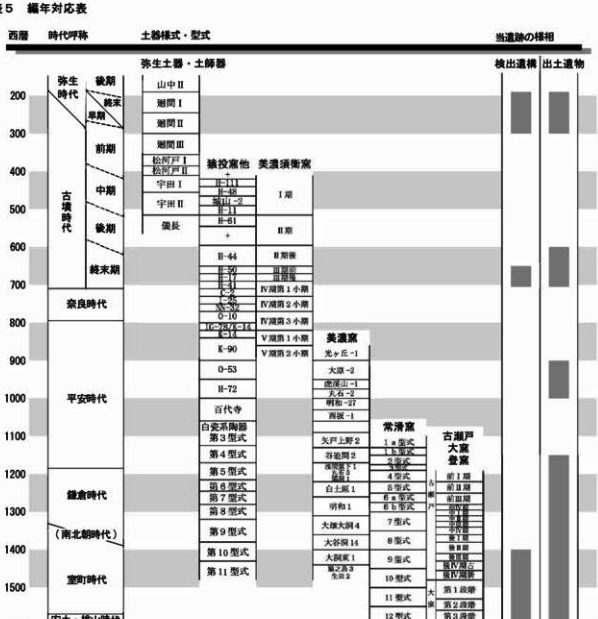


表５の参考文献

赤塚次郎 2002「総説　土器様式の偏差と古墳文化」『考古資料大観２　弥生・古墳文化　土器Ⅱ』小学館
早野浩二「東海・中部地方の土器」『考古資料大観３　弥生・古墳時代　土器Ⅲ』小学館
斎藤孝正 1995「猿投、美濃、美濃須衛窯編年と他窯編年対比表」『須恵器集成図録　第３巻　東日本編Ⅰ』
多治見市教育委員会 1997『大針台４・５号窯発掘調査報告書』
多治見市教育委員会 2003『松坂８～11号窯発掘調査報告書』
中野晴久 1995「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』小学館
愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』

調査区全体に広がっており、なかでも中屋敷古墳の石室内及びその前面（南側）、ＳＢ１・２周辺にまとまっている。遺物の接合は、一遺構内及びその周辺において確認できたのみである。

(3) 須恵器

出土遺物の所属時期は、古墳時代終末期のものが多い。その出土位置は調査区全体に広がっているものの、中屋敷古墳の石室内及びその前面においてまとまりがあり、ＳＨ１～４付近ではほとんど出土していない。遺物の接合線（接合した遺物の座標同士を結んだ線、以下同様。）は、中屋敷古墳の石室内を中心に密集している。出土遺物の生産地は猿投窯と美濃須衛窯、伊勢産、産地不明などがある。

(4) 古代瓦

古代瓦はＳＢ１において須恵器・土師器と共伴して出土しており、その所属時期は、共伴遺物の年代から古墳時代終末期（７世紀後葉から８世紀初頭）である。出土位置は調査区全体に広がっているものの、中屋敷古墳の石室内及びその前面、ＳＢ１周辺にまとまっている。遺物の接合線は、中屋敷古墳の石室内及びその前面を中心に密集しており、ＳＢ１上面出土遺物と石室内出土遺物が接合している。

(5) 灰釉陶器

出土点数は25点と少なく、しかも大半は細片である。その出土位置は調査区全体に散在している。出土遺物の生産地は猿投窯と美濃窯であり、高台形態から推定できる遺物の所属時期は、猿投編年の折戸53号窯式から東山72号窯式併行期である。

(6) 中近世陶磁器・土師器

出土遺物の所属時期は、鎌倉時代から江戸時代までほぼ連続しており、特に室町時代以降の遺物が多い。その出土位置は調査区全体に広がっているものの、中屋敷古墳の石室前面を除く調査区南東側は、他の区域に比べてやや希薄である。遺物の接合線も調査区全体に広がっており、特に中屋敷古墳の石室前面と地下式坑であるＳＫ540・564周辺は密集している。

(7) 近世以降の瓦

出土遺物の大半は、江戸時代後期から末頃の陶磁器とともに出土している。その出土位置は、ＳＨ１～４周辺と、調査区北西側に偏る傾向がある。遺物の接合線は比較的短く、調査区上段と下段を結ぶ線はない。

(8) 石器・石製品

出土遺物の所属時期は、縄文時代と室町時代から江戸時代に分かれる。前者は有舌尖頭器、石鏃、打製石斧などであり、中屋敷古墳の石室内からの出土が目立つ。後者は砥石、石硯、石臼などであり、ＳＨ１～４周辺からの出土が目立つ。特に砥石の出土が多く、その石材同定は実施していないものの、鳴滝砥に類似する石材が多い印象を受ける。なお、石器・石製品の器種及び石材は表６のとおりである。

(9) 金属製品

出土遺物の所属時期は室町時代から江戸時代であり、中屋敷古墳の石室内や竪穴住居跡からの出土はない。その出土位置は調査区全体に散在し、特徴的なまとまりは見いだせない。出土遺物50点の内訳は、釘14点、銭貨11点、刀子５点、火打金２点、不明18点であり、釘と銭貨の出土数が多い。

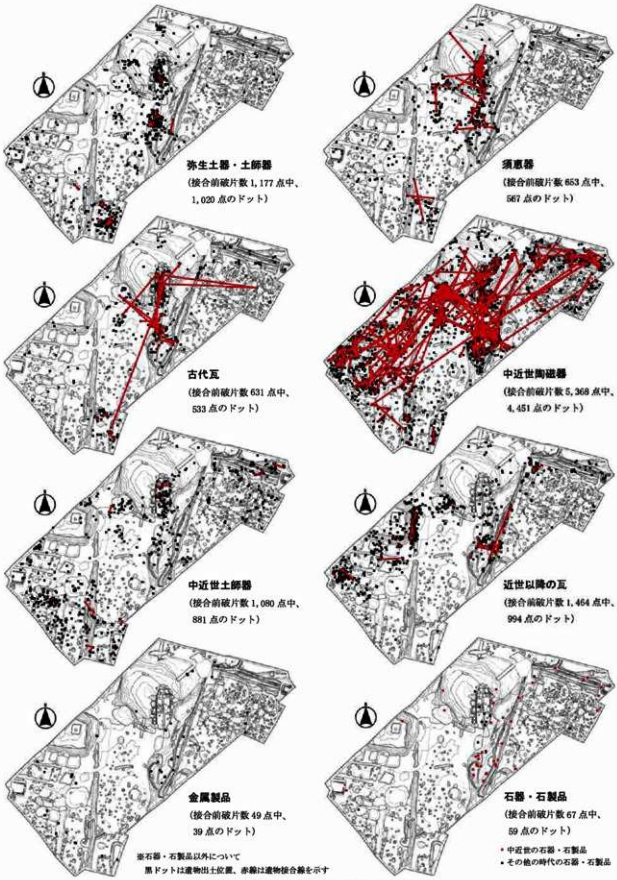


図10　遺物種別ごとの出土位置・接合線

表6　石器・石製品一覧表

器種＼石材	チャート	下呂石	安山岩	片岩	砂岩	泥岩	凝灰岩	流紋岩	結晶片岩	石材不明	花崗岩	総計
有舌尖頭器	1											1
石鏃		1										1
打製石斧			3	2								5
磨製石斧			1									1
石錘			1		1	1						3
擦石					1							1
叩き石					1							1
石皿			1									1
砥石				1	4	3	16	9	1	1		35
石硯							5					5
石臼											3	3
総計	1	1	6	3	7	4	21	9	1	1	3	57

4　掲載した遺物実測図の凡例

本報告書で掲載した遺物実測図の詳細は、以下のとおりである。

・複数の調整痕が重複する場合は、より新しい調整痕を前面に表現した。

・断面図を計測した位置と穿孔位置が異なる場合は、穿孔の断面図を土器等の断面図の対応する位置に破線で表記した。

・付着物などのトーン表記は、アミ30%が油煙、アミ50%が漆・煤を示す。その他、必要に応じて実測図の周辺に凡例を示した。

・砥石の砥面範囲は┣┫、成形範囲は⟷として、断面図にそれぞれ示した。

・瓦の部分名称及び計測位置は図11のとおりである。

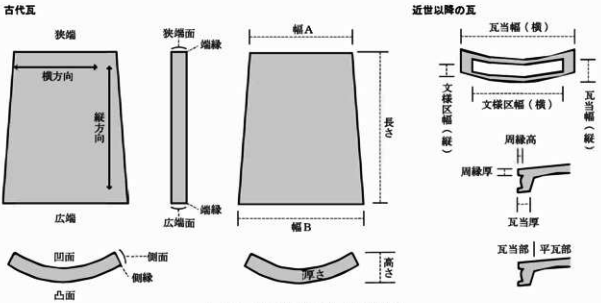


図11　瓦の部分名称・計測位置

次節以降では、表5の時代呼称、土器様式・土器型式に従い、奈良時代以前の遺構と遺物、平安時代以降の遺構と遺物に分けて記載する。

第４節　奈良時代以前の遺構と遺物

１　中屋敷古墳

(1) 立地等

①立地

中屋敷古墳は西から東へ約２°の角度で下降する緩斜面上に位置する。この場所は兎走山の南東山麓に当たり、兎走山と船伏山の間にある谷地形の延長上でもある。古墳が構築された場所の標高は約32ｍで、墳丘上からは長良川によって形成された低位段丘面が一望できる。

②調査前の状況

中屋敷古墳周辺は明治時代に住宅地として使用されており、調査前には近代以降の井戸跡や屋敷地の区画跡と思われる溝や土塁状の高まりがみられた。また、近代以降の採土穴とされる直径２～３ｍの大きな穴が墳丘東面の２箇所に掘削されており、その内部や周辺には近現代の陶磁器類が散乱していた。また、墳丘西側は未舗装の道路により削平されており、削平面には幾つかの円礫がみられた（図12）。

墳丘上には大きなチャートの角礫が４つ程度視認できたものの、それらの位置から石室の開口方向を推定することは困難であった。また、墳丘南側には直線的に延びる周溝状の浅い窪みがあり、調査前は本古墳が方墳である可能性も考えていた。

(2) 墳丘・周辺の遺構等

①現地説明会前後の検討過程

現地説明会において、本古墳は直径約12ｍの円墳と報告した。しかし、その後の検討の結果、規模は直径15ｍ以上で、墳形は不明とすることが妥当と判断した。その検討過程は以下のとおりである。

墳丘覆土の掘削前に、土層観察用畦を設定した。その軸線は、地形測量の結果をもとに墳丘標高の最も高い地点を通り、かつ墳丘南側の周溝状の浅い窪みに直交するように設定しており、S-11°-Wの方向である（図12）。覆土を掘削すると、墳丘南北端のトレンチで石列を検出した。そして、石列に並行するように、北側では細長い土坑を、南側では湾曲する溝を確認した（図13）。そのため、石列を外護列石、土坑や溝を周溝と考え、両遺構間の距離が約12ｍであったので、現地説明会では本古墳を直径約12ｍの円墳として報告した。

しかし、現地説明会後に墳丘を解体した結果、南側の湾曲する溝は中世の地下式坑（ＳＫ540・564）の埋土を再掘削した溝の一部であり、石列はその埋土中に流入したものであることが判明した。また、石室西壁最南端の礫を除去したところ、その下から玄門立柱石の掘方の可能性が高い土坑（ＳＫ280）を検出した（図21）。そのため、本古墳の石室は玄室のみ残存しており、墳丘南側の大半は後世の削平などにより、すべて消失していると判断した。以上から、現地説明会において、本古墳を直径約12ｍの円墳としたことは誤りであったことが判明した。

一方、北側の墳丘裾の検出は極めて困難であったものの、不定形ながらそのラインを確認し、また、それに沿ってＳＫ255やＳＫ285といった溝状の浅い土坑を検出した。墳丘裾と周溝の残欠の可能性がある土坑の存在から、この位置が古墳の墳丘裾であると認識した。しかし、これらの情報だけでは、本墳の墳形を推定するには至らないと判断した。

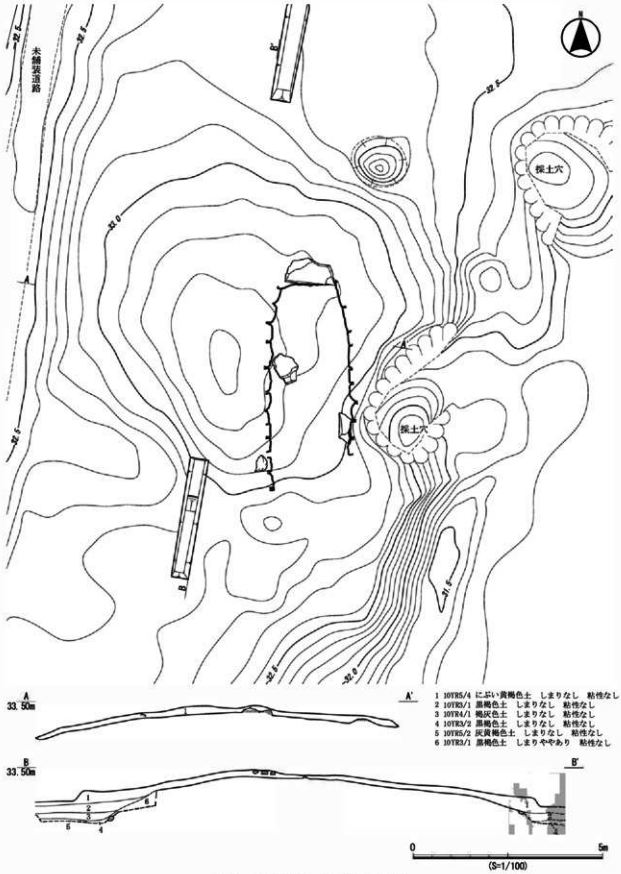


図12　中屋敷古墳周辺の地形測量図

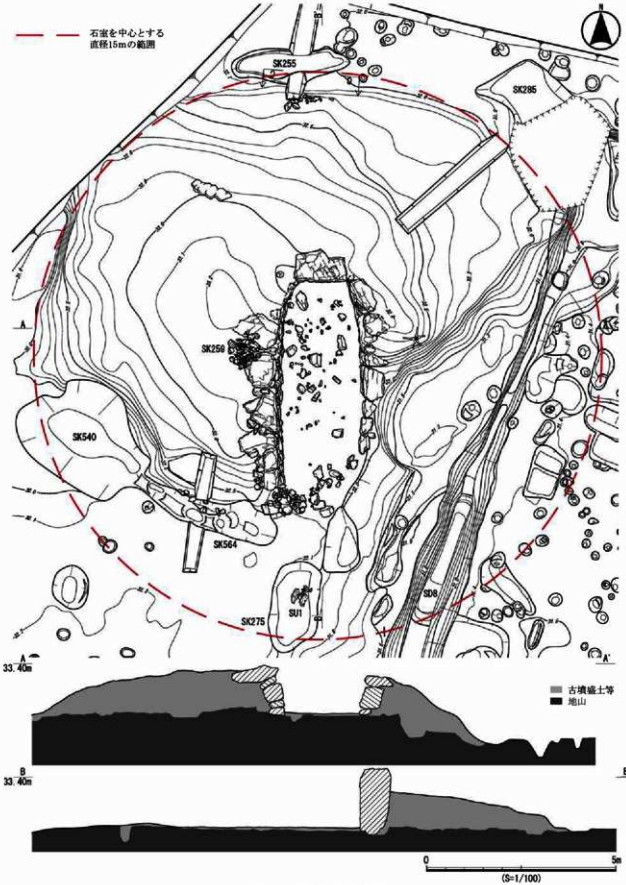


図13　中屋敷古墳全体図

また、墳丘裾の北側ラインは、石室の長軸ラインの延長上でほぼ左右対称に検出できたことから、石室は墳丘のほぼ中央に構築されていると推定した。そして、墳丘の土層観察の結果、西側の墳丘盛土は石室中軸ラインから約7.5m残存していることが明らかとなったため、本古墳は直径15m以上の規模であると判断した（図13では、石室を中心とする直径15mの円を仮に破線で追加した。）。

以上から、最終的に、本古墳は直径15m以上の規模を有し、その墳形は不明とする。

②墳丘盛土

墳丘は、その西側を中世以降の造成により、南西側を中世の地下式坑であるＳＫ540・564に破壊されている。また、東側は近世以降の溝であるＳＤ８や現代の採土穴など、中世から現代までの改変が著しい。一方、北面のみは後世の改変が顕著でなかった。

現存する盛土高は約0.9mであり、断面観察の結果、中世以降の堆積層、石室掘方埋戻し後の墳丘盛土層、石室掘方掘削前の墳丘盛土層の大きな３つの単位を確認した（図14）。

中世以降の堆積層は、標高32.60～37.10mより上で確認し、基本的に残存している石室石材を覆っている。古墳の墳丘は、特にその東側において中世以降の破壊が著しく、石室東側壁を構成する石材の裏小口面に接して完形の土師器皿が割れて出土した箇所もある（写真７）。

石室掘方は、石室の西・北・東面で墳丘盛土内において確認した。しかし、確認できた標高値は、西面と北面で32.45～32.55m、東面で32.19mであり、約20～30㎝のズレがある。

石室掘方掘削前の土層は、旧表土上面においてレンズ状の小単位の土層が顕著に確認できたものの、粘土などによる叩き締めなどは認められず、比較的軟質な土で構築されていた。その上面の標高値は、石室側が高く、墳丘裾に向かう程低くなる傾向がある。

石室掘方埋戻し後の土層は一単位が比較的広いものの、石室際のみ細かい単位を確認した。また、墳丘西側の34層と墳丘北側の６層のみは、にぶい黄橙色土またはにぶい黄橙色ブロックを含む比較的しまりのある土層であった。

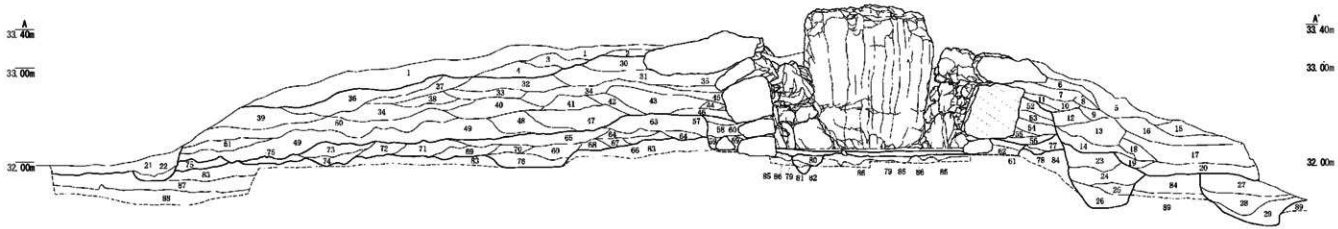
墳丘盛土上面の遺物や、墳丘内の遺物の接合状況は、図15のとおりである。遺物の接合率は、石室東側より西側の方が高い。特にＳＫ540出土遺物と石室及びその周辺出土の中近世陶磁器の接合が顕著である。また、古代瓦や須恵器・土師器の分布と接合状況も石室西側に偏る傾向がある。これらは、中世以降の墳丘盛土の削平行為に大きく影響していると思われる。

写真７　石室東側壁の石材の裏小口面に接して出土した土師器皿
（矢印が土師器皿、写真右が石室内）

写真８　墳丘北側の石列

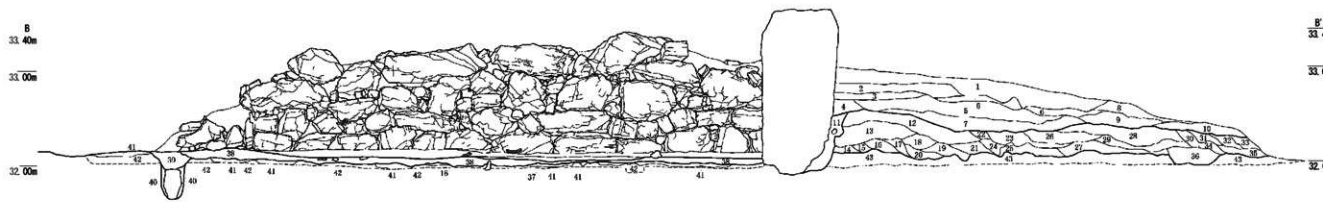
③墳丘裾の遺構

墳丘裾の遺構として、墳丘北側にある石列とＳＫ255・285がある（図16）。墳丘北側の石列は旧表土上面から積まれているものではなく、旧表土から約0.3m上でほぼ水平に並んで検出した（写真８）。また、石列の長さがわずか1.3mのみ確認できて、他では全く検出できなかった。検出当初は古墳の外部施設である可能性を検討したものの、



1～20 中世以降の堆積層
21～29 中世以降の遺構埋土
30～56 石室掘方埋居後の墳丘盛土
57～62 石室掘方埋居土
63～78 石室掘方掘開前の墳丘盛土
79 石室内の整地層
80～82 石室内の整地前の遺構埋土
83～89 旧表土以前の堆積層

1 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根を多く含む
2 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
3 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
4 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
5 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根を多く含む
6 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
7 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
8 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
9 10YR4/3 にぶい黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを3%含む
10 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
11 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
12 10YR2/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
13 10YR6/4 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを10%含む
14 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
15 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根を多く含む
16 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根を多く含む
17 10YR3/2 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根を多く含む
18 10YR5/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　木の根が入る
19 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　木の根が入る
20 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根を多く含む
21 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
22 10YR5/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを50%含む
23 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性あり
24 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを5%含む
25 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを5%含む
26 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを1%含む
27 10YR2/3 黒褐色土　しまりやあり　粘性あり
28 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを1%含む
29 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを5%含む
30 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
31 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
32 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
33 10YR2/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
34 10YR3/1 黒褐色土　しまりあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを10%含む　全体的に硬くしまる
35 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
36 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
37 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
38 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
39 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
40 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
41 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを20%含む
42 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
43 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性あり
44 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを20%含む
45 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
46 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
47 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
48 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
49 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　黒褐色土を少量含む
50 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
51 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
52 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
53 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
54 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
55 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　暗褐色土を少量含む
56 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を含む
57 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
58 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを40%含む
59 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを20%含む
60 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを10%含む
61 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
62 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性あり
63 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを10%含む
64 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
65 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
66 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を含む
67 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を含む
68 10YR6/3 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　黒褐色土を多く含む
69 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性あり
70 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
71 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
72 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を含む
73 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
74 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
75 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
76 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを5%含む
77 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
78 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を少量含む
79 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性やややあり　にぶい黄橙色土を少量含む
80 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性やややあり
81 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性やややあり
82 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性やややあり
83 10YR6/3 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　IV層
84 10YR5/3 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　IV層
85 10YR2/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性やややあり　層移層
86 10YR5/3 にぶい黄褐色土　しまりややあり　粘性やややあり　IV層
87 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　白色粒を含む
88 10YR6/4 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　V層
89 10YR7/6 明黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　V層



1 中世以降の堆積層
2～10 石室掘方埋居後の墳丘盛土
11 石室掘方埋居土
12～36 石室掘方掘開前の墳丘盛土
37 石室埋土
38 石室内の整地層
39・40 石室内の整地前の遺構埋土
41～43 旧表土以前の堆積層

1 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根を多く含む
2 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
3 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
4 10YR3/1 黒褐色土　しまりやあり　粘性あり
5 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性あり
6 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を少量含む
7 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
8 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根多い
9 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を少量含む
10 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
11 10YR2/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　一辺3cm前後の角礫を少量含む
12 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
13 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
14 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を少量含む
15 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
16 10YR5/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を含む
17 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を含む
18 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
19 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
20 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
21 10YR4/3 にぶい黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
22 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
23 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
24 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
25 10YR3/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
26 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
27 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を少量含む
28 10YR3/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
29 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
30 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
31 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
32 10YR3/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
33 10YR2/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
34 10YR2/2 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
35 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を少量含む
36 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　上部層土
37 10YR2/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性やややあり
38 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性やややあり　にぶい黄褐色土を少量含む
39 10YR3/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性やややあり
40 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性やややあり
41 10YR2/2 暗褐色土　しまりややあり　粘性やややあり　層移層
42 10YR5/3 にぶい黄褐色土　しまりややあり　粘性やややあり　IV層
43 10YR6/3 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　IV層

A-A'、B-B'は図13の位置に対応する

0　2m
(S=1/40)

図14　中屋敷古墳土層図

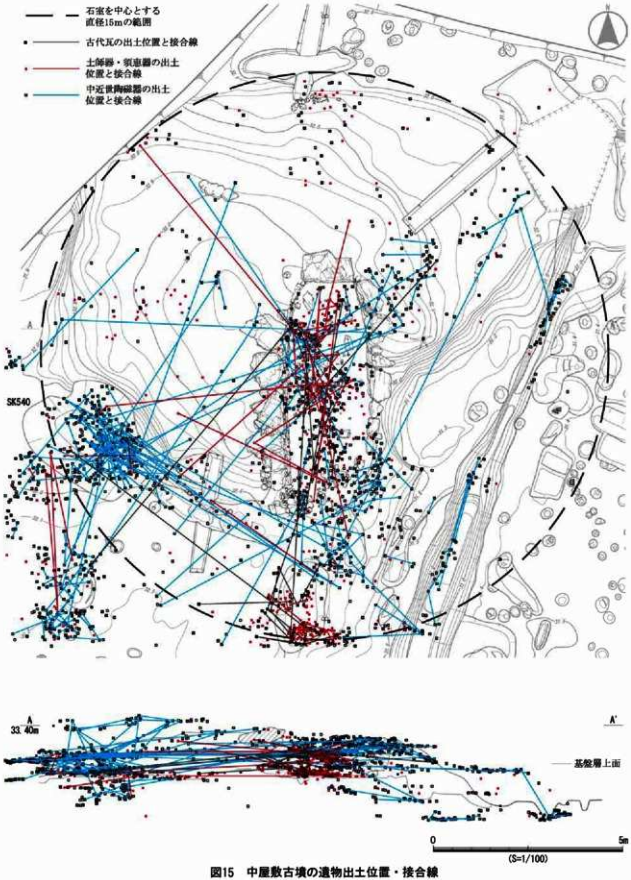


図15　中屋敷古墳の遺物出土位置・接合線

墳丘との関係は明確に把握できず、その性格は不明とする。

ＳＫ255は、古墳の墳丘裾を把握するために掘削したトレンチにて確認した。掘方は不定形を呈し、底面の凹凸は顕著で、遺構の基盤となるⅣ層との境は漸移的であった。また、ＳＫ285は、検出時にⅣ層上面で黒色土の広がりを明瞭に確認できたものの、南東側は近代以降の攪乱によって破壊されていた。掘方は不定形を呈し、北東辺は直線的である。底面は比較的平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。両遺構からは土師器の小破片が出土したのみであり、遺物から想定できる遺構の時期は不明である。しかし、墳丘裾に位置する浅く細長い土坑であることから、古墳の周溝の一部である可能性がある。

④その他の遺構

古墳に関連する遺構として、ＳＵ１とＳＫ259がある（図16）。

ＳＵ１は石室南側に位置し、検出過程は次のとおりである。Ⅲ層掘削中において、一辺約30㎝と約40㎝の角礫が２つ出土した。その周囲を精査すると、礫の北東側にて丸瓦が縦位で出土し、瓦の内側に須恵器高坏が高台を下にして口縁部を北東側に向けて出土した。また、礫の間からは穿孔のある軟質の丸瓦片も出土した。遺物の出土状況図を記録してから礫を除去し精査を行ったが、遺構の掘方や焼土・炭化物などは確認できなかった。本遺構の位置は石室の羨道に相当し、本遺構付近の遺物包含層出土古代瓦と石室内古代瓦が接合していること（図18）や、本遺構内に石室石材と思われる角礫があることなどから、本遺構と石室には何らかの関連性があったと思われる。なお、本遺構の時期は、出土した須恵器高坏（図34－43）等の年代から７世紀後葉頃と推定される。

ＳＫ259は、墳丘頂部において表土掘削中に確認した集石遺構である。検出当初は、遺構の周縁に沿って人頭大の角礫が南北方向に２列並んでおり、その内部に一辺10～15㎝の角礫が多くみられた。その後、内部の角礫を除去すると、その下から一辺20～30㎝の角礫が縦位で数個出土した。遺構の掘方は方形を呈するものの、竹の根がとても多く、遺構埋土と基盤層との境界は不明瞭であった。底面の凹凸は顕著であり、基盤となる墳丘盛土まで礫が入り込んでいる。遺構埋土は単層であり、焼土や炭化物などは確認できなかった。出土遺物がないため遺構の時期は不明であるものの、石室石材の上に本遺構が位置していることから、石室崩壊後に掘削された遺構であることは間違いない。検出当初は、礫の存在や方形プランを有することから、中世から近世の墓坑の可能性を考えていたが、出土遺物がないことや遺構の底面が平坦でないため、墓坑である可能性は低いと思われる。したがって、遺構の性格も不明である。

(3) 埋葬施設

埋葬施設は主軸をN-0°の方向に向けて南側に開口する両袖式もしくは擬似両袖式の横穴式石室である。玄室床面の標高は約32.10ｍであり、古墳東側下段の地山面（Ⅴ層上面）より約0.6ｍ高い。石室石材はすべてチャートの割石である（図19・20）。

なお、以下に記す石室石材の用語は次のとおりとする。側壁は「東側壁」、「西側壁」という用語を使用する。石材の面は、横断面を「小口面」、縦断面を「長手面」、最も面積が広い面を「平面（ひらめん）」とし、その積み方は、石室内部に見えている石材の面の名称から「小口積」、「長手積」、「平積」とする。また、石材の間を埋める小さな石は「詰石」とする。

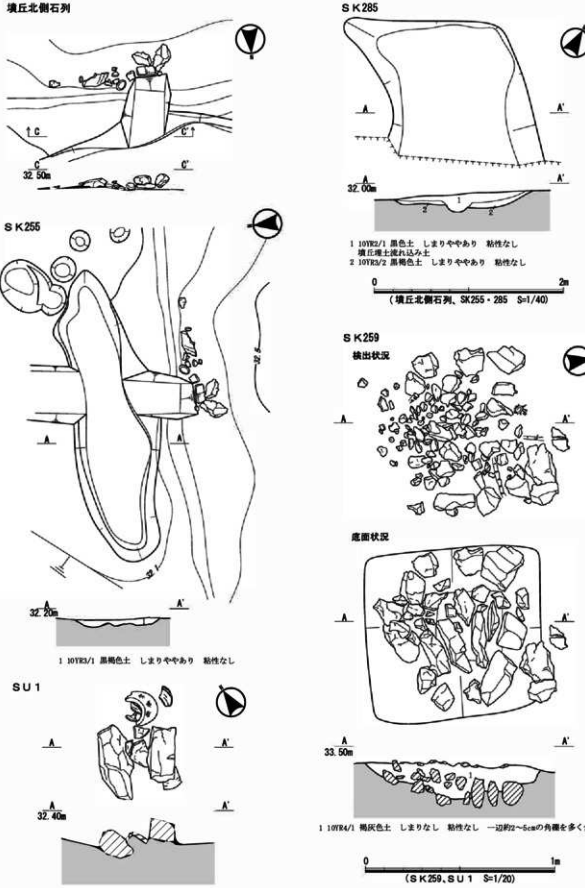


図 16　古墳周辺の遺構実測図

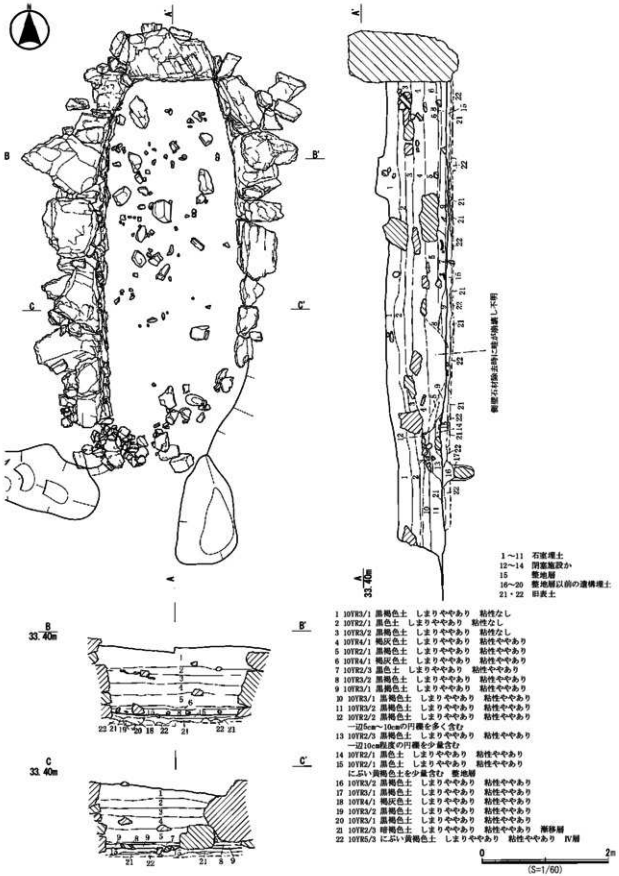


図17　横穴式石室実測図（1）

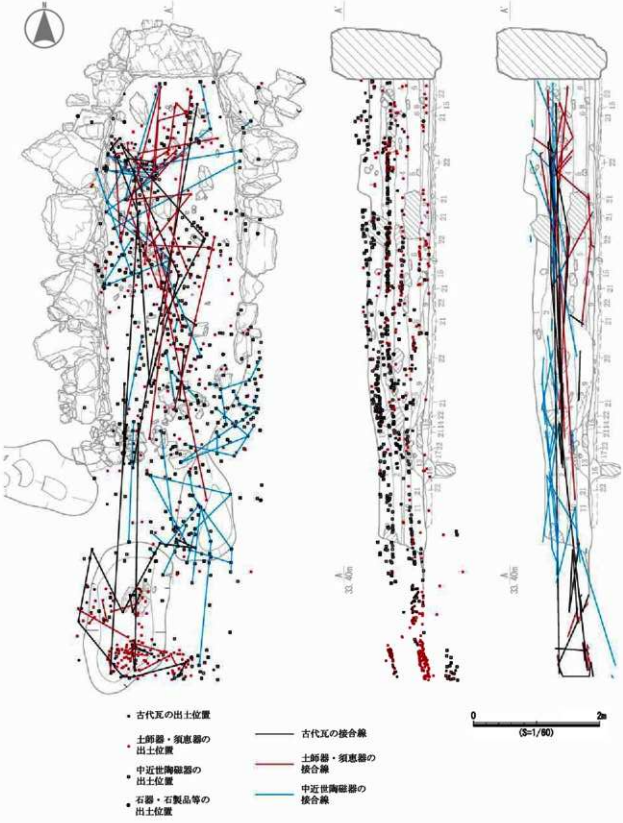


図18　横穴式石室の遺物出土位置・接合線

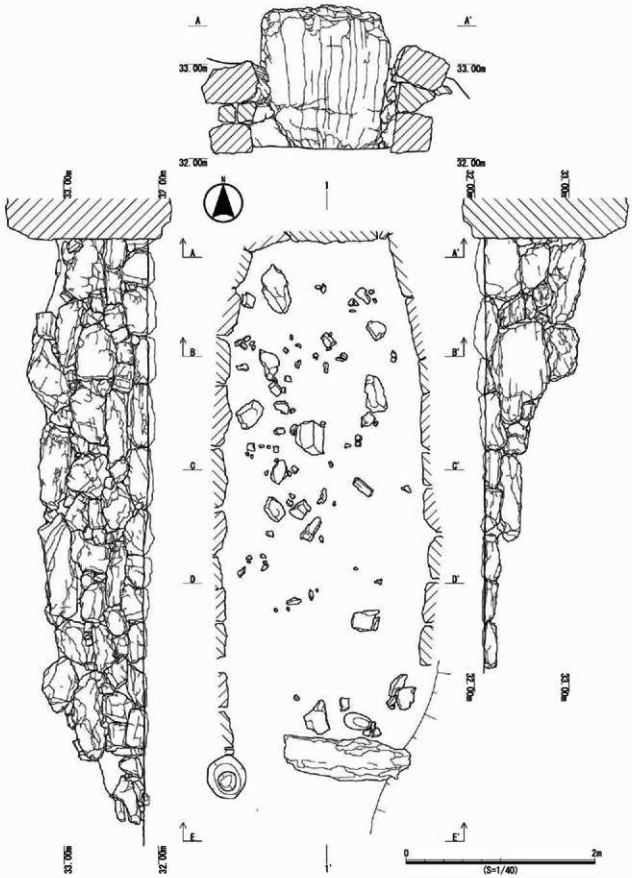


図19　横穴式石室実測図（2）

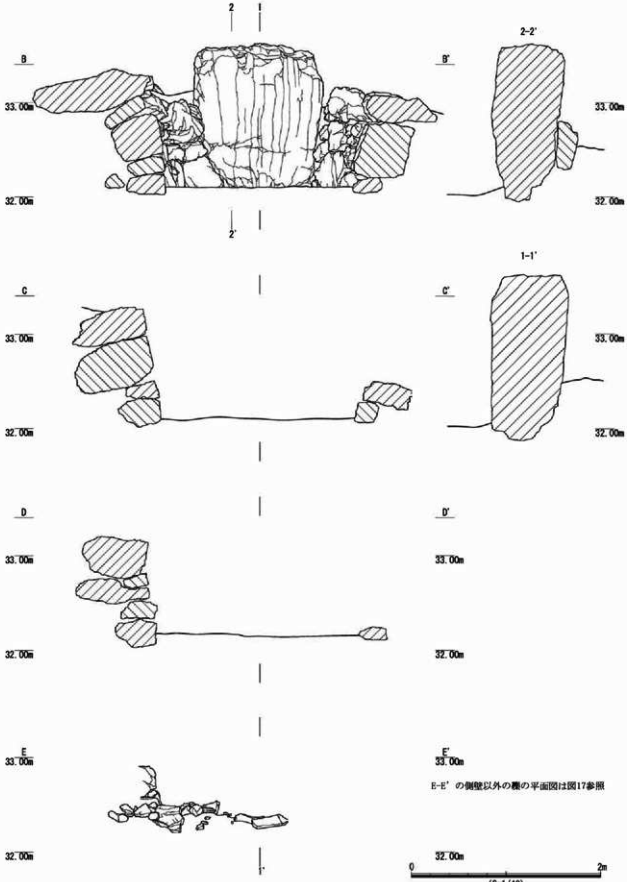


図20　横穴式石室実測図（3）

写真９　石室埋土上面の崩落石

写真10　石室埋土中程の崩落石

写真11　３層上面出土の須恵器と古代瓦

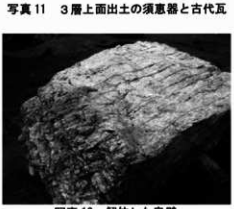


写真12　解体した奥壁
（石材右側の平坦面が玄室側の平面、石材左側の凹凸面が掘方内に埋められていた部分）

①堆積状況

石室内は現存する側壁の高さまで土が堆積していた。石室内の土層観察は、南北方向１箇所、東西方向２箇所の横断面で観察したものの、埋土の大半は黒色から褐灰色を呈し、分層作業は極めて困難であった（図17）。

埋土は基本的に水平堆積であり、崩落した石室石材と思われる大きな角礫が随所に確認できた（写真９・10）。石室埋土は図17の１～11層であり、15層は床面の整地層である。奥壁付近の３層上面では拳大から人頭大の角礫がまとまって出土し、その間から自然釉が降灰した須恵器蓋（図30－１）が出土した。その南側でも須恵器と古代瓦がまとまって出土した（写真11）。５層の堆積は比較的厚いものの、出土遺物はほとんどない。そして、６・８・９層からは須恵器と土師器、石器のみの出土で、中近世陶磁器は出土していない。また、５層直下では最低１回の掘り返しがあり（図17の７層）、出土遺物に古代瓦が含まれている。なお、遺物の接合状況は４層から上位にて顕著であり、９層中の遺物も４層よりも上位層の遺物と接合した（図18）。

②玄室

玄室は長さ5.48ｍ（奥壁から玄門立柱石の掘方までを計測）、幅は奥壁付近で1.44ｍ、最大2.08ｍであり、平面形は胴張り形を呈する。天井部は残存せず、玄室高は不明だが、奥壁での残存高は1.52ｍを測る。玄室床面の礫床は確認できず、石室壁面に顔料等を塗布した痕跡は認められない。以下、奥壁、側壁、玄門、床面、閉塞施設の順に記す。

ア　奥壁

奥壁は、一枚の大型石材（小口面80×136㎝、長手面173×80㎝、平面173×136㎝）の平面を壁面として、垂直に立てている。玄室側の平面はほぼ平坦であるが、その裏側は凹凸が認められる。また、石室掘方内に埋もれていた部分は、石の節理面での凹凸が著しく、その先端は尖り気味となっている（写真12）。東側の長手面もほぼ平坦であるが、西側の長手面は上面から約100㎝下から斜めに割れており、石室床面と奥壁の間を埋めるように幅約45㎝の石材が奥壁右下に詰められている（図19・20）。なお、奥壁の裏面には長さ50㎝の角礫が裏込めとして石室掘方内に詰められており（図20）、奥壁除去後に、奥壁の掘方東側において長さ10

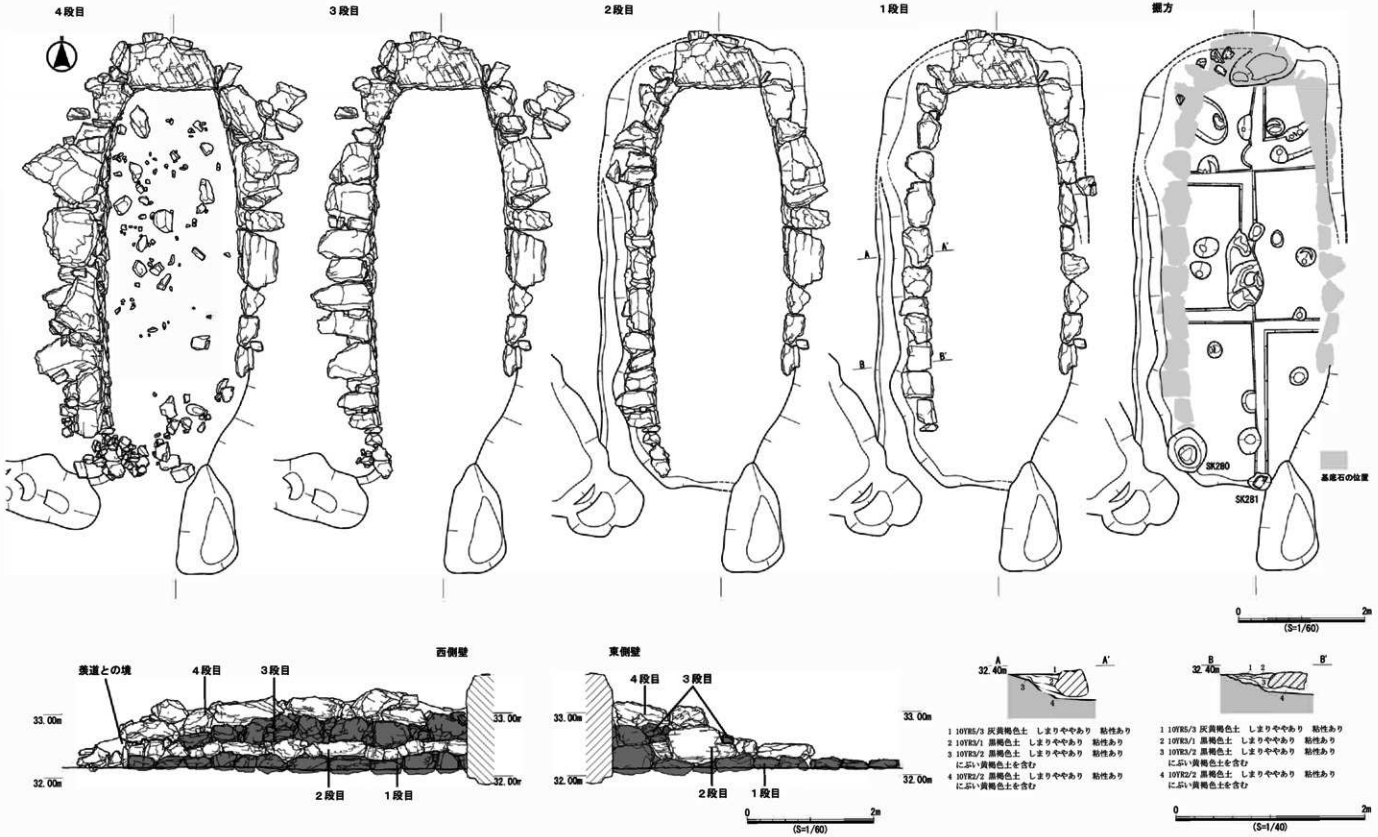


図21　横穴式石室実測図（４）

～20㎝の角礫４個が出土した。なお、奥壁は掘方を有し、奥壁を除去すると掘方底面に旧表土が見えた。

側壁と奥壁は、側壁を構成する礫の小口面と長手面の境となる稜線と、奥壁の平面と長手面の境となる稜線が、わずかに接するのみであり、側壁は奥壁を挟みこんでいない（写真13・14）。側壁と奥壁が接していない場合は、その間に詰石を充填している。なお、奥壁の東西方向の長手面には、側壁の２段目以上の高さに奥壁を支える礫はなく、西側の長手面最下部において、わずかに礫が出土したのみである（写真15）。

写真 13　奥壁西長手面下方
（左上：奥壁、右中：側壁）

写真 14　奥壁東長手面下方
（左：側壁、右：奥壁）

写真 15　奥壁西長手面

イ　側壁

側壁は、東・西側壁ともに４段残存しており、いずれも床面に対して外側に開くように積み上げられている。以下、最下段を１段目、その上を２・３・４段目として記載する（図19・20・21）。

西側壁の目地は、１・２段目がほぼ水平であり、３・４段目は羨道に向かって緩やかに下降している。また、羨道との境は縦方向の目地が通り、その南側に小さな角礫を縦に据えている。

東側壁は残存状況が悪く、１段目の目地がほぼ水平であることしかわからない。なお、東側壁では、１段目と２段目を共有する礫が奥壁際にある。また、奥壁から縦方向に２列離れた場所に、２段目と３段目を共有する礫が設置されている。

次に目地ごとの石材の積み方について記載する（図22、写真16、表７）。

１段目の側壁は、大半が長手積であるものの、西側壁の奥壁際の２個のみ小口積である。これは先述したように、奥壁の西側壁側の下方は斜めに割れているためバランスが悪く、その奥壁の荷重を支えるための工夫と言えるかもしれない。また、奥壁に近い石材ほど石室床面から深く埋められており、羨道に近い石材ほど浅い傾向にある。なお、１段目の側壁石材は、すべて石室掘方底面直上もしくは底面よりわずかに浮いた状態で出土し、個々の石材を据えるための掘方は検出できなかった。

２段目の側壁は、小口積と長手積の両者があり、奥壁際の石材は長手積で、羨道側の石材は小口積が多い。なお、西側壁の奥壁際の石材は、奥壁側がやや内側にむかってせり出し、渡し架けとなっている。

３段目の側壁も小口積と長手積の両者があるものの、その位置は明瞭に分かれる。すなわち、奥壁際の石材は長手積、石室中央から羨道側の石材は小口積であり、小口積がまとまることから、持ち送りを意識していると思われる。

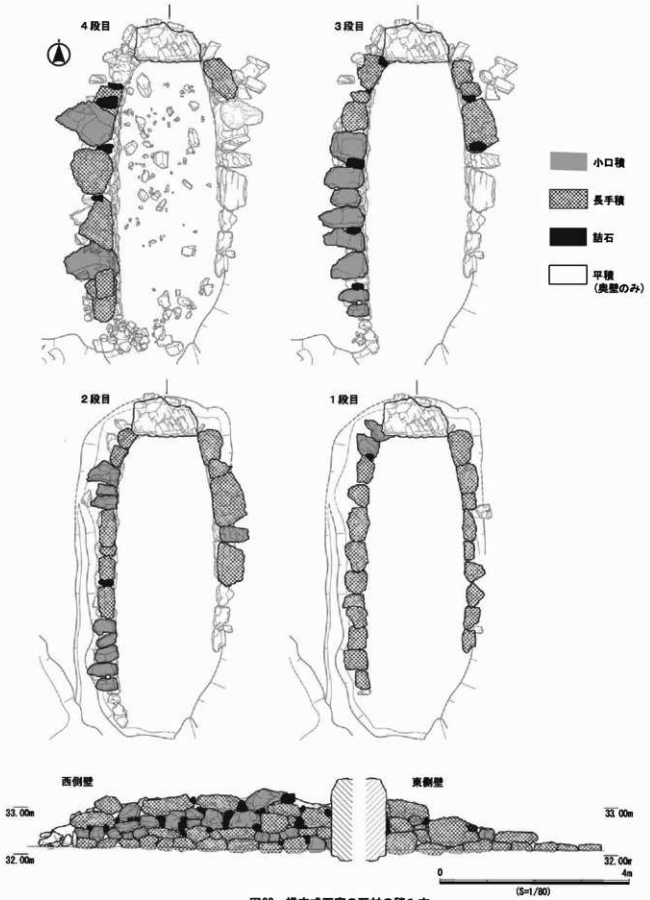


図22　横穴式石室の石材の積み方

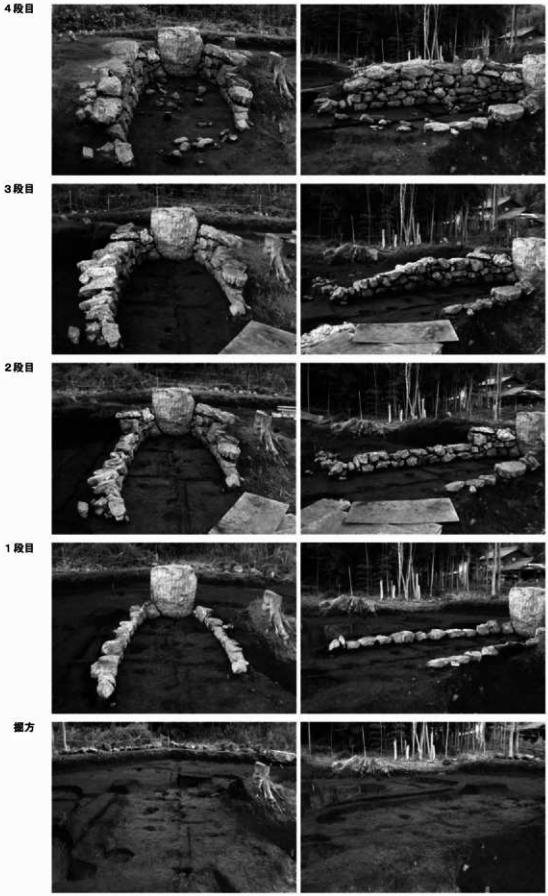


写真16　中屋敷古墳石室解体工程

表7　側壁石材の大きさ

東側壁

段	No.	小口面 水平寸法	小口面 垂直寸法	奥行 寸法	使用 方法
4段目	1	0.93	0.35	0.45	長手積
	2	0.55	0.30	0.82	小口積
	3	0.05	0.15	0.43	詰石
3段目	4	0.48	0.31	0.41	長手積
	5	0.24	0.18	0.37	長手積
	6	0.27	0.11	0.40	長手積
	7	0.06	0.14	0.37	詰石
	8	0.12	0.20	0.33	詰石
	9	0.15	0.16	0.26	詰石
	10	0.14	0.13	0.33	詰石
2段目	11	0.33	0.25	0.49	長手積
2段目	12	1.00	0.52	0.63	長手積
	13	0.31	0.22	0.56	小口積
	14	0.90	0.21	0.53	長手積
1段目	15	0.77	0.43	0.45	長手積
	16	0.63	0.24	0.41	長手積
	17	0.37	0.17	0.23	長手積
	18	0.59	0.26	0.23	長手積
	19	0.40	0.15	0.19	長手積
	20	0.40	0.18	0.42	長手積
	21	0.47	0.18	0.34	長手積
	22	0.42	0.10	0.29	長手積
	23	0.46	0.11	0.25	長手積

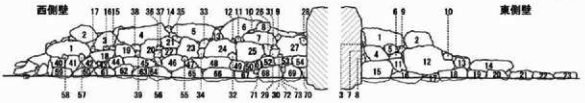
※東側壁No.2の石材は、中世の改変により移動している。

※単位はm

西側壁

段	No.	小口面 水平寸法	小口面 垂直寸法	奥行 寸法	使用 方法
4段目	1	0.89	0.37	0.58	長手積
	2	0.54	0.36	0.39	長手積
	3	0.43	0.34	0.96	小口積
	4	1.11	0.44	0.69	長手積
	5	0.90	0.34	0.81	長手積
	6	0.60	0.47	1.28	小口積
	7	0.72	0.25	0.63	長手積
	8	0.24	0.28	0.27	詰石
	9	0.11	0.12	0.33	詰石
	10	0.10	0.08	0.27	詰石
	11	0.11	0.09	0.08	詰石
	12	0.09	0.10	0.16	詰石
	13	0.19	0.25	0.34	詰石
	14	0.14	0.17	0.25	詰石
	15	0.11	0.10	0.16	詰石
	16	0.12	0.08	0.18	詰石
	17	0.07	0.12	0.15	詰石
3段目	18	0.48	0.20	0.70	小口積
	19	0.37	0.23	0.82	小口積
	20	0.39	0.37	0.92	小口積
	21	0.34	0.22	0.64	小口積
	22	0.27	0.13	0.56	小口積
	23	0.37	0.35	0.72	小口積
	24	0.59	0.33	0.60	小口積
	25	0.56	0.37	0.47	長手積
	26	0.13	0.16	0.41	長手積
	27	0.69	0.40	0.50	長手積
	28	0.14	0.16	0.20	詰石
	29	0.16	0.11	0.48	詰石
	30	0.10	0.05	0.15	詰石
	31	0.12	0.08	0.22	詰石
	32	0.16	0.14	0.30	詰石
	33	0.18	0.18	0.20	詰石
	34	0.12	0.19	0.28	詰石
	35	0.21	0.13	0.21	詰石
	36	0.13	0.09	0.07	詰石
3段目	37	0.17	0.14	0.20	詰石
	38	0.17	0.10	0.26	詰石
	39	0.08	0.15	0.13	詰石
2段目	40	0.27	0.21	0.42	小口積
	41	0.23	0.23	0.59	小口積
	42	0.30	0.22	0.46	小口積
	43	0.24	0.13	0.43	小口積
	44	0.26	0.19	0.46	小口積
	45	0.60	0.16	0.43	長手積
	46	0.48	0.30	0.39	長手積
	47	0.24	0.21	0.34	長手積
	48	0.82	0.22	0.34	長手積
	49	0.28	0.19	0.54	小口積
	50	0.21	0.17	0.53	小口積
	51	0.19	0.20	0.40	小口積
	52	0.25	0.20	0.63	小口積
	53	0.39	0.15	0.25	長手積
	54	0.42	0.18	0.35	長手積
	55	0.11	0.09	0.17	詰石
	56	0.13	0.21	0.35	詰石
	57	0.12	0.15	0.20	詰石
	58	0.14	0.13	0.12	詰石
1段目	59	0.37	0.20	0.26	長手積
	60	0.44	0.13	0.49	長手積
	61	0.42	0.13	0.40	長手積
	62	0.39	0.28	0.40	長手積
	63	0.32	0.21	0.42	長手積
	64	0.41	0.22	0.41	長手積
	65	0.57	0.28	0.41	長手積
	66	0.67	0.20	0.41	長手積
	67	0.40	0.20	0.45	長手積
	68	0.42	0.30	0.29	長手積
	69	0.33	0.32	0.44	小口積
	70	0.30	0.40	0.42	小口積
	71	0.12	0.10	0.08	詰石
	72	0.09	0.11	0.14	詰石
	73	0.10	0.19	0.10	詰石

※単位はm



４段目の側壁石材は、１～３段目の石材と比較して大きくて重量のあるものが多い。その積み方は、小口積、長手積ともにあり、３段目のような規則性は見い出しにくい。

なお、詰石は１・２段目は少なく、３・４段目に多い傾向がある。また、３・４段目の石材外縁ラインは、１・２段目のそれよりも外側に大きくはみ出しており、引きの強い石材が用いられていることがよくわかる。これは、１・２段目の側壁は石室掘方内に設置され、３・４段目は掘方を有しないことと強く関連していると思われる。

写真17　玄門立柱石検出状況

ウ　玄門

玄門には長さ約140㎝の大きな石（いわゆる玄門立柱石）を立てて、玄室と羨道を区別している。石室西側壁の玄門立柱石は残存しておらず、その掘方（ＳＫ280）のみ検出した。東側壁の玄門立柱石は石室内に倒れていた（写真17・18）。

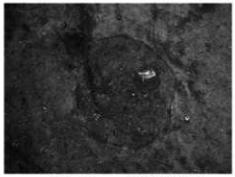


写真18　ＳＫ280検出状況

ＳＫ280は直径約62㎝、深さ42㎝で円形を呈する。断面形状は段形で、埋土は３層に分かれる（図23）。一方、東側壁の玄門立柱石は、石室南端においてN-5°-Wの方位、約７°の傾斜で東側を下にして倒れていた。その下端部は後世の削平箇所に位置していたことから掘方は確認できず、現位置を保っていないことは明らかである。そのため、石室掘削時にはこの石を玄門立柱石と認識していなかったが、調査終了後において、石材の形態やＳＫ280との位置関係から玄門立柱石と判断した。なお、石室中軸線を対称軸としてＳＫ280を東側に反転すると、玄門幅は約1.6ｍに復元できる。

エ　床面

石室埋土下方は、部分的に小トレンチを設定しながら掘削を進めた。そして、石室埋土とは異なる硬化面を確認したため、そこを床面と認識した。

床面は厚さ５～10㎝の整地層上に位置する。床面の標高は、石室南端付近で標高32.15～32.20ｍ、西側壁の縦目地がそろう付近から北へ約0.7ｍの間は緩やかに下降し、それより北から奥壁までは標高約32.08～32.12ｍである（図17）。なお、この傾斜面は土層断面の観察結果によるものであり、平面では掘り過ぎのため十分に確認できなかった。

床面では幾つかの角礫が出土したものの、床面に敷いてあるような状況ではなかった。そして、礫間距離や礫上面の傾斜具合などから、棺台を構成する礫であった可能性も低いと思われる。なお、床面において、排水溝などの遺構は検出できなかった。

オ　閉塞施設

閉塞施設の有無については明確に把握できなかった。そのため、ここでは石室南端において検出した礫群について記載する（図17・20）。

礫群は、検出した石室南端の中央から西側で確認した。石室内堆積層４層掘削中に角礫が見え始め、

その一部は中央付近から東側まで連続しているようであった。また、その礫群を半割したところ、表面の礫の下方からも別の礫が出土し、礫間の堆積土は石室床面から盛り上がったような状態であった（図17）。そのため、この礫群の一部は閉塞施設である可能性を考えた。一方、側壁ライン上にある礫群は、立柱石の抜き取り痕であるＳＫ280上に堆積していることから、明らかに外部からの流入であるといえる。以上のことから、これらの礫群の性格を現地調査で判断できなかった。

③石室掘方

墳丘の土層観察時において、奥壁の掘方は裏込めの礫が入る箇所まで立ち上がり、側壁の掘方は旧表土の掘り込みから、さらに上まで立ち上がる、という程度の認識でしかなかった。しかし、墳丘盛土解体時に、石室石材の外縁に沿って黒色土中に暗褐色土を含む黒色土が帯状に確認でき、掘方埋戻し土と認定できた。

掘方の形状は隅丸長方形であり、最も明瞭に確認できた西面は直線的である（図21）。掘方の上端は、石室西側では標高32.46m、奥壁北側では標高32.53m、石室東側では標高32.19mであり、側壁２段目の上端とほぼ同じ高さである。掘方の壁面は緩やかに傾斜し、西面の掘方下端と１段目の側壁石材の下面の標高はほぼ同じである。底面は多少の凹凸があったものの、全体的には平坦であり、旧表土面を約10～15cm掘り込んでいる。掘方南端の平面プランの検出や土層線の確定は極めて困難であり、ＳＫ281付近で掘方は収束すると認識したものの、事実誤認のある可能性は否定できない。

④石室掘方底面で検出した遺構

石室掘方底面において、土坑18基を検出した（図23）。それらは深さ約７cmの浅い土坑が多いものの、ＳＫ264・265・267・269・271・280・281は深さ20cm以上であった。そのうち、ＳＫ281のみ土坑内に長さ31cmの角礫が縦位で据えられていた。なお、石室石材の掘方は奥壁と立柱石以外に検出できず、排水溝もなかった。

(4) 出土遺物と古墳の所属時期

遺物は、古墳の表土及び盛土内から縄文土器１点、弥生土器・土師器57点、須恵器76点、古代瓦54点、灰釉陶器３点、中近世の遺物571点、石器・石製品７点、金属製品４点、その他２点、合計775点出土し、そのうち土師器（図34－45）、須恵器（図34－48等）、古代瓦（図35－55等）、中近世の遺物（図36－60等）、石器・石製品（図39－101等）、金属製品（図39－104等）を掲載した。また、石室内からは縄文土器１点、弥生土器・土師器103点、須恵器93点、古代瓦67点、灰釉陶器５点、中近世の遺物189点、石器・石製品６点、その他１点、合計465点出土し、そのうち土師器（図33－26）、須恵器（図30－１等）、古代瓦（図31－16等）、中近世の遺物（図33－28等）、石器・石製品（図33－38等）を掲載した。

石室内の床面直上の遺物分布は、石室中央から奥壁までの間に偏っている（図18）。また、羨道先端付近においても土師器と須恵器の遺物集中箇所がある。一方、石室覆土中から多く出土している古代瓦や中近世陶磁器は、石室内と羨道の遺物が接合し、床面直上の接合関係と異なる様相を呈している（図15・18）。なお、古代瓦は、ＳＢ１出土品と玄室出土品が接合しており（図10）、ＳＢ１機能時においてすでに古墳の石室が再利用されていたことがわかる。

中屋敷古墳の構築時期は、石室形態より６世紀後半から７世紀中頃までの範疇で捉えられる（第４章参照）。一方、石室から出土した須恵器の年代はすべて７世紀後葉から８世紀初頭までで、図化で

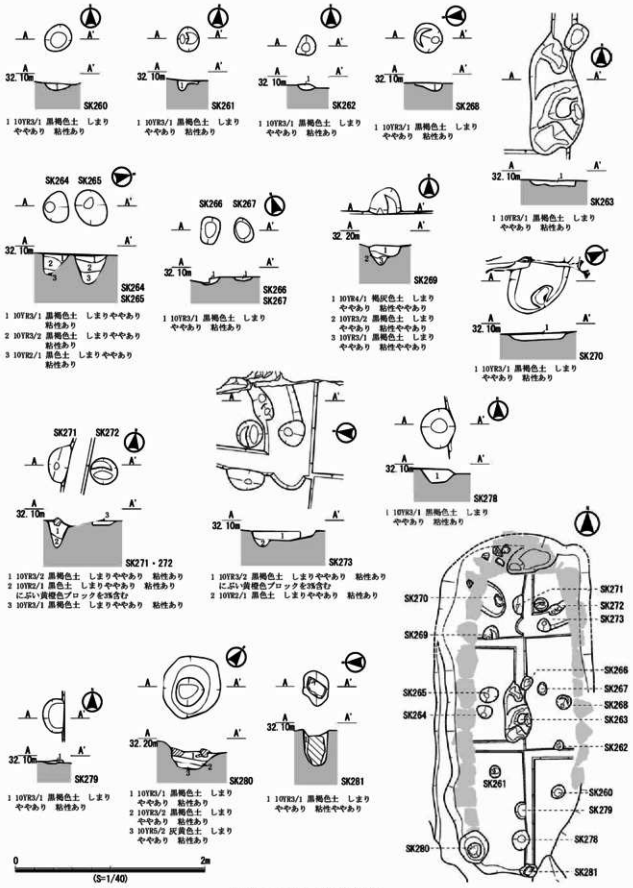


図 23　石室内の遺構実測図

きた遺物は床面直上のものがほとんどない（図24）。そのため、出土遺物から古墳構築時期を言及することは困難である。その後、横穴式石室は13世紀以降に再利用され、墳丘は15世紀以降における居住域の造成や地下式坑掘削に伴い、大きく破壊された。

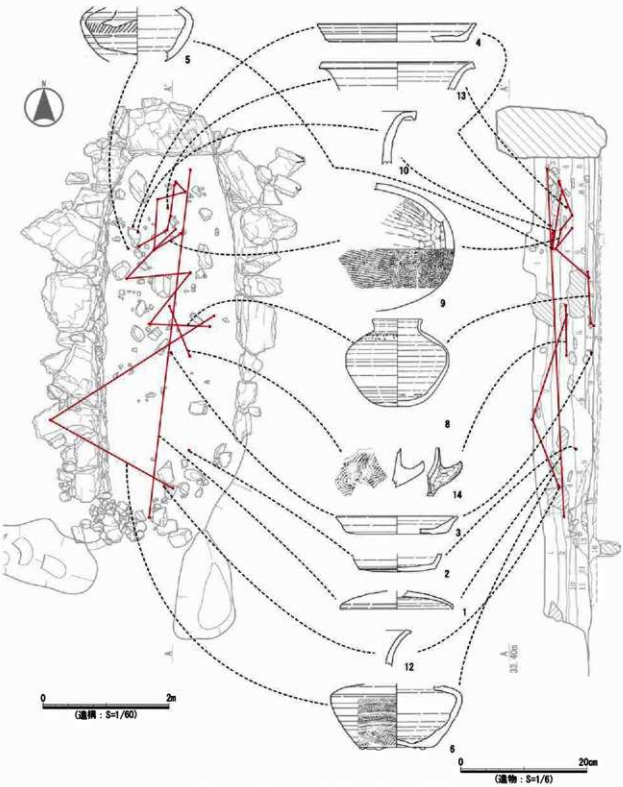


図24　横穴式石室出土須恵器の位置と接合関係

２　竪穴住居跡

ＳＢ１（遺構図：図25・26、遺物図：図40～44）

Ⅲ層掘削中に残りのよい古代瓦の破片が出土したため、周辺を精査したところ黒褐色土の方形の広がりが確認できたので遺構と認定した。北側のラインは明瞭にみえたものの、東側と南側は竹の株が多く、遺構のプラン確定に手間取った。

本遺構は西側をＳＤ６によって破壊されているものの、平面形は東西方向に長い長方形を呈すると思われる。カマドが北壁中央付近にあり、その反対側の南壁中央付近は周溝プランが若干乱れることから、入り口が存在した可能性がある。

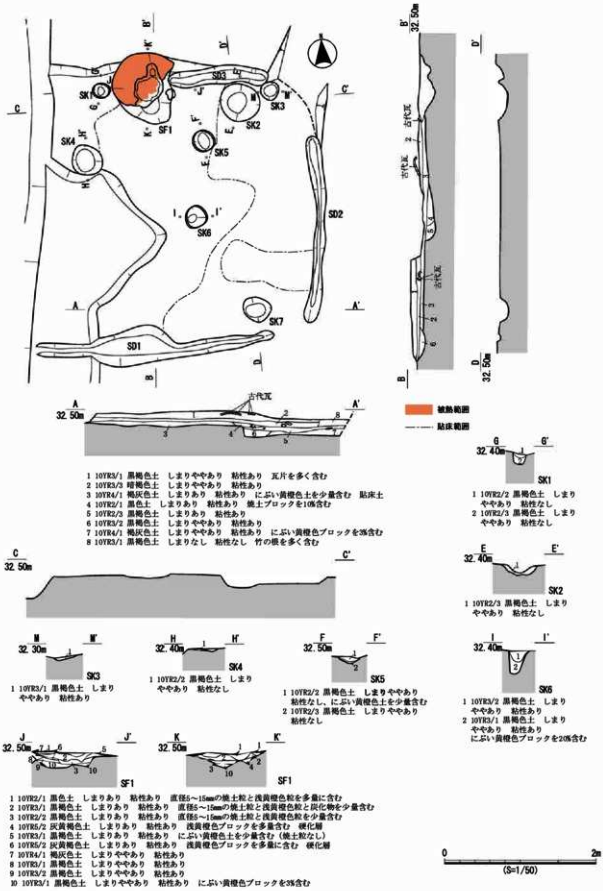
床面では、カマド周辺と竪穴住居跡の東半分で貼床を確認した。貼床はとても硬化しており、カマで削るとその部分のみ光るほどである。貼床の厚さは３～５㎝であり、直径５～10㎜の明黄褐色ブロックが含まれていた。

貼床上では、土坑７基と周溝、カマド跡を確認した。土坑はいずれも掘方が円形で、深さが浅い。また、土層観察の結果、柱痕跡は確認できなかったので、いずれが主柱穴となるのか判断できなかった。なお、ＳＫ２の検出面にて坏蓋（図40－108）が、埋土中にて無台坏（図40－111）が、それぞれ完形で出土した。周溝は北、東、南辺でそれぞれ断続的に確認できたのみであり、断面形は皿状を呈する。カマド跡は、焼土と黄褐色ブロックが全体的に盛り上がった状態で検出した。検出時にはカマドの袖部と思われる硬化範囲はみられず、焼土が広範囲で確認できたことから、かなり破壊されていると思われた。土層観察用畦を残して約５㎝掘削すると、明らかな硬化面を確認し、その中に焼土や炭化物粒が多く含まれていた。また、土師器甕が外面を上にして出土した。カマドの袖部は破壊されて確認できなかったものの、中央窪み部分が火処と思われる。なお、硬化している土の厚さは１㎝程度であり、カマド跡の硬化面の下には黒褐色土が堆積していた。カマドの掘方は不定形を呈し、掘方床面の被熱痕跡はみられなかった。

貼床上面の埋土は２層に分層し、瓦片の多くは１層からの出土である。カマド周辺の瓦片は、その多くが横位で出土しているが、カマド跡の北端の瓦片は縦位で出土し、その一部が被熱していた。横位で出土した瓦片にも被熱痕跡が認められることから、瓦の一部はカマドの構造材として使用されていたと思われる。また、竪穴住居跡の南東隅でも瓦片がまとまって出土した。最も大きな破片は凸面を上にして出土し、その直下には焼土が約15㎝の範囲内でまとまって検出できた。大きな瓦片を除去すると、その下から瓦片と土師器片が出土し、焼土ブロックの広がりも確認できた。しかし、この焼土の性格については不明である。

出土遺物は、土師器90点、須恵器12点、古代瓦60点、中近世遺物９点、金属製品１点、その他10点、合計182点であり、竪穴住居跡の北側と南側からの出土が目立つ。遺物の接合関係は、北側、南側の遺物のまとまり内で収まるものが多い。しかし、古代瓦は竪穴住居跡と中屋敷古墳の横穴式石室出土のものが接合しており、単なる廃棄行為に伴う遺物の移動のみでは説明しにくいものもある。掲載遺物は須恵器（図40－108等）、土師器（図40－115等）、古代瓦（図41－118等）等である。

本遺構の所属時期は、ＳＫ２出土須恵器の年代から７世紀後葉頃と推定される。



1 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　瓦片を多く含む
2 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
3 10YR4/1 褐灰色土　しまりあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を少量含む　貼床土
4 10YR2/1 黒色土　しまりあり　粘性あり　黒土ブロックを10%含む
5 10YR2/3 黒褐色土　しまりあり　粘性あり
6 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
7 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを3%含む
8 10YR3/1 黒褐色土　しまりなし　粘性なし　竹の根を多く含む

1 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
2 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性なし

1 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり

1 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
2 10YR2/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性なし

1 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり

1 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性なし、にぶい黄橙色土を少量含む
2 10YR2/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性なし

1 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
2 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを20%含む

1 10YR2/1 黒色土　しまりあり　粘性あり　直径5～15mmの焼土粒と浅黄橙色粒を多量に含む
2 10YR3/1 黒褐色土　しまりあり　粘性あり　直径5～15mmの焼土粒と浅黄橙色粒と炭化物を少量含む
3 10YR2/2 黒褐色土　しまりあり　粘性あり　直径5～15mmの焼土粒と浅黄橙色粒を少量含む
4 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりあり　粘性あり　浅黄橙色ブロックを多量含む　硬化層
5 10YR3/1 黒褐色土　しまりあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を少量含む（焼土粒なし）
6 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりあり　粘性あり　浅黄橙色ブロックを多量に含む　硬化層
7 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
8 10YR2/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
9 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
10 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを3%含む

図25　ＳＢ１実測図（１）

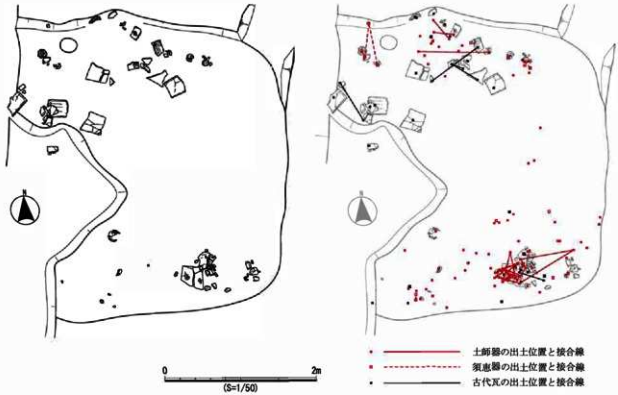


図26　ＳＢ１実測図（２）

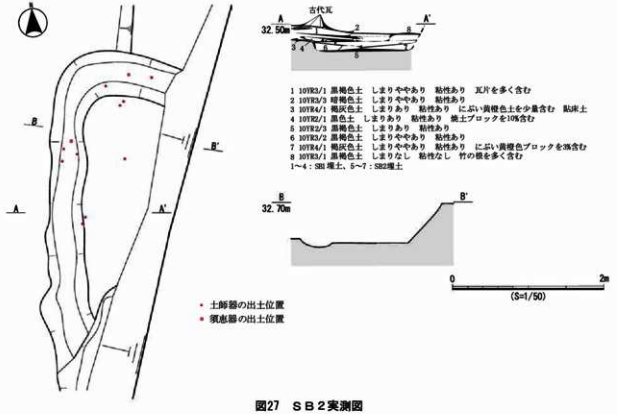


図27　ＳＢ２実測図

ＳＢ２（遺構図：図27、遺物図：図44）

ＳＢ１の貼床除去後にプランを確認できた遺構であり、周溝の存在から竪穴住居跡と判断した。竪穴住居跡の３分の２以上は調査区外に位置し、南端は近世以降の遺構であるＳＫ189によって破壊されている。

床面において貼床は確認できず、Ⅳ層である褐灰色土が竪穴住居跡の基盤層であった。また、床面直上では周溝のみ確認でき、土坑や柱穴などは検出できなかった。周溝は幅0.4～0.5ｍと広く、断面形は皿状を呈する。

埋土は単層であるものの、出土遺物のうち１点のみＳＢ１の床面上の遺物と接合したため、後世の踏み込みや攪拌があった可能性もある。

出土遺物は、土師器８点、須恵器２点、中近世土師器１点、合計11点であり、周溝内及びその周辺からの出土が目立つ。そのうち須恵器無台坏（図44－131）を掲載した。131は竪穴住居跡の床面検出時において、周溝上面にて内面を下にして完形で出土した。

本遺構の所属時期は、ＳＢ１に切られることと、須恵器無台坏の年代から７世紀後葉頃と推定される。

ＳＢ３（遺構図：図29、遺物図：図44）

古墳の墳丘盛土除去後にⅣ層上面でプランを確認した竪穴住居跡である。その平面形は方形を呈し、南側をＳＫ540・564に、西側をＳＤ12によって破壊されている。

床面を構成する土は層厚３～４㎝のにぶい黄褐色ブロックを含む土である。床面上では、土坑５基と周溝を確認した。土坑の掘方はＳＫ１・３～５が円形、ＳＫ２は楕円形であり、ＳＫ１が深さ0.25ｍと深い。主柱穴はＳＫ１・３・５の可能性が高いものの、いずれも柱痕跡を認められなかったため断定はできない。周溝は途切れることなく全周しており、その断面形は三角形状を呈する。

出土遺物は、弥生土器32点、中近世遺物５点、石器・石製品１点、合計38点であり、そのうち土師器壺（図44－132等）を掲載した。出土遺物は竪穴住居跡の北側での出土が目立ち、古墳の墳丘内や石室掘方内などからも同時期の土師器が出土している。これらの遺物は本遺構との接合関係は認められないものの、本来ＳＢ３内に伴っていた遺物であった可能性もある。

本遺構の所属時期は、土師器壺の年代から廻間Ⅰ～Ⅱ式併行期と推定される。

３　土坑

今回の調査において、中屋敷古墳周辺や竪穴住居跡以外の遺構で、奈良時代以前の遺物のみが出土した遺構はとても少ない。しかも、それらの遺構出土遺物数は５点以内と少なく、すべての遺構の所属時期が奈良時代以前とは断定できない。そのため、ここでは、ＳＫ275のみ取り上げる。

ＳＫ275（遺構図：図13・28）

本遺構は中屋敷古墳の石室前面に位置し、ＳＵ１を除去した後に検出できた遺構である。平面形は不正楕円形を呈し、壁面は緩やかに立ち上がり、底面には凹凸が目立つ。

出土遺物は土師器の小破片が５点出土した。本遺構の所属時期は、検出面上にＳＵ１が位置していることから、古墳時代以前である。

図28　ＳＫ275実測図

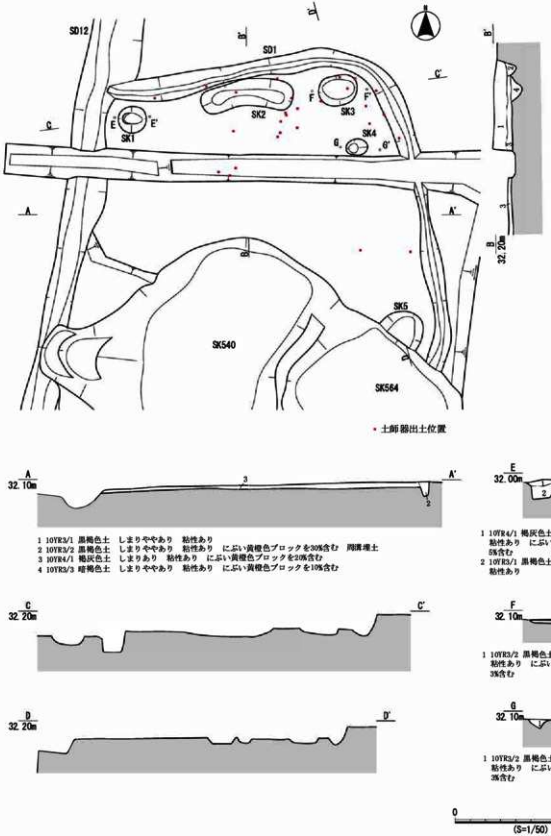

SD12
SD1
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK540
SK564
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
32.20m
土師器出土位置
32.10m
1 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
2 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを30%含む　周溝埋土
3 10YR4/1 褐灰色土　しまりあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを20%含む
4 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを10%含む
32.00m
1 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを5%含む
2 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
1 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを3%含む
1 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを3%含む
0
2m
(S=1/50)

図29　ＳＢ３実測図

４　出土遺物

(1) 遺構内出土遺物

中屋敷古墳の横穴式石室（図30～33）

１は須恵器摘み蓋である。天井部外面に自然釉が厚く降灰し、焼成時における不純物が多量に付着している。２は須恵器有台坏である。焼成不良であり、高台はほとんど摩滅している。３・４は須恵器盤である。３は腰部の器壁が厚く、体部は外反気味に立ち上がる。４は口縁端部に平坦面を有し、その中央部分が沈線状に浅く凹む。５は須恵器長頸壺である。体部外面に先端の丸い工具で二条の沈線を描き、その間に貝殻による連続刺突文を施す。６は須恵器平瓶である。肩部上面に自然釉が厚く降灰し、焼成時における不純物が多量に付着している。また、底部外面にも焼台の一部が付着している。７は須恵器フラスコ瓶である。外面は褐灰色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土中に白色粒と灰色粒を多く含む。今回出土した須恵器のうち、唯一の伊勢産須恵器である。８は須恵器短頸壺である。底部外面は摩滅しており、肩部の張り出しは弱く、口縁端部は大きく肥厚する。９は須恵器横瓶である。体部内面には指による一方向ナデが丁寧に施されている。10・11・13は須恵器甕である。10・13は口縁端部上面の横ナデが強く、下端を下方に引き出す。15は須恵器甕である。２破片が溶着しており、１破片の断面には自然釉が降灰している。16～23は平瓦である。接合後の破片の大きさは均一でなく、16のように被熱痕跡のある破片とない破片が接合する例もある。そのため、石室内での使用は想定しづらく、何らかの理由で二次的に石室内に持ち込まれたと思われる。16の凸面の叩き目は左右で斜格子の大きさが異なるため、２種類の叩き板を使用していた可能性がある。19は胎土中に長さ1.5～1.6cmの円礫が２つ含まれており、そこから放射状にひび割れがみられる。17・22・23は須恵質であり、他の平瓦よりも厚い。23は今回唯一認められた凸面縄叩き目を有する平瓦である。24・25は丸瓦である。25の凹面には、狭端に平行する幅約６mmの溝状の凹みがある。なお、今回出土した丸瓦はすべて無段式（行基葺き式）であり、有段式（玉縁式）は確認できていない。26は土師器器台である。体部内面に薄く煤が付着しており、口縁端部は上方に引き出される。27は土師器台付壺または台付鉢である。器面は細かいミガキが施され、脚部と体部の接合部は上下方向から充填される。34～36は常滑甕であり、いずれも13世紀代に属する。40は石錘である。紐掛け部の長さは、上端が19mm、下端が８mmであり、表裏面に斜め方向の線条痕が認められる。

ＳＵ１（図34）

41・42は丸瓦である。41・42の凹面には広端に平行する幅約７mmの溝状の凹みがあり、42の中程には直径15mmの釘穴がある。43は須恵器高坏である。坏部内面に自然釉が降灰し、焼成時における不純物が付着している。高台端部は尖り気味で、口縁部は直線的に収束する。44は須恵器平瓶である。体部外面に二条の沈線と櫛による波状文が描かれている。

中屋敷古墳の墳丘・表土等（図34～39）

46は土師器壺である。口縁部は内彎し、内面に粘土板を帯状に貼り付けて沈線を三条施している。49は須恵器無台坏である。底部内面周縁が凹み、口縁部は直線的に立ち上がる。51は須恵器で器種は不明とした。台部はわずかに内彎し、その端部は丸みを帯びている。54は須恵器甕であり、体部内面の当て具痕跡は同心円状でなく渦巻き状となっている。55・56・59は平瓦である。55は18破片が接合でき、そのうち約半分の破片に被熱痕跡がみられる。56は全体的に形が歪んでいる。60は白瓷系陶器

皿であり、底部の中央付近に大きな亀裂がある。63～65は白瓷系陶器碗である。64は口縁部内面がわずかに突出する。65は高台が大きく歪み、腰部が凹む。66～68は大窯天目茶碗である。体部外面下方が66・67は露胎、68は錆化粧を施している。69は陶器（中国産）天目茶碗である。重量感があり、断面は褐灰色～黄灰色を呈する。加工円盤に転用されており、剥離面に摩滅は認められない。76は古瀬戸水注である。幅26～33㎜の粘土板を２枚組み合わせて把手部を形成している。78は古瀬戸内耳鍋である。体部外面のロクロ目が顕著で、口縁部は内傾面を有する。79・80は大窯擂鉢であり、いずれも体部外面下方に幅約４㎜の紐状圧痕が残る。82・83は登窯折縁鉄絵皿である。82は灰釉の剥落が著しく、底部内面に蘭竹文が描かれている。83は口縁部内外面に銅緑釉が施され、底部内面に菊文が描かれている。89は京信系の筒形湯呑である。器壁がとても薄く、体部外面に鉄絵により文字が記されている。91・92・95は登窯片口である。91は口縁部が外側に大きく肥厚し、体部との境に段があるのに対し、92は口縁部外面に一条の沈線を有し、95は段も沈線もみられない。94は登窯水指である。体部外面に二条の沈線があり、体部外面には鉄釉に灰釉が流し掛けられている。98は常滑甕である。体部上方はほぼ直立し、縁帯は水平に張り出し、口縁部は内傾する。体部外面にヘラ状工具による弧文が複数みられる。100は瓦質土器硯である。陸部の使用が顕著であり、楕円形状に大きく凹む。102・103は砥石であり、いずれも側面に生産地における成形痕が明瞭に残る。

ＳＢ１（図40～44）

108は須恵器坏蓋である。天井部外面にヘラ抜き痕が認められ、口縁部はわずかに外反する。110・111は須恵器無台坏である。110は底部内面に一方向ナデが施され、体部の立ち上がり付近に「二十」を示す漢字が刻書されている。111は体部外面のロクロ目が顕著で、底部は突出する。113は須恵器鉢である。底部はヘラ切り未調整で、口縁部は外傾し、端部に一条の沈線が巡る。114～116は土師器甕である。114は丸底で、体部内面中程から上位にわずかに煤が付着している。115は体部内面に斜め方向のヘラケズリ調整が施され、口縁端部は上方につまみ上げられ、外傾面を有する。118～130は平瓦である。118～125・130は、接合後の破片の長さが23～30㎝程度とほぼ同じ大きさであり、被熱しているものが多い。なお、割れた面に意図的に打ち欠いた痕跡は確認できない。

ＳＢ２（図44）

131は須恵器無台坏である。底部内面に一条の線が認められるが、意図的なものか否か判断できない。底部外面は摩滅が著しい。

ＳＢ３（図44）

132・133は土師器壺である。132は体部と頸部の接合部内面にハケ目が残る。

（2）　遺物包含層出土遺物

136・137は須恵器返り蓋である。136は摘み部周縁が鋭く外側に張り出し、口縁部上面は強いナデにより凹む。140・144・145は須恵器無台坏である。140は底部外面に、144・145は底部内面に、それぞれ「十」字状のヘラ記号が描かれている。153・154は須恵器無頸壺である。153は口縁端部に外傾面を有し、154は内傾面を有する。160・162は平瓦である。160の凹面には粘土板の接合部が認められる。162は須恵質で厚みがあり、凸面の叩き目は斜線と縦線の組み合わせである。165は窯壁もしくは焼台の可能性がある土製品である。表面は平坦で自然釉が降灰しており、胎土中にスサ状の繊維を多く含んでいる。

中屋敷古墳　横穴式石室（1～40）

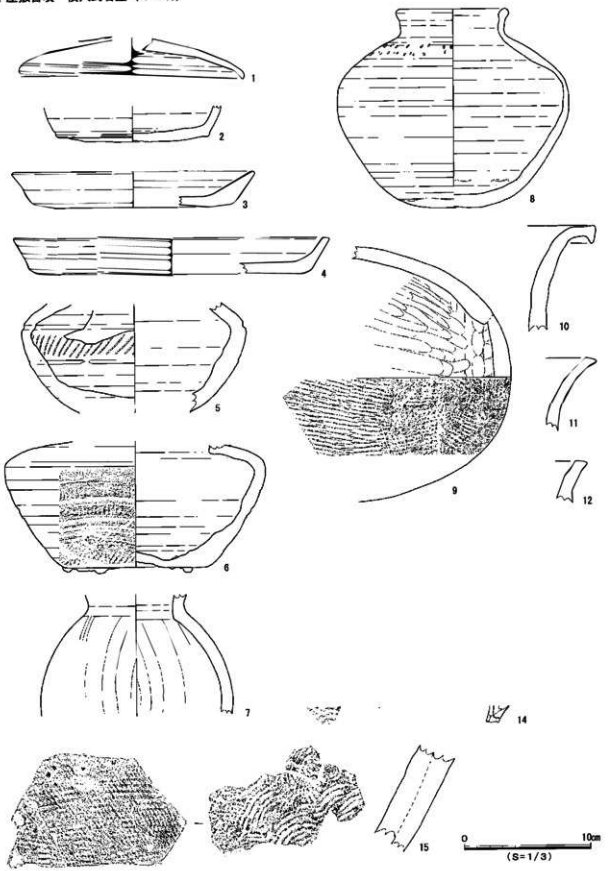


図30　出土遺物実測図（1）

中屋敷古墳　横穴式石室（1～40）

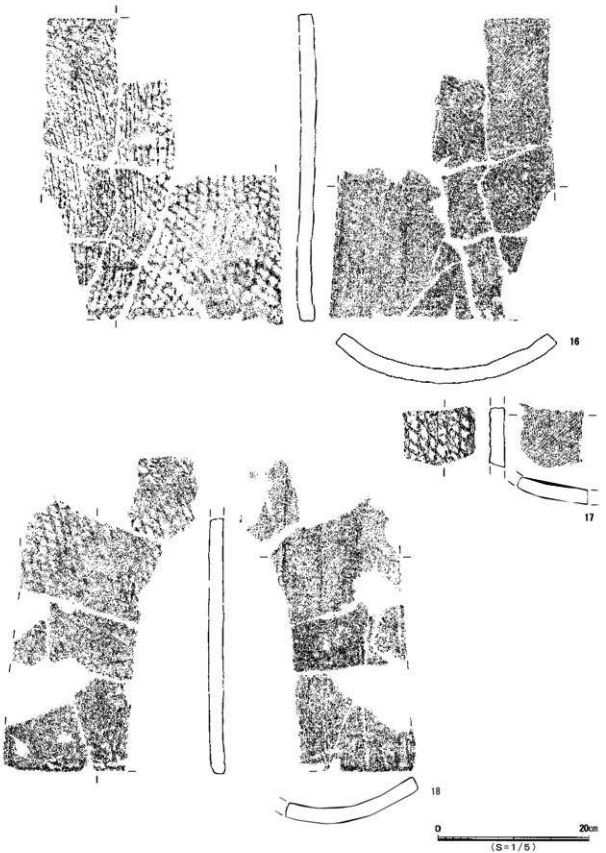


図31　出土遺物実測図（2）

中屋敷古墳　横穴式石室（1～40）

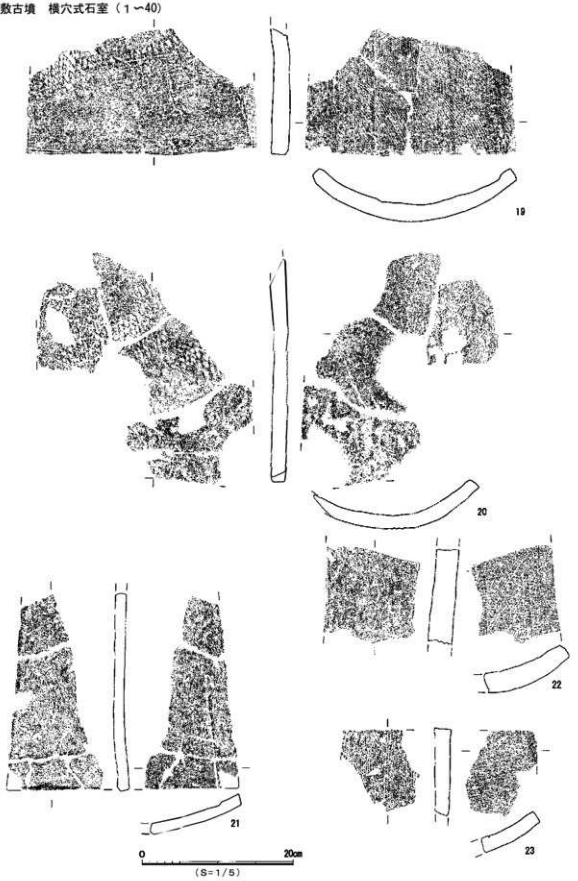


図32　出土遺物実測図（3）

中屋敷古墳　横穴式石室（1～40）

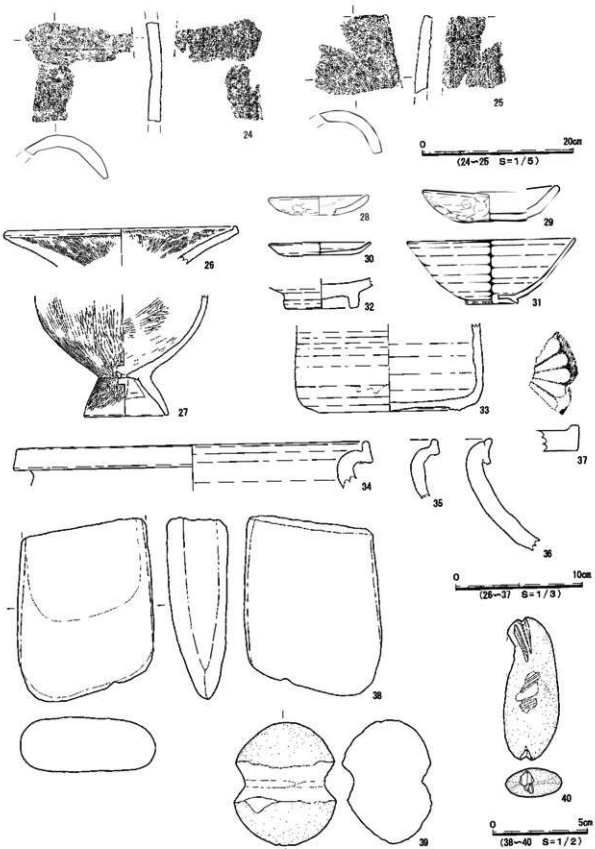
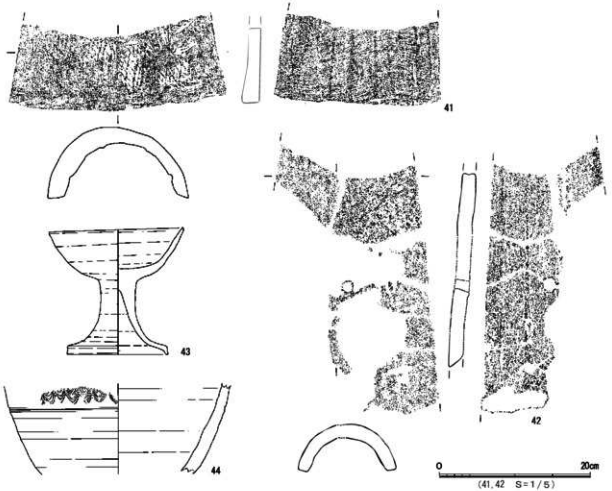


図33　出土遺物実測図（4）

SU1（41～44）



中屋敷古墳（45～107）

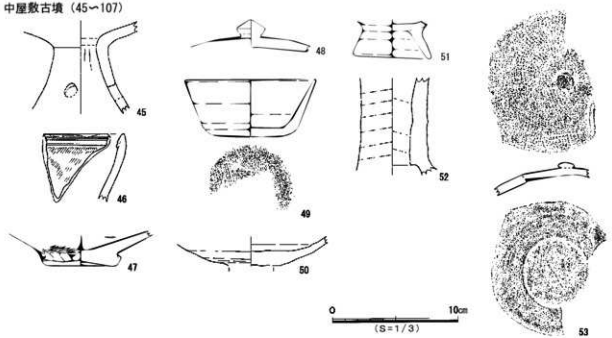
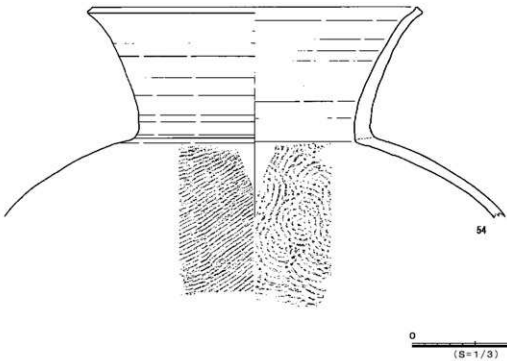


図34　出土遺物実測図（5）

中屋敷古墳（45～107）



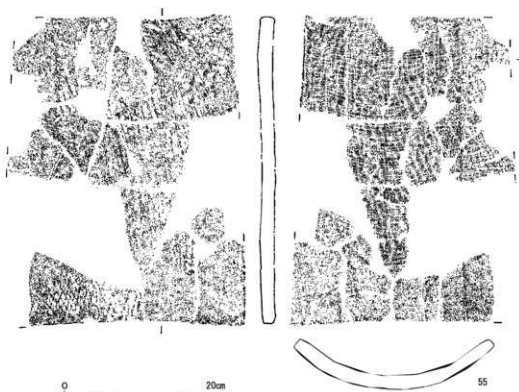


図35　出土遺物実測図（6）

中屋敷古墳（45～107）

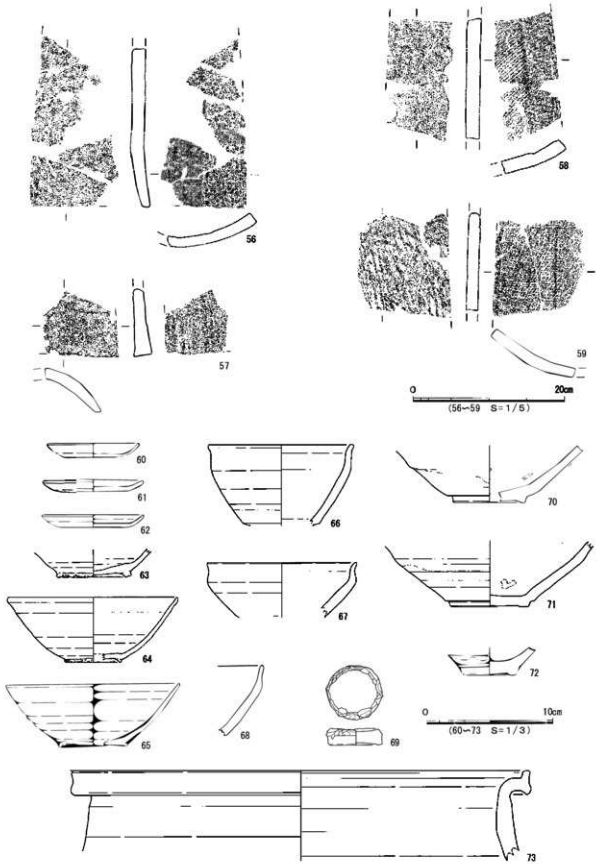


図36　出土遺物実測図（7）

中屋敷古墳（45～107）

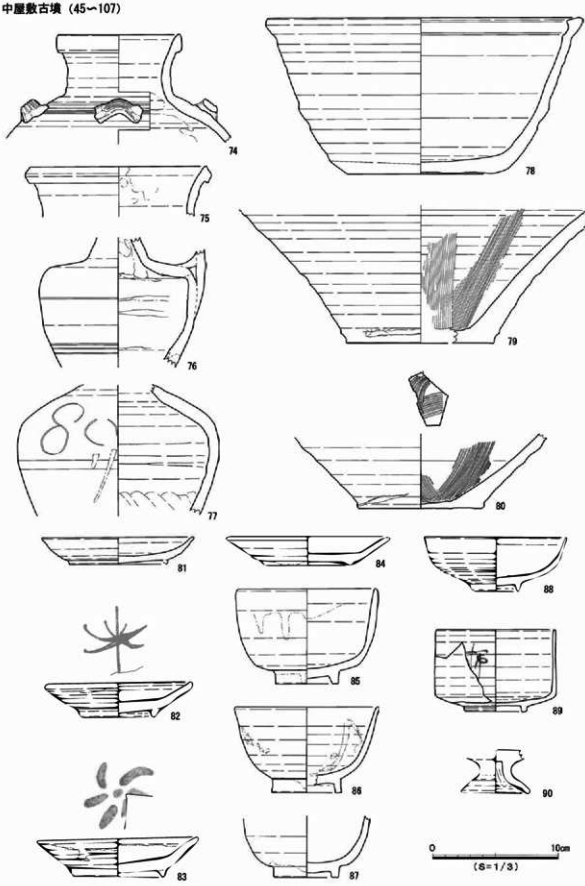


図37　出土遺物実測図（8）

中屋敷古墳（45～107）

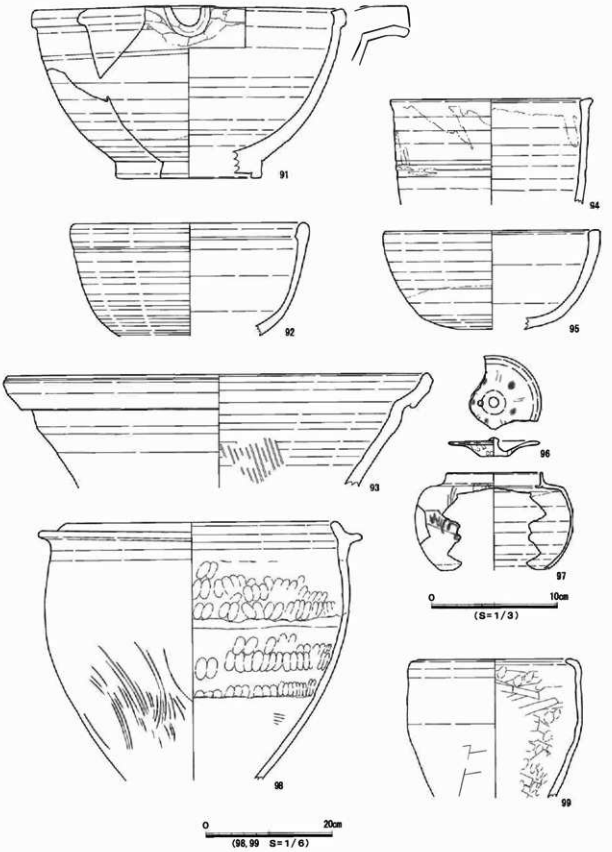
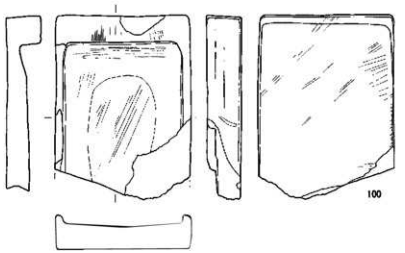
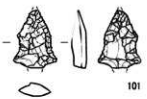
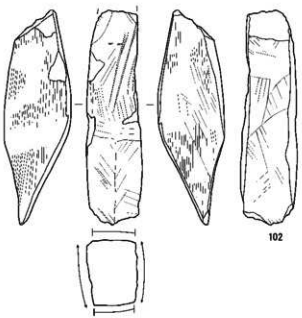


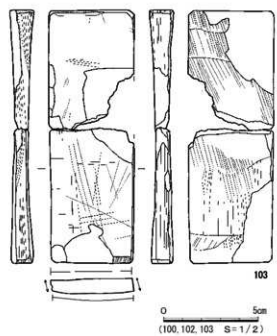
図38　出土遺物実測図（9）

中屋敷古墳（45～107）









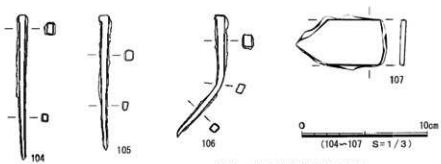


図39　出土遺物実測図（10）

SB1（108〜130）

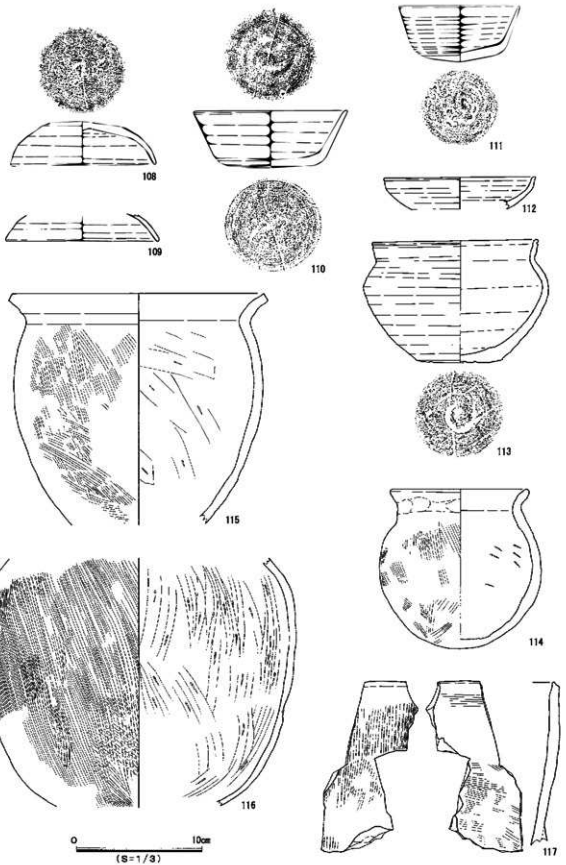


図40　出土遺物実測図（11）

ＳＢ１（108～130）

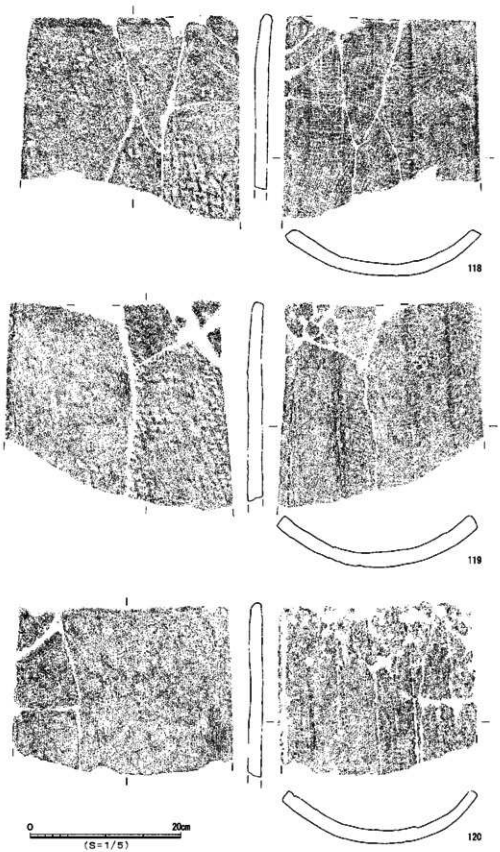


図41　出土遺物実測図（12）

SB1（108〜130）

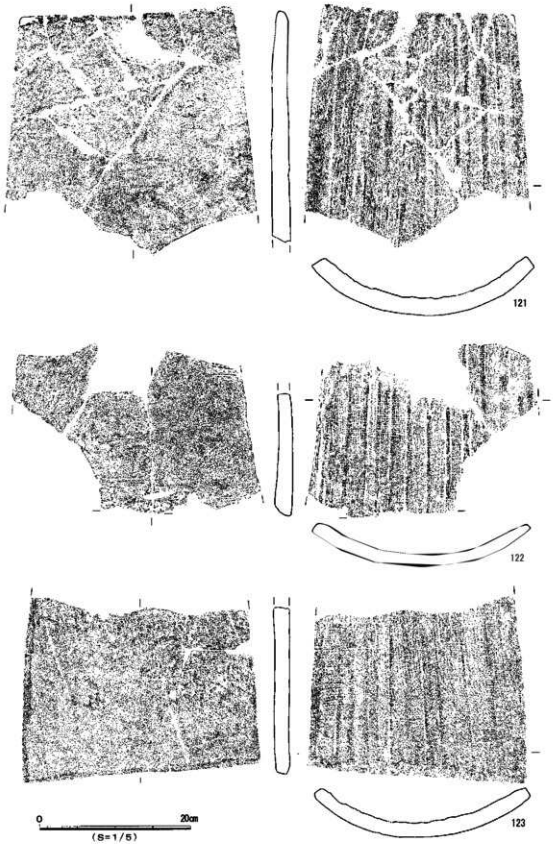


図42　出土遺物実測図（13）

ＳＢ１（108～130）

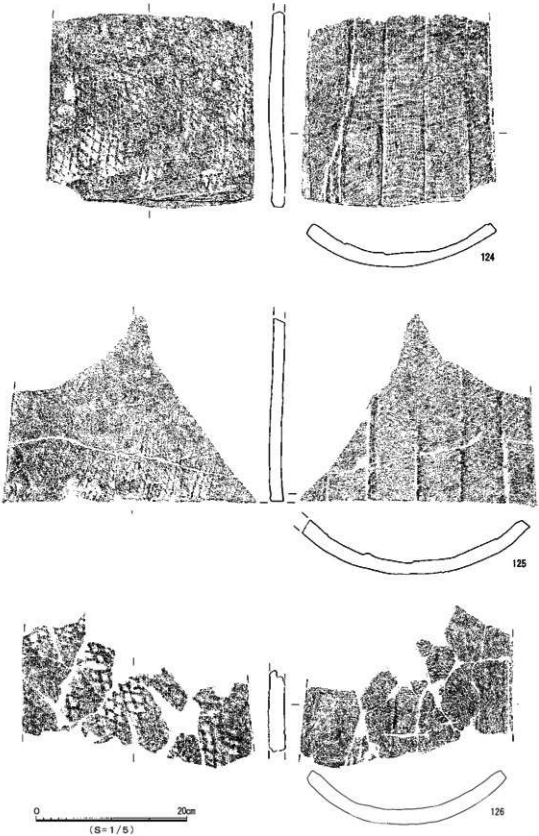


図43　出土遺物実測図（14）

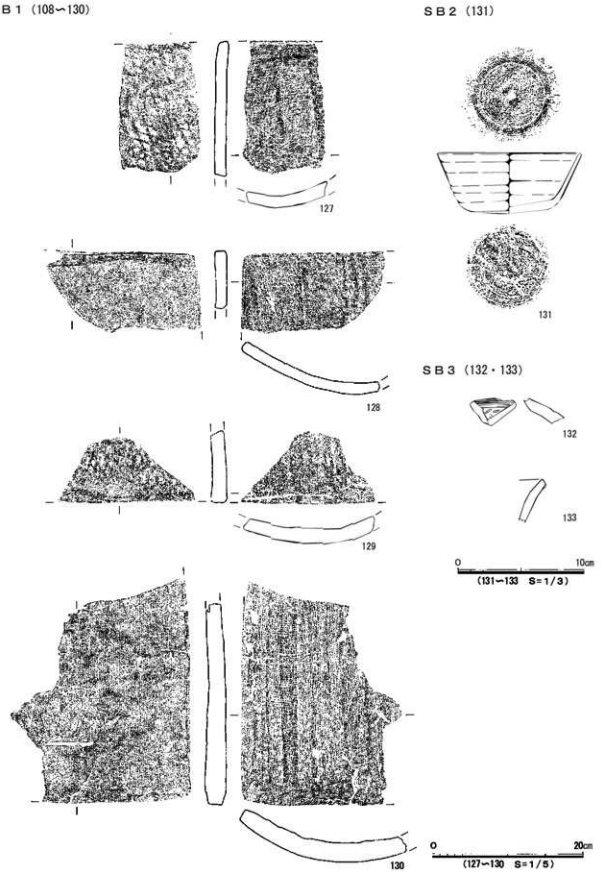


図44　出土遺物実測図（15）

遺物包含層（134～166）

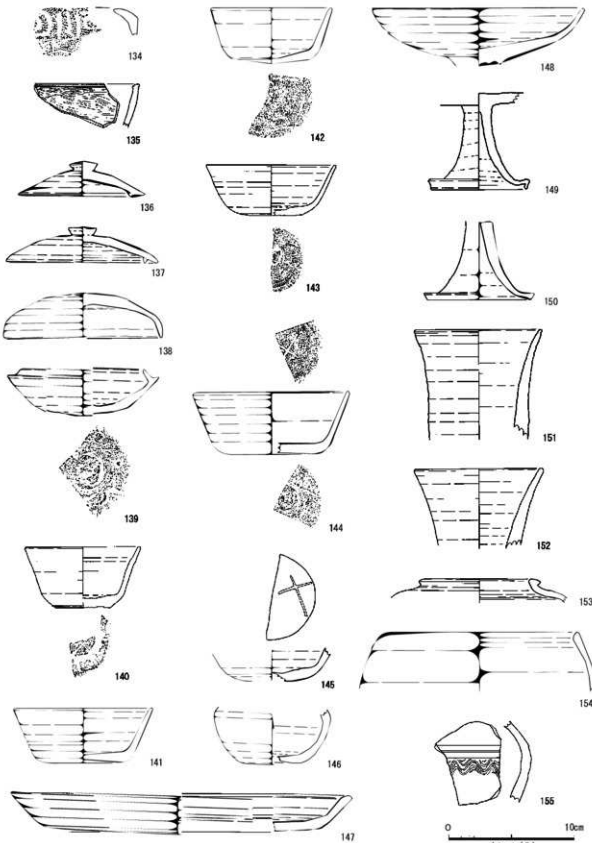


図45　出土遺物実測図（16）

遺物包含層（134～166）

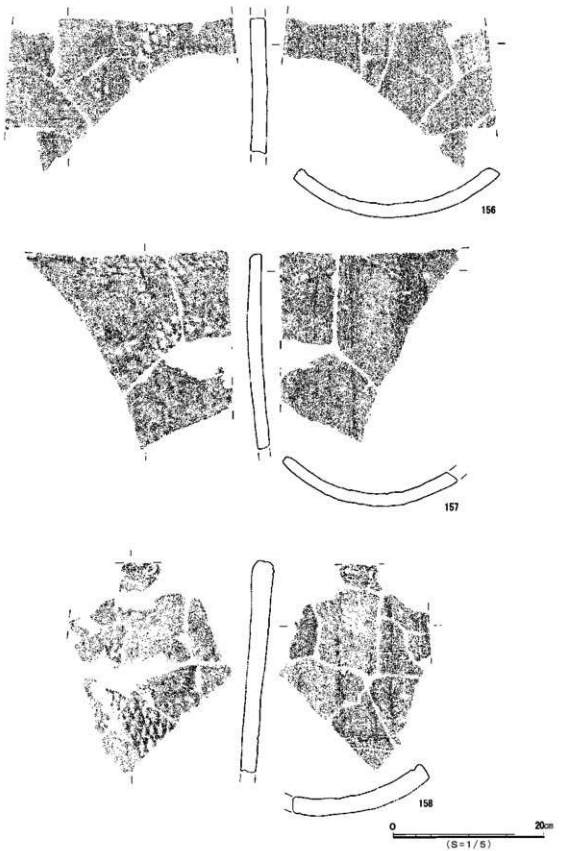


図46　出土遺物実測図（17）

遺物包含層（134～166）

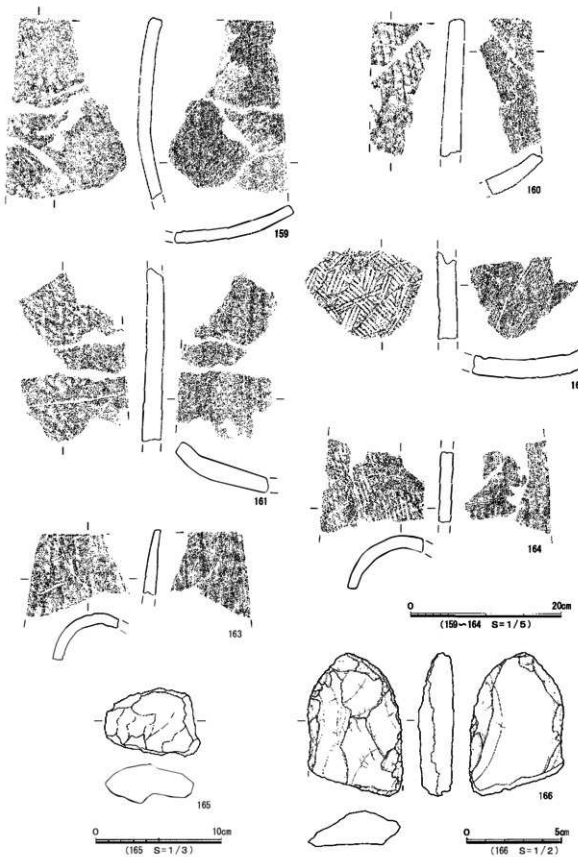


図47　出土遺物実測図（18）

第５節　平安時代以降の遺構と遺物

１　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は４棟検出した。いずれも区画溝内のほぼ同じ場所に建て替えられており、建物の西側には中屋敷古墳が位置している。

ＳＨ１（遺構図：図48・49、遺物図：図71）

桁行３間、梁行２間の、南東から北西方向へと主軸をもつ掘立柱建物跡であり、規模は柱穴の心心間で桁行4.85ｍ、梁行4.40ｍ、床面積21.34㎡である。この建物を構成する柱穴は10基あり、いずれも柱掘方は円形で、規模の平均は長軸長さ0.51ｍ、深さ0.40ｍである。柱筋は南西辺がわずかにずれるものの、他の辺はそろっている。なお、柱穴内に根石、支え石などはなかった。

出土遺物は、土師器２点、中近世陶磁器７点、中近世土師器10点、石器・石製品１点、合計20点である。そのうち大窯志野菊皿（図71－167）、白磁皿（図71－168）、白瓷系陶器碗（図71－169）などを掲載した。

本遺構の廃絶時期は、大窯志野菊皿の年代から16世紀末葉から17世紀初頭頃と推定される。

ＳＨ２（遺構図：図48・49）

桁行３間、梁行１間の、南東から北西方向へと主軸をもつ掘立柱建物跡であり、規模は柱穴の心心間で桁行5.50ｍ、梁行3.17ｍ、床面積17.44㎡である。この建物を構成する柱穴は８基あり、いずれも柱掘方は円形で、規模の平均は調査軸長さ0.44ｍ、深さ0.37ｍである。柱筋は南西辺がわずかにずれるものの、北東辺はきれいにそろっている。なお、柱穴内に根石、支え石などはなかった。

出土遺物はない。本遺構の所属時期は、Ｐ11がＳＨ１の柱穴であるＰ４に切られることから、16世紀末葉以前と推定される。

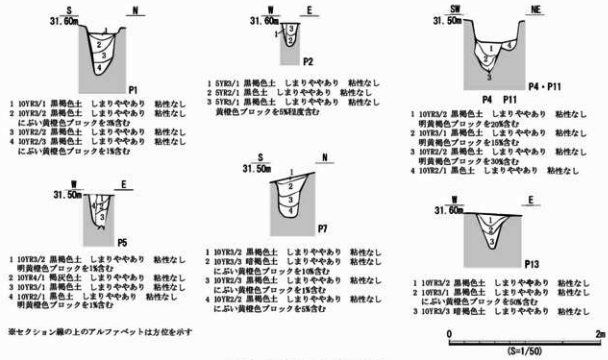


図48　ＳＨ１・２実測図（１）

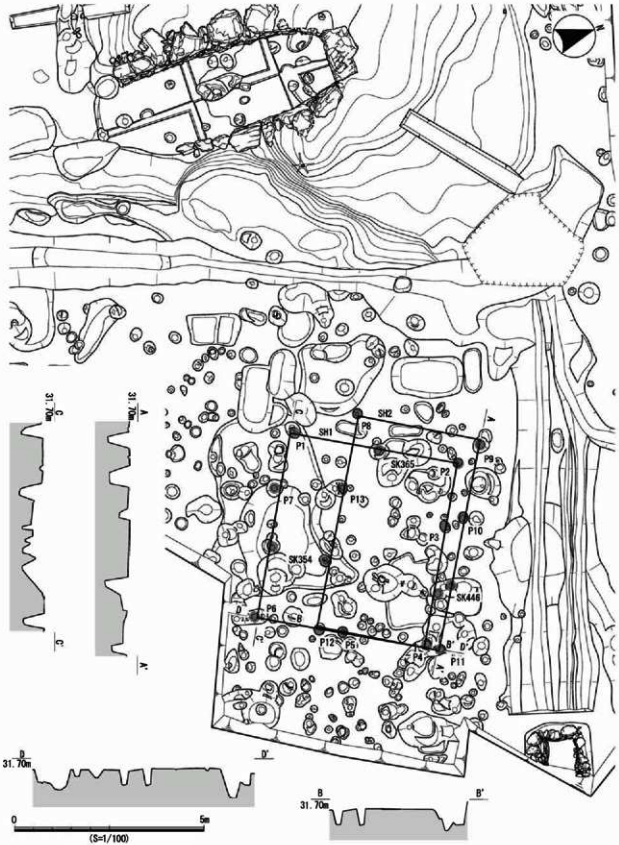


図49　ＳＨ１・２実測図（２）

ＳＨ３（遺構図：図50・51）

桁行２間、梁行１間の、北東から南西方向へと主軸をもつ掘立柱建物跡であり、規模は柱穴の心心間で桁行5.10ｍ、梁行2.80ｍ、床面積14.28㎡である。この建物を構成する柱穴は６基あり、いずれも柱掘方は円形で、規模の平均は長軸長さ0.98ｍ、深さ0.63ｍと大きい。柱間距離は桁行2.00ｍと2.90ｍ、梁行2.78ｍである。Ｐ15の柱抜取り痕の上方には一辺10～20㎝の円礫や角礫が数個あり、他の柱穴と様相が異なっている。

出土遺物は、土師器１点、中近世土師器１点、合計２点である。

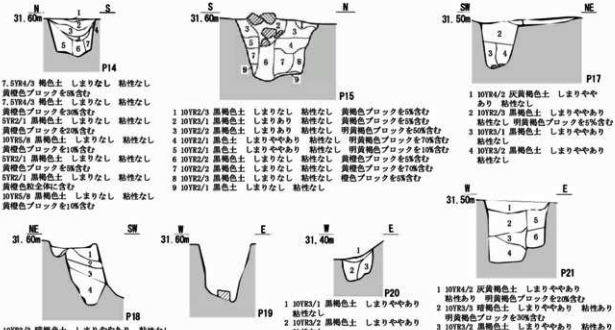
本遺構の所属時期は、Ｐ15がＳＨ４の柱穴であるＰ18を切ることから17世紀中頃以降である。

ＳＨ４（遺構図：図50・51、遺物図：図71）

桁行３間以上、梁行１間の、北西から南東方向へと主軸をもつ掘立柱建物跡であり、規模は柱穴の心心間で桁行10.69ｍ以上、梁行3.65ｍ、床面積39.02㎡以上と大きい。この建物を構成する柱穴は８基あり、いずれも柱掘方は円形で、規模の平均は短軸長さ0.61ｍ、深さ0.65ｍと大きい。柱間距離は桁行平均3.56ｍ、梁行3.70ｍととても広い。柱穴のうち、Ｐ22の底面は凹凸が顕著であり、底面柱当たりの中央と周縁部に硬くてしまりのある白色粘土が付着していた。この粘土はＳＫ555で確認できた、甕の底面付近に堆積していた白色粘土と類似している。

出土遺物は、土師器３点、須恵器２点、中近世陶磁器18点、中近世土師器６点、石器・石製品１点、合計30点である。そのうち登窯反皿（図71－171）、同天目茶碗（図71－173）、土師器皿（図71－172）を掲載した。171はＰ19の中位から出土し、完形に復元できた。

本遺構の所属時期は、登窯反皿の年代から17世紀中頃と推定される。



※セクション線の上のアルファベットは方位を示す

図50　ＳＨ３・４実測図（１）

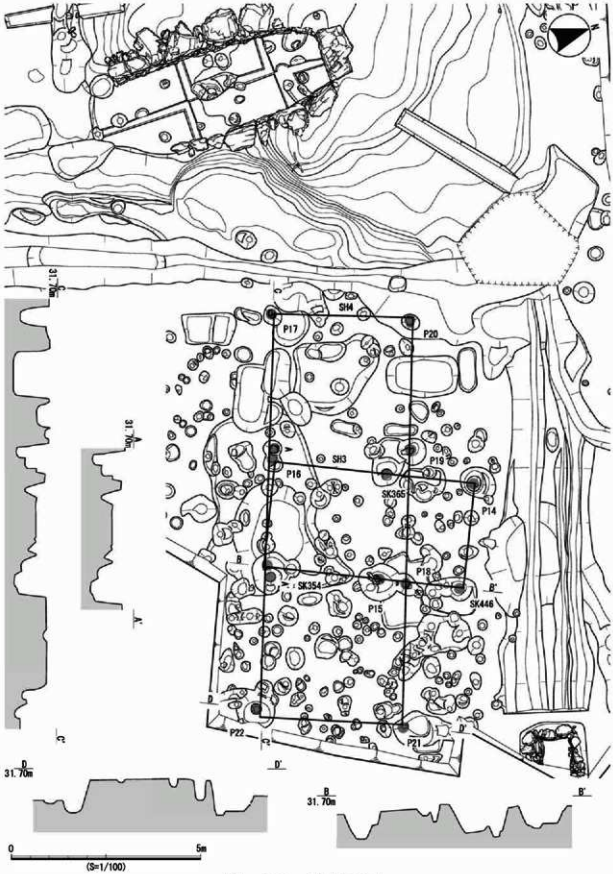


図51　ＳＨ３・４実測図（２）

２　溝

ＳＤ１（遺構図：図52）

本遺構はⅣ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では最も新しい遺構である。掘方は浅い皿状を呈し、直線的に延びている。また、南東端でＳＫ20に連結する。遺構の長軸方位はＳＶ１とほぼ同じであり、区画溝であるＳＤ２と並行していることから、これらは一連の遺構と思われる。

出土遺物は、中近世陶磁器３点、中近世土師器２点、合計５点である。本遺構の埋没時期はＳＤ２と同様に18世紀頃と推定される。

ＳＤ２（遺構図：図52）

本遺構はⅣ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では最も新しい遺構である。掘方は浅い皿状を呈し、直線的に延びている。また、南東端は試掘坑によって切られているが、空閑地を隔ててＳＤ12が存在していることから、両溝は一連の遺構であることは明らかである。ＳＤ２とＳＤ12はＳＶ１に沿って屈曲していることから、ＳＶ１と他を区画する溝と推定される。

出土遺物はない。本遺構は、ＳＤ12と同じく18世紀頃には埋没したと推定される。

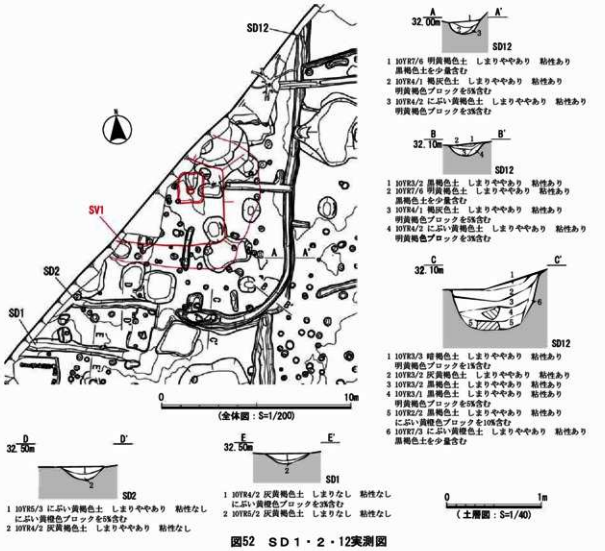


図52　ＳＤ１・２・12実測図

ＳＤ４（遺構図：図53、遺物図：図71）

本遺構はⅣ層上面で検出した。南端は黒色土が広範囲にあり、北端は上面に近代以降の攪乱土が堆積しており、いずれもプラン確定に手間取った。直線的に延びる溝であり、断面形は溝の両側に一段のテラスを有し、中央部分が最も低くなる形状である。なお、溝のテラスにおいて多数の小土坑を検出した。埋土中に流水堆積は認められない。

出土遺物は、須恵器１点、中近世陶磁器５点、中近世土師器20点、金属製品２点、合計28点である。そのうち大窯灯明皿（図71－180）、金属製品（図71－181・182）を掲載した。

本遺構の埋没時期は、大窯灯明皿の年代及び本遺構が16世紀後半頃の土坑であるＳＫ39に切られることなどから16世紀中頃以前と推定される。

ＳＤ６（遺構図：図53、遺物図：図71）

本遺構はⅣ層上面で検出した。直線的に延びる溝であり、北端はＳＤ12及びＳＶ２に切られている。溝の断面形は三角形から深い皿状を呈し、埋土中に流水堆積は認められない。ＳＤ４とほぼ平行しており、両溝間は溝の心心間で約5.2mである。

出土遺物は、須恵器５点、灰釉陶器１点、中近世陶磁器16点、中近世土師器４点、合計26点である。そのうち土師器皿（図71－176）、白瓷系陶器（図71－177～179）を掲載した。

本遺構の所属時期は、白瓷系陶器の年代から15世紀前半頃と推定される。また、本遺構は16世紀後半頃の土坑であるＳＫ95に切られることから、その頃には埋没していたと推定される。

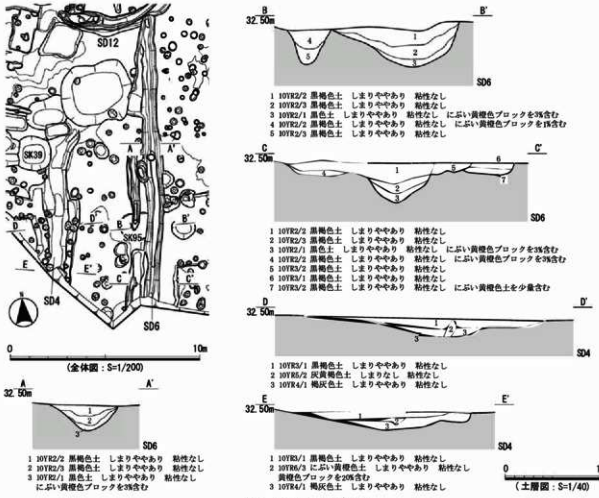


図53　ＳＤ４・６実測図

ＳＤ８（遺構図：図54、遺物図：図71～74）

直線的に延びる溝であり、南端は東側へほぼ直角に屈折する。北端は近代以降の攪乱により破壊されているが、調査前の地形測量図（図４）の等高線の流れや溝の底面標高などから、本来はＳＤ10と連結していたと思われる。溝の壁面は直立気味であり、底面は丸い。深さは約0.4ｍであるが、溝の中央付近では約3.5ｍにわたり底面が低くなり、深さが約0.6ｍとなる。

出土遺物は、埋土上層からガラス片やビニール片などの現代のものが、最下層からは近世陶器のみが出土した。その内訳は、中近世陶磁器265点、近世以降の瓦120点、土師器・須恵器等80点、合計465点である。そのうち登窯製品（図71－188等）、肥前（図71－193）、近世以降の瓦（図73－207等）、石器・石製品（図73－214等）等を掲載した。

遺構の掘削時期は、最下層から出土した登窯磁器碗等の年代から19世紀中頃と推定される。本遺構は、地形測量図（図４）でみられる近世末から近代にかけての区画溝と思われる。

ＳＤ10（遺構図：図54、遺物図：図75）

本遺構は先述のとおりＳＤ８から連続する溝であり、中央付近で緩やかに屈曲する。底面付近の断面形は垂直に近い立ち上がりで、上方は大きく開く。深さは遺構確認面から0.6～0.8ｍと深く、埋土の多くは北側からの流入土である。

出土遺物は、中近世陶磁器48点、近世以降の瓦107点、土師器・須恵器等33点、合計188点であり、ＳＤ８のように埋土上層においてガラス片やビニール片などは出土しなかった。そのうち近世以降の瓦（図75－223等）、土師器皿（図75－229）、土師器煮炊具（図75－230・233）、青磁碗（図75－231）、大窯蓋（図75－232）、砥石（図75－234）を掲載した。

遺構の掘削時期は、ＳＤ８と同様に19世紀中頃と推定される。

ＳＤ11（遺構図：図54、遺物図：図76）

Ⅳ層からⅤ層上面にかけて検出した溝である。検出時は黒褐色土が帯状に広がっていたが、掘削過程で３条の溝が重複していることが判明した。そのため、北側から順にＳＤ11-1、ＳＤ11-2、ＳＤ11-3とする。それらの新旧関係は、ＳＤ11-2が最も古く、ＳＤ11-1とＳＤ11-3の前後関係は不明である。なお、ＳＤ11に切られてＳＤ14を検出した。

ＳＤ11-1は幅約0.55ｍ、深さ約0.56ｍであり、西端はＳＤ10に切られる。断面形は上方が開いており、下方は西側が箱形、東側が丸みを帯びている。埋土は主に北側から流入していると思われ、この溝のみ最下層において焼土粒を確認した。

ＳＤ11-2は幅約0.40ｍ、深さ約0.46ｍであり、西側はＳＤ11-1に切られる。幅、深さともに３条の中で最も小さく、その断面形は台形状を呈する。

ＳＤ11-3は幅約0.87ｍ、深さ約0.58ｍであり、幅、深さともに３条の中で最も大きい。断面形は三角形状を呈し、底面は丸みを帯びている。

出土遺物は、中近世陶磁器38点、中近世土師器36点、近世以降の瓦等11点、合計85点であり、近世以降の土器は主に上層からの出土である。そのうち古瀬戸製品（図76－242等）、大窯製品（図76－238等）、金属製品（図76－243）、登窯製品（図76－245）等を掲載した。

本遺構はＳＨ１～４の主軸方位とほぼ同じであることから、これらを含む居住域を区画する溝と思われる。遺構の埋没時期は、登窯擂鉢やＳＨ１～４の年代から、17世紀前半から中頃と推定される。

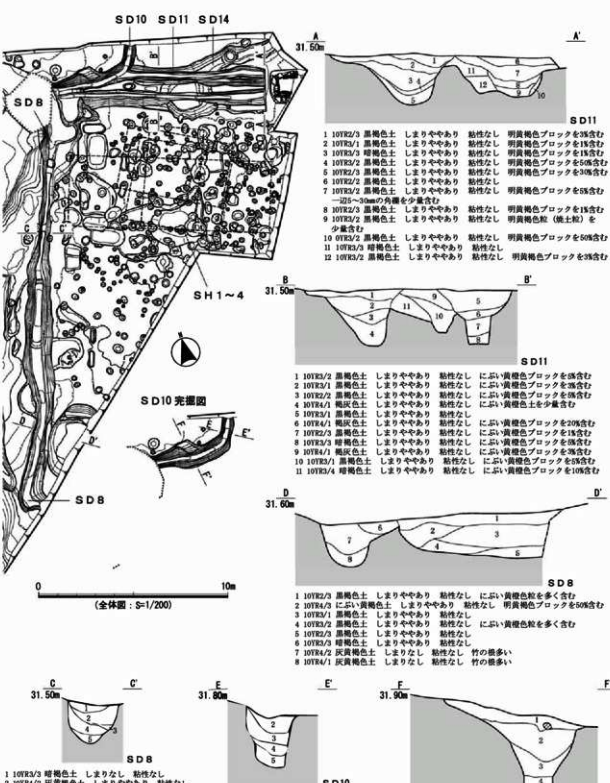


図54　SD8・10・11実測図

3　盛土遺構

ＳＶ１（遺構図：図55・56、遺物図：図76～78）

試掘・確認調査において盛土遺構の存在を把握していたため、表土から人力にて掘削を行った。また、盛土上面のやや南西寄りに近代の井戸が開口していたため、安全が確保できる範囲の掘削に止めた。

表土上の草及び竹などを除去すると、一辺５～20㎜程度の角礫が盛土上面において面的に広がっていた。また、調査前の地形測量図で把握していた頂上部の方形の平坦面も確認できた。そのため、礫の広がりを中心に真北を主軸として土層観察用畦を設定した。表土及び礫を掘削していくと、盛土上面において表土から約10㎝下で方形プランを確認した（ＳＫ62）。

盛土の法面は25～30°の傾斜であり、法面のほぼ全面から拳大の円礫が多数出土した。この円礫は貼石ではなく、盛土内に存在するもの、もしくは盛土崩落時に盛土内から流失したものであり、現存している盛土と崩落土の平面での識別がとても困難であった。

盛土内の堆積では、東西方向（A-A'）に水平堆積層と崩落土層を、南北方向に水平堆積層（B-B'）を確認し、東西方向の土層観察結果から、少なくとも１回以上の造り替えがあったと思われる。すなわち、図56の26～45層が当初の盛土、８～24層が当初の盛土の崩落土と盛土を崩した要因となる外部

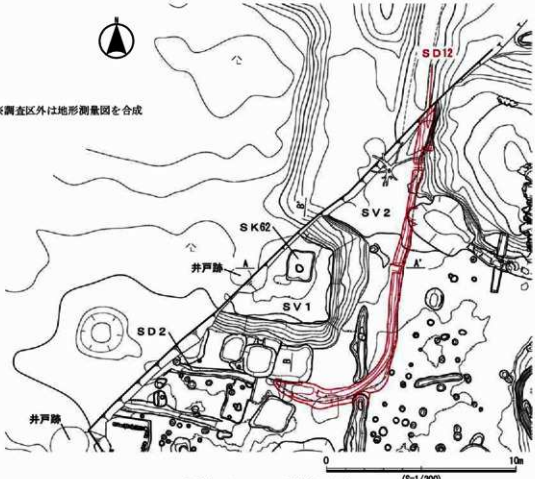
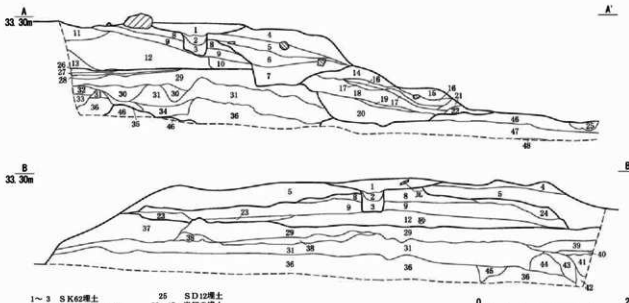


図55　ＳＶ１・２実測図（１）

からの流入土、４～７層が造り替え後の盛土、１～３層が造り替え後の遺構埋土（ＳＫ62埋土）である。当初の盛土の上面は平坦で、一部に26・27層のような薄くて粘土が含まれる砂質土（整地土の可能性がある）が確認できる。その上には12層のように厚い砂礫層が堆積しており、東西方向（A-A'）の土層でみる限り、それらは19・20層と一連の堆積層と言える。その砂礫層上の８・９・18層も斜め方向の堆積であることから、この時期の流入土（崩積性堆積土）はかなりの量であったと思われる。その後、４～７層のように、当初の盛土を掘り込み、さらに上部に積み上げる盛土があり、その上面からＳＫ62が掘り込まれている。

ＳＫ62は盛土上面に掘り込まれた土坑である。方形を呈し、底面は平坦で、中央付近に小さな円形の土坑を有する。底面付近から近世以降の瓦片が出土した。なお、ＳＫ62の西側にて、一辺50～60cmの



1～3　ＳＫ62埋土　　25　ＳＤ12埋土
4～7　造り替え後の盛土　　26～45　当初の盛土
8～24　流入土や盛土崩落土　　46～48　基盤層

1 10YR6/2 灰黄褐色土　しまりなし　粘性なし　一辺約5mmの角礫を多量に含む
2 10YR5/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性なし　一辺3cmの円礫を少量含む
3 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
4 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根多い
5 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　竹の根多い
6 10YR4/3 にぶい黄褐色土　しまりなし　粘性なし　径5cm前後の円礫を含む
　明黄褐色ブロックを10%含む
7 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　径3～5cmの円礫を含む
　明黄褐色ブロックを3%含む
8 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
9 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
10 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
11 10YR3/1 黒褐色土　しまりなし　粘性あり　竹の根多い
12 砂礫層　径2～5cmの円礫と粗砂
13 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
14 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　径5cm前後の円礫を含む
15 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
16 10YR5/4 にぶい黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　V層に類似する
17 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
18 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　径3～5cm前後の円礫を含む
19 砂礫層　径2mmの小礫と粗砂
20 礫層　径3～15cmの礫が主体で、間に黒褐色土を含む
21 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
22 10YR2/3 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを3%含む
23 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
24 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
　径1～3cmの円礫と粗砂を多く含む
25 10YR6/6 明黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　黒褐色土を少量含む
26 10YR6/6 明黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
27 10YR6/3 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　やや砂質
28 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを5%含む
29 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
　上面に明黄褐色ブロックを少量含む
30 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを10%含む
31 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを1%含む
32 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
33 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
　にぶい黄橙色ブロックを10%含む
34 10YR6/4 にぶい黄橙色砂　無粘層
35 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
　にぶい黄橙色ブロックを3%含む
36 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
37 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
38 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを5%含む
39 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
40 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
　明黄褐色土ブロックを3%含む
41 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
　明黄褐色土ブロックを1%含む
42 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
　明黄褐色土ブロックを40%含む
43 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
44 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
45 10YR4/1 にぶい黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
46 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　ＩＶ層
47 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性あり　全体的に白色粘を少量含む
48 10YR6/3 にぶい明黄橙土　しまりややあり　粘性あり　Ｖ層

図56　ＳＶ１・２実測図（２）

の角礫が２個出土したが、ＳＫ62との関係は不明である。

なお、ＳＶ１を取り囲むようにＳＤ２とＳＤ12が巡っている。ＳＶ２はＳＤ12とＳＶ１の間を充填している整地土であり、ＳＶ１構築時には、ＳＶ１の周囲が沼状に低かったと思われる。

出土遺物は、中近世陶磁器226点、中近世土師器18点、近世以降の瓦297点、土師器等19点、合計560点である。そのうち登窯製品（図76－248等）、大窯製品（図76－250等）、近世以降の瓦（図78－271等）等を掲載した。当初の盛土から出土した遺物は登窯磁器丸碗（図76－252）、同広東碗蓋（図76－255）などで、流入土や当初の盛土崩落土より上位で出土した遺物はそれ以外であり、両者の時期差はほとんどみられない。

本遺構の構築時期は、当初の盛土から出土した遺物の年代から19世紀中頃と推定され、明治時代以降まで使用されていたと思われる。盛土遺構の性格は定かではないものの、盛土上面に井戸が掘削してあることや、本遺構周囲に巡るＳＤ12が広範囲を区画している可能性があることなどから、屋敷地などに伴う整地土である可能性が高い。

ＳＶ２・ＳＤ12（遺構図：図52・55・56、遺物図：図80）

ＳＶ１の北東側から南東側にかけて、Ⅳ層上面とほぼ同じ標高で明黄褐色ブロックを含む褐灰色土が広がっており、その土はⅣ層である黒褐色土のブロック土も含んでいたことから、人為的な堆積土と判断した。そのため、その土を整地土（ＳＶ２）とし、ＳＶ２除去後にその周縁で溝（ＳＤ12）を検出した。ＳＤ12は、遺構検出面において明黄褐色土が帯状にみえており、プランの確定は比較的容易であった。

ＳＶ２の層厚は約0.30mであり、西側はＳＶ１の流入土や盛土崩落土（図56の８～24層）の上に位置する。整地土中からは中近世の土器・陶磁器がわずかに出土し、ＳＫ555内に据えられた近世常滑大甕（甕の年代は17世紀末～18世紀前半）の破片は、ＳＶ２掘削中に出土し始めた。

ＳＤ12はＳＶ２の周縁部を巡っており、北端は調査区外まで延び、南東隅は緩やかに屈曲し、西側へ４m程延びて収束する。その断面形は浅い皿状を呈し、埋土中に硬くてしまりのある明黄褐色土を含むことが特徴である。なお、流水堆積は確認できなかった。溝の西端は、長さ1.95m、深さ0.42mの土坑状の落ち込みとなり、その底面にて４個の扁平な角礫が横位で出土した（図57）。

ＳＶ２の出土遺物は、中近世陶磁器20点、中近世土師器５点、近世以降の瓦１点、須恵器等６点、合計32点である。そのうち白瓷系陶器（図80－297）、土錘（図80－298）を掲載した。ＳＤ12の出土遺物は中近世陶磁器３点のみであり、登窯丸碗（図75－235）を掲載した。

ＳＤ12は、ＳＫ555出土常滑大甕の年代から、18世紀頃には埋没したと推定される。ＳＶ２の施工時期は、ＳＶ１との重複関係からＳＶ１の当初盛土の崩壊後の19世紀中頃以降である。

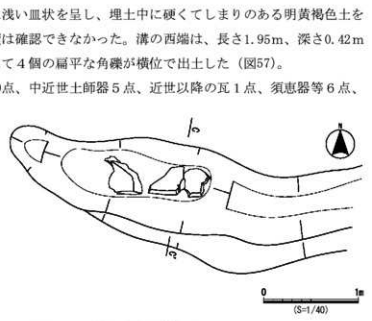


図57　ＳＤ12西端礫出土状況図（セクション図は図52参照）

４　近世墓

ＳＺ１（遺構図：図58、遺物図：図75）

重機による表土掘削時に大きな扁平な礫の存在に気がつき、重機掘削を中止した。その後、礫を覆っている表土を人力で除去したところ、４個の扁平な礫が長辺を南北に向けて検出でき、その礫の短辺に沿って円礫が縦位で並んでいた。また、大きな礫の北側にも扁平な礫がまとまって検出でき、礫を検出した面の土色が周辺と異なっていたことから、盛土遺構と判断した。

盛土は法尻で南北2.45m、東西2.03mで、方形を呈し、南東隅がわずかに張り出す。盛土の各辺のうち、北辺と西辺、南西隅の角などは明瞭に確認できたが、南辺と東辺は竹の根も多く、その検出に手間取った。なお、盛土上面北側では扁平な礫が多く検出できたが、南側では全く出土しなかった。盛土の埋土はややしまりのある土を用いているものの、硬化しているわけではない。

４個の扁平な礫は、西側３枚が接しており、東側１枚のみがわずかに離れている。中央の２枚を除去すると、長辺0.72m、短辺0.51mの長方形のプランを検出できた。また、南北両端の礫の下には盛土以外の遺構は確認できなかった。長方形プランの埋土中には円礫が数個あり、底面付近から近世陶器が２点出土した。なお、土坑の底面はほぼ平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。埋土中から骨片や炭化物が出土しなかったため遺構の性格は断定できないものの、蓋石の存在や土坑の平面形、底面状況などから近世墓と判断した。

出土遺物は、須恵器１点、近世陶器１点、合計２点であり、登窯製品（図75－236）を掲載した。本遺構の所属時期は、出土遺物の年代から19世紀前半頃と推定される。

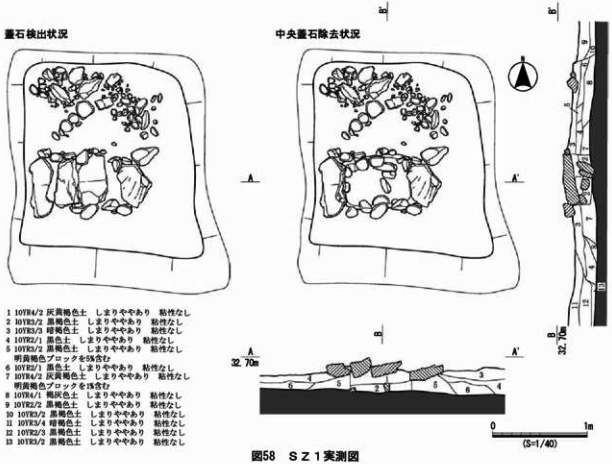
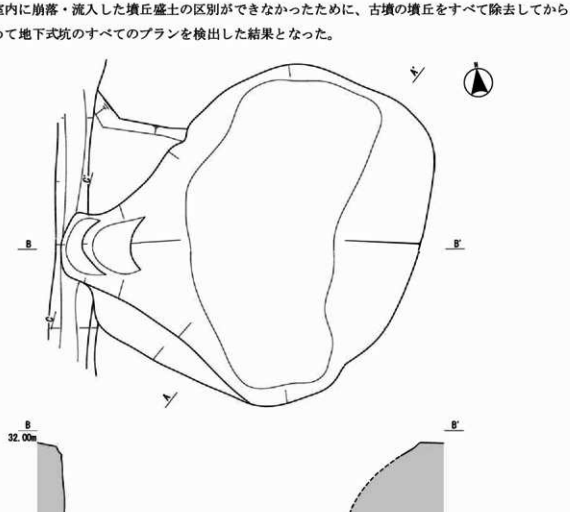


図58　ＳＺ１実測図

5　地下式坑

ＳＫ540（遺構図：図59・60、遺物図：図86・87）

本遺構は、地下室の約半分が古墳の墳丘下に構築されていた。そして、地下室は天井及び壁面崩落土と天井の上に存在していた古墳の墳丘盛土の流入土によって埋没していた。そのため、本来であれば、古墳の墳丘検出時において地下式坑のプランを検出できたはずであるが、本来の墳丘盛土と、地下室内に崩落・流入した墳丘盛土の区別ができなかったために、古墳の墳丘をすべて除去してから、初めて地下式坑のすべてのプランを検出した結果となった。



1 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　白色粒を少量含む　壁、天井崩落土
2 10YR7/2 明黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　黒褐色土を少量含む　壁、天井崩落土
3 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを5%含む　外部からの流入土
4 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを1%含む　外部からの流入土
5 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを5%含む　壁、天井崩落土
6 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　黒褐色土を少量含む　壁、天井崩落土
7 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　外部からの流入土
8 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを1%含む　外部からの流入土
9 10YR7/2 明黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　わずかに褐色土を含む　壁、天井崩落土
10 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　壁、天井崩落土
11 10YR7/2 明黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　壁、天井崩落土
12 10YR6/3 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　黒色土粒を少量含む　壁、天井崩落土

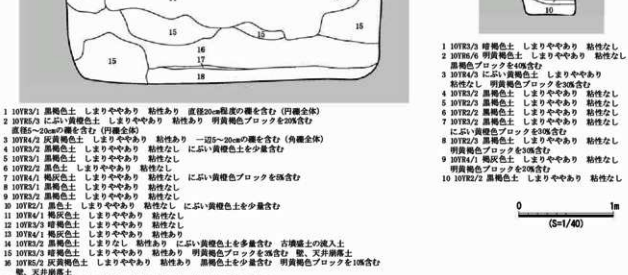
図59　ＳＫ540実測図（１）

本遺構は別の地下式坑であるＳＫ564を切る。本遺構の検出時には、中央部分に礫を伴う黒褐色土が広がっており、須恵器や中近世陶器、瓦などが多数出土した（図15）。これらは、図60の１～13層の掘り込みに伴う近世の土坑に伴う遺物である。

本遺構は竪坑と地下室に分かれ、地下室の天井は崩落していた。地下式坑の規模は、軸長3.83m、地下室の奥行き1.55m、地下室の横幅3.24m、地下室の深さは遺構確認面から計測して2.04mである。竪坑の掘方は楕円形を呈すると思われ、ほぼ垂直に掘削されている。その位置は、古墳の石室を中心とする直径15mのライン上に相当することから、意図的に古墳の墳丘裾部に地下式坑の入り口を設定した可能性もある（図61）。竪坑の底面は平坦面が２段に分かれており、上段の長さは14cm、下段の長さは40cmである。一方、地下室の掘方も楕円形を呈するが、底面の北東隅はほぼ直角に屈曲している。底面は平坦で、壁面はオーバーハング気味である。なお、竪坑の上段と地下室底面の比高差は約0.6mである。

埋土は下方に天井又は壁面の崩落土が多くあり、上方に古墳の墳丘盛土の流入土が厚く堆積している。下方の崩落土はブロック状の塊がそのままの形状で残っているものが多い。

出土遺物は、弥生土器・土師器71点、中近世陶磁器89点、中近世土師器26点、須恵器等51点、合計237点であり、大窯製品（図86－406等）、登窯製品（図86－409等）、土師器皿（図86－423）等を掲載した。土坑の底面直上からの出土遺物は皆無であるものの、埋土16層と18層の境付近から志野丸皿（409）、白瓷系陶器碗（415）、土師器皿（423）、大窯擂鉢（429）、古瀬戸擂鉢（427）等が出土している。そのため、本遺構の所属時期は志野丸皿（409）の年代から17世紀前半頃と推定される。なお、遺構の性格は不明である。



1　10YR3/1　黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　直径20cm程度の礫を含む（円礫全体）
2　10YR5/6　にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを20%含む
直径5～20cmの礫を含む（円礫全体）
3　10YR4/2　灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　一辺5～20cmの礫を含む（角礫全体）
4　10YR3/2　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし　にぶい黄橙色土を少量含む
5　10YR3/1　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
6　10YR2/3　黒色土　しまりややあり　粘性なし
7　10YR4/4　褐灰色土　しまりややあり　粘性なし　にぶい黄橙色ブロックを5%含む
8　10YR3/1　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
9　10YR3/2　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
10　10YR2/1　黒色土　しまりややあり　粘性なし　にぶい黄橙色土を少量含む
11　10YR4/1　褐灰色土　しまりややあり　粘性なし
12　10YR3/3　暗褐色土　しまりややあり　粘性なし
13　10YR4/1　褐灰色土　しまりやあり　粘性あり
14　10YR3/2　黒褐色土　しまりなし　粘性あり　にぶい黄橙色土を多量含む　古墳盛土の流入土
15　10YR3/3　暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを3%含む　壁、天井崩落土
16　10YR5/2　灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　黒褐色土を少量含む　明黄褐色ブロックを10%含む
壁、天井崩落土
17　10YR2/1　黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　外部からの流入土か？
18　10YR4/1　褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを10%含む　外部からの流入土か？

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりややあり　粘性なし
2　10YR6/6　明黄褐色土　しまりややあり　粘性なし
黒褐色ブロックを40%含む
3　10YR4/3　にぶい黄褐色土　しまりややあり
粘性なし　明黄褐色ブロックを30%含む
4　10YR3/2　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
5　10YR2/3　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
6　10YR2/2　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
7　10YR3/2　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
にぶい黄橙色ブロックを3%含む
8　10YR2/3　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
明黄褐色ブロックを3%含む
9　10YR4/1　褐灰色土　しまりややあり　粘性なし
明黄褐色ブロックを10%含む
10　10YR2/2　黒褐色土　しまりややあり　粘性なし

0　1m
(S=1/40)

図60　ＳＫ540実測図（２）

ＳＫ564（遺構図：図62、遺物図：図87）

本遺構は、地下室の半分以上が古墳の墳丘下に構築されており、横穴式石室の南西に竪坑が設定されている（図61）。また、地下室の上方のみＳＫ540に削平されており、下方は本来の形状を止めている。

竪坑の掘方は楕円形を呈し、ほぼ垂直に掘削されている。その底面は平坦面が２段に分かれており、上段の長さは34cm、下段の長さは８cmである。地下室の掘方は地下式坑の主軸に沿って長く、底面は平坦でほぼ長方形を呈し、壁面はオーバーハング気味である。なお、竪坑の上段と地下室底面の比高差は約0.5mである。

埋土は下方に天井又は壁面の崩落土が多くあり、上方に古墳の墳丘盛土の流入土が厚く堆積している。なお、竪坑の底面から約20cm上にて、完形の土師器皿（図87－438）が内面を上にして１枚出土した。

地下式坑の規模は、地下室の奥行き3.16m、地下室の横幅1.56m、地下室の深さは遺構確認面から計測して1.60mである。遺物の大半は埋土中から出土し、底面直上からの出土遺物は皆無であった。

出土遺物は、弥生土器・土師器18点、古代瓦２点、中世陶磁器９点、中世土師器１点、合計30点であり、高坏（図87－436・437）と土師器皿（図87－438）を掲載した。弥生土器・土師器はＳＫ540でも多数出土しており、これらの大半は本来ＳＢ３に伴う遺物と推定される。なお、本遺構の所属時期は土師器皿の年代から15世紀後半以降と推定される。なお、遺構の性格は不明である。

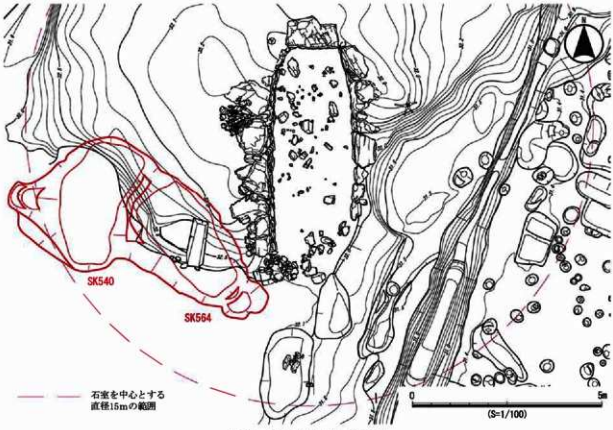
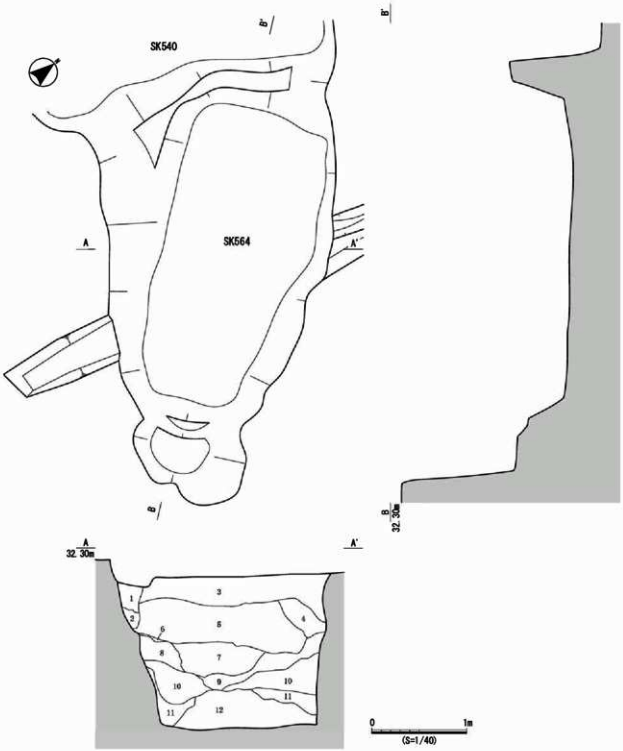


図61　地下式坑と中屋敷古墳



1　10YR5/2　灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
2　10YR4/　褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
3　10YR3/1　黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
4　10YR6/6　にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり
5　10YR3/3　黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色土を含む
6　10YR7/6　明黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　黒褐色土を少量含む
7　10YR6/3　にぶい黄褐色土　しまりややあり　粘性あり
8　10YR3/1　黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを30%含む
9　10YR3/2　黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを5%含む
10　10YR6/3　にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性あり　直径5～10cmのにぶい黄橙色ブロックが集結しその間に黒褐色土が入り込む
11　10YR7/6　明黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを50%含む
12　10YR5/2　灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを50%含む

図62　ＳＫ564実測図

ＳＫ41（遺構図：図63、遺物図：図80）

本遺構の上面には大きな竹の株があり、表土掘削時に重機で竹の株を除去したために、土坑の上面が窪んだ状態で検出した。

本遺構は竪坑と地下室に分かれ、地下室の天井は崩落していたが、竪坑と地下室とを結ぶ通路の天井部は残存していた。検出当初は、竪坑と地下室が連結するとは全く想定しておらず、それぞれを別遺構として取り扱っていた。地下式坑と認識できたのは、両遺構を底面付近まで掘削した時に壁面がまだ掘削できることがわかり、地下室側の黒色土を半割したら竪坑まで続いてしまったことによる。

竪坑の掘方は楕円形を呈し、ほぼ垂直に掘削されている。底面は平坦であり、底面より10㎝程度上で扁平な礫が数個出土したものの、いずれも底面から浮いている。一方、地下室の掘方も楕円形を呈し、底面は平坦で、壁面はオーバーハング気味である。埋土にしまりがなく、床面直上には天井崩落土と思われるⅣ層ブロックが多くみられた。竪坑と地下室は緩やかな斜面で連結しており、その比高差は約0.4mである。なお、埋土である６層中に白色粘土粒が含まれていたものの、骨のような組織はみられなかった。

地下式坑の規模は軸長2.96m、地下室の奥行き1.88m、地下室の横幅1.28m、地下室の深さは遺構確認面から計測して1.41ｍである。

出土遺物は、中世陶磁器４点、中世土師器10点、近世以降の瓦１点、石器等３点、合計18点であり、大窯製品（図80－315・316・319）、土師器皿（図80－317・318）を掲載した。本遺構の所属時期は、大窯製品の年代から16世紀末葉～17世紀初頭頃と推定される。遺構の性格は不明である。

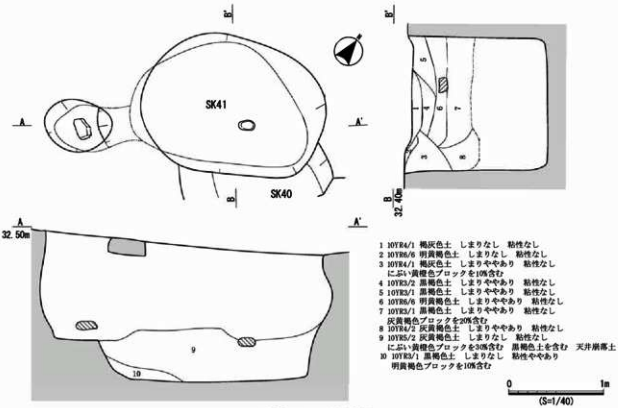


図63　ＳＫ41実測図

６　土坑・遺物集積

ＳＫ14（遺構図：図64、遺物図：図80）

本遺構は、Ⅳ層上面において黒色土の広がりを確認し、プランを確定した。掘方の形状は不定形を呈し、半分以上が調査区外に位置する。底面はほぼ平坦であり、埋土の２層には焼土ブロックを含み、土師器皿の比較的大きな破片が出土した。

出土遺物は、土師器１点、須恵器１点、中世陶磁器７点、中世土師器９点、合計18点であり、土師器皿（図80－302）、白磁皿（図80－303）、大窯丸皿（図80－304）を掲載した。本遺構の所属時期は、大窯丸皿の年代から16世紀中頃と推定される。遺構の性格は不明であるものの、今回の調査で検出した遺構のうち、埋土中に焼土ブロックを含む数少ない遺構である。

ＳＫ20（遺構図：図64、遺物図：図80）

Ⅱ層掘削中に３～10cm程度の円礫がまとまって出土し、それらを取り除くとⅣ層上面にて扁平な角礫が５つ並んで出土した。

掘方は方形を呈する。土坑の西側は掘りすぎにより遺構の掘方を確認できなかったものの、東側はⅢ層中にて遺構の掘方を確認した。底面は扁平であり、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は３層に分層でき、最下層において焼土と思われるにぶい黄褐色ブロックが含まれていた。円礫は１層上面に多く、それより下位ではほとんど出土しなかった。また、円礫はまとまっているものの、規則的に配置しているような状況はみられなかった。

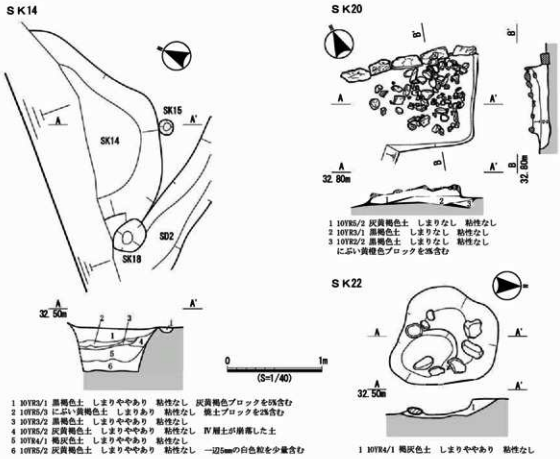


図64　ＳＫ14・20・22実測図

本遺構はＳＤ１が確認できなくなった位置にあり、土坑底面で検出した石列はＳＤ１の掘方の延長上に位置する。

出土遺物は、中近世陶磁器７点のみであり、登窯擂鉢（図80－301）を掲載した。本遺構の所属時期は、擂鉢の年代から17世紀末葉と推定される。遺構の性格は不明であるものの、ＳＤ１との関連性が指摘できる。

ＳＫ22（遺構図：図64）

上方に近代以降の攪乱土が堆積しており、その土を除去していく過程で礫が並んで検出できた。

掘方は円形を呈し、底面は中央南寄りがわずかに窪む。壁面は緩やかに立ち上がり、掘方の下端付近に、10～25㎝の大きさの円礫と角礫が円形に配置されていた。埋土は単層であり、焼土や炭化物などは確認できなかった。

出土遺物はなく、本遺構の所属時期は不明である。また、遺構の性格も不明であるものの、地下式坑であるＳＫ41に近い場所に位置していることは留意すべきである。

ＳＫ３（遺構図：図65、遺物図：図79）

本遺構の上面付近では、Ⅱ層掘削中から陶磁器や瓦の破片が多く出土しており、Ⅳ層上面では明黄褐色ブロックや竹の根を多く含むしまりのない土が広がっていたので、当初は攪乱としていた。しかし、攪乱土を除去すると、南側において円礫が並んで検出できた。

掘方は方形を呈し、南側はわずかに膨らんでいる。また、西側は調査区外まで延びており、調査区と民地との境界付近には近代の井戸が開口している。掘方から20～35㎝内側には円礫が丁寧に方形に組まれていた。石組みの内法は南北方向で約1.40ｍであり、北面と東面は遺構底面直上に一段しか石組みが残っていなかったものの、南面は４～６段の積み上げが確認できた。石組みの積み方は、下方（およそ下から１～３段目）がすべて小口積み、上方東側が長手積みであり、両者の境の目地は明瞭に把握できる。小口積みの礫は、東・北・南面ともに長手面を天地に向け、隣り合う礫同士の平面（ひらめん）が接するように積まれている。石組み内部の底面は平坦であり、部分的に酸化鉄集積層が確認できた。

遺構埋土はにぶい黄褐色ブロックを多く含み、出土遺物が上下方向で接合することなどから、短時間で埋め戻された可能性がある。掘方埋戻し土は、円礫を１～２段積んでから、礫の上面レベル付近までを土を充填する工程であったと思われる。

出土遺物は、土師器２点、須恵器４点、中近世陶磁器59点、中近世土師器11点、近世以降の瓦49点、金属製品１点、合計126点である。埋土の６層と７層の境付近からは、北辺中央付近にて瓦が横位で、遺構中央にて擂鉢や練鉢などの近世陶器と瓦片がまとまって出土している。また、底面直上にて、底部穿孔のある徳利片が出土した。このうち、登窯製品（図79－284等）、金属製品（図79－291）、近世以降の瓦（図79－292等）等を掲載した。

本遺構の所属時期は、出土遺物の年代から19世紀中頃～後半と推定される。遺構の性格は、近代の井戸が本遺構に隣接して存在していることから、近世から近代にかけて使用された「タマヤ」のような性格と思われる。

ＳＫ35（遺構図：図66）

本遺構は上方に竹の株があり、それを除去すると下から立石と礫を検出した。掘方は円形を呈し、底面は平坦である。底面の周縁には一辺20～30㎝の円礫と角礫が並べて据えてあり、その北端に立石

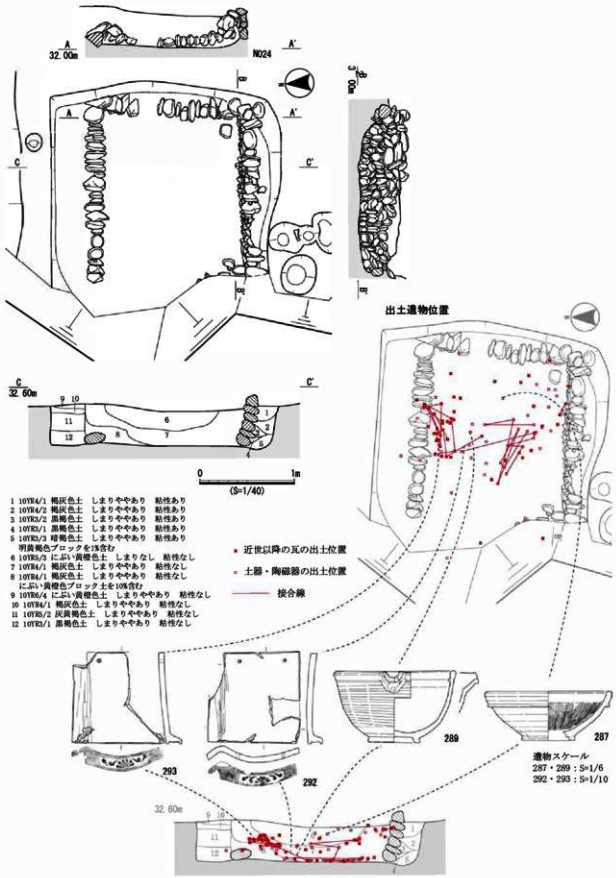

A
32.00m
NO24
A'
C
C'
3.00m
C
32.60m
9 10
11
12
6
7
8
1
2
5
4
0
1m
(S=1/40)
出土遺物位置
1 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
2 10YR4/2 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
3 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
4 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
5 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
明黄褐色ブロックを1%含む
6 10YR5/3 にぶい黄橙色土　しまりなし　粘性なし
7 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性なし
8 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性なし
にぶい黄橙色ブロック土を10%含む
9 10YR6/4 にぶい黄橙色土　しまりややあり　粘性なし
10 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性なし
11 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性なし
12 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性なし
近世以降の瓦の出土位置
土器・陶磁器の出土位置
接合線
293
292
289
287
遺物スケール
287・289：S=1/6
292・293：S=1/10
32.60m
9 10
11
12
1
2
5

図65　ＳＫ３実測図

がある。礫の中央には粘性のない土が堆積していたのみであり、礫や焼土、炭化物などは確認できなかった。

出土遺物はなく、本遺構の所属時期は不明である。また、遺構の性格も不明であるものの、ＳＫ22と同様に、地下式坑であるＳＫ41に近い場所に位置していることは留意すべきである。

ＳＫ39（遺構図：図66、遺物図：図80）

本遺構の上面に大きな竹の株があり、表土掘削時に重機で除去したために、土坑の南側が大きく窪んだ状態で検出した。

掘方は円形を呈し、底面はやや丸みを帯びており、壁面は緩やかに立ち上がる。遺構確認面から約30㎝下げた時点で、一辺約20㎝程度の円礫と角礫が多く出土した。礫の間には比較的残りのよい大窯丸皿が内面を上にして出土した。それらの礫を除去すると、礫の下位から陶磁器や土師器皿の破片が比較的多く出土した。さらに20㎝程度掘削すると土坑の底面がみえ、底面直上からもほぼ同規模の円礫や角礫が出土し、礫の間から大窯擂鉢が出土した。上面及び下面で検出した礫はいずれも面的に広がるものの、その配置に規則性はみられなかった。また、埋土５層において焼土ブロックをわずかに確認できたものの、壁面の被熱痕跡はなかった。

出土遺物は、土師器１点、須恵器２点、古代瓦１点、中世陶磁器25点、中世土師器42点、その他５点、合計76点であり、大窯丸皿（図80－307）、同端反皿（図80－308）、同天目茶碗（図80－312）、同擂鉢（図80－311・313）、土師器皿（図80－309・310）を掲載した。本遺構の所属時期は、大窯擂鉢や天目茶碗から16世紀後半頃と推定される。なお、本遺構は掘削時において中世の墓もしくは火葬跡の可能性を検討していたが、礫に配列がみられないこと、蔵骨器がないこと、埋土中に骨片がないこと、壁面や礫に被熱痕跡がないことなどから、それらの可能性は低いと考えた。

ＳＫ51（遺構図：図66）

本遺構は、検出時にⅣ層上面で黒色土の広がりを確認した遺構であり、大半が調査区外に位置する。掘方は方形を呈し、底面は平坦である。底面東側に小土坑（ＳＫ56）を検出したが、土層観察の結果、これはＳＫ51埋没後に掘削された遺構であることが判明した。また、底面において立ち上がりの強い大きな土坑を検出したものの、遺構の下端は調査区外に位置し、その規模や性格は不明である。

出土遺物は、中世陶磁器１点、中世土師器１点である。本遺構の所属時期は中世以降で、遺構の性格は不明である。

ＳＫ71（遺構図：図66、遺物図：図82）

本遺構付近のⅢ層掘削中に徳利の口縁部が見え始め、Ⅳ層上面にて土坑の掘方を確認した。掘方は円形であり、底面は緩やかに丸みを帯び、壁面は直線的に外側に開く。徳利は頸部付近まで埋没しており、口縁部の一部を除いて破損していない。遺構の埋土は２層に分層できたが、徳利に沿うような掘方は確認できなかったので、土坑の掘削後に徳利を正位で据え、その周囲に土を入れたと思われる。徳利の内部には砂がわずかに入っていたのみであり、表土やⅠ層などの上層の土は入り込んでいなかった。また、内部の砂に骨片や炭化物などは含まれていなかった。

出土遺物は、近世陶器１点のみあり、登窯徳利（図82－340）を掲載した。本遺構の所属時期は出土遺物の年代から17世紀末葉から18世紀初頭頃と推定され、遺構の性格は不明である。

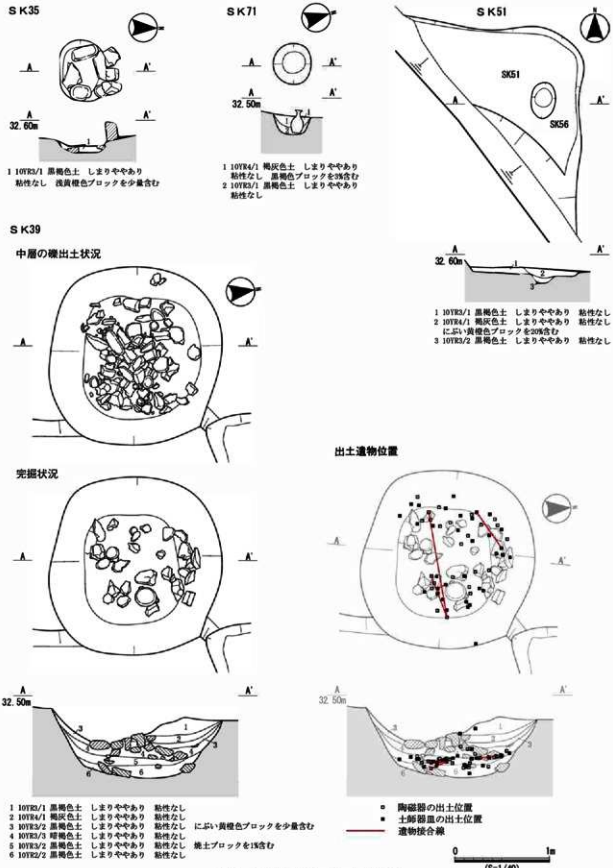


図66　S K35・39・51・71実測図

ＳＫ79（遺構図：図68、遺物図：図81）

Ⅳ層上面にて、黒色土の広がりを確認し、遺構と認定した。西側は比較的明瞭にプランを確定できたが、東側はやや不明瞭であり、北側はＳＺ１の盛土除去後に検出した。

掘方は不定形を呈し、底面は隅丸方形状である。底面に顕著な凹凸はなく、壁面は緩やかに立ち上がる。埋土は中央にむかって傾斜する自然堆積層であり、３～４層中に陶器などの遺物や円礫、角礫が出土した。一方、底面付近の出土遺物は少なかった。

出土遺物は、土師器２点、須恵器６点、古代瓦５点、中世陶磁器33点、土師器皿12点、合計58点であり、白瓷系陶器碗（図81－331・332）、大窯灯明皿（図81－333）、古瀬戸製品（図81－334等）、青磁碗（図81－336）、常滑甕（図81－339）を掲載した。本遺構の所属時期は、出土遺物の年代から15世紀中頃を中心とする時期と推定される。

ＳＫ95（遺構図：図68、遺物図：図82）

土坑の西側はⅣ層上面で黒色土の広がりを明瞭に確認したが、東側はＳＤ６と重複しており、そのプラン確定は困難であった。掘方は隅丸方形状であり、底面は平坦で壁面は斜めに立ち上がる。埋土は単層だが、中央付近にて一辺10～35cmの円礫や角礫がまとまって出土した。礫は概ね平坦面を上にしているものの、規則的な配置はみられない。

出土遺物は、土師器１点、中世陶磁器７点、土師器皿２点、合計10点であり、古瀬戸緑釉小皿（図82－341）、大窯内禿皿（図82－342）、同擂鉢（図82－344）、土師器皿（図82－343）を掲載した。本遺構の所属時期は、出土遺物の年代から16世紀後半頃と推定される。

ＳＫ215（遺構図：図67）

本遺構の掘方は楕円形状を呈し、底面はわずかに凹凸があり、壁面は緩やかに立ち上がる。南東側には一段の平坦面があり、南西側の底面では幾つかの小土坑を検出した。なお、本遺構周辺の遺構は直径20～30cmの小土坑が多く、その中で本遺構のみ規模が大きいことが特徴である。

出土遺物は、古代瓦１点、中近世陶磁器１点、中近世土師器８点、合計10点である。本遺構の所属時期は、出土遺物の年代から16世紀頃と推定される。

ＳＫ303・304（遺構図：図68）

ＳＫ303がＳＫ304に切られる。両遺構ともに掘方は隅丸方形状を呈し、底面はほぼ平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がる。埋土は基本的に水平堆積であり、ブロック土を多く含む点が特徴である。

ＳＫ303の出土遺物は、中近世陶磁器８点、中近世土師器５点、合計13点である。なお、ＳＫ304の出土遺物はない。本遺構は、埋土の状況から遺構掘削後に短期間で埋められた可能性があるものの、遺構の性格や時期は不明である。

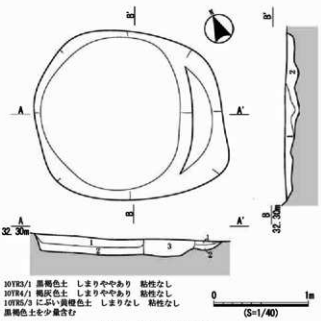


図67　ＳＫ215実測図

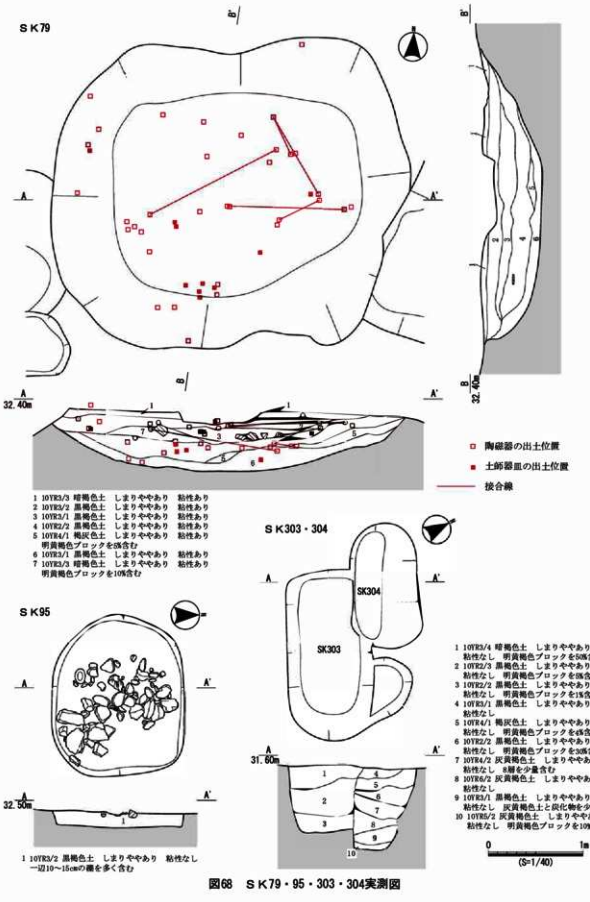


図68　ＳＫ79・95・303・304実測図

ＳＫ433（遺構図：図69、遺物図：図84）

本遺構は、ＳＤ11上で検出した。検出時には、幅約１㎝のしまりの良い黄橙色土が帯状に遺構周縁に巡っており、その内側に褐色土が広がっていた。遺構確認面より約10㎝下げると底面全体に黄褐色土が広がり、その上面には直径約５㎝の黒褐色土が小ピット状に幾つか確認できた。これらはいずれも浅く、完掘時には底面の凹凸が顕著であった。

遺構の掘方は方形を呈し、底面周縁は緩やかに立ち上がる。遺構の壁面を覆う厚さ約１～５㎝の黄橙色土は、人為的な整地土と思われる。

出土遺物は、須恵器１点、中近世陶磁器17点、中近世土師器３点、近世以降の瓦２点、合計23点であり、大窯丸皿（図84－377）、同灯明皿（図84－376）、登窯端反碗（図84－375）、土錘（図84－378）を掲載した。本遺構の所属時期は、登窯製品の年代から17世紀前半以降と推定される。遺構の性格は不明であるものの、遺構の底面を整地している点が特徴的である。

ＳＫ513（遺構図：図69）

本遺構はＳＤ11上で検出した石組遺構であり、東側は調査区外まで延びている。石組みは、円礫と角礫の長手面を内面に向けて４～５段積んでおり、石組みの内法は最上段で0.96m、最下段で0.64mである。石組み内の埋土は人為的な埋め戻しの痕跡はみられなかったが、12～14層は遺構の再掘削の痕跡である可能性が高い。なお、底面では厚さ約５㎜の酸化鉄集積層を確認した。掘方は方形を呈し、掘方埋戻し土はしまりがなく、ブロック土を含む。また、石組みの裏込めとして使用する礫はみられなかった。

出土遺物は、須恵器１点、古代瓦１点、中近世陶磁器５点、近世以降の瓦１点、合計８点であり、本遺構の所属時期は、瓦の年代から19世紀以降と推定される。遺構の性格は、近代の井戸が本遺構に隣接して存在していることから、ＳＫ３と同様に、近世から近代にかけて使用された「タマヤ」のような性格と思われる。

ＳＵ２（遺構図：図69、遺物図：図87・88）

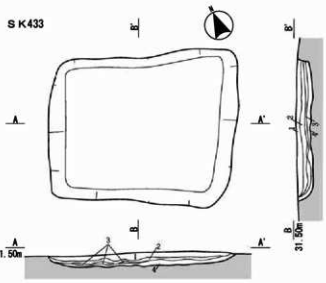
ＳＫ513の掘方北側に接する位置で検出した遺物集積であり、磁器片や瓦片などが礫とともに出土した。遺構の掘り込みは確認できず、遺物の天地も様々であった。なお、遺物周辺に炭化物集積などの特異な状況はみられなかった。

出土遺物は、中近世陶磁器10点、石製品１点、合計11点であり、登窯製品（図87－439）、瓦質土器鍋（図88－444）、砥石（図88－445）を掲載した。本遺構の所属時期は、出土遺物の年代から19世紀以降と推定される。遺構の性格は不明であるものの、出土した位置から、ＳＫ513との関係が指摘できる。

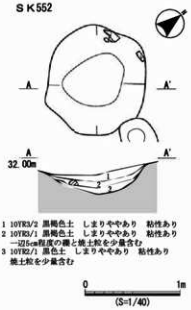
ＳＫ552（遺構図：図69、遺物図：図84）

本遺構はＳＶ１の盛土除去後に、Ⅳ層上面において確認できた遺構であり、ＳＫ518を切る。掘方は円形状を呈し、底面は丸みを帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。埋土は流入土の傾斜から判断して自然堆積と思われ、焼土粒と礫を含むことが特徴である。

出土遺物は、土師器１点、近世陶器２点、合計３点であり、登窯折縁鉄絵皿（図84－379）を掲載した。本遺構の所属時期は、出土遺物の年代から17世紀前半頃と推定される。なお、遺構の性格は不明である。

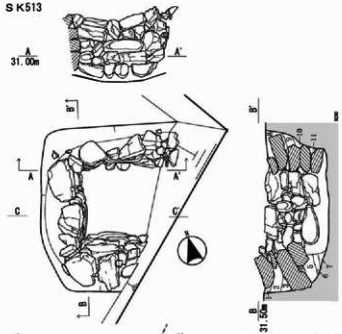


1 7.5YR4/3 褐色土　しまりなし　粘性なし
2 7.5YR3/2 黒褐色土　しまりなし　粘性なし
3 10YR5/4 にぶい黄褐色土　しまりあり　粘性なし
4 7.5YR7/8 黄橙色土　しまりあり　粘性なし



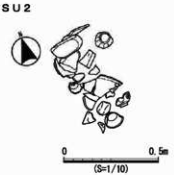
1 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
2 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
　—IZ5cm程度の礫と焼土粒を少量含む
3 10YR2/1 黒色土　しまりややあり　粘性あり
　焼土粒を少量含む

0　1m
(S=1/40)



1 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
2 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを1%含む
3 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
4 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
5 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
6 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを20%含む
7 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを10%含む
8 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
9 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
10 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを5%含む
11 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを20%含む
12 10YR2/1 黒褐色土　しまりなし　粘性なし
13 10YR2/1 黒褐色土　しまりなし　粘性なし　黄橙色ブロックを5%含む
14 10YR4/1 褐色土　しまりなし　粘性なし　全体に鉄分がまばらに含む
15 10YR2/2 黒褐色土　しまりなし　粘性なし
16 10YR5/2 灰黄褐色土　しまりなし　粘性なし
17 10YR3/1 黒褐色土　しまりなし　粘性なし（腐植土）
18 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
19 10YR4/2 灰黄褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを3%含む
20 10YR6/3 にぶい黄橙色土　しまりやや あり　粘性あり　黒褐色土を少量含む

0　1m
(S=1/40)



0　0.5m
(S=1/10)

図69　SK433・513・552、SU2実測図

ＳＫ467（遺構図：図70、遺物図：図83）

本遺構では、重機による表土掘削時に陶器片が出土し、人力にて少し掘り下げると陶器片がまとまっていたため、重機掘削を中止した。遺構の検出は、Ⅱ層上面にて遺構のプランを確認できたものの、遺構の中央付近に竹の株や根が広がっており、遺構が掘り込まれるⅡ層の土と遺構埋土が類似するため、検出は極めて困難であった。

掘方は楕円形を呈し、底面は中央付近が最も低く、壁面は緩やかに立ち上がる。遺構の南側半分はすでに掘削してしまっており、そのプランは不明である。埋土は上下２層に分層し、いずれもしまりのない土で円礫を少量含んでいる。

遺物は、１層中において常滑甕の体部及び口縁部破片が外面を上にしてまとまって出土し、わずかに瓦片も出土した。また、２層中において甕の底部破片が底部外面を上にして出土し、その周囲から拳大の円礫が数個出土した。甕の底部破片を除去すると、その内部からさらに細かい甕の破片が出土した。しかし、骨片や炭化物などは確認できなかった。

出土遺物は、須恵器１点、中近世陶磁器９点、近世以降の瓦22点、金属製品３点、合計35点であり、常滑甕（図83－369）、刀子（図83－370）を掲載した。本遺構の所属時期は、常滑甕の年代から19世紀後半以降と推定される。なお、本遺構内に常滑甕が据えられていたか否かは判断できなかった。

ＳＫ518（遺構図：図70、遺物図：図85）

本遺構はＳＶ１の盛土除去後に、Ⅳ層上面において確認できた遺構であり、Ⅳ層と遺構埋土の境は漸移的であった。南東側をＳＫ552に切られ、北西側の約半分は調査区外に位置する。

掘方は円形状を呈し、壁面は緩やかな階段状となっている。埋土は基本的に外部からの流入土であるものの、中央下方にある明黄褐色土ブロックを多数含む６層のみ、人為的に掘り返した可能性がある。

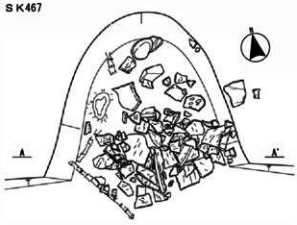
遺物は、３・４層中から礫や砥石、土器などが出土した。礫の大半は横位であったが、一辺約30㎝の大きな角礫は縦位であった。また、砥石も縦位で出土している。礫を除去すると、５層上面付近から土師器皿が４～５枚まとまって出土した。完形品に近いものや、完形品が割れて潰れたものがあり、一括廃棄の可能性が高い。なお、その付近に焼土や炭化物集積などはみられなかった。

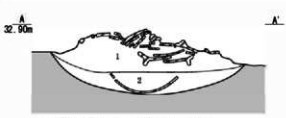
出土遺物は、土師器５点、須恵器１点、中世陶磁器24点、中世土師器47点、石製品１点、合計78点であり、古瀬戸製品（図85－398等）、土師器皿（図85－381等）、白瓷系陶器碗（図85－394等）、砥石（図85－401）等を掲載した。本遺構の所属時期は、古瀬戸製品の年代から15世紀後半頃と推定される。なお、遺構の性格は不明である。

ＳＫ555（遺構図：図70、遺物図：図84）

ＳＶ２掘削中に大きな土器片が出土し、その周辺を精査すると近世常滑甕の破片がまとまって出土した。土器を図化し、上面の土器を除去すると、その直下で白色粘土が帯状、又はブロック状に堆積している状況を確認した（図70－２層）。白色粘土はとても硬く、一部土器がめり込んでいた。なお、甕の底部片は白色粘土の上面にて、内面を上にして出土した。

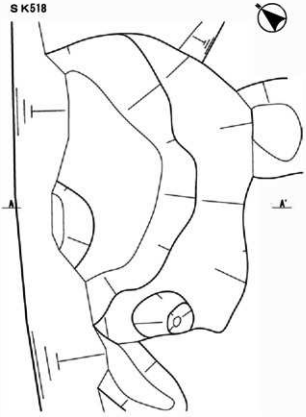
出土遺物は、須恵器１点、近世陶器１点、中近世土師器４点、合計６点であり、常滑甕（図84－380）を掲載した。本遺構の所属時期は、出土遺物の17世紀末から18世紀前半以降と推定される。なお、本遺構内に常滑甕が据えられていたか否かは判断できなかった。

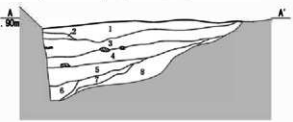




1 10YR5/3 にぶい黄褐色土　しまりなし　粘性なし
　径5～30mmの円礫を少量含む
2 10YR3/3 暗褐色土　しまりなし　粘性なし
　径5～20mmの円礫を少量含む

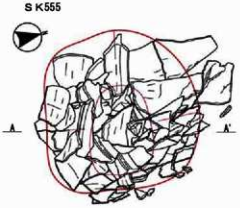
0　0.5m
(S=1/20)





1 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
2 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを10%含む
3 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
4 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり
5 10YR2/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり
6 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを50%含む
7 10YR3/3 暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを5%含む
8 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　明黄褐色ブロックを1%含む

0　1m
(S=1/40)



1 10YR4/1 褐灰色土　しまりややあり　粘性あり
2 10YR7/2 にぶい黄橙色土　しまりあり　粘性あり
3 10YR3/2 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり　にぶい黄橙色ブロックを5%含む
4 10YR3/1 黒褐色土　しまりややあり　粘性あり

0　0.5m
(S=1/20)

図70　S K467・518・555実測図

7　出土遺物

(1) 遺構内出土遺物

ＳＨ１・４（図71）

168は白磁皿であり、底部内面周縁の釉が円形に拭い取られている。171は登窯反皿である。底部外面に煤が付着しており、底部内面中央が緩やかに凹む。

ＳＤ８（図71～74）

183・185は土師器皿である。183は外面の一部が長さ９㎜、幅５㎜の大きさで長方形状に凹み、185は口縁部の一部が内側に折り返されている。186は美濃須衛四耳壺であり、内面と耳部に漆と思われる黒色有機物が付着している。187は大窯擂鉢である。口縁端部まで擂目が施され、口縁部と体部の境には横方向の擂目がみられる。198は瓦質で器種は不明である。平面形は「凸」字形で、上面に断面Ｕ字形の溝が２箇所に施されている。202は常滑火鉢である。体部外面下方に板状工具によるナデ上げ痕が残り、その一単位ごとの境は沈線状に凹む。205は登窯練鉢である。高台接地面に押印が認められるものの、その文字は解読できなかった。211は軒丸瓦であり、凸面が部分的に平滑となっている。219・220は直径がほぼ同じ大きさに復元できることから、上臼と下臼のセットと推定される。

ＳＤ10（図75）

223は軒桟瓦であり、瓦当部の中心文様は菊文で、左右の唐草文は短い。なお、今回出土した近世以降の軒桟瓦の瓦当部の文様は、すべて菊文と唐草文の組み合わせである。231は青磁碗である。底部外面に花文が印刻され、加工円盤に転用されている。なお、剥離面に摩滅は認められない。

ＳＤ11（図76）

238は大窯灯明皿であり、口縁部内面に煤が付着している。243は火打金であり、中央付近に直径３㎜の穿孔がある。244は古瀬戸擂鉢であり、口縁端部の全周が摩滅し、部分的に打ち欠かれている。

ＳＶ１（図76～78）

247は肥前丸碗としたが、中国製の磁器碗かもしれない。底部外面中央が突出し、高台接地面は平坦である。258・259・261はいずれも丸碗を加工円盤に転用しており、剥離面に摩滅は認められない。263・264は登窯壺である。胎土や復元径が同じであることから同一個体である可能性が高い。278は棟止瓦と思われる。裏面は平坦で、表面にはノミ状工具と棒状工具により格子文や列点文、弧文などの文様が描かれている。279・280は不明とした。平面形は長方形、断面形は緩やかな弧状を呈する。いずれも表面下方に平坦面を有し、そこに縦方向と横方向の無数の擦痕が認められる。

ＳＫ３（図79）

286は登窯徳利であり、底部中央付近に表裏面から打ち欠いた直径11㎜の穿孔を有する。植木鉢として転用されたと思われ、内面に褐色を呈する有機物が付着している。289は登窯片口である。口縁部の一箇所に樋状の片口を有し、口縁部内面に一条の突帯が巡る。

ＳＫ13（図80）

299は白磁皿である。高台に抉り込みはなく、高台内に花押と思われる墨書が描かれている。

ＳＫ57（図80）

321は白瓷系陶器片口鉢である。体部外面下方は斜め方向のヘラケズリ後に、横方向のヘラケズリが施される。口縁部は外反気味で、端部は大きく凹む。

ＳＫ77（図80）

314は白瓷系陶器碗である。底部内面が摩滅しており、わずかに朱が付着している。

ＳＫ79（図81）

336は青磁碗であり、口縁部外面に片切彫りにより雷文帯が描かれている。337・338は古瀬戸擂鉢である。体部外面下方には、337が紐状圧痕、338が４箇所の指圧痕と１本の紐状圧痕が認められる。

ＳＫ283（図82）

347は登窯菊皿である。口縁端部はヘラ状工具で花弁を表現し、体部外面の縦線もヘラ状工具によるものと思われる。351は白瓷系陶器片口鉢であり、口縁部上面には緩やかな段を有する。

ＳＫ467（図83）

369は常滑甕である。底部は上げ底で、体部は内彎気味に立ち上がる。体部内面上方には、あばた状の凹みが帯状に巡り、胎土中に長さ10～15㎜、直径約４㎜の円柱状の物質を多く含む。

ＳＫ518（図85）

387は古瀬戸袴腰形香炉である。頸部はほぼ直立し、口縁部は短く外折する。口縁部内外面に鉄釉が漬け掛けされている。397は土師器鉢とした。器壁は厚く、口縁部は直立し、表面には指圧痕が多く残る。401は砥石である。砥面は４面で、表裏面には幅約５㎜の断面Ｖ字形の溝が残る。

ＳＫ540（図86・87）

424は大窯建水である。体部は直立し、口縁部は外折する。体部内面に褐色を呈する有機物がほぼ全面に付着している。427は古瀬戸擂鉢であり、体部外面下方に指圧痕がほぼ等間隔で認められる。

ＳＫ555（図84）

380は常滑甕である。口径56.8㎝、最大径76.6㎝、器高83.6㎝を測る大甕であり、６段以上の粘土紐積み上げ痕跡が認められる。体部内面には右上がりの指圧列痕が顕著に残り、指圧列痕の間には左上がりのナデ調整が施されている。体部外面の色調は、底部から約31㎝上までにぶい橙色、それより上では浅黄橙色を呈する（図では、その境を二点破線で表記した）。また、体部外面上方に、およそ４本を一組とする引っ掻き傷が認められる。これらは口縁部外面や底部内面にもわずかに観察でき、ネズミの爪跡の可能性がある（岐阜県博物館千藤克彦氏、説田健一氏の御教示による）。

(2) 遺物包含層出土遺物（図88～94）

446・447は土師器皿である。446は体部内面と口縁部の一箇所に、447は口縁部の一箇所に、それぞれタール及び煤が付着している。453は大窯灯明皿である。体部内面はコテナデによる稜が明瞭に残り、煤が部分的に付着している。469は青磁稜花皿である。口縁端部はヘラ状工具で花弁を表現し、口縁部内面に三条の波状文が描かれている。474は常滑甕であり、四角の枠内に漢字が記された押印がみられる。483は大窯鼠志野向付である。平面形は入隅四方形を呈し、釉薬は文様部分が長石釉、その他が鼠志野である。511・514は瓦質土器火鉢である。511の平面形は体部が六角形、口縁部が円形を呈し、口縁端部の摩滅が顕著である。514は口縁端部が面取りされ、体部内外面に横ミガキが施されている。518～521は土鈴である。いずれも穿孔方向に直交する切り欠きがあり、内部に直径約８㎜の土玉が認められる。534～540は砥石である。538は断面撥形を呈し、下面に生産地における成形痕が残る。539は頂部が三角形状で、砥面が大きく凹む。554は器種不明とした。中央に長方形孔があり、周縁は緩やかに内彎し、多数の沈線が描かれている。

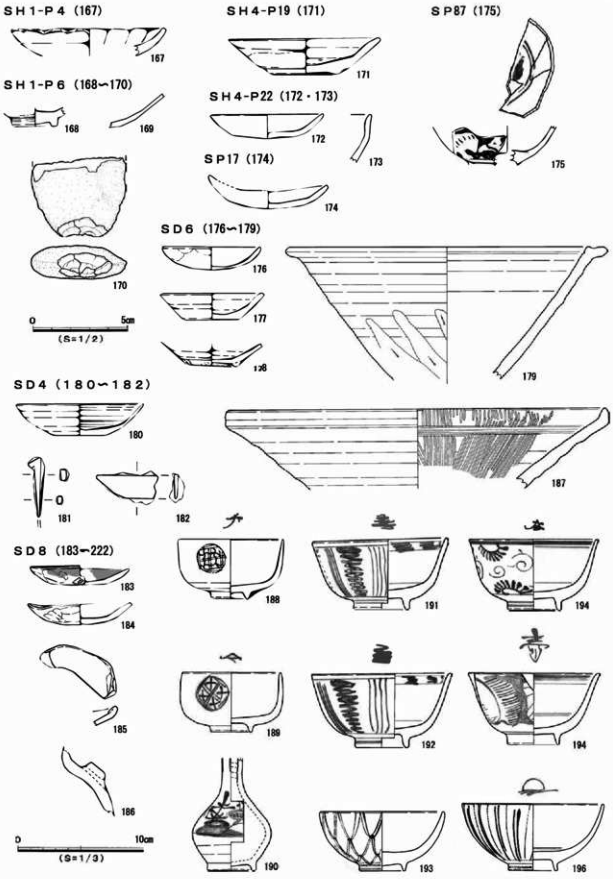


図71 出土遺物実測図 (19)

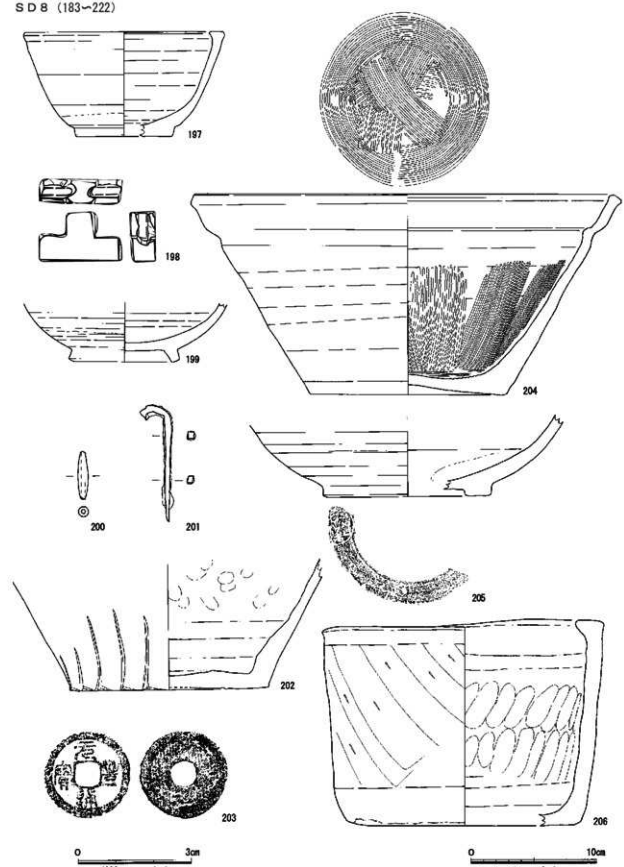


図72　出土遺物実測図（20）

SD8（183~222）

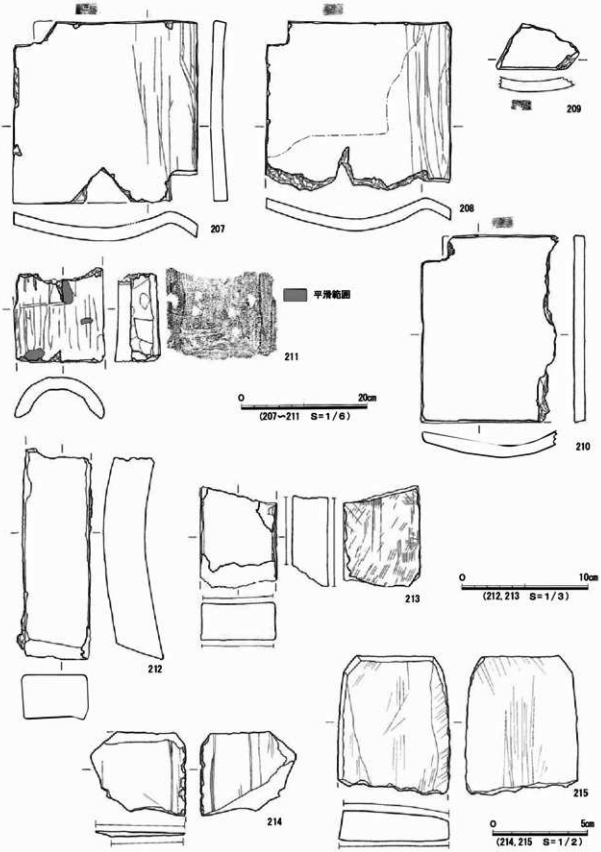


図73　出土遺物実測図（21）

SD8（183～222）

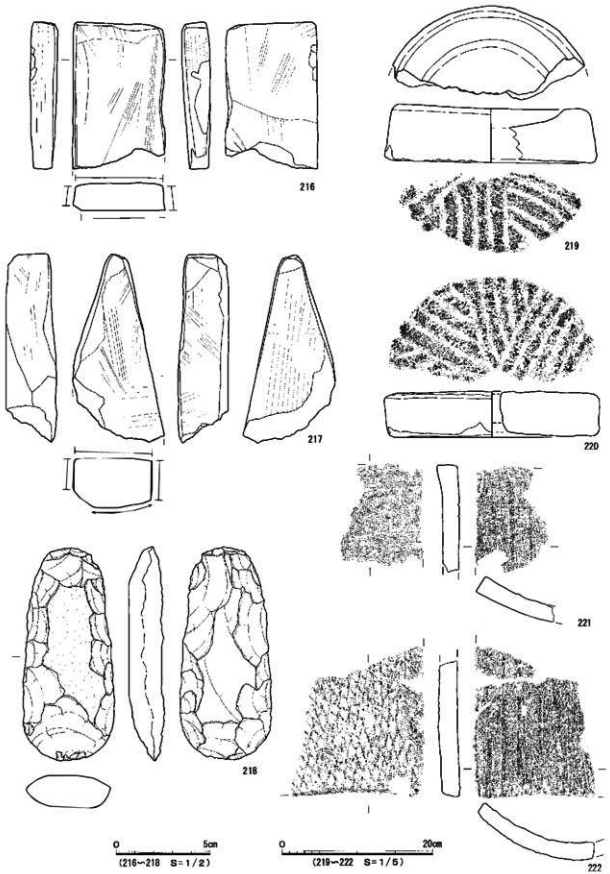


図74　出土遺物実測図（22）

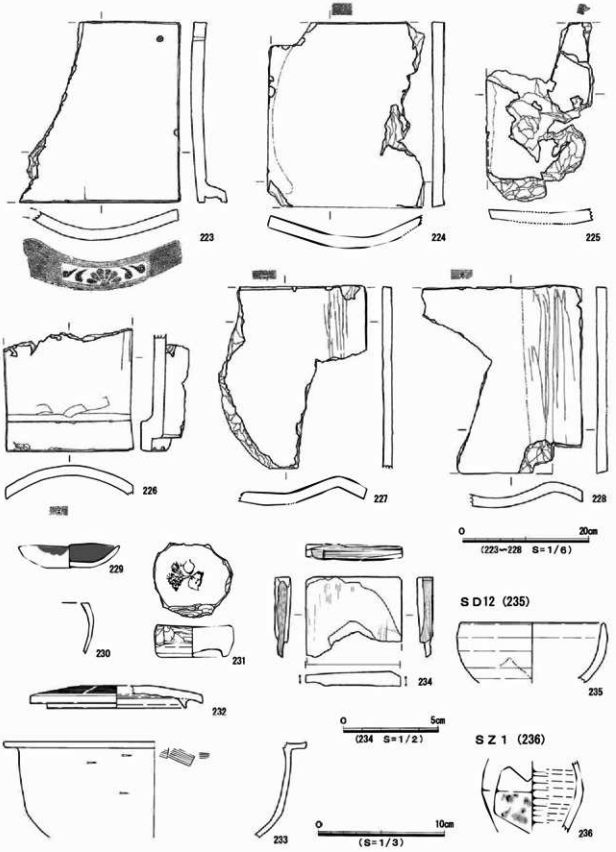


図75　出土遺物実測図 (23)

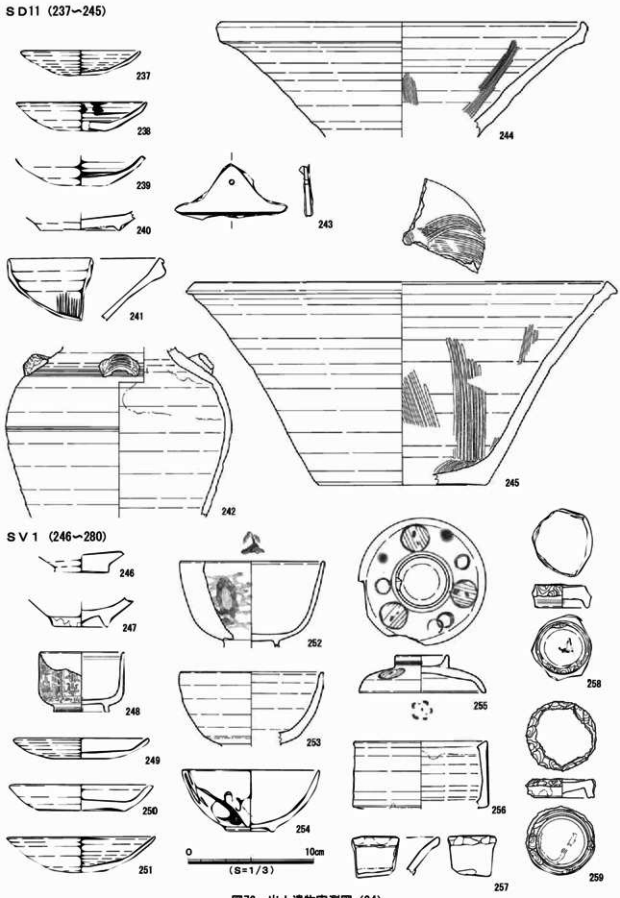


図76　出土遺物実測図（24）

SV1（246～280）

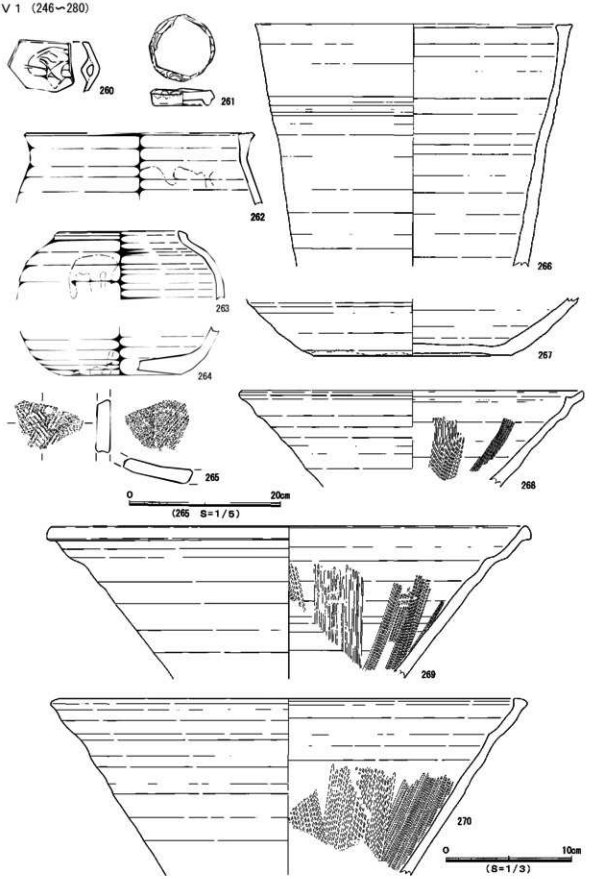


図77　出土遺物実測図（25）

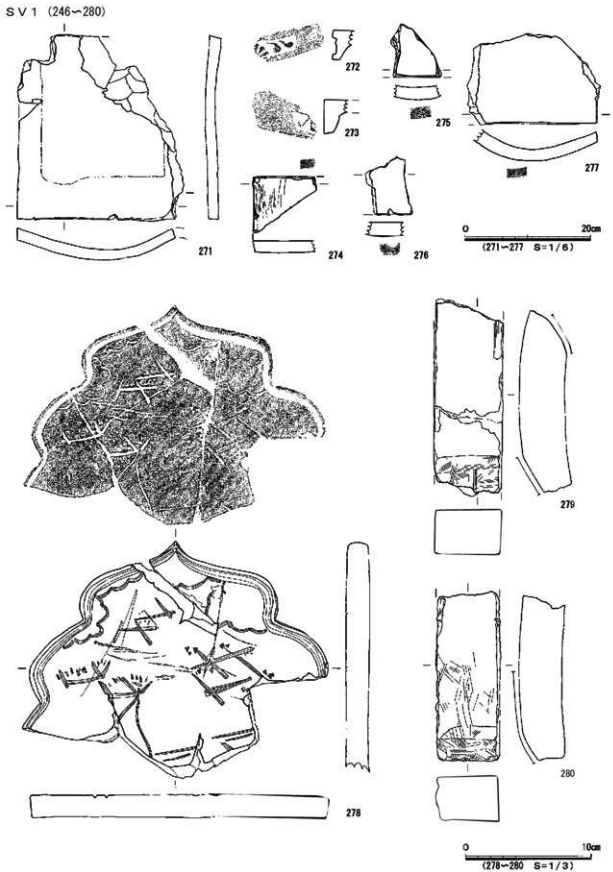


図78　出土遺物実測図（26）

SK3（281～296）

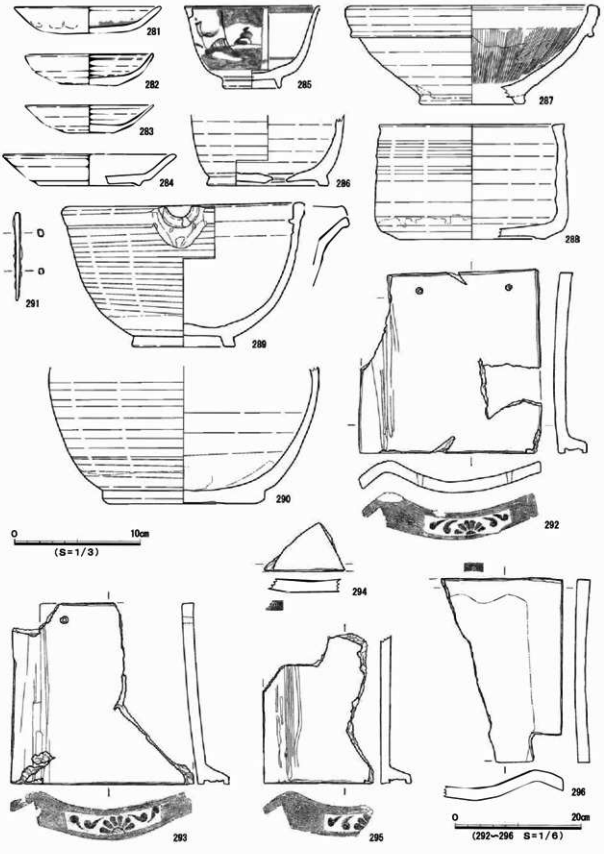


図79　出土遺物実測図（27）

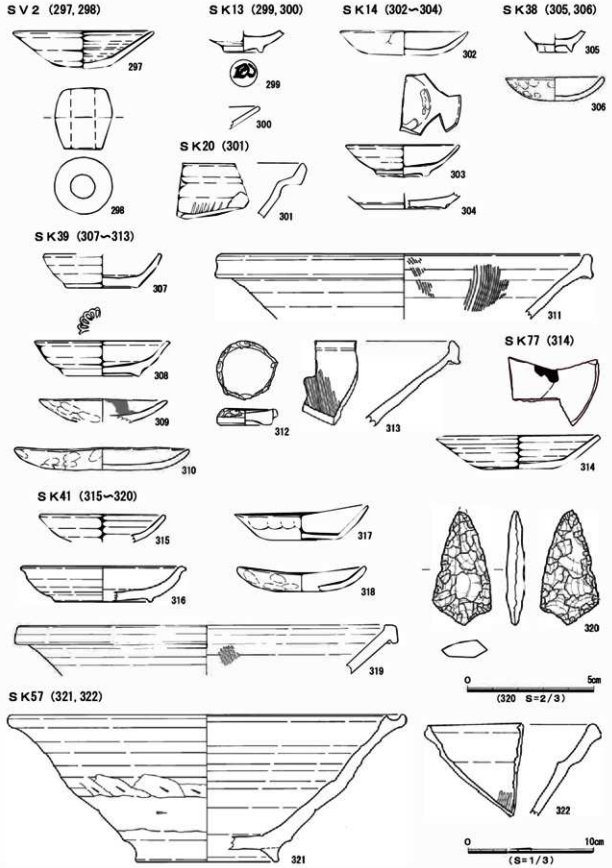


図80　出土遺物実測図 (28)

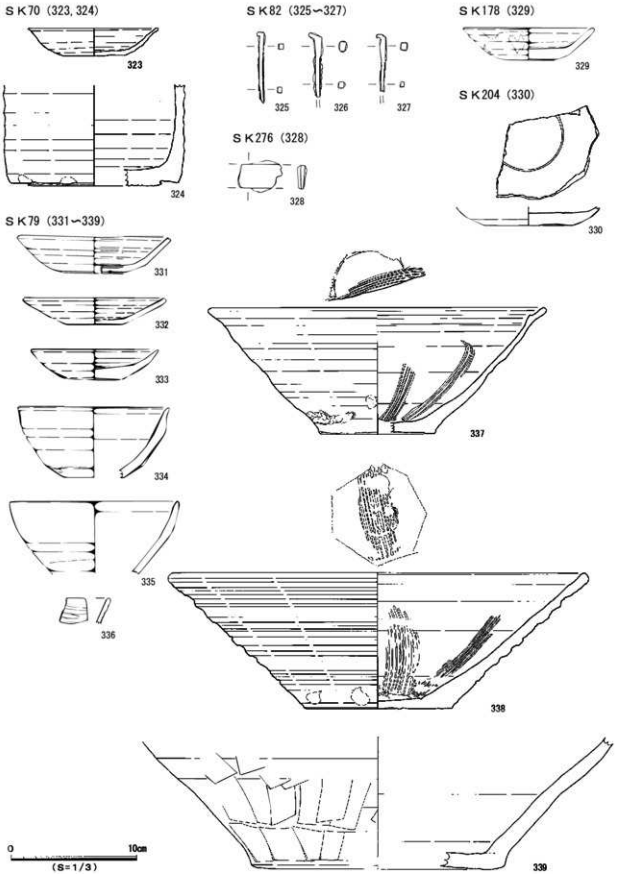


図81　出土遺物実測図（29）

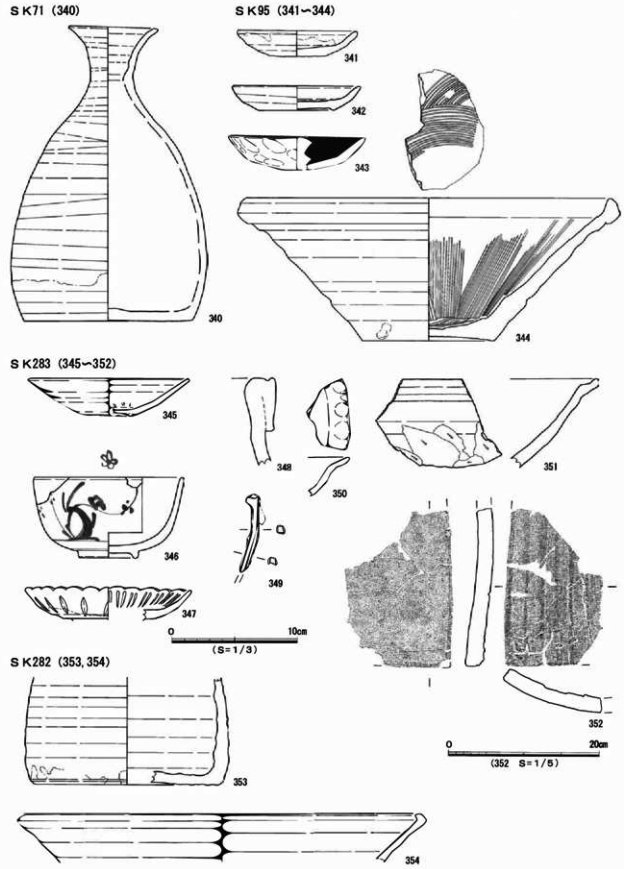


図82　出土遺物実測図（30）

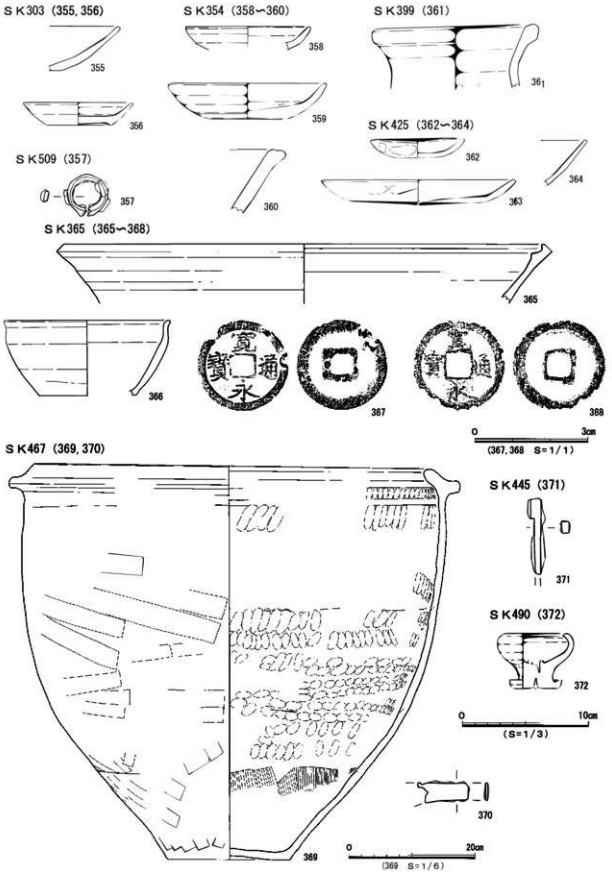


図83　出土遺物実測図（31）

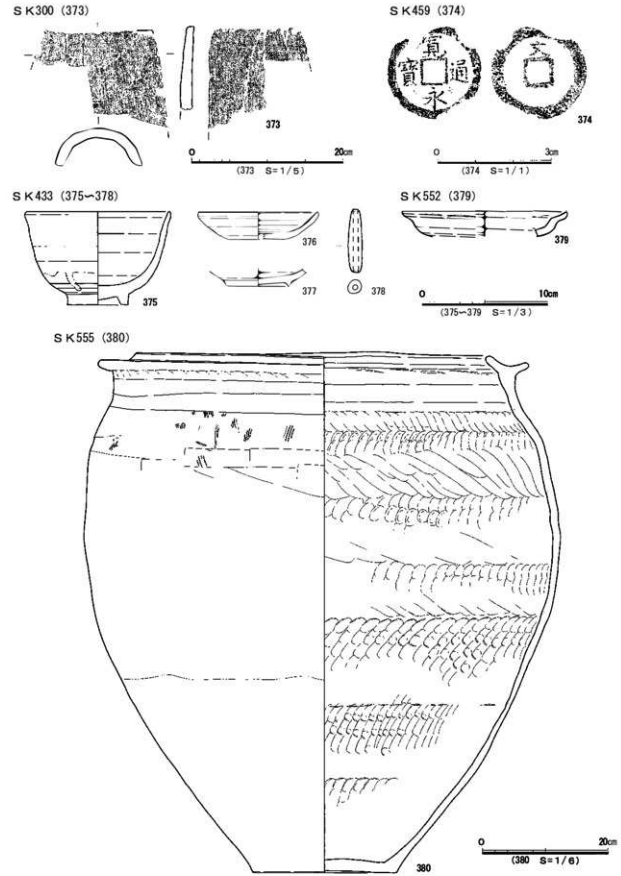


図84　出土遺物実測図（32）

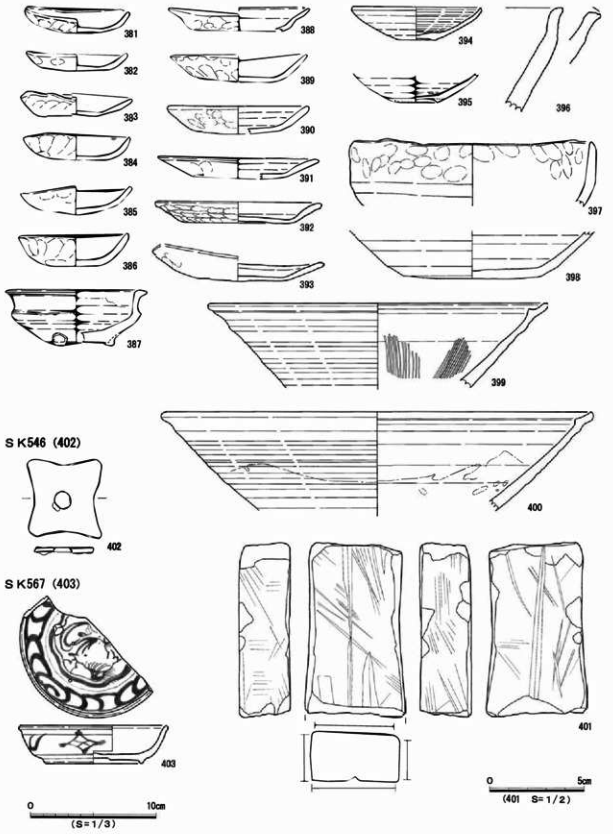


図85　出土遺物実測図（33）

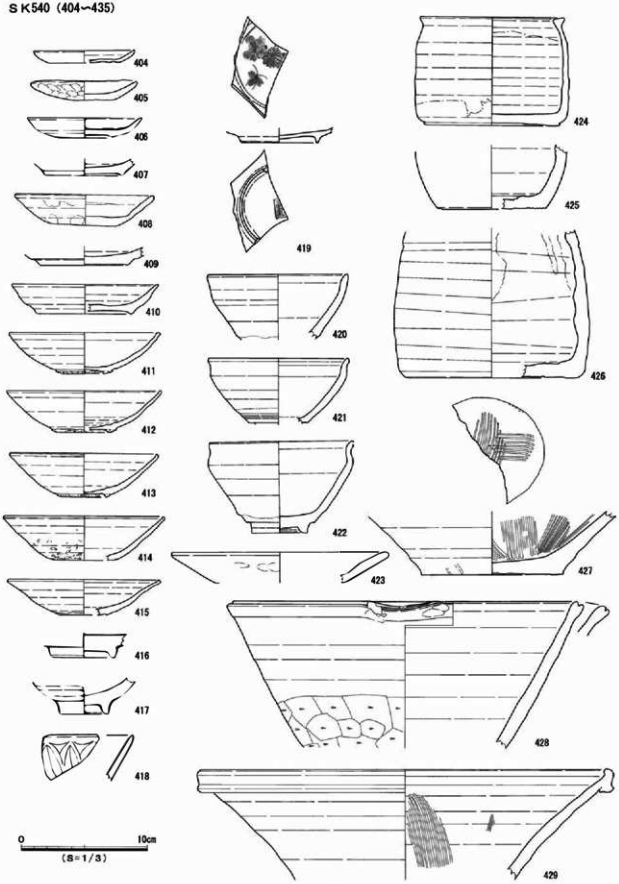


図86　出土遺物実測図（34）

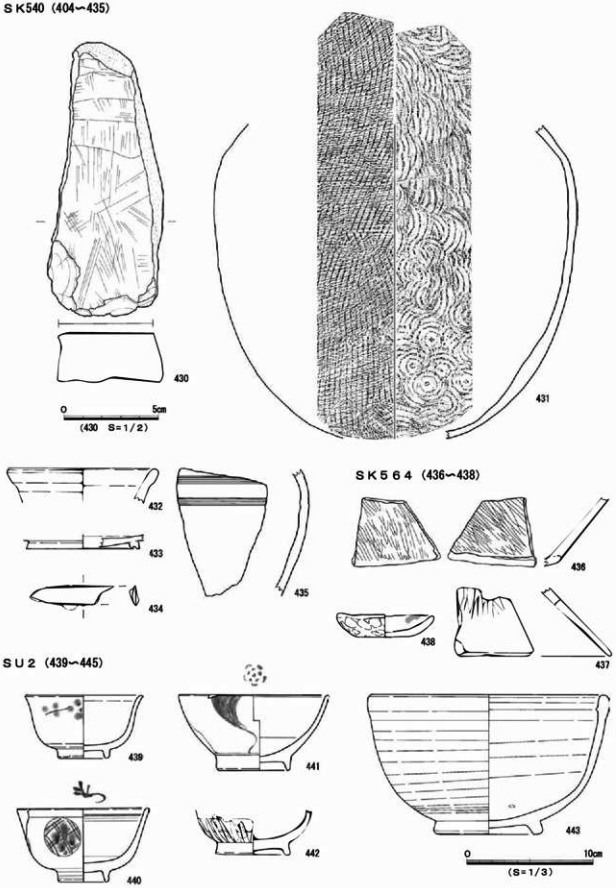


図87　出土遺物実測図（35）

SU2（439～445）

遺物包含層（446～554）

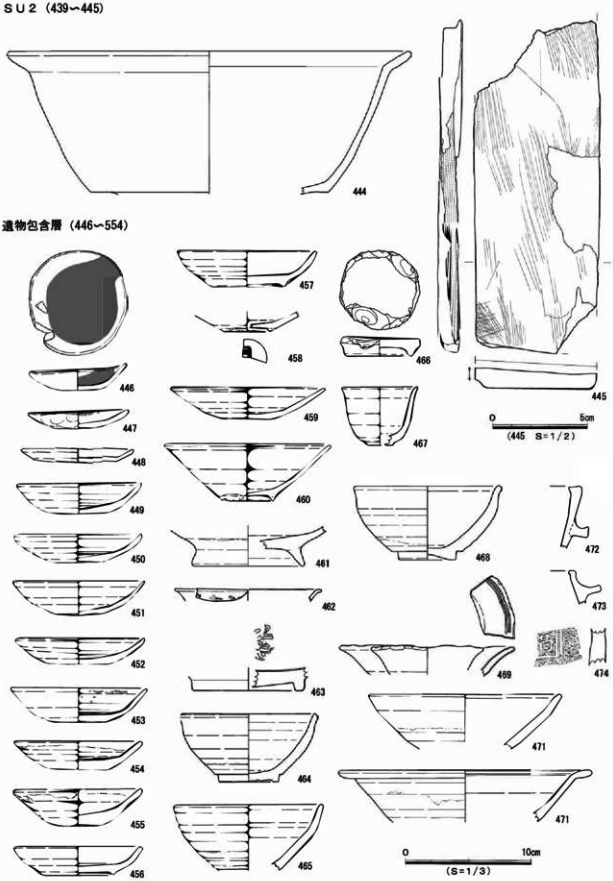


図88　出土遺物実測図（36）

遺物包含層（446～554）

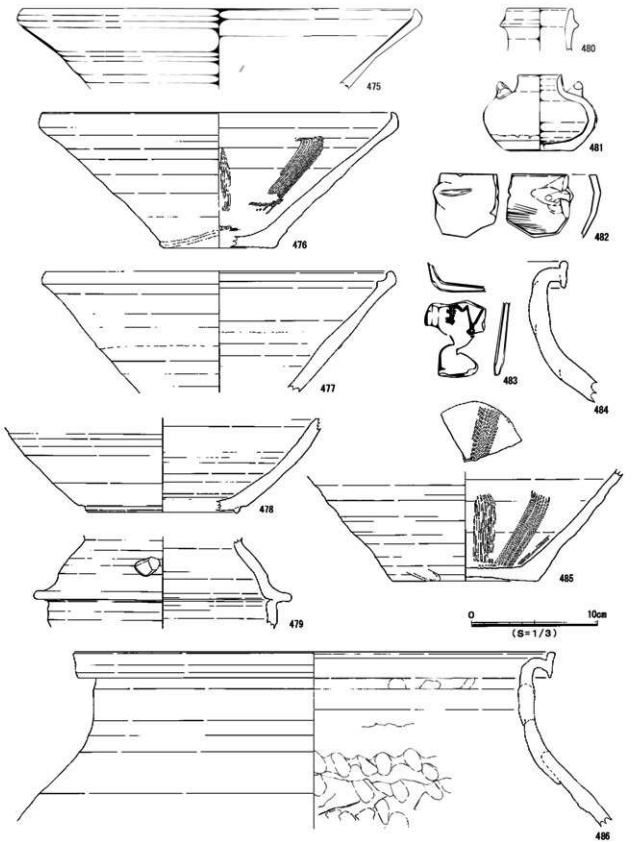


図89　出土遺物実測図（37）

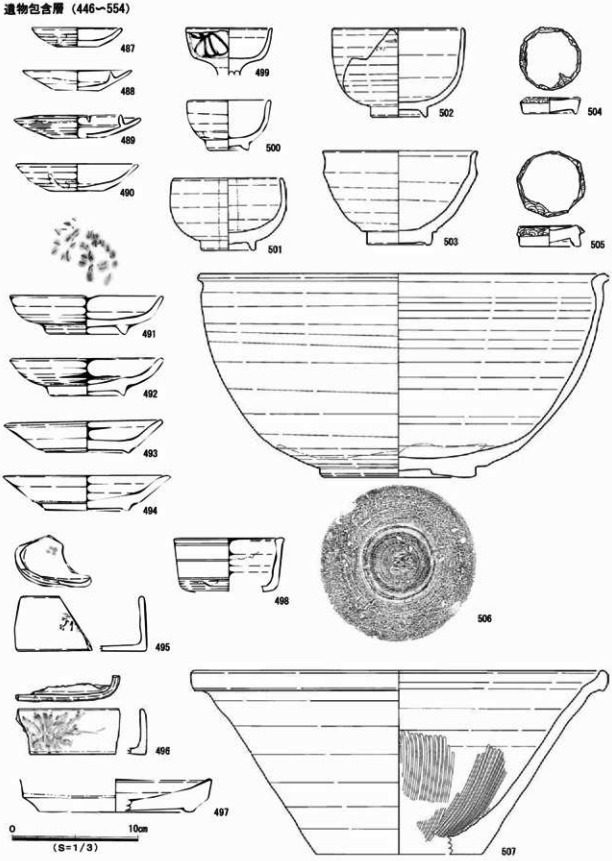


図90　出土遺物実測図（38）

遺物包含層（446～554）

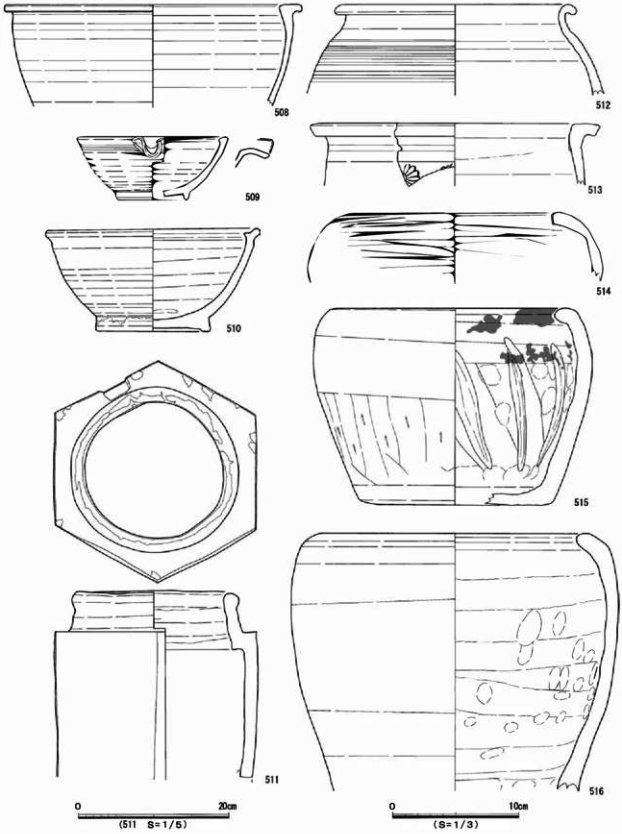


図91　出土遺物実測図（39）

遺物包含層（446～554）

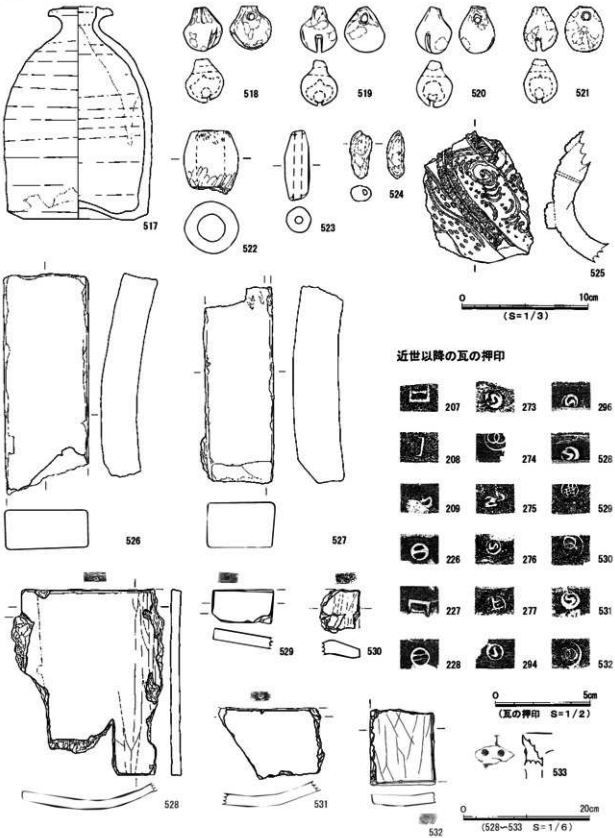


図92　出土遺物実測図（40）

遺物包含層（446～554）

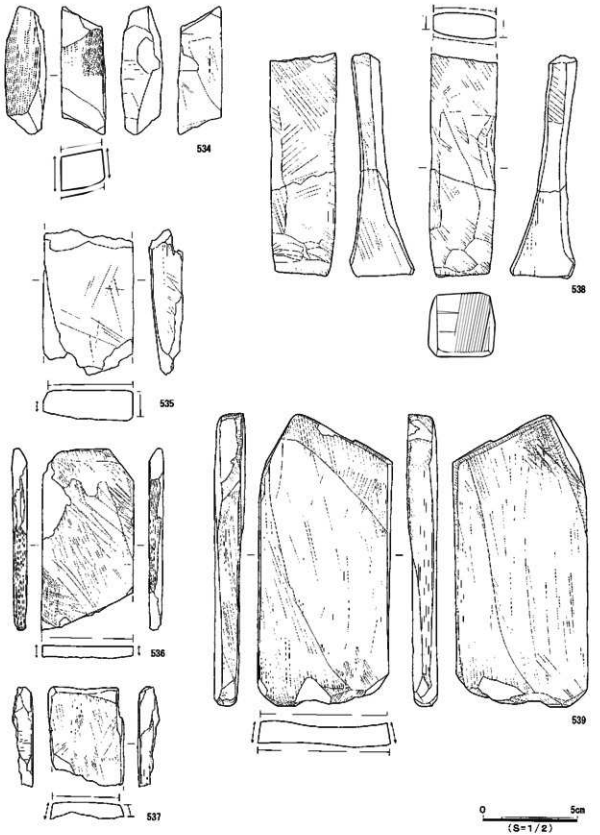


図93　出土遺物実測図（41）

遺物包含層（446～554）

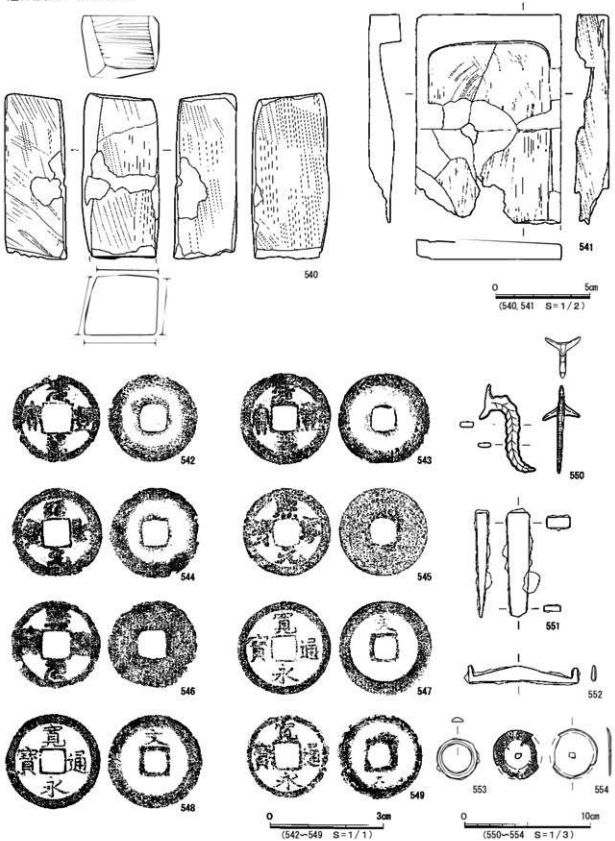


図94　出土遺物実測図（42）

表8　遺構観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ	計番号
P1(SH1)	G1i13	V上	1	b3	ア	-	-	0.46	0.10	0.35	0.10	0.54	N501
P2(SH1)	G1i13	V上	1	c	ア	-	-	0.25	0.10	0.22	0.09	0.31	N268
P3(SH1)	G1i14	V上	1	a	エ	-	-	0.34	0.10	0.23	0.12	0.27	N227
P4(SH1)	G1i14	V上	3	b3	カ	-	>P11(SH2)	0.84	0.18	0.39	0.15	0.39	N569
P5(SH1)	G-H1i-ai4	V上	1	c	ア	-	-	0.28	0.12	0.24	0.12	0.43	N240
P6(SH1)	H1a14	V上	1	b3	ア	-	-	0.96	0.16	0.38	0.16	0.31	N635
P7(SH1)	H1a13	V上	1	b3	ア	-	>SK424	0.45	0.16	0.44	0.15	0.53	N496
P8(SH2)	G1i13	V上	1	b2	ア	-	-	0.25	0.08	0.25	0.08	0.23	N259
P9(SH2)	G1s-i13	V上	3	d	ア	-	-	0.77	0.20	0.42	0.21	0.60	N272
P10(SH2)	G1i14	V上	1	b3	ア	-	>SK448	0.31	0.16	0.22	0.13	0.23	N225
P11(SH2)	G1i14	V上	1	a	ア	<P4(SH1)	-	(0.40)	0.22	(0.35)	0.14	0.52	N570
P12(SH2)	H1a14	V上	1	c	カ	-	-	0.30	0.13	0.28	0.10	0.37	N525
P13(SH2)	G1i13	V上	1	b2	ウ	-	>SK393	0.57	0.11	0.45	0.14	0.44	N282
P24(SH3)	G1s-i13	V上	1	c	カ	-	>SK350	1.00	0.51	0.77	0.60	0.61	N271
P15(SH3)	G1i14	V上	1	c	カ	-	>SK354/453/461,P18(SH4)	1.11	0.23	1.01	0.18	0.82	N233
P16(SH3, 4)	G-H1i-ai3	V上	3	c	エ	-	-	0.82	0.21	0.42	0.21	0.47	N499
P17(SH4)	G1i12	V上	1	c	ア	<SK298	-	0.52	0.26	0.46	0.20	0.59	N514
P18(SH4)	G1i14	V上	1	b3	カ	<P15(SH3),SK466	-	(0.52)	(0.20)	0.52	0.15	0.80	N543
P19(SH4)	G1i13	V上	1	d	エ	-	-	(0.75)	0.35	0.70	0.32	0.75	N550
P20(SH4)	G1i12-13	V上	1	c	カ	-	-	0.48	0.22	0.40	0.18	0.28	N538
P21(SH4)	G1i14-15	V上	3	b4	カ	-	>SK516	(1.46)	0.52	0.95	0.41	0.81	N529
P22(SH4)	H1a14	V上	1	b4	キ	-	>SK491/492, SP84	(1.50)	(1.39)	(0.92)	(0.56)	0.63	N385
SB1	H1d-e09-10	IV上	2	b1	イ	-	>SB2, SK388	(3.70)	(3.64)	4.10	3.82	0.10	N472
SB1-SD1	H1e09	IV上	-	a	ウ	-	>SK191	(3.15)	(3.01)	0.50	0.25	0.06	N755
SB1-SD2	H1d-e09-10	IV上	-	a	ウ	-	-	2.45	2.21	0.18	0.10	0.04	N787
SB1-SD3	H1d09	IV上	-	a	ウ	-	-	1.32	1.22	0.24	0.12	0.12	N738
SB1-SF1	H1d09	IV上	3	b3	キ	-	-	0.97	0.22	0.88	0.24	0.22	N733
SB1-SK1	H1d09	IV上	1	b2	ア	<SK177	-	0.22	0.11	0.18	0.08	0.09	N874
SB1-SK2	H1d09	IV上	1	a	ア	-	-	0.53	0.26	0.49	0.22	0.08	N871
SB1-SK3	H1d09	IV上	1	a	ア	-	-	0.24	0.16	0.24	0.15	0.03	N764
SB1-SK4	H1d09	IV上	1	a	キ	-	-	0.40	0.30	0.40	0.28	0.03	N575
SB1-SK5	H1d09	IV上	1	b2	ア	-	-	0.28	0.22	0.27	0.19	0.09	N573
SB1-SK6	H1e09	IV上	1	b2	ア	-	-	0.29	0.22	0.29	0.09	0.30	N732
SB1-SK7	H1e09	IV上	1	a	ア	-	-	0.38	0.25	0.32	0.18	0.10	N772
SB2	H1d-e10	IV上	2	b1	イ	<SB1	-	(4.30)	(4.16)	(1.43)	(1.26)	0.10	N766
SB2-SD1	H1d-e09-10	IV上	-	a	ア	<SK189	>SK190	-	(4.80)	0.44	0.24	0.09	N769
SB3	G1i10	IV上	2	a	イ	<SK640/664, SD12	-	(4.46)	(4.30)	(3.56)	(3.36)	0.06	N738
SB3-SD1	G1i10	IV上	-	a	ウ	-	-	-	(7.66)	0.31	0.10	0.28	N748
SB3-SK1	G1i10	IV上	1	b2	エ	-	-	0.38	0.24	0.35	0.14	0.23	N746
SB3-SK2	G1i10	IV上	1	a	ウ	-	-	1.20	(0.50)	0.40	0.16	0.14	N747
SB3-SK3	G1i10	IV上	1	a	キ	-	-	0.51	0.41	0.40	0.26	0.04	N749
SB3-SK4	G1i10	IV上	1	a	ウ	-	-	0.29	0.12	0.21	0.11	0.11	N750
SB3-SK5	G1i10	IV上	1	d	エ	<SK664	-	(0.41)	(0.35)	0.61	0.37	0.17	N751
SD1	H1b-c06-08	IV上	-	b2	ア	-	>SK6/7, SP7	(5.25)	-	0.62	0.24	0.11	N025
SD2	H1b07-08	IV上	-	b2	ア	-	>SK13/17/64	-	(4.30)	0.59	0.24	0.14	N035
SD3	H1c07-08	IV上	-	a	エ	-	>SK37	(3.52)	(3.39)	0.29	0.21	0.13	N118
SD4	H1d08	IV上	-	b2	カ	<SK39/82	>SK52/83	-	(7.20)	2.57	0.46	0.22	N099
SD5	H1b09-10	IV上	-	a	ア	-	-	2.27	2.26	0.40	0.12	0.08	N202
SD6	H1b-d09	IV上	-	b2	ウ	-	>SK79/173/178	(19.20)	(18.10)	1.47	0.29	0.27	N335
SD7	H1d9	IV上	-	b2	ウ	-	>SK168	4.60	3.98	0.62	0.39	0.37	N504
SD8	G-H1e-c11-13	V上	-	b2	ア	<SK282	>SK206/298/302/305/308/309/333	-	13.20	1.62	0.54	0.54	N416
SD9	H1a11	V上	-	a	ア	-	-	(3.39)	(3.00)	0.61	0.40	0.05	N535
SD10	G1i13	IV上	-	b3	エ	-	>SD11	-	(5.02)	1.40	0.21	0.46	N178
SD11	G1s-i13-15	IV上	-	b2	ア	<SK433/513, SD10	>SP70, SK514	(10.82)	(10.72)	2.60	0.40	0.43	N473
SD12	G-H1e-b08-10	IV上	-	b3	ア	-	>SK537	(20.24)	(20.00)	1.10	0.76	0.50	N700
SD13	H1a-b08	IV上	-	b2	ア	-	>SK533	2.31	0.40	1.92	0.18	0.31	N652
SD14	G1s-i14-15	IV上	-	b2	ア	<SD11	-	6.40	6.01	0.80	0.25	0.36	N780
SH1	G-H1i-ai3-14	V上	-	-	-	-	-	5.00	-	4.45	-	-	N776
SH2	G-H1i-ai3-14	V上	-	-	-	-	-	5.70	-	3.00	-	-	N777
SH3	G-H1i-ai3-14	V上	-	-	-	-	-	5.35	-	2.80	-	-	N778
SH4	G-H1i-ai2-14	V上	-	-	-	-	-	(0.69)	-	3.65	-	-	N779
SK1	H1c06	IV上	1	a	ア	<SP4	-	0.44	0.28	(0.24)	(0.12)	0.12	N010
SK2	H1c06	IV上	1	b2	ア	<SP4	-	(0.30)	0.11	0.30	0.14	0.18	N012
SK3	H1c06	IV上	2	b2	イ	-	>SP11, SK5/21/22	(2.40)	(2.27)	2.25	2.08	0.40	N024
SK4	H1b-c07	IV上	1	b3	ウ	-	-	0.32	0.12	0.31	0.13	0.17	N018
SK5	H1b-c07	IV上	1	b2	ア	-	-	0.23	0.20	0.21	0.16	0.18	N019
SK6	H1b07	IV上	1	b2	ア	-	-	0.18	0.07	0.16	0.09	0.13	N022
SK7	H1b07	IV上	1	b1	イ	<SD1	>SK19	0.83	0.80	0.66	0.58	0.16	N026
SK8	H1b07	IV上	1	b2	カ	-	-	0.34	0.09	0.30	0.11	0.16	N027
SK9	H1b07	IV上	1	b1	イ	<SK10	-	(0.30)	0.26	0.45	0.26	0.54	N028
SK10	H1b07	IV上	1	-	イ	-	>SK9	0.54	0.45	0.46	0.30	0.42	N029
SK11	H1b07	IV上	1	-	エ	-	-	0.20	0.10	0.16	0.11	0.14	N030
SK12	H1b07	IV上	1	b2	ア	-	-	0.30	0.16	0.27	0.14	0.12	N033
SK13	H1b07-08	IV上	2	b2	ア	<SD2	>SK64, SP21	2.09	1.96	1.17	1.00	0.12	N034
SK14	H1b07	IV上	3	b2	エ	-	>SK18	(2.27)	(1.46)	(0.74)	(0.57)	0.46	N036
SK15	H1b07	IV上	1	a	ア	<SK14	-	0.16	0.08	0.15	0.07	0.06	N037
SK16	H1b07-08	IV上	3	b1	キ	-	>SK17	1.60	1.20	1.18	0.91	0.08	N038
SK17	H1b07-08	IV上	3	b4	ア	<SK16, SB2	-	(1.86)	(1.03)	1.73	1.37	0.48	N039
SK18	H1b07	IV上	1	b2	ア	<SK14	-	0.38	0.13	0.31	0.11	0.36	N050
SK19	H1b07	IV上	1	a	エ	<SK7	-	0.19	0.14	0.19	0.14	0.03	N073
SK20	H1c07-08	II上	2	b3	イ	-	-	1.43	1.40	0.95	0.86	0.14	N006
SK21	H1c07	IV上	1	b2	エ	-	-	0.26	0.10	0.25	0.09	0.21	N017
SK22	H1c07	IV上	3	a	キ	-	-	1.25	0.55	1.04	0.42	0.20	N020

表９　遺構観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ	図番号
SK23	H1-07	Ⅳ上	1	b2	ウ	-	-	0.16	0.21	0.25	0.09	0.18	N021
SK24	H1-07	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.19	0.80	0.18	0.80	0.07	N043
SK25	H1-07	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.25	0.10	0.24	0.11	0.14	N044
SK26	H1-07	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.29	0.19	0.27	0.17	0.08	N045
SK27	H1-07	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.23	0.09	0.20	0.08	0.18	N046
SK28	H1-07	Ⅳ上	1	a	ウ	-	-	0.22	0.11	0.20	0.11	0.09	N048
SK29	H1-07	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.22	0.16	0.20	0.17	0.13	N075
SK30	H1-07	Ⅳ上	1	a	エ	<SK31	-	(0.20)	0.16	0.20	0.17	0.14	N076
SK31	H1-07	Ⅳ上	1	b2	カ	-	>SK30	(0.39)	0.15	0.37	0.07	0.12	N077
SK32	H1-07	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.41	0.17	0.22	0.14	0.26	N078
SK33	H1-07	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.23	0.14	0.23	0.10	0.26	N079
SK34	H1c-d07	Ⅳ上	1	b3	キ	-	-	0.92	0.54	0.87	0.48	0.19	N081
SK35	H1-07	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.64	0.47	0.51	0.37	0.16	N082
SK36	H1-07	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.20	0.12	0.20	0.11	0.30	N114
SK37	H1-07	Ⅳ上	1	a	カ	<SK03	-	0.23	0.07	(0.20)	(0.06)	0.29	N119
SK38	H1d-07-08	Ⅳ上	2	a	エ	<SK436	-	(1.49)	(1.37)	0.87	0.57	0.11	N120
SK39	H1c-d07-08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	>SK40/41/83, SD4	1.88	1.28	1.80	1.23	0.66	N155
SK40	H1c-d07	Ⅳ上	4	d	エ	<SK39	-	(1.28)	(0.62)	(0.67)	(0.38)	0.31	N156
SK41	H1c-d07	Ⅳ上	1	b2	イ	<SK39	-	1.96	1.89	1.47	1.28	1.42	N157
SK42	H1-07	Ⅳ上	1	a	ア	-	>SK43	0.45	0.34	0.41	0.29	0.08	N286
SK43	H1-07-08	Ⅳ上	1	b2	ア	<SK42	-	(0.50)	(0.48)	0.36	0.19	0.06	N287
SK44	H1d07	Ⅳ上	1	a	ウ	-	-	0.29	0.08	0.23	0.09	0.16	N083
SK45	H1d07	Ⅳ上	1	a	エ	<SK46	-	(0.34)	(0.26)	0.36	0.24	0.04	N085
SK46	H1d07	Ⅳ上	1	b4	カ	-	>SK45	0.43	0.39	0.35	0.29	0.14	N086
SK47	H1d07	Ⅳ上	1	b2	エ	-	-	0.32	0.21	0.28	0.17	0.23	N087
SK48	H1d07	Ⅳ上	1	b3	カ	-	-	0.42	0.16	0.36	0.16	0.40	N089
SK49	H1d07	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.24	0.04	0.22	0.14	0.09	N090
SK50	H1d07	Ⅳ上	1	b2	エ	<SK51	-	0.54	0.08	0.30	0.07	0.09	N091
SK51	H1d07	Ⅳ上	2	a	エ	<SK56	>SK50/52/61, SP18	(1.70)	(1.62)	(1.75)	(1.06)	0.07	N092
SK52	H1d07	Ⅳ上	-	-	ア	<SK51, SD4	>SP17/18	-	-	1.12	0.85	0.05	N093
SK53	H1d07	Ⅳ上	1	a	キ	-	-	0.33	0.26	0.29	0.22	0.14	N094
SK54	H1d07	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.25	0.15	0.24	0.13	0.15	N103
SK55	H1d07-08	Ⅳ上	1	b2	エ	-	-	0.24	0.08	0.24	0.10	0.17	N105
SK56	H1d07	Ⅳ上	1	b2	カ	-	>SK51	0.38	0.19	0.26	0.17	0.16	N203
SK57	H1d07	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.25	0.15	0.20	0.09	0.04	N482
SK58	H1d07	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.42	0.21	0.35	0.19	0.05	N483
SK59	H1d07	Ⅳ上	1	b3	エ	-	-	0.34	0.09	0.21	0.08	0.23	N484
SK60	H1d07	Ⅳ上	1	b3	エ	<SP17	-	0.61	0.17	0.25	0.09	0.18	N486
SK61	H1d07	Ⅳ上	1	b3	ア	<SK51/83	-	0.35	0.17	0.28	0.17	0.08	N487
SK62	H1a08	Ⅰ下	2	b2	カ	-	-	1.44	1.34	1.32	1.28	0.42	N005
SK63	H1b08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.21	0.11	0.18	0.08	0.11	N111
SK64	H1b08	Ⅳ上	1	b2	イ	<SK15, SB2	-	0.43	0.29	0.23	0.16	0.24	N291
SK65	H1b08	Ⅳ上	1	b2	ウ	-	-	0.21	0.06	0.19	0.05	0.20	N292
SK66	H1b08	Ⅳ上	1	b2	エ	-	-	0.19	0.10	0.18	0.11	0.10	N294
SK67	H1b08	Ⅳ上	3	b2	カ	-	-	0.48	0.21	0.41	0.21	0.40	N295
SK68	H1b08	Ⅳ上	3	b2	キ	-	-	(1.70)	(1.60)	1.03	0.87	0.31	N304
SK69	H1b-c08	Ⅳ上	2	b4	ア	-	-	1.72	1.53	1.67	1.46	0.11	N421
SK70	H1c08	Ⅳ上	2	b3	エ	-	>SK74	1.31	1.14	0.64	0.57	0.18	N098
SK71	H1c-d08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.43	0.22	0.40	0.24	0.21	N105
SK72	H1c08	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.19	0.08	0.18	0.09	0.08	N116
SK73	H1c08	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.39	0.24	0.34	0.24	0.09	N117
SK74	H1c08	Ⅳ上	1	b2	ア	<SK70	-	2.33	1.60	(1.36)	(0.81)	0.14	N289
SK75	H1c08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.29	0.11	0.26	0.10	0.11	N340
SK76	H1c08	Ⅳ上	1	b2	エ	-	-	0.96	0.88	0.75	0.56	0.11	N341
SK77	H1c08-09	Ⅳ上	1	b3	エ	-	-	1.69	1.37	0.52	0.32	0.31	N342
SK78	H1c08-09	Ⅳ上	1	b2	ウ	-	-	1.32	0.72	0.67	0.21	0.19	N343
SK79	H1c08-09	Ⅳ上	1	b2	ア	<SZ1, SD6	>SB30/81	1.87	1.30	1.54	1.09	0.30	N420
SK80	H1c08	Ⅳ上	1	b2	ア	<SK79	-	0.35	0.12	0.30	0.10	0.29	N741
SK81	H1c08	Ⅳ上	1	b2	ウ	<SK79	-	0.50	0.12	0.39	0.09	0.34	N742
SK82	H1d08	Ⅳ上	1	b2	エ	-	>SD4	0.25	0.13	0.23	0.10	0.14	N096
SK83	H1d08	Ⅳ上	1	a	ア	<SD4, SK39	>SK61	(0.46)	(0.29)	(0.18)	(0.10)	0.06	N097
SK84	H1d08	Ⅳ上	1	b1	カ	-	>SP022	0.52	0.38	0.38	0.29	0.08	N300
SK85	H1d08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.43	0.17	0.38	0.19	0.04	N104
SK86	H1d08	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.29	0.17	0.28	0.18	0.07	N106
SK87	H1d08	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.89	0.53	0.71	0.48	0.19	N107
SK88	H1d08	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.22	0.13	0.22	0.12	0.10	N109
SK89	H1d08	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.28	0.23	0.24	0.17	0.05	N121
SK90	H1d08	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.39	0.13	0.36	0.14	0.17	N124
SK91	H1d08	Ⅳ上	1	b3	カ	-	-	0.47	0.23	0.45	0.20	0.32	N125
SK92	H1d08	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.26	0.16	0.25	0.12	0.12	N126
SK93	H1d08	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.29	0.13	0.26	0.14	0.09	N127
SK94	H1d08	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.23	0.14	0.22	0.11	0.09	N128
SK95	H1d-e08-09	Ⅳ上	1	a	イ	-	>SK178	1.70	1.55	1.40	1.31	0.15	N144
SK96	H1d08	Ⅳ上	1	b3	ア	-	>SK97	0.28	0.11	0.24	0.11	0.08	N158
SK97	H1d08	Ⅳ上	1	a	ア	<SK96	-	(0.20)	0.09	0.26	0.07	0.13	N159
SK98	H1d08	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.34	0.14	0.29	0.11	0.55	N160
SK99	H1d08	Ⅳ上	1	b2	ア	<SP26	-	0.46	0.18	(0.26)	0.14	0.25	N162
SK100	H1d08	Ⅳ上	1	a	カ	-	-	0.34	0.15	0.28	0.14	0.05	N164
SK101	H1d08	Ⅳ上	1	b2	ウ	-	-	0.30	0.17	0.30	0.16	0.11	N166
SK102	H1d08	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.27	0.11	0.22	0.11	0.06	N167
SK103	H1e08	Ⅳ上	1	a	エ	<SP28	-	(0.67)	(0.62)	0.65	0.47	0.03	N129
SK104	H1e08	Ⅳ上	1	a	ウ	-	-	0.26	0.10	0.24	0.11	0.08	N131
SK105	H1e08	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.19	0.09	0.18	0.09	0.08	N132
SK106	H1e08	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.58	0.21	0.52	0.21	0.11	N134

表10　遺構観察表（3）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ	掲載番号
SK107	H1e08	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.46	0.22	0.43	0.21	0.11	N135
SK108	H1e08	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.35	0.19	0.28	0.16	0.08	N136
SK109	H1e08	Ⅳ上	1	b3	カ	–	>SK110	0.66	0.18	0.54	0.23	0.36	N137
SK110	H1e08	Ⅳ上	1	b2	ア	<SK109	–	0.26	0.11	(0.23)	0.07	0.41	N138
SK111	H1e08	Ⅳ上	1	b2	キ	–	–	0.30	0.19	0.30	0.17	0.10	N139
SK112	H1e08	Ⅳ上	1	b3	カ	–	–	0.41	0.16	0.37	0.17	0.27	N140
SK113	H1e08	Ⅳ上	1	b2	ウ	–	–	0.32	0.11	0.28	0.10	0.22	N141
SK114	H1e08	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	(0.38)	(0.24)	0.71	0.42	0.14	N142
SK115	H1e08	Ⅳ上	1	b3	ア	–	>SK178	0.22	0.13	0.18	0.09	0.08	N143
SK116	H1e08	Ⅳ上	1	b2	カ	–	–	0.26	0.11	0.24	0.13	0.06	N163
SK117	H1e08	Ⅳ上	1	a	キ	–	>SK118	0.30	0.16	0.29	0.17	0.04	N169
SK118	H1e08	Ⅳ上	1	a	ア	<SK117	–	(0.25)	(0.22)	(0.20)	(0.14)	0.04	N170
SK119	H1e08	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.26	0.16	0.21	0.14	0.12	N172
SK220	H1e08	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	(0.45)	(0.39)	(0.21)	(0.16)	0.05	N173
SK121	H1e08	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.39	0.14	0.34	0.16	0.06	N174
SK122	H1e08	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	3.30	2.80	3.30	2.30	0.16	N175
SK123	H1a09	Ⅳ上	1	d	キ	–	–	0.44	0.26	0.37	0.18	0.35	N297
SK124	H1b09	Ⅳ上	1	b2	カ	–	–	0.29	0.14	0.28	0.14	0.15	N281
SK125	H1b09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.39	0.07	0.18	0.06	0.07	N283
SK126	H1b09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.30	0.21	0.28	0.20	0.05	N284
SK127	H1b09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	–	0.29	0.22	0.25	0.16	0.09	N285
SK128	H1b09	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.27	0.19	0.26	0.20	0.07	N310
SK129	H1b09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	–	0.32	0.13	0.25	0.10	0.22	N430
SK130	H1b09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.24	0.14	0.20	0.11	0.06	N431
SK131	H1b09	Ⅳ上	1	b3	ア	–	–	0.30	0.20	0.28	0.16	0.27	N432
SK132	H1b09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.30	0.26	0.29	0.22	0.07	N433
SK133	H1b-c09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.37	0.28	0.35	0.28	0.03	N434
SK134	H1b-c09	Ⅳ上	1	b2	カ	–	–	0.32	0.16	0.27	0.14	0.15	N435
SK135	H1b09	Ⅳ上	1	d	ア	–	–	0.38	0.21	0.33	0.11	0.32	N743
SK136	H1c09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	>SK163	0.32	0.18	0.28	0.16	0.17	N305
SK137	H1c09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.26	0.20	0.25	0.18	0.04	N306
SK138	H1c09	Ⅳ上	1	b2	ウ	<SP32	–	(0.30)	0.11	0.30	0.08	0.28	N308
SK139	H1c09	Ⅳ上	1	b3	ア	–	–	0.28	0.10	0.27	0.10	0.14	N309
SK140	H1c09	Ⅳ上	1	a	イ	–	–	0.47	0.34	0.41	0.36	0.10	N311
SK141	H1c09	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.28	0.19	0.25	0.20	0.08	N312
SK142	H1c09	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.32	0.24	0.29	0.23	0.06	N314
SK143	H1c09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.16	0.06	0.13	0.07	0.10	N315
SK144	H1c09	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.27	0.19	0.23	0.16	0.08	N316
SK145	H1c09	Ⅳ上	1	a	カ	–	>SK146	0.35	0.19	0.29	0.20	0.08	N318
SK146	H1c09	Ⅳ上	1	a	ア	<SK145	–	(0.35)	(0.30)	0.32	0.17	0.07	N319
SK147	H1c09	Ⅳ上	1	b2	エ	–	–	0.21	0.15	0.21	0.14	0.17	N320
SK148	H1c09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.27	0.13	0.27	0.13	0.09	N321
SK149	H1c09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	>SK150	0.22	0.10	0.19	0.10	0.14	N322
SK150	H1c09	Ⅳ上	1	d	エ	<SK149	–	0.36	0.20	0.34	0.16	0.25	N323
SK151	H1c-d09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.18	0.09	0.18	0.09	0.04	N324
SK152	H1c09	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.38	0.12	0.19	0.13	0.07	N325
SK153	H1c09	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.35	0.17	0.35	0.17	0.08	N326
SK154	H1c09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.43	0.14	0.22	0.14	0.14	N327
SK155	H1c-d09	Ⅳ上	1	a	ア	–	>SK156	0.27	0.22	0.24	0.18	0.05	N328
SK156	H1c-d09	Ⅳ上	1	b3	ア	<SK155	–	0.43	0.32	(0.26)	(0.23)	0.07	N329
SK157	H1c-d09	Ⅳ上	1	b2	エ	–	>SK164	0.28	0.18	0.27	0.17	0.20	N332
SK158	H1c09	Ⅳ上	1	b3	ア	–	>SK164	0.25	0.15	0.24	0.14	0.21	N333
SK159	H1c09	Ⅳ上	1	a	カ	–	>SD6	0.50	0.41	0.44	0.35	0.07	N334
SK160	H1c09	Ⅳ上	1	b3	ア	–	–	0.28	0.13	0.26	0.12	0.61	N339
SK161	H1c09	Ⅳ上	1	a	キ	–	–	0.19	0.15	0.18	0.21	0.08	N344
SK162	H1c09	Ⅳ上	1	a	カ	–	–	0.26	0.13	0.25	0.10	0.05	N439
SK163	H1c09	Ⅳ上	1	d	ア	<SK136	–	0.42	0.22	0.28	0.14	0.22	N440
SK164	H1c09	Ⅳ上	1	b3	ア	<SK157/158	–	0.88	0.17	0.26	0.13	0.34	N458
SK165	H1c09-10	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.18	0.10	0.15	0.09	0.06	N459
SK166	H1d09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	–	0.26	0.15	0.22	0.15	0.17	N330
SK167	H1d09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	–	0.20	0.18	0.20	0.07	0.33	N331
SK168	H1d09	Ⅳ上	1	a	ア	<SD7	–	0.18	0.09	0.14	0.08	0.05	N335
SK169	H1d09	Ⅳ上	1	b3	ア	–	–	0.31	0.12	0.30	0.13	0.18	N337
SK170	H1d09	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.39	0.25	0.22	0.08	0.03	N460
SK171	H1d09	Ⅳ上	1	a	キ	–	–	0.30	0.07	0.24	0.07	0.04	N461
SK172	H1d09	Ⅳ上	1	b2	カ	–	–	0.40	0.18	0.31	0.12	0.13	N467
SK173	H1d09	Ⅳ上	1	a	ア	<SD6	–	–	0.57	0.99	(0.42)	0.05	N468
SK174	H1d09	Ⅳ上	1	b3	ア	<SK177	–	0.80	0.58	(0.48)	(0.44)	0.18	N471
SK175	H1d09	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.42	0.30	0.35	0.28	0.03	N489
SK176	H1d-e09	Ⅳ上	1	b2	キ	–	–	1.23	0.81	0.99	0.59	0.07	N762
SK177	H1d09	Ⅳ上	1	b4	カ	<SK174, 189	>SK181-SK1	0.90	0.21	0.80	0.12	0.23	N768
SK178	H1e09	Ⅳ上	–	a	ア	<SD95/115, SD6	–	(2.61)	(2.45)	(0.75)	(0.42)	0.18	N145
SK179	H1e09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	–	0.36	0.23	0.27	0.15	0.21	N637
SK180	H1e09	Ⅳ上	1	b3	ア	–	–	0.35	0.14	0.28	0.12	0.28	N638
SK181	H1e09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	>SD6	0.25	0.14	0.24	0.06	0.13	N639
SK182	H1e09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	–	0.32	0.22	0.29	0.17	0.17	N640
SK183	H1e09	Ⅳ上	1	a	カ	–	–	0.41	0.28	0.26	0.11	0.10	N641
SK184	H1e09	Ⅳ上	1	b1	ア	–	–	0.36	0.16	0.30	0.11	0.24	N642
SK185	H1e09	Ⅳ上	1	a	キ	–	–	0.62	0.21	0.40	0.12	0.10	N643
SK186	H1e09	Ⅳ上	1	b4	カ	–	–	0.67	0.42	0.56	0.20	0.20	N644
SK187	H1e09	Ⅳ上	1	b2	ア	–	>SK191	0.35	0.15	0.31	0.09	0.49	N765
SK188	H1e09	Ⅳ上	1	a	ア	<SB1	>SK191	0.44	0.28	0.40	0.25	0.07	N767
SK189	H1e09	Ⅳ上	1	a	エ	<SB2-SD1	>SK177	(2.14)	(1.61)	(0.44)	(0.15)	0.36	N770
SK190	H1e09	Ⅳ上	1	b2	ア	<SB2-SD1	–	0.36	0.12	0.22	0.10	0.16	N771

表11　遺構観察表（4）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ	図番号
SK191	H1e09	Ⅳ上	1	a	ア	<SK187/188/193	-	0.27	0.14	0.20	0.08	0.08	N773
SK192	H2e09	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.26	0.15	0.24	0.13	0.20	N774
SK193	H2e09	Ⅳ上	1	b3	ア	-	>SK191	0.24	0.13	0.23	0.12	0.11	N775
SK194	G-H1-a10	Ⅳ上	1	d	カ	-	-	1.40	0.51	1.35	0.48	0.22	N419
SK195	H1a10	Ⅳ上	1	b2	イ	-	-	0.25	0.14	0.22	0.16	0.12	N099
SK196	H1a10	Ⅳ上	1	b2	イ	-	>SK197	0.38	0.29	0.32	0.28	0.11	N370
SK197	H1a10	Ⅳ上	1	a	キ	<SK196	-	(0.21)	(0.19)	0.24	0.11	0.06	N071
SK198	H1a10	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.33	0.07	0.30	0.08	0.11	N072
SK199	H1a10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	1.11	0.69	0.94	0.38	0.11	N760
SK200	H1b10	Ⅳ上	1	a	キ	-	-	0.37	0.29	0.26	0.19	0.08	N180
SK201	H1b10	Ⅳ上	1	b1	エ	-	-	0.46	0.28	0.32	0.20	0.10	N182
SK202	H1b10	Ⅳ上	1	b2	エ	-	-	0.29	0.15	0.28	0.14	0.12	N183
SK203	H1b10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.34	0.28	0.31	0.20	0.12	N184
SK204	H1b10	Ⅳ上	1	b3	カ	-	-	0.37	0.18	0.30	0.13	0.36	N185
SK205	H1b10	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.24	0.13	0.23	0.13	0.11	N186
SK206	H1b10	Ⅳ上	1	a	カ	-	-	0.49	0.13	0.31	0.14	0.21	N187
SK207	H1b10	Ⅳ上	1	a	キ	-	>SK208	0.48	0.24	0.43	0.25	0.08	N188
SK208	H1b10	Ⅳ上	1	a	ア	<SK207	-	(0.34)	0.10	0.33	0.11	0.06	N189
SK209	H1b10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.20	0.12	0.18	0.10	0.04	N190
SK210	H1b10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.28	0.15	0.28	0.14	0.08	N192
SK211	H1b10	Ⅳ上	1	b2	エ	-	-	0.15	0.11	0.15	0.10	0.11	N282
SK212	H1b10	Ⅳ上	1	d	エ	-	-	0.44	0.27	0.37	0.25	0.10	N288
SK213	H1c10	Ⅳ上	1	b2	ア	<SK42	-	(0.39)	0.12	0.34	0.12	0.42	N195
SK214	H1c10	Ⅳ上	1	a	ア	<SK215	-	(0.61)	(0.45)	0.89	0.37	0.09	N196
SK215	H1c10	Ⅳ上	1	b2	キ	-	>SK214/220~224	2.90	1.48	1.69	1.62	0.17	N197
SK216	H1c10	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.29	0.22	0.26	0.19	0.07	N198
SK217	H1e10	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.44	0.29	0.32	0.29	0.05	N199
SK218	H1c10	Ⅳ上	1	a	ア	<SK219	-	0.33	0.22	0.31	0.21	0.06	N200
SK219	H1c10	Ⅳ上	1	a	カ	-	>SK218	0.56	0.28	0.41	0.17	0.11	N201
SK220	H1c10	Ⅳ上	1	a	ア	<SK215	-	0.35	0.08	0.27	0.10	0.16	N289
SK221	H1e10	Ⅳ上	1	b3	ア	<SK215	-	(0.28)	0.09	(0.22)	0.08	0.38	N299
SK222	H1e10	Ⅳ上	1	a	ク	<SK215	-	0.23	0.07	(0.19)	0.10	0.12	N300
SK223	H1c10	Ⅳ上	1	a	ア	<SK215	-	0.30	0.14	0.30	0.11	0.08	N301
SK224	H1e10	Ⅳ上	1	a	ア	<SK215	-	0.23	0.13	0.20	0.11	0.03	N302
SK225	H1c10	Ⅳ上	1	a	ウ	-	-	0.31	0.10	0.29	0.05	0.10	N436
SK226	H1c10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.44	0.38	0.36	0.25	0.05	N437
SK227	H1e10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.19	0.07	0.18	0.07	0.08	N438
SK228	H1c10	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.40	0.17	0.35	0.15	0.12	N441
SK229	H1e10	Ⅳ上	1	a	ウ	-	-	0.27	0.13	0.27	0.07	0.08	N442
SK230	H1e10	Ⅳ上	1	b4	カ	-	-	0.67	0.32	0.56	0.12	0.15	N443
SK231	H1e10	Ⅳ上	1	b4	カ	-	-	0.31	0.31	0.29	0.12	0.10	N444
SK232	H1e10	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.25	0.16	0.23	0.14	0.19	N445
SK233	H1e10	Ⅳ上	1	b1	ウ	-	-	0.31	0.11	0.30	0.90	0.13	N446
SK234	H1e10	Ⅳ上	1	b1	エ	-	-	0.28	0.20	0.25	0.18	0.08	N447
SK235	H1e~d30	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.35	0.15	0.35	0.12	0.08	N448
SK236	H1e10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.38	0.20	0.38	0.10	0.07	N449
SK237	H1e~d30	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.26	0.15	0.25	0.10	0.09	N450
SK238	H1d10	Ⅳ上	1	a	カ	-	-	0.96	0.47	0.65	0.10	0.09	N451
SK239	H1d10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.21	0.10	0.21	0.10	0.11	N452
SK240	H1d10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.27	0.17	0.25	0.15	0.07	N453
SK241	H1d10	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.53	0.08	0.44	0.06	0.20	N454
SK242	H1d10	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.50	0.30	0.45	0.18	0.25	N455
SK243	H1d10	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.45	0.17	0.40	0.16	0.18	N456
SK244	H1d10	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.48	0.18	0.45	0.17	0.16	N457
SK245	H1d10	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.33	0.10	0.21	0.07	0.32	N462
SK246	H1d10	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.35	0.13	0.27	0.13	0.06	N463
SK247	H1d10	Ⅳ上	1	a	キ	-	>SK248	0.37	0.19	0.32	0.15	0.10	N464
SK248	H1d10	Ⅳ上	3	b4	キ	<SK247	-	1.65	1.27	(0.88)	(0.49)	0.19	N465
SK249	G1r11-12	Ⅳ上	1	a	-	<SP43	-	0.32	0.18	(0.13)	(0.08)	0.12	N038
SK250	G1r11	Ⅳ上	1	b3	カ	-	>SK251	0.34	0.12	0.27	0.11	0.19	N059
SK251	G1r11	Ⅳ上	1	a	-	<SK250	-	0.21	0.12	(0.08)	(0.04)	0.04	N060
SK252	G1r11	Ⅳ上	1	a	カ	-	-	0.35	0.14	0.29	0.12	0.05	N061
SK253	G1r11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.35	0.16	0.27	0.13	0.08	N062
SK254	G1r11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.22	0.11	0.21	0.08	0.04	N063
SK255	G1r11	Ⅳ上	-	a	キ	-	>SK256	3.14	2.80	0.94	0.69	0.08	N065
SK256	G1r11	Ⅳ上	1	a	ア	<SK255, SP46	-	0.34	0.18	(0.22)	(0.16)	0.09	N066
SK257	G1r11	Ⅳ上	1	a	キ	-	-	0.27	0.15	0.27	0.14	0.04	N068
SK258	G1a11	Ⅳ上	1	b4	キ	-	-	2.51	2.16	1.76	1.50	0.27	N740
SK259	G1i11	Ⅳ上	2	a	キ	-	-	0.92	0.35	0.90	0.34	0.18	N041
SK260	G-H1-a11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.31	0.17	0.25	0.15	0.07	N664
SK261	G1i11	Ⅳ上	1	a	カ	-	-	0.25	0.10	0.22	0.05	0.10	N665
SK262	G1i11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.21	0.08	0.20	0.07	0.06	N666
SK263	G1i11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	1.37	0.71	0.55	0.40	0.08	N667
SK264	G1i11	Ⅳ上	1	b2	ウ	-	-	0.32	0.10	0.26	0.10	0.21	N668
SK265	G1i11	Ⅳ上	1	b2	ウ	-	-	0.40	0.13	0.31	0.09	0.29	N669
SK266	G1i11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.29	0.15	0.20	0.11	0.05	N670
SK267	G1i11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.26	0.17	0.19	0.15	0.04	N671
SK268	G1i11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.31	0.28	0.30	0.20	0.08	N672
SK269	G1i11	Ⅳ上	1	b3	カ	-	-	(0.27)	(0.06)	0.34	0.06	0.20	N673
SK270	G1i11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	(0.57)	(0.52)	0.57	0.44	0.07	N674
SK271	G1i11	Ⅳ上	1	b3	ウ	-	-	0.42	0.07	(0.22)	0.05	0.27	N675
SK272	G1i11	Ⅳ上	1	a	エ	-	-	0.29	0.21	0.27	0.08	0.04	N676
SK273	G1i11	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	(1.10)	(1.06)	0.49	0.27	0.16	N677
SK274	H1a11	Ⅴ上	3	b3	ア	-	-	0.75	0.57	0.35	0.18	0.15	N412

表12　遺構観察表（5）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ	図番号
SE275	H1a-b11	Ⅳ上	1	b2	ヤ	–	–	2.25	2.00	1.23	0.86	0.26	第36
SE276	H1a11	Ⅳ上	3	b2	ア	–	–	1.73	1.05	0.87	0.47	0.28	第37
SE277	H1a11	Ⅳ上	1	b2	ア	–	–	0.39	0.26	0.35	0.21	0.35	第65
SE278	H1a11	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.41	0.17	0.36	0.14	0.14	第62
SE279	H1a11	Ⅳ上	1	a	ヤ	–	–	0.35	0.26	(0.22)	(0.16)	0.03	第63
SE280	H1a11	Ⅳ上	1	b1	エ	–	–	0.64	0.20	0.61	0.24	0.42	第59
SE281	H1a11	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.37	0.22	0.26	0.15	0.31	第61
SE282	H1b-c11-12	Ⅳ上	1	b3	ア	–	>SD8	4.02	2.12	(1.64)	(1.31)	0.47	第22
SE283	H1b-c11	Ⅳ上	3	b4	カ	–	>SK284	5.65	3.70	1.90	1.25	0.60	第28
SE284	H1b11	Ⅳ上	1	a	ア	<SK283	–	(10.06)	(9.70)	0.44	0.38	0.02	第28
SE285	G1r-a12	Ⅳ上	3	b4	カ	–	>SK291	(1.40)	(1.42)	1.48	1.11	0.19	第51
SE286	G1r12	Ⅳ上	1	a	ア	–	>SK291	0.39	0.23	0.33	0.17	0.07	第52
SE287	G1r12	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.32	0.15	(0.26)	(0.17)	0.06	第53
SE288	G1r12	Ⅳ上	1	a	エ	–	>SE289	0.44	0.17	0.27	0.11	0.10	第54
SE289	G1r12	Ⅳ上	1	a	ア	<SE288	–	(0.18)	(0.11)	0.20	0.11	0.08	第55
SE290	G1r12	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.41	0.18	(0.19)	(0.11)	0.11	第56
SE291	G1r-a12	Ⅳ上	3	a	ア	<SE285, 286	–	0.54	0.44	(0.35)	(0.29)	0.06	第47
SE292	G1r12	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.41	0.26	0.38	0.26	0.04	第48
SE293	G-H1t-a12	Ⅴ上	1	b2	ア	–	–	0.49	0.34	0.40	0.32	0.14	第90
SE294	G-H1t-a12	Ⅴ上	1	b2	ア	–	–	0.22	0.12	0.22	0.08	0.37	第96
SE295	G1t12	Ⅴ上	1	d	カ	–	–	0.56	0.16	0.44	0.09	0.55	第18
SE296	G1t12	Ⅴ上	1	b3	ア	<SD8	–	0.50	0.24	0.38	0.20	0.38	第76
SE297	G1t12	Ⅴ上	1	b3	カ	–	–	0.73	0.43	0.33	0.11	0.20	第78
SE298	G1t12	Ⅴ上	1	a	ア	–	>P17(SB4), SK305	1.65	1.00	0.91	0.73	0.06	第79
SE299	G1t12	Ⅴ上	1	a	ア	–	–	0.35	0.19	0.30	0.15	0.06	第80
SE300	G1t12-13	Ⅴ上	3	b3	ア	<SE302	–	2.43	(2.13)	2.05	1.16	0.51	第86
SE301	G1t12-13	Ⅴ上	1	b3	ア	–	–	1.08	0.91	0.51	0.35	0.34	第08
SE302	G1t12	Ⅴ上	1	b2	ウ	<SD8	–	0.30	0.13	0.24	0.06	0.10	第13
SE303	G1t12-13	Ⅴ上	1	b3	ア	<SK304	>E302	1.28	1.13	0.68	0.30	0.86	第15
SE304	G-H1t-a12-13	Ⅴ上	2	b3	イ	–	>SK303/320	1.80	1.44	0.90	0.63	0.71	第16
SE305	G1t12	Ⅴ上	3	b3	ア	<SD8, SE298	>SK306	1.39	1.10	(0.77)	(0.31)	0.12	第30
SE306	G1t12	Ⅴ上	1	a	ア	<SK305	–	0.24	0.11	0.21	0.11	0.05	第31
SE307	G1t12	Ⅴ上	1	a	ア	–	–	0.25	0.10	0.22	0.08	0.06	第32
SE308	G1t12	Ⅴ上	1	a	ア	<SD8	–	0.57	0.33	(0.27)	(0.10)	0.11	第33
SE309	G1t12	Ⅴ上	1	b3	ア	<SD8	–	0.30	0.15	(0.18)	(0.10)	0.12	第34
SE310	G1t12	Ⅴ上	1	b2	エ	–	–	0.44	0.38	0.42	0.27	0.12	第55
SE311	G1t12-13	Ⅴ上	1	b3	ウ	–	>SP62	0.49	0.08	0.40	0.06	0.16	第63
SE312	H1a12	Ⅴ上	1	b2	ア	–	–	0.33	0.13	0.29	0.14	0.21	第65
SE313	H1a12	Ⅴ上	1	b3	ア	–	–	0.44	0.13	0.36	0.24	0.39	第66
SE314	H1a12-13	Ⅴ上	1	b2	カ	–	–	0.22	0.08	0.21	0.08	0.29	第68
SE315	H1a12	Ⅴ上	1	a	ア	–	–	0.24	0.12	0.22	0.08	0.06	第76
SE316	H1a12	Ⅴ上	1	a	ア	–	–	0.19	0.08	0.18	0.07	0.07	第77
SE317	H1a12	Ⅴ上	1	b1	カ	–	–	0.26	0.06	0.15	0.04	0.15	第78
SE318	H1a12	Ⅴ上	1	b3	ア	–	>SE319	0.17	0.10	0.17	0.10	0.28	第80
SE319	H1a12	Ⅴ上	1	a	ア	<SE318	–	(0.16)	(0.13)	0.19	0.12	0.11	第81
SE320	H1a12	Ⅴ上	1	b2	ア	–	>SK304	(0.47)	(0.31)	(0.17)	(0.13)	0.14	第89
SE321	H1a12	Ⅴ上	1	b2	エ	–	–	0.26	0.11	0.26	0.16	0.26	第92
SE322	H1a12	Ⅴ上	1	b2	カ	–	–	0.22	0.10	0.17	0.04	0.16	第93
SE323	H1a12	Ⅴ上	1	b2	カ	–	–	0.30	0.10	0.26	0.12	0.23	第94
SE324	H1a12	Ⅴ上	1	b2	ア	–	–	0.21	0.11	0.18	0.11	0.09	第95
SE325	H1a12	Ⅴ上	2	b3	イ	–	–	1.41	1.11	0.80	0.67	0.54	第97
SE326	H1a12	Ⅴ上	1	b2	ア	–	–	0.35	0.12	0.28	0.15	0.32	第99
SE327	H1a12	Ⅴ上	1	a	カ	–	–	0.34	0.06	0.30	0.07	0.11	第00
SE328	H1a12	Ⅴ上	3	d	エ	–	>SK329/334, SP94	1.87	1.66	0.83	0.23	0.19	第01
SE329	H1a12	Ⅴ上	1	b2	ウ	<SK328	–	(0.23)	0.07	(0.16)	0.07	0.17	第02
SE330	H1a12	Ⅴ上	1	a	エ	–	–	0.30	0.22	0.23	0.20	0.05	第03
SE331	H1a12	Ⅴ上	1	b2	ア	–	–	0.29	0.13	0.27	0.07	0.15	第05
SE332	H1a-b12	Ⅴ上	1	a	カ	–	–	0.80	0.55	0.27	0.12	0.08	第06
SE333	H1a-b12	Ⅴ上	1	b3	ヤ	<SD8	–	1.69	1.05	1.60	0.57	0.25	第17
SE334	H1a12	Ⅴ上	3	b3	ア	<SK328	–	0.68	0.13	0.28	0.13	0.31	第10
SE335	H1a12	Ⅴ上	1	b3	エ	–	–	0.29	0.17	0.25	0.15	0.20	第12
SE336	H1b12	Ⅴ上	1	a	エ	–	–	0.22	0.13	0.17	0.11	0.05	第36
SE337	H1b12	Ⅴ上	1	a	ヤ	–	–	0.54	0.27	0.45	0.23	0.12	第03
SE338	H1b12	Ⅴ上	1	b2	エ	–	–	0.87	0.77	0.25	0.20	0.05	第07
SE339	H1b12	Ⅴ上	1	a	ア	–	–	0.36	0.29	0.21	0.15	0.08	第10
SE340	H1b12	Ⅴ上	1	a	イ	–	–	0.30	0.21	0.28	0.21	0.07	第23
SE341	H1b12	Ⅴ上	1	a	エ	–	–	0.84	0.23	0.31	0.22	0.06	第24
SE342	H1b12	Ⅴ上	1	b2	ヤ	–	–	0.43	0.15	0.24	0.14	0.15	第25
SE343	H1b12	Ⅴ上	1	a	ア	–	–	0.30	0.17	0.25	0.12	0.10	第26
SE344	G1s13	Ⅳ上	1	b2	ア	–	–	0.20	0.10	0.19	0.09	0.37	第49
SE345	G1s13	Ⅳ上	1	a	エ	–	–	0.57	0.25	0.56	0.26	0.09	第50
SE346	G1s13	Ⅳ上	1	a	ア	–	–	0.19	0.12	0.18	0.11	0.07	第51
SE347	G1s13	Ⅳ上	1	b1	ア	–	–	0.16	0.08	0.16	0.08	0.08	第52
SE348	G1s13	Ⅴ上	1	b3	カ	–	>SP58	0.21	0.06	(0.19)	0.05	0.23	第53
SE349	G1s13	Ⅴ上	1	a	イ	–	–	1.18	1.00	0.44	0.42	0.09	第59
SE350	G1s-t13-14	Ⅴ上	1	b2	ア	<P14(SB3)	–	(0.25)	0.10	0.23	0.10	0.21	第52
SE351	G1t13-14	Ⅴ上	1	b2	エ	–	>SK452	0.52	0.19	0.35	0.26	0.52	第23
SE352	G1t13	Ⅴ上	1	b2	ウ	–	>SK383	0.30	0.04	0.27	0.07	0.45	第42
SE353	G1t13	Ⅴ上	1	b2	エ	–	–	0.24	0.13	0.24	0.10	0.12	第43
SE354	G-H1t-a13-14	Ⅴ上	3	b2	ア	<P15(SB3)	–	5.40	5.22	2.76	2.56	0.37	第45
SE355	G1t13	Ⅴ上	1	b2	ア	–	>SK357	0.31	0.16	0.25	0.13	0.17	第48
SE356	G1t13	Ⅴ上	1	b2	ア	–	>SK357	0.32	0.19	0.28	0.22	0.37	第49
SE357	G1t13	Ⅴ上	1	b3	ア	<SK355/356	–	(0.25)	0.10	0.26	0.13	0.22	第50
SE358	G1t13	Ⅴ上	1	d	エ	–	–	0.32	0.15	0.32	0.16	0.43	第53

表13　遺構観察表（6）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ	図番号
SK359	G1i13	V上	1	b1	ア	-	-	0.21	0.09	0.21	0.09	0.36	N256
SK360	G1i13	V上	1	b2	ア	-	-	0.28	0.12	0.28	0.09	0.38	N257
SK361	G1i13	V上	1	b3	ア	-	-	0.85	0.71	0.37	0.24	0.14	N258
SK362	G1i13	V上	1	b2	ア	<SP59	-	0.17	0.07	0.16	0.06	0.14	N261
SK363	G1i13	V上	1	b2	ア	-	-	0.23	0.10	0.21	0.11	0.15	N262
SK364	G1i13	V上	1	b1	ア	-	>SK367	0.89	0.73	0.32	0.22	0.18	N263
SK365	G1i13	V上	3	c	ア	-	>SK366	1.54	0.41	1.26	0.44	0.25	N264
SK366	G1i13	V上	1	b3	カ	<SK365	-	0.53	0.15	0.42	0.19	0.09	N265
SK367	G1i13	V上	1	b2	ア	<SK364	-	0.39	0.19	0.28	0.16	0.35	N266
SK368	G1i13	V上	1	b1	ア	-	-	0.22	0.07	0.21	0.08	0.41	N267
SK369	G1i13	V上	1	d	カ	-	-	0.34	0.13	0.21	0.08	0.24	N269
SK370	G1i13	V上	1	b1	ウ	-	-	0.17	0.08	0.14	0.06	0.10	N270
SK371	G1i13	V上	1	b3	ア	-	-	0.29	0.13	0.28	0.12	0.40	N273
SK372	G1i13	V上	1	b1	ア	-	-	0.16	0.05	0.16	0.05	0.07	N274
SK373	G1i13	V上	1	a	カ	<SK374	-	0.30	0.15	0.24	0.08	0.07	N275
SK374	G1i13	V上	1	b3	エ	-	>SK373	0.12	0.10	0.16	0.06	0.13	N276
SK375	G1i13	V上	1	b3	ア	-	-	0.23	0.07	0.20	0.08	0.24	N277
SK376	G1i13	V上	1	a	ア	-	-	0.60	0.47	0.46	0.32	0.08	N278
SK377	G1i13	V上	2	b2	エ	-	-	1.91	1.49	1.09	0.84	0.31	N279
SK378	G1i13	V上	1	b2	ア	-	-	0.35	0.15	0.32	0.13	0.16	N474
SK379	G1i13	V上	1	b3	エ	-	-	0.29	0.13	0.29	0.12	0.49	N498
SK380	G1i13	V上	1	a	ア	-	-	0.25	0.13	0.25	0.12	0.08	N500
SK381	G1i13	V上	1	a	ア	-	-	0.25	0.13	0.24	0.13	0.09	N507
SK382	G1i13	V上	1	b2	ア	<SK303	>SK300	0.95	0.45	0.62	0.33	0.07	N517
SK383	G1i13	V上	3	b3	ア	<SK382	-	0.71	0.21	0.36	0.20	0.32	N522
SK384	G1i13-14	V上	1	b2	カ	-	-	0.30	0.07	0.30	0.07	0.07	N523
SK385	G1i13	V上	1	b3	ウ	-	-	0.15	0.06	0.14	0.04	0.10	N545
SK386	G1i13	V上	1	b3	ア	-	-	0.20	0.09	0.20	0.08	0.11	N546
SK387	G1i13	V上	1	b3	ウ	-	-	0.16	0.05	0.15	0.03	0.10	N547
SK388	G1i12	V上	1	d	エ	-	-	0.73	0.41	(0.21)	(0.10)	0.19	N692
SK389	G1i13-14	V上	1	b3	ウ	CP3 (SH1)	-	0.19	0.11	0.15	0.02	0.07	N551
SK390	G1i13	V上	1	b2	ア	-	-	0.29	0.12	0.29	0.07	0.09	N553
SK391	G1i13	V上	1	b2	ア	-	-	0.27	0.10	0.25	0.08	0.35	N561
SK392	G1i13	V上	1	a	ア	-	-	0.48	0.22	0.43	0.22	0.03	N564
SK393	G1i13	V上	1	b3	カ	<P13 (SH2)	-	0.58	0.38	0.54	0.29	0.51	N566
SK394	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.33	0.25	0.33	0.24	0.14	N346
SK395	H1a13	V上	1	b2	エ	-	-	0.41	0.25	0.38	0.23	0.14	N347
SK396	H1a13	V上	1	a	ア	-	-	0.18	0.08	0.17	0.07	0.07	N349
SK397	H1a13	V上	1	a	ア	-	-	0.24	0.17	0.17	0.12	0.06	N350
SK398	H1a13	V上	1	a	カ	-	>SK399	0.20	0.13	0.18	0.13	0.05	N351
SK399	H1a13	V上	1	b2	エ	<SK398	-	0.43	0.38	(0.34)	0.22	0.05	N352
SK400	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.23	0.10	0.20	0.10	0.08	N353
SK401	H1a13	V上	1	b2	カ	-	-	0.49	0.15	0.38	0.21	0.19	N354
SK402	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.21	0.09	0.19	0.11	0.11	N355
SK403	H1a13	V上	1	a	カ	-	-	0.37	0.05	0.21	0.05	0.10	N356
SK404	H1a13	V上	1	b2	ウ	-	-	0.28	0.14	0.26	0.15	0.16	N357
SK405	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.14	0.07	0.14	0.07	0.08	N358
SK406	H1a13	V上	1	b3	ア	-	-	0.24	0.15	0.24	0.13	0.09	N359
SK407	H1a13	V上	1	a	ウ	-	-	0.16	0.05	0.15	0.06	0.06	N367
SK408	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.38	0.16	0.29	0.12	0.25	N369
SK409	H1a13	V上	1	a	カ	-	-	0.15	0.07	0.15	0.05	0.07	N371
SK410	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.24	0.11	0.19	0.10	0.15	N372
SK411	H1a13	V上	1	a	エ	-	-	0.20	0.09	0.18	0.10	0.06	N373
SK412	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.20	0.14	0.17	0.13	0.35	N374
SK413	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.30	0.22	0.29	0.21	0.17	N375
SK414	H1a13	V上	1	b4	ア	-	>SK418	0.30	0.15	0.24	0.13	0.14	N383
SK415	H1a13	V上	1	d	エ	-	>SK416	0.34	0.18	0.22	0.13	0.26	N385
SK416	H1a13	V上	1	d	エ	<SK415	-	1.10	0.89	0.37	0.23	0.18	N386
SK417	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	0.19	0.10	0.18	0.09	0.06	N387
SK418	H1a13	V上	1	d	ア	<SK414	-	(0.28)	0.08	0.22	0.15	0.19	N388
SK419	H1a13	V上	1	b2	ア	-	-	(0.38)	0.13	0.35	0.11	0.21	N491
SK420	H1a13	V上	1	a	ア	-	-	0.25	0.12	0.20	0.12	0.08	N492
SK421	H1a13	V上	1	a	ア	-	-	0.27	0.10	0.22	0.08	0.05	N493
SK422	H1a13	V上	3	b3	ア	-	>SK430	0.84	0.44	0.52	0.28	0.49	N494
SK423	H1a13	V上	1	a	ア	-	-	0.28	0.13	0.22	0.11	0.09	N496
SK424	H1a13	V上	1	a	ア	<P7 (SH1)	-	0.25	0.11	(0.15)	(0.11)	0.08	N497
SK425	H1a13	V上	1	a	ア	-	-	0.43	0.24	0.25	0.11	0.32	N502
SK426	H1a-b13	V上	1	a	ア	-	-	0.78	0.59	(0.19)	(0.14)	0.40	N505
SK427	H1a13	V上	1	d	カ	-	-	0.60	0.14	0.54	0.13	0.51	N518
SK428	H1a13	V上	1	b3	ウ	-	-	0.45	0.18	(0.23)	(0.10)	0.12	N519
SK429	H1a13	V上	1	a	ア	-	-	0.45	0.38	(0.19)	(0.14)	0.05	N520
SK430	H1a13	V上	1	a	ア	<SK422	-	(0.15)	(0.12)	0.14	0.07	0.03	N521
SK431	H1a13	V上	1	b2	エ	-	-	0.25	0.11	0.20	0.11	0.24	N568
SK432	H1b13	V上	1	b2	カ	-	-	0.35	0.15	(0.21)	(0.09)	0.38	N567
SK433	G1a-i14-15	V上	2	b2	ア	-	>SD11	1.97	1.64	1.51	1.44	0.14	N177
SK434	G1i14	V上	1	b3	ア	-	-	0.37	0.13	0.36	0.20	0.27	N206
SK435	G1i14	V上	1	a	カ	-	-	0.19	0.09	0.18	0.08	0.05	N207
SK436	G1i14	V上	1	b3	ウ	-	>SK38	0.46	0.19	0.26	0.13	0.21	N208
SK437	G1i14	V上	3	b2	キ	-	>SK438	1.00	0.35	0.49	0.18	0.12	N209
SK438	G1i14	V上	1	a	エ	<SK437	-	0.33	0.22	(0.27)	(0.17)	0.27	N210
SK439	G1i14	V上	1	a	ア	-	-	0.16	0.09	0.15	0.07	0.05	N211
SK440	G1i14	V上	1	b3	ア	-	-	0.21	0.13	0.19	0.09	0.18	N212
SK441	G1i14	V上	1	b2	ア	-	-	0.20	0.10	0.18	0.10	0.12	N213
SK442	G1i14	V上	1	b3	エ	-	-	0.42	0.10	0.19	0.12	0.32	N214

表14　遺構観察表（7）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ	掲載番号
SK443	G11i4	V上	1	b3	エ	-	-	0.27	0.13	0.25	0.14	0.21	第215
SK444	G11i4	V上	1	b2	ア	-	-	0.28	0.14	0.25	0.14	0.16	第235
SK445	G11i4	V上	3	b4	カ	-	>SK453	1.64	0.17	1.05	0.17	0.43	第218
SK446	G11i4	V上	3	c	カ	-	>SP69/71	1.35	0.39	1.00	0.38	0.49	第219
SK447	G11i4	V上	1	b2	エ	-	-	0.51	0.23	0.36	0.24	0.49	第221
SK448	G11i4	V上	1	b3	ア	<P10(SH2)	-	0.40	0.16	0.39	0.16	0.36	第224
SK449	G11i4	V上	1	b3	エ	-	>P3(SH1)	0.23	0.07	0.17	0.08	0.09	第226
SK450	G11i4	V上	1	b2	ア	-	-	0.21	0.11	0.19	0.09	0.18	第228
SK451	G11i4	V上	3	b3	エ	-	>SP71, SK453	0.79	0.31	0.61	0.41	0.40	第230
SK452	G11i4	V上	1	b3	ア	<SK381	-	(0.26)	(0.19)	0.30	0.14	0.39	第232
SK453	G11i4	V上	2	b2	エ	<SK446/451, P18(SH3)	>SK455	1.98	1.80	1.24	1.10	0.07	第234
SK454	G11i4	V上	1	b2	ア	-	-	0.27	0.13	0.23	0.12	0.23	第235
SK455	G11i4	V上	1	b2	ア	-	-	0.22	0.08	0.21	0.09	0.11	第236
SK456	G11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.19	0.11	0.18	0.12	0.11	第237
SK457	G11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.24	0.14	0.20	0.11	0.05	第238
SK458	G11i4	V上	1	b2	ア	-	-	0.27	0.10	0.27	0.09	0.27	第244
SK459	G11i4	V上	1	b2	カ	-	-	0.24	0.10	0.21	0.09	0.13	第245
SK460	G11i4	V上	1	b2	ア	-	-	0.37	0.11	0.33	0.10	0.27	第247
SK461	G11i4	V上	1	d	エ	<P15(SH3)	-	(0.20)	(0.16)	0.24	0.09	0.11	第255
SK462	G11i4	V上	3	b4	キ	-	-	0.60	0.23	0.40	0.17	0.28	第529
SK463	G11i4	V上	1	b2	ア	-	-	0.50	0.19	0.43	0.18	0.20	第539
SK464	G11i4	V上	1	d	エ	-	-	0.22	0.11	0.22	0.11	0.24	第540
SK465	G11i4	V上	1	b3	ア	<SK453	-	0.54	0.13	0.21	0.10	0.31	第541
SK466	G11i4	V上	1	d	エ	-	>P18(SH4)	0.27	0.07	0.24	0.09	0.20	第542
SK467	H11i08	II上	1	b2	ア	-	-	(0.62)	(0.72)	1.02	0.81	0.20	第603
SK468	G11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.18	0.08	0.16	0.03	0.12	第544
SK469	G11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.19	0.07	0.19	0.07	0.03	第559
SK470	G11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.22	0.10	0.20	0.08	0.09	第560
SK471	G-H11-a14	V上	1	b3	エ	<SP75/90	-	0.43	0.31	0.40	0.28	0.08	第602
SK472	G11i4	V上	1	a	ウ	-	-	0.27	0.10	0.22	0.09	0.07	第603
SK473	G11i4	V上	1	b2	ア	-	>SK474	0.17	0.09	0.16	0.07	0.13	第605
SK474	G11i4	V上	1	d	エ	<SK473	-	0.11	0.07	0.11	0.05	0.07	第606
SK475	G11i4	V上	1	b3	カ	-	-	0.28	0.13	0.27	0.12	0.32	第607
SK476	G11i4	V上	1	b3	ア	<SP78	-	0.28	0.17	0.28	0.11	0.41	第621
SK477	G11i4	V上	1	b2	ア	-	>SK478	0.20	0.12	0.18	0.10	0.12	第622
SK478	G11i4	V上	1	b2	ア	<SP78, SK477	-	0.28	0.10	0.23	0.07	0.28	第623
SK479	G11i4	V上	1	b2	カ	-	>SK480	0.51	0.17	0.43	0.12	0.17	第624
SK480	G11i4	V上	1	a	ア	<SK479	-	(0.29)	(0.22)	0.25	0.16	0.02	第625
SK481	G11i4	V上	1	b3	カ	-	-	0.48	0.11	0.34	0.10	0.54	第626
SK482	G11i2	V上	1	b3	エ	<SK490	-	(0.62)	(0.42)	0.53	0.32	0.35	第690
SK483	H11i4	V上	1	b1	エ	-	-	0.68	0.38	0.34	0.19	0.10	第241
SK484	H11i4	V上	1	b3	ア	-	-	0.29	0.16	0.27	0.15	0.18	第528
SK485	H11i4	V上	1	b3	エ	-	-	0.23	0.15	0.21	0.10	0.14	第577
SK486	H11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.20	0.10	0.19	0.08	0.08	第579
SK487	H11i4	V上	1	b2	ア	-	>SK488	0.25	0.18	0.22	0.13	0.38	第580
SK488	H11i4	V上	1	b3	ア	<SK487	-	0.26	0.12	0.20	0.11	0.14	第581
SK489	H11i4	V上	1	b4	エ	-	-	0.63	0.40	0.49	0.19	0.30	第584
SK490	G1i-12	V上	1	b3	エ	-	>SK482	1.83	1.66	1.51	1.26	0.35	第691
SK491	H11i4	V上	1	b2	ア	<P22(SH4)	-	(0.25)	(0.12)	(0.12)	(0.08)	0.10	第586
SK492	H11i4	V上	1	b3	カ	<P22(SH4), SP84	-	(0.32)	(0.26)	(0.22)	(0.17)	0.06	第588
SK493	H11i4	V上	1	d	エ	<SP84	-	0.49	0.30	0.40	0.13	0.54	第589
SK494	H11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.25	0.09	0.16	0.09	0.10	第593
SK495	H11i4	V上	1	b3	エ	-	-	0.17	0.10	0.11	0.09	0.21	第594
SK496	H11i4	V上	1	b2	カ	-	-	0.48	0.08	0.29	0.04	0.31	第596
SK497	H11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.38	0.10	0.17	0.04	0.02	第597
SK498	H11i4	V上	1	a	ア	<SP89	-	0.19	0.07	0.18	0.05	0.04	第598
SK499	H11i4	V上	1	b3	ア	<SP93	-	0.20	0.06	0.11	0.02	0.32	第612
SK500	H11i4	V上	1	a	ア	-	-	0.22	0.13	0.18	0.10	0.02	第613
SK501	H11i4	V上	1	b2	ア	-	-	0.18	0.07	0.18	0.07	0.22	第614
SK502	H11i4	V上	1	b3	カ	-	-	0.26	0.05	(0.16)	(0.07)	0.36	第615
SK503	H11i4	V上	1	b2	ア	-	>SK504	0.29	0.18	0.25	0.14	0.30	第616
SK504	H11i4	V上	1	b3	ア	<SK503	-	0.30	0.20	(0.10)	0.05	0.28	第617
SK505	H11i4	V上	1	b2	エ	-	>SK506	0.28	0.16	0.18	0.12	0.09	第618
SK506	H11i4	V上	1	a	ア	<SK505	-	0.15	0.08	(0.11)	(0.06)	0.08	第619
SK507	H11i4-15	V上	1	b3	カ	-	-	0.22	0.06	0.15	0.02	0.20	第627
SK508	H11i4	V上	3	b3	ア	<SP94	>SK509	0.62	0.22	0.56	0.30	0.16	第633
SK509	H11i4	V上	2	b3	ア	<SK508	>P6(SH1)	0.41	0.10	(0.31)	0.10	0.36	第634
SK510	G1i15	V上	1	b3	ア	-	-	0.49	0.34	0.41	0.20	0.16	第557
SK511	G1i15	V上	1	b3	ア	-	>SK512	0.26	0.11	0.24	0.11	0.32	第204
SK512	G1i15	V上	1	a	ア	<SK511	-	(0.45)	(0.24)	(0.16)	(0.08)	0.17	第205
SK513	G1i15	V上	2	b4	キ	-	>SD11	(1.18)	(0.69)	1.74	0.65	0.74	第210
SK514	G1i18	V上	1	b3	エ	<SD11	-	0.28	0.15	0.22	0.14	0.19	第558
SK515	G-H1i-a18	V上	1	b3	ア	-	-	0.21	0.08	(0.15)	(0.08)	0.30	第628
SK516	G1i18	V上	1	b3	ア	<P21 (SH4)	-	0.75	0.60	(0.18)	(0.13)	0.14	第630
SK517	H1i07-08	IV上	1	b2	ア	-	-	(0.72)	(0.65)	0.90	0.87	0.34	第645
SK518	G-H1i-a08-09	IV上	1	b2	カ	<SK528/552	>SK529	3.26	2.15	(2.08)	1.12	0.77	第724
SK519	H1a-b08	IV上	1	b3	エ	-	-	0.30	0.19	0.29	0.18	0.21	第646
SK520	H1a08	IV上	1	b4	キ	-	-	(0.92)	(0.54)	0.98	0.62	0.24	第647
SK521	H1a08	IV上	1	b3	ア	-	-	0.16	0.06	0.15	0.05	0.27	第651
SK522	H1a08	IV上	1	b2	ア	<SP96	-	0.25	0.13	(0.20)	(0.16)	0.08	第655
SK523	H1a08	IV上	1	b3	カ	-	-	0.47	0.21	0.25	0.09	0.35	第658
SK524	H1a08	IV上	1	b3	ア	-	-	0.31	0.19	0.30	0.06	0.17	第660
SK525	H1a-b08	IV上	1	b2	カ	-	-	0.32	0.12	0.26	0.10	0.27	第695
SK526	H1a08-09	IV上	1	b2	キ	-	>SK527	1.36	0.76	1.14	0.56	0.20	第710

表15　遺構観察表（8）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ高さ	旧番号
SK527	H1a-b08-09	Ⅳ上	1	b4	カ	<SK526	-	2.06	(2.01)	(1.59)	(1.37)	0.07	N711
SK528	H1a08	Ⅳ上	1	b3	ア	-	>SK518	(1.08)	0.62	0.90	0.28	0.18	N719
SK529	H1a08-09	Ⅳ上	1	b2	ア	<SK518	-	1.24	1.05	0.73	0.40	0.14	N727
SK530	H1a-b08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.43	0.21	0.40	0.17	0.26	N754
SK531	H1b08	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.20	0.12	0.17	0.10	0.28	N649
SK532	H1b08	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.16	0.09	0.15	0.09	0.23	N650
SK533	H1b08	Ⅳ上	1	b2	ア	<SD13	-	0.21	0.09	(0.21)	(0.08)	0.19	N653
SK534	H1b08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.25	0.10	0.24	0.10	0.29	N693
SK535	H1b08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.21	0.15	0.21	0.12	0.15	N697
SK536	H1b08	Ⅳ上	1	b2	カ	-	>SK537	0.30	0.24	0.30	0.05	0.17	N698
SK537	H1b08	Ⅳ上	1	b2	ア	<SK536, SD12	-	1.02	0.79	0.80	0.33	0.25	N699
SK538	H1b08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.38	0.16	0.30	0.10	0.50	N729
SK539	H1b08	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.20	0.08	0.20	0.07	0.12	N756
SK540	G-H1t-a09-10	Ⅳ上	3	b4	イ	-	>SK564	3.64	1.54	3.58	3.22	2.08	N288
SK541	G1t09	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.46	0.16	0.39	0.15	0.16	N718
SK542	G1t09	Ⅳ上	1	b4	エ	-	>SK543	-	(1.51)	(0.58)	(0.37)	0.24	N725
SK543	G1t09	Ⅳ上	1	b2	カ	<SK542	-	(0.33)	(0.09)	(0.15)	(0.07)	0.18	N726
SK544	H1a09	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.45	0.23	0.30	0.13	0.25	N712
SK545	H1a09	Ⅳ上	1	b1	ア	-	-	0.30	0.08	0.27	0.08	0.28	N714
SK546	H1a09	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	1.24	0.43	0.92	0.29	0.31	N715
SK547	H1a09	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.31	0.18	0.28	0.15	0.27	N716
SK548	H1a09	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.23	0.11	0.22	0.11	0.10	N717
SK549	H1a09	Ⅳ上	1	b1	ア	-	-	(0.18)	0.19	(0.12)	0.09	0.21	N720
SK550	H1a09	Ⅳ上	1	b3	エ	-	-	(0.32)	0.15	0.25	0.15	0.39	N721
SK551	H1a09	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	(0.76)	0.40	(0.66)	0.10	0.21	N722
SK552	H1a09	Ⅳ上	1	b2	ア	-	>SK518	1.16	0.65	1.02	0.52	0.23	N723
SK553	H1a09	Ⅳ上	1	b3	エ	-	-	0.23	0.15	0.18	0.11	0.13	N745
SK554	H1a-b09	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.28	0.10	0.24	0.09	0.24	N753
SK555	H1b09	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.84	0.47	0.81	0.38	0.23	N661
SK556	H1b09	Ⅳ上	1	b2	ウ	-	-	1.12	0.86	0.32	0.14	0.20	N702
SK557	H1b09	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.31	0.15	0.25	0.08	0.28	N705
SK558	H1b09	Ⅳ上	1	b3	エ	-	-	0.64	0.28	0.31	0.10	0.14	N706
SK559	H1b09	Ⅳ上	1	a	ウ	-	-	0.28	0.15	0.27	0.12	0.11	N708
SK560	H1b09	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.26	0.14	0.24	0.13	0.06	N709
SK561	H1b09	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.20	0.08	0.20	0.06	0.07	N728
SK562	H1b09	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.19	0.11	0.17	0.10	0.03	N752
SK563	G1s10	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.28	0.06	0.24	0.06	0.10	N736
SK564	G-H1t-a10	Ⅳ上	3	b2	イ	<SK540	>SB3-SK5	(4.48)	(3.18)	2.50	1.56	1.78	N734
SK565	G1s11	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.28	0.15	0.23	0.10	0.15	N680
SK566	G1s11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.24	0.13	0.16	0.11	0.07	N681
SK567	G1s11-12	Ⅳ上	1	b3	エ	<SK568	-	1.49	1.57	1.28	0.96	0.93	N682
SK568	G1s11	Ⅳ上	1	a	ア	-	>SK567	0.34	0.20	0.24	0.18	0.34	N683
SK569	G1s11	Ⅳ上	1	b2	カ	-	-	0.37	0.11	0.30	0.10	0.16	N684
SK570	G1s11	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.23	0.07	0.22	0.07	0.06	N738
SK571	G1s11	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.25	0.13	0.21	0.12	0.20	N739
SK572	G-H1s-a11	Ⅳ上	2	b1	イ	-	-	7.22	6.60	3.36	2.70	0.12	N744
SK573	G1s11	Ⅳ上	1	b3	ア	-	-	0.32	0.17	0.16	0.05	0.28	N763
SK574	G1t11	Ⅳ上	1	d	エ	-	-	0.35	0.15	(0.24)	(0.14)	0.25	N636
SK575	G1s12	Ⅳ上	1	b2	ア	-	-	0.33	0.18	0.25	0.15	0.39	N685
SK576	G1s12	Ⅳ上	1	a	ウ	-	-	1.33	1.22	0.28	0.10	0.12	N686
SK577	G1s12	Ⅳ上	1	a	ア	-	-	0.20	0.10	0.20	0.08	0.10	N687
SK578	G1s12	Ⅳ上	1	b3	ア	-	>SP108	0.41	0.20	0.33	0.18	0.43	N688
SP1	H1c06	Ⅳ上	1	c	エ	-	-	0.42	0.21	0.35	0.19	0.23	N007
SP2	H1c06	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.32	0.26	0.19	0.08	0.24	N008
SP3	H1c06	Ⅳ上	1	c	エ	-	-	0.25	0.09	0.20	0.07	0.25	N009
SP4	H1c06	Ⅳ上	1	c	エ	-	>SK1/2	0.22	0.10	0.20	0.09	0.28	N011
SP5	H1b07	Ⅳ上	1	c	ウ	-	-	0.27	0.11	0.24	0.10	0.16	N031
SP6	H1b07	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.40	0.22	0.39	0.24	0.28	N032
SP7	H1b07	Ⅳ上	1	c	ア	<SD1	-	0.33	0.14	0.20	0.13	0.37	N042
SP8	H1c07	Ⅳ上	1	c	エ	-	-	0.20	0.12	0.18	0.10	0.23	N013
SP9	H1c07	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.43	0.23	0.42	0.14	0.36	N014
SP10	H1c07	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.30	0.15	0.29	0.17	0.43	N015
SP11	H1c07	Ⅳ上	1	c	エ	-	-	0.39	0.15	0.33	0.19	0.23	N016
SP12	H1c07	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.26	0.14	0.23	0.15	0.17	N047
SP13	H1c07	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.24	0.13	0.21	0.07	0.22	N080
SP14	H1c07	Ⅳ上	1	c	ウ	-	-	0.34	0.13	0.34	0.13	0.35	N113
SP15	H1c07	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.29	0.90	0.26	0.13	0.19	N115
SP16	H1d07	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.32	0.14	0.23	0.12	0.36	N088
SP17	H1d07	Ⅳ上	1	c	ア	<SK52	>SK60	0.37	0.20	0.33	0.22	0.29	N096
SP18	H1d07	Ⅳ上	1	c	イ	<SK51/52	-	0.34	0.17	0.22	0.12	0.18	N485
SP19	H1e07	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	(0.13)	(0.05)	0.19	0.06	0.39	N176
SP20	H1b08	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.29	0.15	0.28	0.12	0.48	N293
SP21	H1b08	Ⅳ上	1	c	ア	<SK13	-	0.18	0.11	0.15	0.12	0.39	N296
SP22	H1d08	Ⅳ上	1	c	エ	<SK84	-	(0.30)	0.14	0.26	0.12	0.15	N101
SP23	H1d08	Ⅳ上	1	c	エ	-	-	0.48	0.26	0.40	0.23	0.28	N108
SP24	H1d08	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.27	0.09	0.24	0.09	0.44	N122
SP25	H1d08	Ⅳ上	1	c	エ	-	-	0.34	0.20	0.31	0.16	0.17	N123
SP26	H1d08	Ⅳ上	1	c	エ	-	>SK99	0.42	0.24	0.36	0.13	0.25	N161
SP27	H1d08	Ⅳ上	1	c	カ	-	-	0.31	0.14	0.30	0.14	0.18	N488
SP28	H1e08	Ⅳ上	1	c	カ	-	>SK103	0.83	0.21	0.59	0.49	0.80	N130
SP29	H1e08	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.26	0.14	0.26	0.13	0.21	N133
SP30	H1e08	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.33	0.20	0.30	0.16	0.58	N168
SP31	H1e08	Ⅳ上	1	c	ア	-	-	0.23	0.11	0.22	0.11	0.15	N171
SP32	H1c09	Ⅳ上	1	c	カ	-	>SK138	0.37	0.23	0.32	0.21	0.14	N307

表16　遺構観察表（9）

遺構番号	グリッド	検出位置	平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	深さ	計番号
SF93	Hi-09	Ⅳ上	1	e	イ	-	-	0.48	0.10	0.33	0.12	0.23	N313
SF94	Hi-09	Ⅳ上	1	e	カ	-	-	0.25	0.16	0.24	0.17	0.13	N317
SF95	Hi-09	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.22	0.07	0.20	0.08	0.13	N338
SF96	Hi-09	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.30	0.12	0.30	0.12	0.38	N466
SF97	Hi-09	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.45	0.32	0.40	0.30	0.13	N469
SF98	Hi-09	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.35	0.15	0.34	0.12	0.15	N470
SF99	Hi-10	Ⅳ上	1	e	カ	-	-	0.30	0.16	0.29	0.15	0.18	N181
SF40	Hi-10	Ⅳ上	1	e	不	-	-	0.27	0.08	0.23	0.09	0.51	N191
SF41	Hi-10	Ⅳ上	1	e	不	-	-	0.46	0.32	0.35	0.12	0.29	N193
SF42	Hi-10	Ⅳ上	1	e	ア	-	>SK213	0.44	0.23	0.38	0.26	0.57	N194
SF43	Gi-11	Ⅳ上	1	e	ア	-	>SK249	0.36	0.12	0.32	0.16	0.24	N467
SF44	Gi-11	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.22	0.11	0.22	0.08	0.24	N964
SF45	Gi-11	Ⅳ上	1	e	カ	<SK256	-	0.59	0.33	0.50	0.24	0.31	N967
SF46	Gi-a11	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.22	0.12	0.19	0.08	0.31	N110
SF47	Gi-12	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.35	0.16	0.35	0.11	0.26	N468
SF48	Ha-12	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.35	0.21	0.34	0.18	0.20	N364
SF49	Ha-12-13	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.21	0.08	0.20	0.08	0.19	N370
SF50	Ha-12	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.22	0.09	0.21	0.13	0.10	N379
SF51	Hi-12	Ⅴ上	1	e	カ	-	-	0.30	0.14	0.24	0.08	0.24	N391
SF52	Hi-12	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.33	0.17	0.26	0.16	0.19	N398
SF53	Hi-12	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.30	0.13	0.30	0.12	0.34	N404
SF54	Hi-12	Ⅴ上	1	e	不	<SK328	-	0.42	0.16	0.37	0.05	0.25	N511
SF55	Hi-12	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.34	0.21	0.32	0.19	0.26	N362
SF56	Hi-12	Ⅴ上	1	e	不	-	-	0.21	0.14	(0.12)	(0.07)	0.23	N408
SF57	Hi-12	Ⅴ上	1	e	カ	-	-	0.28	0.19	(0.24)	(0.12)	0.26	N409
SF58	Gi-13	Ⅴ上	1	e	ア	<SK348	-	0.28	0.14	0.27	0.14	0.21	N154
SF59	Gi-13	Ⅴ上	3	e	カ	-	>SK362	1.14	0.96	0.75	0.56	0.39	N260
SF60	Gi-13	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.28	0.13	0.25	0.12	0.16	N548
SF61	Gi-13	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.48	0.15	0.35	0.10	0.78	N554
SF62	Gi-13	Ⅴ上	1	e	カ	<SK311	-	0.37	0.14	0.36	0.13	0.18	N562
SF63	Hi-13	Ⅴ上	3	e	ア	-	-	0.93	0.38	0.74	0.27	0.74	N345
SF64	Hi-13	Ⅴ上	1	e	不	-	-	0.41	0.23	0.40	0.23	0.44	N348
SF65	Hi-13	Ⅴ上	1	e	不	-	-	0.32	0.21	0.26	0.21	0.29	N382
SF66	Hi-13	Ⅴ上	1	e	カ	-	-	0.60	0.13	0.48	0.08	0.52	N490
SF67	Hi-13	Ⅴ上	1	e	不	-	-	(0.23)	(0.10)	0.37	0.25	0.32	N360
SF68	Gi-14	Ⅴ上	1	e	不	-	-	0.54	0.25	0.46	0.21	0.72	N217
SF69	Gi-14	Ⅴ上	1	e	ア	<SK446	-	0.29	0.16	0.25	0.14	0.32	N220
SF70	Gi-14	Ⅴ上	1	e	不	<SD11	-	(0.44)	(0.32)	0.28	0.18	0.24	N222
SF71	Gi-14	Ⅴ上	1	d	不	<SK446/451	-	(0.21)	0.11	0.19	0.09	0.34	N229
SF72	Gi-14	Ⅴ上	3	e	カ	-	-	0.80	0.26	0.61	0.21	0.62	N239
SF73	Gi-14	Ⅴ上	1	e	不	-	-	0.34	0.12	0.30	0.20	0.24	N524
SF74	Gi-14	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.16	0.08	0.15	0.07	0.22	N549
SF75	G-Hi-a14	Ⅴ上	1	e	カ	-	>SK471	0.49	0.14	0.32	0.12	0.31	N601
SF76	Gi-14	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.23	0.13	0.21	0.13	0.17	N604
SF77	G-Hi-a14	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.39	0.17	0.28	0.12	0.40	N608
SF78	Gi-14	Ⅴ上	1	e	カ	-	>SK476	0.34	0.06	0.32	0.05	0.38	N620
SF79	Hi-14	Ⅴ上	1	e	カ	-	-	0.54	0.22	0.50	0.12	0.49	N327
SF80	Hi-14	Ⅴ上	1	e	不	-	-	0.30	0.19	0.30	0.17	0.32	N376
SF81	Hi-14	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.30	0.13	0.29	0.10	0.30	N378
SF82	Hi-14	Ⅴ上	1	e	カ	-	-	0.47	0.15	0.23	0.14	0.38	N382
SF83	Hi-14	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.26	0.18	0.23	0.10	0.26	N383
SF84	Hi-14	Ⅴ上	1	e	ア	<P22(SB4)	>SK493	0.45	0.32	(0.35)	0.21	0.69	N387
SF85	Hi-14	Ⅴ上	1	e	不	-	>SP86	0.41	0.28	0.40	0.25	0.64	N390
SF86	Hi-14	Ⅴ上	1	e	カ	<SP85	-	0.47	0.32	(0.38)	(0.22)	0.55	N391
SF87	Hi-14	Ⅴ上	1	e	不	-	-	0.60	0.37	0.58	0.24	0.61	N392
SF88	Hi-14	Ⅴ上	1	e	イ	-	-	0.35	0.18	0.32	0.18	0.28	N395
SF89	Hi-14	Ⅴ上	3	e	カ	-	>SK498	0.45	0.16	0.33	0.12	0.34	N599
SF90	Hi-14	Ⅴ上	1	e	不	-	>SK471	0.65	0.47	0.61	0.31	0.58	N600
SF91	Hi-14	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.31	0.22	0.28	0.16	0.29	N609
SF92	Hi-14	Ⅴ上	1	e	ア	-	-	0.26	0.15	0.20	0.10	0.24	N610
SF93	Hi-14	Ⅴ上	1	e	カ	-	>SK499	0.48	0.11	0.29	0.11	0.40	N611
SF94	Hi-14	Ⅴ上	1	e	ア	-	>SK508	0.63	0.30	0.55	0.22	0.76	N632
SF95	Gi-15	Ⅴ上	1	e	カ	-	-	0.62	0.10	(0.19)	(0.10)	0.36	N631
SF96	Ha-08	Ⅳ上	1	e	ア	-	>SK522	0.39	0.29	0.33	0.25	0.24	N654
SF97	Ha-08	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.26	0.18	0.22	0.09	0.17	N656
SF98	Ha-08	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.24	0.12	0.21	0.08	0.22	N657
SF99	Ha-08	Ⅳ上	1	e	不	-	-	0.23	0.17	0.20	0.09	0.22	N659
SF100	Ha-b08	Ⅳ上	1	e	不	-	-	0.21	0.16	0.16	0.10	0.26	N694
SF101	Hi-b08	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.23	0.09	0.20	0.07	0.29	N648
SF102	Hi-b08	Ⅳ上	1	e	不	-	-	0.33	0.23	0.24	0.16	0.09	N696
SF103	Hi-b08	Ⅳ上	1	e	不	-	-	0.25	0.19	0.23	0.12	0.16	N701
SF104	Hi-b08-09	Ⅳ上	1	e	ア	-	-	0.21	0.13	0.21	0.06	0.15	N703
SF105	Ha-09	Ⅳ上	1	e	不	-	-	0.30	0.18	0.21	0.06	0.25	N713
SF106	Hi-09	Ⅳ上	1	e	カ	-	-	0.36	0.15	0.30	0.14	0.32	N707
SF107	Gi-10	Ⅳ上	1	e	不	-	-	0.41	0.13	0.30	0.10	0.37	N737
SF108	Gi-i12	Ⅴ上	1	e	カ	<SK578	-	0.38	0.05	0.32	0.05	0.31	N689
SU1	Ha11	盛中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	N112
SV1	Gi-i15	Ⅴ上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	N303
SV1	Ha07-09	Ⅰ下	-	-	-	-	-						N002
SW2	G-Hi-b07-09	Ⅳ上	2	b1	イ	-	-	(13.30)	(13.10)	(6.90)	(5.80)	0.32	N730
SZ 1	Hi-b-c08	Ⅱ上	2	b2	イ	-	>SK79	1.97	2.47	1.79	2.00	0.23	N004

※規模の単位は2メートルである。

表17　出土遺物数一覧表（1）

遺構番号	縄文土器	弥生・土師器	須恵器	白磁瓦	灰釉陶器	中近世陶器	中近世土師器	近世以降の瓦	石器・石製品	金属製品	その他	合計
P1(SH1)						3	7					10
P4(SH1)						1	2					3
P6(SH1)		2				3	1		1			7
P14(SH3)							1					1
P15(SH3)		1										1
P18(SH4)						1						1
P19(SH4)						3						3
P21(SH4)		3	2			12	4		1		1	23
P22(SH4)						2	2				3	7
SH1		65	11	58			1			1	7	143
SH1-SD1		2		1		2						5
SH1-SF1		21	1			2	2				3	29
SH1-SK2							2					2
SH1-SK7		2		1								3
SH2		4	1				1					6
SH2-SD1		4	1									5
SH3		32				4			1			37
SH3-SK5							1					1
SH4						3	2					5
SD4			1			5	20			2		28
SD6			5		1	16	4					26
SH7		1				4						5
SD8		12	12	18		265	18	120	9	6	5	465
SD9			1				1					2
SD10		4	4	12		48	12	107	1			188
SD11		2	2	3		38	36	3		1		85
SD12						3						3
SK2								1				1
SK3		2	4			59	11	49		1		126
SK5		1										1
SK6		1										1
SK7		1		2		2	4					9
SK9		13										13
SK13			1			3						4
SK14		1	1			7	9					18
SK16						2						2
SK17		1	1									2
SK18							1					1
SK20						7						7
SK33						1						1
SK38						8	4					12
SK39		1	2	1		25	42				5	76
SK41			1			4	10	1	1		1	18
SK46				1		1	1					3
SK50							1					1
SK51						1	1					2
SK57		1	1			10			1			13
SK62						4		3				7
SM69						1	1					2
SK70				1		2	1					4
SK71						1						1
SK73						1						1
SK74			2				2					4
SK77			1			3						4
SK79		2	6	8		33	12					58
SD92										1		1
SK95		1				7	2					10
SK101							1					1
SK116							1					1
SK137						1						1
SK150						1						1
SK165						1						1
SK172			2									2
SK174		1	3	1								5
SK178		9	5	1		17	9					41
SK186		2										2
SK189		1	2	1		4	9				1	18
SK194				2		3	1					6
SK196			2			2						4
SK199						1						1
SK201							4					4
SK204			1			1						2
SK206							1					1
SK210			1									1
SK215				1		1	8					10
SK230		1										1
SK231			1									1
SK248						1						1
SK255		2	1									3
SK274				1								1
SK275		5										5
SK276			1			2	3			1		7
SK277						1						1
SK281		1										1
SK282		2		1		8	7					18
SK283		22	10	8	1	54	4	4		1	1	105
SK284		1										1
SK285		5										5
SK295						1						1
SK298								2				2
SK300			1	3		1	1					6

表18　出土遺物数一覧表（2）

遺構番号	縄文土器	弥生・土師器	須恵器	白磁瓦	灰釉陶器	中近世陶磁器	中近世土師器	近世以降の瓦	石器・石製品	金属製品	その他	合計
SK303						8	5					13
SK349						1	1					2
SK354						6						6
SK365						7	3			1		11
SK377						2		1				3
SK379						1						1
SK391		2				2						4
SK392						1						1
SK399						1						1
SK412		1										1
SK424						3						3
SK428						1	4					5
SK433			1			17	3	2			1	24
SK435							1					1
SK445						2	5			1		8
SK446						2						2
SK447					1							1
SK448						1	1					2
SK453						1	10				1	12
SK457		1										1
SK458						4	7			1		12
SK459							1			1		2
SK467			1			9		22		3		35
SK472							1					1
SK473							1					1
SK475							1					1
SK476							1					1
SK477						1						1
SK479						1						1
SK486						1						1
SK487						1						1
SK490						3		1				4
SK493							1					1
SK495							1					1
SK502								2				2
SK509							1			1		2
SK512			1									1
SK513			1	1		5		1			1	9
SK517						1						1
SK518		5	1			24	47		1			78
SK526							6					6
SK527						1						1
SK529							3					3
SK536		2										2
SK537						1						1
SK540		71	29	17	1	89	26	1	2	1		237
SK543						1	2					3
SK546			1							2		3
SK552		1				2						3
SK555			1			1	4					6
SK564		18		2		9	1					30
SK567			1			2						3
SK572		3										3
SK574		1				1						2
SP6		1										1
SP8											1	1
SP11		1				1		1				3
SP12						1						1
SP17							3					3
SP23		3										3
SP28						2						2
SP50							1					1
SP54				1								1
SP61							3					3
SP78		1										1
SP79						1	2					3
SP84						1	1					2
SP89						1						1
SP90						3	6					9
SP91		1					1					2
SP94							2					2
SP95		1										1
SP96			1									1
SP101		1										1
SP105						3						3
SD3			3	2								5
SD2						10			1			11
SY1		5	6	6	1	226	18	297	1			560
SY2			3	1		20	5	1			2	32
SZ 1			1			1						2
中堀敷古墳	1	57	76	54	3	412	72	87	7	4	2	775
横穴式石室	1	103	93	67	5	117	66	6	6		1	465
遺構小計	2	511	311	273	13	1,709	585	712	33	29	36	4,214
I 期		3	18	10	2	147	18	89	1	1	2	291
II 期	1	47	40	16		99	14					217
時期	5	334	144	123	7	1,062	290	317	21	17	15	2,335
機能・属性等		25	21	32	1	276	9	120	2	2		488
遺物出土遺構小計	6	409	223	181	10	1,574	331	526	24	20	17	3,321
合計	8	920	534	454	23	3,283	916	1,238	57	49	53	7,535

※数値はいずれも接合後の破片数である。

表19　土器類観察表(1)

掲載番号	種別	器種	遺構名	層位	産地	分類・時期等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	挿図番号	図版番号
1	須恵器	摘み蓋	横穴式石室	h	美濃須衛	７ｃ後葉	(17.6)	-	-	天井部外面に窯壁多数付着、歪みあり	30	17
2	須恵器	有台坏	横穴式石室	4	美濃須衛	７ｃ後葉～８ｃ初頭		(11.5)		体部外面下方に沈線か	30	17
3	須恵器	盤	横穴式石室	15	美濃須衛	７ｃ後葉～８ｃ初頭	(18.7)				30	17
4	須恵器	盤	横穴式石室	2	美濃須衛	７ｃ後葉～８ｃ初頭	(24.2)	(20.8)			30	17
5	須恵器	長頸壺	横穴式石室	2	猿投	７ｃ後葉				体部外面に沈線2条、貝殻による連続刺突文	30	17
6	須恵器	平瓶	横穴式石室	2	美濃須衛	７ｃ後葉		(11.2)		体部外面上方に自然釉が厚く降灰	30	13
7	須恵器	フラスコ瓶	横穴式石室	1	伊勢	７ｃ代					30	17
8	須恵器	短頸壺	横穴式石室	3	猿投	７ｃ代	(8.2)	4.0	15.7	肩部外面に2段の連続刺突文	30	13
9	須恵器	横瓶	横穴式石室	2-3	猿投	７ｃ代					30	
10	須恵器	甕	横穴式石室	3	猿投	不明					30	17
11	須恵器	甕	横穴式石室	d	猿投	不明					30	17
12	須恵器	不明	横穴式石室	2	不明	７ｃ代					30	17
13	須恵器	甕	横穴式石室	3	猿投	不明	(23.8)				30	17
14	須恵器	鉢	横穴式石室	3	美濃須衛	８ｃ初頭					30	17
15	須恵器	甕	横穴式石室	4	美濃須衛	７ｃ後葉～８ｃ初頭				2個片溶着	30	
26	土師器	器台	横穴式石室	4			(18.0)			杯部内面に煤付着	33	17
27	土師器	台付壺	横穴式石室	3				(6.2)			33	
28	土師器	皿	横穴式石室	d		Ｃ２類	(7.8)	(2.9)		体部内面に連続する凹みあり	33	
29	土師器	皿	横穴式石室	3		Ｃ２類	10.6	4.3	2.7		33	19
30	白瓷系陶器	皿	横穴式石室	2	東濃	大谷洞14	(8.0)	(5.0)	1.0		33	
31	白瓷系陶器	碗	横穴式石室	h	東濃	大畑大洞４	(13.3)	(4.1)	5.1		33	
32	青磁	碗	横穴式石室	2	中国	不明		(5.0)		底部外面を除き施釉	33	
33	登窯	片口	横穴式石室	2	美濃	第４小期		(11.3)		底部～体部外面下方を除き灰釉、煤付着	33	
34	常滑	甕	横穴式石室	h	常滑	５型式	(27.8)				33	25
35	常滑	甕	横穴式石室	2	常滑	５型式					33	25
36	常滑	甕	横穴式石室	h	常滑	６ｂ型式					33	25
43	須恵器	高坏	SU1	1	美濃須衛	７ｃ後葉	10.7	8.0	10.0		34	13
44	須恵器	平瓶	SU1	1	美濃須衛	７ｃ後葉				体部外面に波状文、沈線2条	34	
45	土師器	器台	中屋敷古墳	p						一孔一組3穿孔	34	17
46	土師器	壺	中屋敷古墳	a-p						口縁部内面に沈線3条	34	17
47	土師器	壺	中屋敷古墳	a-x				5.5			34	17
48	須恵器	返り蓋	中屋敷古墳	1	猿投	７ｃ代				天井部内面平滑、摘み径2.1cm、摘み高1.4cm	34	
49	須恵器	無台坏	中屋敷古墳	1	不明	７ｃ後葉～８ｃ初頭	(10.4)	(6.0)	4.6		34	13
50	須恵器	高坏	中屋敷古墳	1	不明	７ｃ中葉～後葉					34	
51	須恵器	不明	中屋敷古墳	1	不明	６ｃ末～７ｃ前半		(5.8)			34	
52	須恵器	長頸壺	中屋敷古墳	a-x	美濃須衛	７ｃ後葉～８ｃ初頭					34	
53	須恵器	平瓶	中屋敷古墳	1	美濃須衛	７ｃ後葉				閉塞部に小粘土塊	34	
54	須恵器	甕	中屋敷古墳	a-h	不明	７ｃ後葉～８ｃ初頭	(25.5)			頸部内面に縦～斜め方向の線条痕あり	35	
60	白瓷系陶器	皿	中屋敷古墳	1	東濃	大谷洞14	(7.2)	(4.5)	1.1		36	
61	白瓷系陶器	皿	中屋敷古墳	1	東濃	大谷洞14	(7.7)	(3.5)	1.0		36	
62	白瓷系陶器	皿	中屋敷古墳	1	東濃	大谷洞14	(8.0)	(5.3)	1.0		36	
63	白瓷系陶器	碗	中屋敷古墳	1	東濃	窯洞１		5.4			36	
64	白瓷系陶器	碗	中屋敷古墳	h-g	東濃	明和１	(13.4)	(4.5)	5.1		36	
65	白瓷系陶器	碗	中屋敷古墳	a-h	東濃	大畑大洞４	(13.7)	(5.4)	5.0	高台の歪みが顕著	36	
66	大窯	天目茶碗	中屋敷古墳	1		第３段階後半	(11.4)			体部外面下方を除き鉄釉	36	24
67	大窯	天目茶碗	中屋敷古墳	a-x		第４段階後半	(11.7)			体部外面下方を除き鉄釉	36	24
68	大窯	天目茶碗	中屋敷古墳	1		第２段階				体部外面下方を除き鉄釉	36	24
69	陶器	天目茶碗	中屋敷古墳	1	中国	―		3.8		加工円盤に転用、底部外面を除き鉄釉	36	19
70	古瀬戸	平碗	中屋敷古墳	1		後Ⅳ期古		(5.4)		底部～体部外面下方を除き灰釉	36	24
71	古瀬戸	平碗	中屋敷古墳	1		後Ⅳ期古		(6.2)		底部～体部外面下方を除き灰釉	36	24
72	古瀬戸	天目茶碗	中屋敷古墳	1		後Ⅳ期新		4.2		底部～体部外面下方錆化粧、体部内面鉄釉	36	
73	常滑	甕	中屋敷古墳	1	常滑	５型式	(35.6)				36	25
74	古瀬戸	四耳壺	中屋敷古墳	1		後Ⅳ期新	(9.6)			体部内面を除き灰釉、肩部に沈線2条	37	25
75	古瀬戸	四耳壺	中屋敷古墳	1		後Ⅳ期古	(14.0)			全面に灰釉	37	25
76	古瀬戸	水注	中屋敷古墳	o-x		中Ⅰ～Ⅱ期				体部～頸部外面に灰釉、体部外面に沈帯2段	37	
77	古瀬戸	瓶子Ⅲ類	中屋敷古墳	1		後Ⅰ～Ⅱ期				体部外面に灰釉、丸文の線刻	37	25
78	古瀬戸	内耳鍋	中屋敷古墳	1		後Ⅳ期古	(24.5)	(11.6)	12.3	全面に錆釉	37	19
79	大窯	擂鉢	中屋敷古墳	1		第１～２段階		(11.8)		全面に錆釉	37	
80	大窯	擂鉢	中屋敷古墳	1		第１段階		(9.8)		全面に錆釉	37	24
81	登窯	志野皿	中屋敷古墳	1	美濃	第３小期	12.0	7.5	2.1	全面に灰釉、底部内面にピン痕	37	19
82	登窯	折縁鉄絵皿	中屋敷古墳	1	美濃	第２小期	(11.5)	(5.8)	2.7	口縁部外面～体部内面に長石釉、底部内面に蘭竹文	37	
83	登窯	折縁鉄絵皿	中屋敷古墳	1	美濃	第１小期	12.5	7.0	3.2	口縁部内外面に緑釉、体部内面に長石釉、底部内面に鉄絵	37	19
84	登窯	反皿	中屋敷古墳	1	美濃	第４小期	(12.6)	(6.9)	2.3	底部外面を除き灰釉	37	
85	登窯	筒形碗	中屋敷古墳	1	美濃	第５小期	(10.8)	(4.8)	4.5	底部外面を除き飴釉、口縁部内外面にうのふ釉	37	
86	登窯	丸碗	中屋敷古墳	1	美濃	第２小期		(5.4)		底部外面を除き鉄釉に灰釉流し	37	
87	登窯	丸碗	中屋敷古墳	1	美濃	第３小期		(5.0)		底部外面を除き灰釉	37	
88	登窯	湯呑	中屋敷古墳	1	美濃	第８小期	(11.2)	3.7	4.3	全面に灰釉	37	
89	京信系	筒形湯呑	中屋敷古墳	1		―	(9.2)	4.7	6.5	底部外面を除き灰釉、体部外面に文字	37	
90	登窯	仏飯具	中屋敷古墳	1	美濃	第８小期		5.2		脚部内面～端部外面を除き灰釉	37	
91	登窯	片口	中屋敷古墳	1	美濃	第８小期	24.0	(10.8)	13.5	底部～体部外面下方を除き灰釉	38	23
92	登窯	片口	中屋敷古墳	1	瀬戸	第11小期	(18.0)			体部外面下方を除き灰釉、体部外面に沈線一条	38	
93	登窯	擂鉢	中屋敷古墳	1	瀬戸	第６小期	(33.2)			全面に錆釉	38	
94	登窯	水指	中屋敷古墳	1	美濃	第１～２小期	(15.8)			口縁部～体部外面鉄釉に灰釉流し	38	
95	登窯	片口	中屋敷古墳	1	瀬戸	第８小期	(17.0)			体部外面下方を除き灰釉	38	
96	登窯	土瓶蓋	中屋敷古墳	1	瀬戸美濃	近代	(7.2)	2.1	1.5	天井部外面に灰釉、緑釉の斑文と鉄絵の線	38	
97	登窯	土瓶	中屋敷古墳	1	瀬戸美濃	近代	(7.3)			体部外面下方、口縁部内面を除き灰釉、体部外面に鉄絵による文様	38	
98	常滑	甕	中屋敷古墳	1	常滑	18世紀後半	(43.2)			体部外面にヘラ状工具による弧文、体部内面指頭列	38	22
99	常滑	火鉢	中屋敷古墳	1	常滑	19世紀前半	(24.0)				38	
100	瓦質土器	碗	中屋敷古墳	1		―					39	
108	須恵器	坏蓋	SB1	1	美濃須衛	７ｃ後葉	11.3		3.4		40	13

表20　土器類観察表(2)

掲載番号	種別	器種	遺構名	層位	産地	分類・時期等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	挿図番号	図版番号
109	須恵器	坏蓋	SB1	1	不明	7c後葉	(12.0)				40	
110	須恵器	無台坏	SB1	1	美濃須衛	7c後葉	12.0	2.1	4.6	底部内面に刻書[廿]	40	13
111	須恵器	無台坏	SB1-SK2	1	不明	7c後葉	9.5	6.1	4.4		40	13
112	須恵器	高坏	SB1-SP1	a	不明	7c後葉	(12.0)				40	
113	須恵器	鉢	SB1	1	美濃須衛	7c後葉	13.1	6.8	9.8	口縁部外面に一条の沈線	40	13
114	土師器	甕	SB1	2		A2類	10.6		12.6		40	13
115	土師器	甕	SB1	1		A2類	(20.0)			体部外面に煤付着	40	17
116	土師器	甕	SB1-SK7	Ⅲ						体部外面下方に煤付着	40	
117	土師器	甑	SB1-SP1	a							40	17
131	須恵器	無台坏	SB2	1	美濃須衛	7c後葉～8c初頭	11.4		4.9	底部内面にヘラ記号か	44	13
132	土師器	壺	SB3	1						体部外面に沈線と刺突文	44	17
133	土師器	壺	SB3	1						口縁端部にキザミ	44	17
134	縄文土器	深鉢	試掘坑	TP5			3.7			口縁部外面に渦巻文と区画文	45	
135	土師器	高坏	G1t14	Ⅲ						口縁部内面に沈線3条	45	17
136	須恵器	返り蓋	表土掘削		不明	7c後葉	10.1		2.8		45	13
137	須恵器	返り蓋	H1a11	Ⅲ	不明	7c後葉	(11.6)		2.8		45	
138	須恵器	坏蓋	表面採集		猿投	7c後葉	(12.4)		3.6		45	13
139	須恵器	坏身	H1b11	Ⅲ	美濃須衛	7c後葉	(9.7)				45	13
140	須恵器	無台坏	H1b11	Ⅲ	美濃須衛	7c後葉	(9.1)	(4.3)	4.8	底部外面に線刻	45	
141	須恵器	無台坏	H1a11	Ⅲ	美濃須衛か	7c後葉	(10.8)	(6.7)	4.3		45	
142	須恵器	無台坏	H1b11	Ⅲ	美濃須衛	7c後葉	(9.5)	(6.4)	4.4		45	13
143	須恵器	無台坏	H1a11	Ⅲ	美濃須衛か	7c後葉	(10.2)	(3.6)	4.0		45	
144	須恵器	無台坏	H1b11	Ⅲ	美濃須衛	7c後葉	(12.2)			底部内面にヘラ記号	45	
145	須恵器	無台坏	H1d10	Ⅲ	不明	7c後葉		(4.0)		底部内面に線刻	45	
146	須恵器	小壺	H1b09	Ⅱ	不明	不明		(4.0)			45	
147	須恵器	盤	H1b09	Ⅱ	美濃須衛	7c後葉	(26.6)	(17.3)	3.0		45	
148	須恵器	高坏	H1b10,11	Ⅱ,Ⅲ	美濃須衛	7c後葉	(36.6)				45	
149	須恵器	高坏	H1b11	Ⅲ	美濃須衛	7c後葉		7.4			45	13
150	須恵器	高坏	H1a11	Ⅲ	美濃須衛	7c後葉		(8.2)			45	
151	須恵器	長頸壺	H1a10	Ⅲ	不明		(9.9)				45	
152	須恵器	長頸壺か	H1a10	Ⅲ	不明	7c後葉～8c初頭					45	
153	須恵器	無頸壺	G1t09	Ⅲ	不明	不明	(8.3)				45	
154	須恵器	無頸壺	表土掘削		不明	7c代	(15.6)				45	
155	須恵器	平瓶	H1a11	Ⅲ	美濃須衛か	7c後葉				体部外面に沈線2条、波状文	45	
165	土製品	竈壁か	H1b11	Ⅲ							47	19
167	大窯	志野菊皿	P4(SH1)	2		第4段階後半	(12.1)			全面に長石釉	71	
168	白磁	皿	P6(SH1)	3	中国	B群		(3.4)		底部外面を除き施釉	71	23
169	白瓷系陶器	碗	P6(SH1)	4	東濃	脇之島3					71	
171	登窯	反皿	P19(SH4)	1	美濃	第3小期	11.9	5.2	2.9	底部～体部外面下方を除き灰釉	71	19
172	土師器	皿	P22(SH4)	2		不明	(8.8)				71	
173	登窯	天目茶碗	P22(SH4)	2	美濃	第2小期				全面に鉄釉	71	
174	土師器	皿	SP17	1		不明	9.3		2.6		71	
175	染付	碗	SP87	1	中国	E群				呉須により体部外面に輪、如意文	71	23
176	土師器	皿	SD6	3		C1類か	(7.7)		1.8	二次的に被熱	71	
177	白瓷系陶器	皿	SD6	3	尾張	第5型式	(8.0)	(4.3)	2.1		71	
178	白瓷系陶器	碗	SD6	3	東濃	大洞東1		3.8			71	
179	白瓷系陶器	片口鉢	SD6	1	瀬戸	第10型式	(24.9)			体部内面平滑	71	24
180	大窯	灯明皿	SD4	2		第2段階	(10.0)	(4.2)	2.5		71	
183	土師器	皿	SD8	1		C2類	7.8			口縁部内外面と体部内面に油煙	71	19
184	土師器	皿	SD8	1		C1類	8.1		1.2		71	19
185	土師器	皿	SD8	1		C2類				口縁部の一部を内側に折り返す	71	19
186	美濃須衛	四耳壺	SD6	1	美濃須衛					体部内外面と断面に漆付着	71	25
187	大窯	擂鉢	SD8	1		第1段階	(29.7)			口縁部内面に横方向の擂目	71	24
188	登窯	磁器湯呑	SD8	1	瀬戸美濃	第11小期	8.3	2.8	4.8	全面に透明釉、呉須により体部外面に丸文	71	19
189	登窯	磁器湯呑	SD8	1	瀬戸美濃	第11小期	(7.7)	3.1	4.7	高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に丸文、底部内面に鳥	71	
190	登窯	小瓶	SD8	1	瀬戸	第10～11小期		3.6		高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に梅文、頸部外面に縦線文	71	19
191	登窯	磁器碗	SD8	1	瀬戸美濃	第11小期	10.6	4.2	5.7	高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に縦線文ほか	71	19
192	登窯	磁器碗	SD8	1	瀬戸美濃	第11小期	10.8	4.0	5.9	高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に縦線文ほか	71	19
193	肥前	染付丸碗	SD8	1	肥前	―	(9.6)	3.4	4.7	体部外面に呉須による二重網目	71	19
194	登窯	端反碗	SD8	1	美濃	第11小期	10.0	3.9	5.7	高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に唐草文ほか、底部内面文様不明	71	19
195	登窯	磁器端反碗	SD8	1	瀬戸美濃	第11小期	(10.2)	3.9	5.7	高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に文様、底部内面に寿	71	
196	登窯	丸碗	SD8	1	美濃	近代	(11.0)	3.5	5.3	全面に透明釉、呉須により体部外面に縦線、圏線、底部内面に呉須による文字か	71	
197	登窯	捏鉢	SD8	1	美濃	第8小期	(15.6)	(7.4)	8.3	底部～体部外面下方を除き灰釉	72	
199	登窯	片口	SD8	1	瀬戸	第10～11小期		7.9		底部～体部外面下方を除き灰釉	72	
200	土製品	土錘	SD8	1			3.7	0.8	0.8	穿孔径0.3cm	72	26
202	常滑	火鉢	SD8	1	常滑	18世紀後半		(15.8)			72	
204	登窯	擂鉢	SD8	1	瀬戸	第8小期	32.7	15.4	15.8	全面に錆釉	72	22
205	登窯	練鉢	SD8	1	美濃	第8～9小期		(12.4)		高台端部に押印、底部～体部外面下方を除き灰釉	72	
206	常滑	火鉢	SD8	1	常滑	19世紀前半	18.4	16.5	16.2		72	22
229	土師器	皿	SD10	1		C1類か	(7.9)		1.9	口縁部内外面に煤付着	75	
230	土師器	内耳鍋	SD10	1		―				体部外面に煤付着	75	
231	青磁	碗	SD10	1	中国	不明		4.9		加工円盤に転用、底部外面を除き青磁釉	75	23
232	大窯	蓋	SD10	1		不明	(10.8)			全面に錆釉	75	
233	土師器	羽釜	SD10	1		―				体部外面に煤付着	75	
235	登窯	丸碗	SD12	a	美濃	第1～2小期	(11.3)			体部外面下方を除き灰釉	75	
236	登窯	小瓶	SZ1	2	瀬戸	第9～10小期				全面に透明釉、体部外面に呉須絵	75	

表21　土器類観察表(3)

掲載番号	種別	器種	遺構名	層位	産地	分類・時期等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	挿図番号	図版番号
237	白瓷系陶器	碗	SD11	1	東濃	生田２	(9.3)	(3.4)	2.0		76	
238	大窯	灯明皿	SD11	1		第３段階	(10.3)			口縁部内面に煤付着	76	
239	大窯	灯明皿	SD11	1		第２～３段階		4.3			76	24
240	大窯	丸皿（端反皿）	SD11	1		第１～２段階		(6.0)		全面に灰釉	76	
241	大窯	擂鉢	SD11	1		第１段階				全面に錆釉	76	24
242	古瀬戸	四耳壺	SD11	1		後Ⅳ期				体部外面に灰釉、沈線2段	76	19
244	古瀬戸	擂鉢	SD11	Ⅲ		後Ⅳ期新	(28.3)			全面に錆釉、体部内面平滑	76	
245	登窯	擂鉢	SD11	1	美濃	第１小期	(32.4)	(13.2)	16.0	全面に錆釉	76	
246	古瀬戸	仏供	SV1	1		後Ⅳ期古		4.3			76	
247	肥前	丸碗	SV1	1	肥前	－		(4.5)		底部外面を除き施釉	76	
248	登窯	湯呑	SV1	1	瀬戸美濃	近代	(6.4)	4.4	4.7	体部外面下方と口縁部内外面に圏線、体部外面に呉須による文様あり	76	
249	登窯	灯明皿	SV1	1	美濃	第８～９小期	(10.5)	(5.0)	1.6	底部外面を除き錆釉	76	
250	大窯	志野丸皿	SV1	1		第４段階後半	(11.1)	(7.0)	2.1	底部外面を除き長石釉	76	19
251	白瓷系陶器	碗	SV1	z	東濃	生田２	11.4	(4.0)	2.9		76	
252	登窯	磁器丸碗	SV1	k-t	瀬戸	第９小期	(11.3)			体部外面に呉須による海浜風景他、底部内面に鳥	76	20
253	登窯	丸碗	SV1	I	美濃	第３～４小期	(11.2)			体部外面下方を除き灰釉	76	
254	登窯	腰茶碗	SV1	a-j	美濃	第８小期	(10.6)	(3.7)	4.9	底部外面を除き灰釉、体部外面に鉄絵柳文	76	19
255	登窯	広東碗蓋	SV1	h-z	美濃	第10小期	9.8	4.0	3.0	全面に透明釉、天井部外面に呉須による圏線2条と丸文、内面に圏線2条と花文	76	20
256	登窯	筒形香炉	SV1	1	美濃	第７小期	(10.4)			体部内面を除き灰釉	76	
257	古瀬戸	折縁中皿	SV1	z		後Ⅲ期				体部内面を除き鉄釉	76	
258	肥前	丸碗	SV1	h-z	肥前	－		4.0		加工円盤に転用、高台接地面を除き透明釉、底部外面に呉須による銘	76	
259	登窯	丸碗	SV1	z	美濃	第４小期		5.0		加工円盤に転用、底部外面を除き鉄釉	76	
260	土師器	内耳鍋	SV1	k-t		－				全面に煤付着	77	
261	登窯	丸碗	SV1	1	美濃	第４小期		4.3		加工円盤に転用、底部外面を除き飴釉	77	
262	大窯	広口有耳壺	SV1	z		第１段階	(18.0)			体部内面を除き鉄釉	77	25
263	登窯	壺	SV1	k-t	美濃	第８～11小期	(9.8)			体部外面に灰釉	77	
264	登窯	壺	SV1	1	美濃	第８～11小期		(9.8)		体部外面に灰釉垂下	77	
266	登窯	半胴	SV1	Ⅲ	瀬戸	第８小期	(24.9)			全面に鉄釉	77	
267	古瀬戸	盤類	SV1	z		後Ⅰ～Ⅱ期		(15.6)		底部外面を除き灰釉	77	
268	古瀬戸	擂鉢	SV1	z		後Ⅳ期新	(26.8)			全面に錆釉	77	
269	登窯	擂鉢	SV1	1	瀬戸	第９小期	(37.5)			全面に錆釉	77	
270	登窯	擂鉢	SV1	I	瀬戸	第９小期	(36.0)			全面に錆釉	77	
281	土師器	皿	SK3	1		Ｃ２類	11.5		2.1	体部内面にタール付着	79	20
282	大窯	灯明皿	SK3	1		第２段階	10.0	4.5	2.5		79	24
283	大窯	灯明皿	SK3	1		第２段階	(19.8)	(3.8)	2.2		79	
284	登窯	灰皿	SK3	1	美濃	第４小期	(13.4)	(8.0)	2.5	全面に灰釉	79	
285	登窯	磁器碗	SK3	1	瀬戸美濃	第11小期	(10.5)	(4.2)	6.5	高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に海浜風景	79	
286	登窯	徳利	SK3	1	瀬戸	第８～11小期		9.4		底部～体部外面長石釉、内面褐色有機物付着	79	
287	登窯	擂鉢	SK3	1	瀬戸美濃	近代	(19.0)	(7.8)	7.8	底部外面を除き鉄釉	79	
288	登窯	片口	SK3	1	美濃	第４小期	(14.5)	(11.5)	9.1	底部外面を除き灰釉	79	20
289	登窯	片口	SK3	1	瀬戸	第11小期	18.4	7.8	11.4	底部～体部外面下方を除き灰釉	79	20
290	登窯	練鉢	SK3	1	瀬戸	第10～11小期		11.2		底部外面を除き灰釉	79	
297	白瓷系陶器	碗	SV2	1	東濃	脇之島３	(11.1)	(4.3)	3.0		80	
298	土製品	土錘	SV2	1					4.3	穿孔径1.9cm	80	26
299	白磁	皿	SK13	1	中国	Ｂ群		2.9		底部外面を除き施釉、底部外面に墨書	80	20
300	白瓷系陶器	碗	SK13	1	東濃	脇之島３～生田２					80	
301	登窯	擂鉢	SK20	2	瀬戸	第５小期				全面に錆釉	80	
302	土師器	皿	SK14	2		不明	(10.0)		2.0		80	
303	白磁	皿	SK14	4	中国	Ｂ群	(9.0)	(3.1)	2.5	底部～体部外面下方を除き施釉	80	23
304	大窯	丸皿	SK14	1		第２～３段階				全面に灰釉	80	
305	肥前	小坏	SK38	1	肥前	－		2.7		底部外面を除き施釉	80	
306	土師器	皿	SK38	1		Ｃ２類	7.6		1.9		80	
307	大窯	丸皿	SK39	4		第２段階	(9.2)	(5.8)	1.7	全面に灰釉	80	24
308	大窯	端反皿	SK39	4		第１段階	(10.8)	6.2	2.9	全面に灰釉	80	20
309	土師器	皿	SK39	1		Ｃ２類か	(10.1)		1.8	体部内面に煤付着	80	
310	土師器	皿	SK39	4		不明	(13.8)		1.7		80	
311	大窯	擂鉢	SK39	4		第３段階前半	(28.9)			全面に錆釉	80	24
312	大窯	天目茶碗	SK39	1		第３段階後半		4.1		底部外面錆化粧、底部内面鉄釉	80	
313	大窯	擂鉢	SK39	1		第３段階前半				全面に錆釉	80	
314	白瓷系陶器	碗	SK77	1	東濃	脇之島３	(12.9)	(5.9)	2.7	底部内面に朱付着	80	
315	大窯	灯明皿	SK41	3		第２段階	(9.9)				80	
316	大窯	志野丸皿	SK41	k-u		第４段階後半	(12.5)	(7.7)	2.9	全面に長石釉	80	24
317	土師器	皿	SK41	1		Ｂ２－ｃ類	(10.6)				80	20
318	土師器	皿	SK41	3		不明	(9.8)		2.0		80	
319	大窯	擂鉢	SK41	8		第４段階後半	(29.2)			全面に錆釉	80	24
321	白瓷系陶器	片口鉢	SK57	n	瀬戸	第10型式	(31.2)	11.1	11.6	底部内面平滑	80	24
322	登窯	擂鉢	SK57	h	美濃	第８小期				全面に錆釉	80	
323	大窯	灯明皿	SK70	2		第２段階	(10.2)	(4.8)	2.1		81	24
324	登窯	擂鉢	SK70	2	瀬戸美濃	－		(10.6)			81	
329	古瀬戸	緑釉小皿	SK178	1		後Ⅳ期古	(10.2)	4.4	2.5	口縁部内外面に鉄釉	81	
330	古瀬戸	八稜皿	SK204	1		後Ⅲ～Ⅳ期古		(6.9)		底部外面を除き灰釉、底部内面に沈線1条	81	
331	白瓷系陶器	碗	SK79	3	東濃	脇之島３	(11.6)	(5.0)	2.9		81	
332	白瓷系陶器	碗	SK79	4	東濃	生田２	(10.8)	(4.4)	2.1		81	
333	大窯	灯明皿	SK79	1		第４段階	(9.9)	(4.6)	2.4	全面に錆釉	81	20
334	古瀬戸	天目茶碗	SK79	2-3		後Ⅳ期新	(11.8)			体部外面下方を除き鉄釉	81	24
335	古瀬戸	天目茶碗	SK79	2		後Ⅳ期古	(13.2)			体部外面下方を除き灰釉	81	
336	青磁	碗	SK79	2	中国	不明				口縁部外面に雷文帯	81	
337	古瀬戸	擂鉢	SK79	4		後Ⅳ期新	(26.3)	(8.9)	10.0	全面に錆釉	81	23
338	古瀬戸	擂鉢	SK79	4		後Ⅳ期古	(32.6)	11.6	10.7	全面に錆釉	81	23
339	常滑	甕	SK79	1	不明	不明		(19.7)			81	
340	登窯	徳利	SK71	2	瀬戸	第５～６小期	6.7	13.4	23.4	底部～体部外面下方を除き飴釉、口縁部外面にうのふ釉	82	20
341	古瀬戸	緑釉小皿	SK95	1		後Ⅳ期新	9.2	4.4	2.1	口縁部内外面に灰釉	82	20
342	大窯	内禿皿	SK95	1		第３段階後半	9.8	5.9	2.0	底部内面を除き灰釉	82	20
343	土師器	皿	SK95	1		Ｃ２類か	(10.6)		2.6	内面に煤付着	82	

表22　土器類観察表(4)

掲載番号	種別	器種	遺構名	層位	産地	分類・時期等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	挿図番号	図版番号
344	大窯	擂鉢	SK96	1		第3段階	(28.7)	(10.4)	11.3	全面に錆釉	82	24
345	白瓷系陶器	碗	SK283	1	東濃	大洞東1	(10.5)	(3.3)	3.0		82	
346	登窯	丸碗	SK283	5	美濃	第10小期	(11.7)	4.3	6.4	高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に竹、梅、底部内面に花文	82	
347	登窯	菊皿	SK283	1	美濃	第3～4小期	(13.1)			体部外面下方を除き灰釉	82	
348	常滑	甕	SK283	5	常滑	10型式					82	25
350	登窯	皿	SK283	1	美濃	第7小期				全面に灰釉	82	
351	白瓷系陶器	片口鉢	SK283	1	尾張	第10型式					82	
353	登窯	徳利	SK282	1	美濃	第3～4小期		(14.6)		底部外面を除き鉄釉	82	
354	古瀬戸	擂鉢	SK282	1		後IV期新	(32.3)			全面に錆釉	82	
355	白瓷系陶器	碗	SK303	9	東濃	脇之島3					83	
356	大窯	丸皿	SK303	6		第4段階	(8.4)	(5.1)	1.8	全面に灰釉	83	
358	大窯	丸皿	SK354	1		第3～4段階後半	(9.8)			全面に灰釉	83	
359	大窯	志野丸皿	SK354	1		第4段階後半	(12.1)	(7.0)	2.8	全面に長石釉、二次的に煤付着	83	24
360	白瓷系陶器	片口鉢	SK354	1	尾張	第9型式				口縁端部に沈線1条	83	
361	古瀬戸	四耳壺	SK399	1		後IV期古	(12.3)			全面に灰釉	83	25
362	土師器	皿	SK425	1		C2類	(7.1)				83	
363	土師器	皿	SK425	1		B2－a類	(15.0)				83	
364	白瓷系陶器	碗	SK425	1	東濃	大洞東1～脇之島3					83	
365	登窯	擂鉢	SK365	1	美濃	第1小期	(37.4)			全面に錆釉	83	
366	登窯	天目茶碗	SK365	1	美濃	第3小期	(13.0)			体部外面下方を除き鉄釉	83	
369	常滑	甕	SK467	1	常滑	19世紀後半	64.0	19.5	63.0		83	22
372	登窯	水滴	SK490	5	美濃	第8小期	(4.8)	3.8	4.4	底部～体部外面下方を除き鉄釉	83	20
375	登窯	端反碗	SK433	3	美濃	第2小期	(11.3)	(4.9)	7.4	底部～体部外面下方を除き灰釉	84	
376	大窯	灯明皿	SK433	1		第2段階	(9.4)	(4.6)	2.2		84	
377	大窯	丸皿	SK433	3		第2～3段階		4.8		全面に灰釉	84	
378	土製品	土錘	SK433	1					5.0	穿孔径0.4cm	84	26
379	登窯	折縁鉄絵皿	SK552	a	美濃	第1～2小期	(13.0)			口縁部内外面に灰釉	84	
380	常滑	甕	SK555	1-3	常滑	17世紀末～18世紀前半	56.8	(22.4)	83.6		84	23
381	土師器	皿	SK518	h		C1類	(7.7)		1.5		85	
382	土師器	皿	SK518	h		C1類	8.0				85	20
383	土師器	皿	SK518	h		C1類	8.7				85	
384	土師器	皿	SK518	h		C1類か	8.4		2.1	口縁部に煤付着	85	20
385	土師器	皿	SK518	g		C1類	8.6		2.3		85	20
386	土師器	皿	SK518	h		C1類	8.5		2.6		85	20
387	古瀬戸	袴腰形香炉	SK518	1		後IV期新	(10.2)	(5.2)	4.4	口縁部内外面に鉄釉	85	20
388	土師器	皿	SK518	1		B1類	(10.4)				85	
389	土師器	皿	SK518	h		B1類	10.5		2.3		85	20
390	土師器	皿	SK518	h		B2b類か	(11.0)		2.2	底部～体部内面に油煙?付着	85	
391	土師器	皿	SK518	h		B1類	(12.3)		1.7		85	
392	土師器	皿	SK518	3		B1類	(12.8)	(8.0)	1.7		85	
393	土師器	皿	SK518	h		B1類	13.2				85	20
394	白瓷系陶器	碗	SK518	1	東濃	生田2	(10.1)	(3.0)	2.6		85	
395	白瓷系陶器	碗	SK518	1	東濃	大洞東1		(3.9)			85	
396	産地不明	鉢	SK518	1	不明					体部外面に煤付着、内面平滑	85	
397	土師器	鉢か	SK518	a,b,d		－	(18.7)				85	
398	古瀬戸	盤類	SK518	1		後IV期古		(11.0)			85	
399	古瀬戸	擂鉢	SK518	3		後IV期新	(26.8)			体部内面平滑、全面に錆釉	85	
400	古瀬戸	卸目付大皿	SK518	3		後IV期新	(33.8)			口縁部内外面に灰釉	85	
403	登窯	磁器丸皿	SK567	2	瀬戸美濃	第11小期	(11.7)	(7.6)	3.0	底部外面を除き透明釉、呉須により体部外面に七宝文、雲文、体部内面に草?	85	
404	白瓷系陶器	皿	SK540	1	東濃	大谷洞14	(7.9)	(5.5)	1.0		86	
405	土師器	皿	SK540	j		C2類	8.4		1.5		86	20
406	大窯	丸皿	SK540	1		第4段階後半	(9.0)	(4.4)	1.6	全面に灰釉	86	
407	大窯	丸皿	SK540	3		第2～3段階		(6.3)		底部外面に輪ドチ付着、全面に灰釉	86	
408	古瀬戸	緑釉小皿	SK540	2		後III期	(10.9)	4.6	2.4	口縁部内外面に灰釉	86	
409	登窯	志野皿	SK540	16	美濃	第1～2小期		(7.0)		全面に長石釉	86	
410	登窯	志野丸皿	SK540	1	美濃	第2小期	(11.5)	(7.1)	2.3	全面に長石釉	86	
411	白瓷系陶器	碗	SK540	1	東濃	大洞東1	(11.6)	(4.4)	3.3		86	24
412	白瓷系陶器	碗	SK540	3	東濃	大洞東1	(12.1)	(4.1)	3.3	体部外面に二次的に煤付着	86	
413	白瓷系陶器	碗	SK540	1	東濃	大洞東1	(11.5)	(3.7)	3.4		86	24
414	白瓷系陶器	碗	SK540	3	東濃	脇之島3	(12.5)	(4.7)	3.5		86	24
415	白瓷系陶器	碗	SK540	a-j	東濃	脇之島3	(11.8)	(4.0)	2.8		86	24
416	青磁	碗	SK540	2	中国	不明		5.0		底部外面を除き施釉	86	23
417	登窯	丸碗	SK540	1	美濃	第3小期		(3.8)		底部外面を除き灰釉	86	
418	青磁	碗	SK540	3	中国	B類				体部外面に鎬蓮弁文、全面施釉	86	23
419	染付	皿	SK540	3	中国	B2群か		(6.0)		底部内面に花、圏線	86	23
420	古瀬戸	天目茶碗	SK540	2		後IV期古	(10.9)			体部外面下方を除き鉄釉	86	24
421	大窯	天目茶碗	SK540	1		第4段階前半	(11.0)			体部外面下方を除き鉄釉	86	24
422	登窯	天目茶碗	SK540	3	美濃	第3小期	11.2	4.2	7.2	底部～体部外面下方を除き鉄釉	86	20
423	土師器	皿	SK540	1-5		B2－a類	(16.9)				86	
424	大窯	建水	SK540	a-j		第3段階	(11.2)	(10.6)	8.5	体部外面～口縁部内外面鉄釉	86	21
425	常滑	壺	SK540	1	常滑	15～16世紀		(8.6)			86	
426	登窯	徳利	SK540	1	美濃	第3～4小期		(13.8)		底部外面を除き鉄釉	86	
427	古瀬戸	擂鉢	SK540	1		後IV期新		(11.2)		全面に錆釉、体部～底部内面平滑	86	
428	白瓷系陶器	片口鉢	SK540	1	瀬戸	第7型式	(27.7)			体部内面平滑	86	24
429	大窯	擂鉢	SK540	a-j		第3段階後半	(31.6)			全面に錆釉	86	24
431	須恵器	甕	SK540	3	美濃須衛	7c後葉					87	
432	須恵器	平瓶	SK540	2	不明	7c代	(11.5)				87	
433	須恵器	有台坏	SK540	1	美濃須衛	7c後葉or9c代					87	
435	古瀬戸	瓶子II類	SK540	1		中I～II期				体部外面に灰釉、4条1組の沈線2段	87	25
436	土師器	高坏	SK564	a							87	
437	土師器	高坏	SK564	a							87	
438	土師器	皿	SK564	r		C2類	7.4		1.8	口縁部内面に油煙付着	87	20
439	登窯	梅文湯呑	SU2	1	瀬戸	第11小期	9.0	3.7	5.0	高台接地面を除き灰釉、体部外面に梅文	87	21
440	登窯	磁器丸碗	SU2	1	瀬戸美濃	第11小期	(10.2)	3.6	5.8	高台接地面を除き透明釉、呉須により体部外面に丸文、底部内面の文様不明	87	21

表23　土器類観察表(5)

掲載番号	種別	器種	遺構名	層位	産地	分類・時期等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	挿図番号	図版番号
441	登窯	広東茶碗	SU2	1	美濃	第10小期	(11.7)	(5.4)	5.9	体部外面に呉須による並草葉文底部内面に花文	87	21
442	登窯	腰錆碗	SU2	1	美濃	第5小期		(5.8)		底部～体部外面に鉄釉、体部内面に灰釉	87	
443	登窯	片口	SU2	1	瀬戸	第11小期	(18.2)	7.6	11.0	底部～体部外面下方を除き灰釉	87	21
444	瓦質土器	鍋	SU2	1		—	(31.7)			体部外面に煤付着	88	
446	土師器	皿	G1a15	Ⅲ		C2類	7.5		1.7	体部内面に煤付着	88	
447	土師器	皿	H1e09	Ⅲ		C2類	7.7	2.7	1.3	口縁部に煤付着	88	
448	白瓷系陶器	皿	H1e09	Ⅲ	東濃	大洞東1	(8.6)	(6.1)	1.1		88	
449	大窯	灯明皿	H1a09	Ⅱ		第2段階	9.8	4.7	2.5		88	21
450	大窯	灯明皿	H1a9	Ⅱ		第2段階	(10.0)	4.3	2.3	体部内面に煤付着	88	24
451	大窯	灯明皿	H1e09	Ⅰ		第1段階	10.0	5.1	2.8		88	24
452	大窯	灯明皿	H1d08	Ⅰ		第2段階	(10.2)	(3.9)	2.7		88	21
453	大窯	灯明皿	表土掘削			第2段階	(10.5)	4.3	2.6	体部内面に煤付着	88	24
454	古瀬戸	緑釉小皿	H1a10	Ⅱ		後Ⅳ期古	(10.0)	(3.8)	2.3	口縁部内外面に灰釉	88	
455	古瀬戸	緑釉小皿	H1c07	Ⅳ		後Ⅳ期古	(9.9)	3.4	2.9	口縁部内外面に鉄釉	88	21
456	大窯	丸皿	H1a13	Ⅲ		第3段階後半	(9.8)	(5.8)	2.3	全面に灰釉、底部内面釉の拭い取り	88	
457	大窯	丸皿	H1e09	Ⅲ		第2段階	(10.8)	5.6	2.9	全面に灰釉	88	24
458	白瓷系陶器	碗	H1a08	Ⅲ	東濃	大洞東1		(3.5)		底部外面に墨書	88	
459	白瓷系陶器	碗	G1t15	Ⅲ	東濃	脇之島3	(11.8)	(4.6)	2.5		88	
460	白瓷系陶器	碗	H1c10	Ⅱ	東濃	大畑大洞4	(13.0)	(4.2)	4.5		88	
461	灰釉陶器	深碗	H1a10	Ⅲ	美濃	虎渓山1		(8.5)		体部外面に灰釉、漬け掛け	88	
462	染付	皿	G1a14	Ⅰ	中国	B群	(11.6)		0.9	全面に透明釉、口縁部外面に花文	88	23
463	青磁	碗	H1c09	Ⅲ	中国	不明		(8.6)		底部外面を除き施釉、底部内面に花文	88	23
464	大窯	天目茶碗	G1a13	Ⅲ		第1段階後半	(10.3)	(4.6)	5.4	底部～体部外面下方を除き鉄釉	88	24
465	大窯	天目茶碗	H1e09	Ⅲ		第1段階後半	(11.6)			体部外面下方を除き鉄釉	88	24
466	大窯	筒形碗	H1b08	Ⅲ		第4段階前半		5.2		加工円盤に転用、底部外面を除き灰釉	88	
467	大窯	志野小坏	G1t10	Ⅲ		第4段階後半	(5.9)	(2.0)	4.6	全面に長石釉	88	
468	大窯	天目茶碗	H1a13	Ⅲ		第4段階前半	(11.3)	(4.4)		底部～体部外面下方を除き鉄釉	88	24
469	青磁	稜花皿	表土掘削		中国	—	(13.6)			口縁部内面に沈線3条、全面に施釉	88	23
470	古瀬戸	平碗	H1a10	Ⅲ		後Ⅳ期新	(15.0)			体部外面下方を除き灰釉	88	
471	古瀬戸	折縁中皿	H1a10	Ⅱ		後Ⅰ期	(17.0)			体部外面下方を除き灰釉	88	
472	土師器	羽釜	試掘坑	TP3		—				口縁部～体部外面に煤付着	88	
473	土師器	羽釜	H1b10	Ⅱ		—					88	
474	常滑	甕	G1a13	Ⅰ	常滑	9～10型式				外面に押印	88	21
475	古瀬戸	擂鉢	H1d10	Ⅲ		後Ⅳ期新	(30.9)			全面に錆釉	89	
476	古瀬戸	擂鉢	G1a15	Ⅲ		後Ⅳ期新	(27.4)	(8.6)	10.7	全面に錆釉、体部内面摩滅	89	
477	古瀬戸	卸目付大皿	H1e09	Ⅲ		後Ⅳ期新	(27.3)			口縁部内外面に灰釉	89	
478	古瀬戸	盤類	H1d10	Ⅲ		後Ⅳ期		(11.9)			89	
479	古瀬戸	釜	G1t13	Ⅲ		後Ⅳ期古～新	(5.0)			全面に灰釉	89	
480	古瀬戸	瓶子Ⅱ類	G1t13	Ⅲ		後Ⅳ期古				体部外面下方と内面錆釉、体部外面上方灰釉	89	25
481	大窯	耳付水注	H1c06	Ⅲ		第2～3段階	(3.4)	(5.8)	6.0	底部～体部外面下方を除き鉄釉	89	21
482	土師器	内耳鍋	G1a13	Ⅲ		—				体部外面に煤付着	89	
483	大窯	鼠志野向付	H1c09	Ⅲ		第4段階後半				全面に施釉	89	21
484	常滑	甕	H1a10	Ⅱ	常滑	(5)～6a型式					89	25
485	古瀬戸	擂鉢	H1a10	Ⅲ		後Ⅳ期古～新		(11.4)		全面に錆釉、内面摩滅	89	
486	常滑	甕	H1a10	Ⅲ	常滑	5～(6a)型式	(37.6)				89	25
487	登窯	灯明皿	G1t13	Ⅲ	美濃	第8～9小期	7.0	1.5	3.3	全面に錆釉	90	21
488	登窯	磁器灯明皿	G1a14	Ⅰ	瀬戸美濃	近代	(8.5)	(3.3)	1.6	底部～体部外面下方を除き灰釉	90	
489	登窯	灯明皿	H1b11	Ⅲ	美濃	第9小期	(5.0)	(4.2)	1.8	底部～体部外面を除き灰釉	90	
490	登窯	灯明皿	表土掘削		美濃	第10～11小期	9.5	4.2	2.1	底部～体部外面下方を除き灰釉	90	21
491	登窯	摺絵皿	H1b07	Ⅲ	美濃	第6小期	(11.9)	6.1	3.1	全面に灰釉、底部内面に摺絵、口縁部にタール付着	90	21
492	登窯	輪禿皿	表面採集		美濃	第3小期	(12.0)	(5.5)	2.9	底部外面を除き灰釉	90	
493	登窯	反皿	H1a10	Ⅰ	美濃	第4小期	12.2	6.6	2.5	底部外面を除き灰釉	90	
494	登窯	反皿	H1a11	Ⅲ	美濃	第4小期	(13.1)	(6.7)	2.8	底部～体部外面下方を除き灰釉	90	
495	登窯	鬢水入れ	H1b11	Ⅲ	美濃	第5小期			4.3	底部外面を除き長石釉、体部外面に摺絵、底部内面に呉須絵	90	
496	登窯	鬢水入れ	G1t13	Ⅲ	美濃	第6小期			3.6	底部外面を除き灰釉、体部外面に摺絵	90	21
497	登窯	片口	H1b07	Ⅲ	美濃	第1～2小期		(12.2)		底部外面を除き灰釉	90	
498	登窯	筒形香炉	H1e09	Ⅲ	美濃	第7小期	(8.6)	(7.0)		体部外面と口縁部内外面に灰釉体部外面に沈線3条	90	
499	登窯	仏飯具	H1b07	Ⅲ	瀬戸	第9小期	(6.7)			全面に透明釉、杯部外面に呉須による半菊花と格子文	90	
500	登窯	小坏	H1b11	Ⅲ	美濃	第3小期	6.4	3.1	3.9	底部～体部外面下方を除き灰釉	90	21
501	登窯	掛分湯呑	G1t13	Ⅲ	美濃	第8小期	(8.5)	(4.1)	5.7	全面に鉄釉と灰釉の掛け分け	90	21
502	登窯	丸碗	H1b07	Ⅲ	美濃	第8小期	(10.2)	(4.3)	7.0	全面に灰釉、口縁部外面に呉須による文様	90	21
503	登窯	天目茶碗	H1c09	Ⅲ	美濃	第1小期	(12.0)	4.8	7.4	底部～体部外面下方を除き鉄釉	90	21
504	登窯	丸碗	H1b07	Ⅲ	美濃	第3～4小期		4.1		加工円盤に転用、底部外面を除き鉄釉	90	
505	登窯	尾呂茶碗	H1b07	Ⅲ	瀬戸	第5～6小期		4.8		加工円盤に転用、底部外面を除き飴釉	90	
506	登窯	練鉢	H1b11	Ⅲ	瀬戸	第9小期	31.9	11.5	16.1	底部～体部外面下方を除き灰釉底部外面に爪状圧痕	90	23
507	登窯	擂鉢	H1b08	Ⅲ	瀬戸	第5小期	(32.0)	(12.9)	14.4	全面に錆釉	90	
508	登窯	練鉢	H1b11	Ⅲ	瀬戸	第8小期	(23.2)			全面に灰釉	91	
509	登窯	片口	H1b07	Ⅲ	美濃	第9小期	(11.7)	(5.4)	5.0	底部外面を除き灰釉、口縁部外面に沈線2条	91	21
510	登窯	片口	H1b11	Ⅲ	美濃	第8小期	16.5	8.7	8.0	底部外面を除き灰釉	91	21
511	瓦質土器	火鉢	H1b11	Ⅲ		—	20.3				91	22
512	登窯	甕	G1a14	Ⅰ	瀬戸	第8～9小期	(18.0)			体部外面に沈線7条、全面に灰釉	91	
513	登窯	瓶掛	H1e11	Ⅲ	瀬戸	第8～9小期	(21.5)			体部内面を除き銅緑釉	91	
514	瓦質土器	火鉢	H1b11	Ⅲ		—	(16.4)				91	
515	常滑	火鉢	H1b12	Ⅲ	常滑	19世紀前半	18.0	15.0	15.6	口縁部内面に煤付着	91	22
516	常滑	火鉢	G1a13	Ⅲ	常滑	19世紀前半	(21.0)				91	22
517	登窯	船徳利	H1b11	Ⅲ	美濃	第8～11小期	(3.0)	8.8	16.7	体部内面を除き柿釉	92	22
518	土製品	土鈴	H1b11	Ⅲ			3.3		3.5	穿孔径0.6cm	92	26
519	土製品	土鈴	試掘坑	TP3			3.1		3.6	穿孔径0.8cm	92	26
520	土製品	土鈴	H1b12	Ⅲ			2.8		3.7	穿孔径0.5cm	92	26
521	土製品	土鈴	H1b11	Ⅲ			3.0		3.5	穿孔径0.5cm	92	26
522	土製品	土錘	H1b11	Ⅲ			4.3		5.0	外面に線条痕あり	92	26
523	土製品	土錘	H1c08	Ⅲ			2.0		1.4	穿孔径0.6cm	92	26
524	土製品	不明	H1a11	Ⅲ			3.7	1.3	1.2	上部に直径3mm、深さ19mmの未貫通の穿孔あり	92	

※層位名のうち、アルファベットは5cmごとに掘削した人工層位名を示す。すなわち、aは検出面から5cmまでの深さ、bは5～10cmの深さを示す。

表24　石器・石製品観察表

掲載番号	器種	遺構名	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	挿図番号	図版番号
38	磨製石斧	横穴式石室	d	安山岩	9.7	7.2	3.2	352.0	上方欠損	33	17
39	石錘	横穴式石室	d	安山岩	6.6	5.4	4.7	206.0		33	17
40	石錘	横穴式石室	d	泥岩	7.6	2.9	1.5	45.0	一部欠損	33	17
101	石鏃	中層敷古墳	j	下呂石	2.3	1.7	0.6	1.5	基部欠損	39	17
102	砥石	中層敷古墳	1	流紋岩	11.4	3.0	3.6	141.0	砥面：2面、整形痕あり	39	25
103	砥石	中層敷古墳	1	凝灰岩	13.4	4.5	1.3	96.4	砥面：2面、整形痕あり	39	25
166	打製石斧	H1b11	Ⅲ	安山岩	7.6	5.0	1.9	92.0	下方欠損	47	
170	石錘	P6(SH1)	1	砂岩	(4.2)	(5.1)	1.8	48.4	上方欠損	71	17
214	砥石	SD8	1	泥岩	(4.4)	(5.0)	0.3	8.5	砥面：2面	73	
215	砥石	SD8	1	結晶片岩	(7.4)	(6.0)	3.1	123.6	砥面：2面	73	25
216	砥石	SD8	1	流紋岩	(7.8)	(4.9)	1.5	90.8	砥面：4面	74	25
217	砥石	SD8	1	流紋岩	(10.0)	(4.9)	2.7	137.6	砥面：3面、整形痕あり	74	25
218	打製石斧	SD8	1	安山岩	11.2	4.8	1.9	137.9		74	
219	臼	SD8	1	花崗岩		28.2	7.2	3136.0	約半分欠損	74	
220	臼	SD8	1	花崗岩		28.2	6.0	4417.0	約半分欠損	74	
234	砥石	SD10	2	凝灰岩	(4.3)	(5.1)	0.9	22.2	砥面：1面、整形痕あり	75	25
320	有舌尖頭器	SK41	k-u	チャート	4.5	2.3	0.7	6.5	先端欠損	80	17
401	砥石	SK518	1	砂岩	(9.3)	(5.3)	2.9	251.0	砥面：4面	85	25
430	砥石	SK540	a-j	砂岩	14.5	6.2	2.7	339.0	砥面：1面	87	25
446	砥石	SU2	1	凝灰岩	(17.5)	(6.6)	1.2	195.8	砥面：1面、整形痕あり	88	25
534	砥石	H1b11	Ⅲ	流紋岩	6.8	2.4	2.2	38.7	砥面：2面、整形痕あり	93	25
535	砥石	H1b11	Ⅲ	凝灰岩	(7.7)	(4.8)	1.8	81.6	砥面：2面、整形痕あり	93	25
536	砥石	G1a14	Ⅲ	凝灰岩	(9.6)	(4.9)	0.8	58.5	砥面：1面、整形痕あり	93	25
537	砥石	G1t10	1	砂岩	(5.3)	(4.0)	1.1	24.9	砥面：2面、整形痕あり	93	
538	砥石	H1b11	Ⅲ	凝灰岩	(11.8)	3.5	3.4	117.6	砥面：4面、整形痕あり	93	25
539	砥石	G1a14	Ⅰ	凝灰岩	15.5	7.0	1.6	247.0	砥面：2面、整形痕あり	93	25
540	砥石	表土掘削	_	流紋岩	8.5	4.1	3.3	222.0	砥面：4面、整形痕あり	94	25
541	礫	H1b11	Ⅲ	凝灰岩	(11.0)	(7.7)	1.8	177.0	下方欠損	94	

表25　古代瓦観察表

掲載番号	器種	遺構名	層位	幅A(cm)	幅B(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	焼成	凸面叩き	消し状況	すり範囲	側縁形態	狭端形態	広端形態	糸切[illegible]	骨数	骨幅(cm)	被熱痕跡	備考	挿図番号	図版番号
16	平瓦	横穴式石室	2			40.6	1.8	6.6	普通	A	－	無	3	1	1	右下	5	5.8	有		31	14
17	平瓦	横穴式石室	3				2.0	3.5	普通	A	－	無	－	－	－	不明	－	－			31	16
18	平瓦	横穴式石室	2,3,4				1.9	6.1	普通	A	2	部分	2	－	4	不明	－	－			31	
19	平瓦	横穴式石室	2				2.4	7.0	良好	A	2	部分	4	－	4	左下	6	5.0			32	14
20	平瓦	横穴式石室	2				1.8	6.5	普通	B	3	部分	3	－	－	右下	－	－	有		32	
21	平瓦	横穴式石室	4				1.5	5.3	普通	D	3	全面	1	－	4	右下	－	－	有		32	
22	平瓦	横穴式石室	3				2.9	6.3	良好	D	3	全面	4	－	－	右下	－	－			32	16
23	平瓦	横穴式石室	d				2.0	5.3	良好	E	－	無	3	1	－	不明	－	－			32	16
24	丸瓦	横穴式石室	2				1.5	6.0	良好	D	2	全面	3	－	－	不明	－	－			33	
25	丸瓦	横穴式石室	d				1.7	5.7	普通	D	2	全面	3	2	－	不明	－	－			33	
41	丸瓦	SU1	1	18.9			2.1	9.4	普通	B	2	部分	3	－	2.0	不明	8.0	2.3			34	16
42	丸瓦	SU1	1				1.8	6.3	不良	D	3	全面	3	－	－	不明	4.0	－	有	釘孔あり	34	16
55	平瓦	中層敷古墳	1			40.5	2.0	6.6	普通	B	2	部分	3	1	3	右下	5	5.5	有		35	14
56	平瓦	中層敷古墳	a-h				1.5	4.5	普通	D	3	全面	1	－	1	不明	－	－			36	
57	丸瓦	中層敷古墳	1				1.8	5.8	良好	D	2	全面	3	－	1.0	不明	－	－			36	
58	平瓦	中層敷古墳	1				1.8	4.3	普通	D	3	全面	3	－	－	右下	－	－			36	
59	平瓦	中層敷古墳	1				1.6	6.3	普通	A	3	部分	1	－	－	右下	－	－			36	
118	平瓦	SB1	1	22.5			1.6	6.1	普通	A	2	部分	4	4	－	右下	6	4.8	有		41	
119	平瓦	SB1	2				1.8	6.8	普通	A	－	無	4	4	－	右下	6	5.3	有		41	15
120	平瓦	SB1	1				1.7	6.9	普通	D	3	全面	－	－	－	右下	6	4.9	有		41	
121	平瓦	SB1	1				2.4	7.7	普通	D	2	全面	6/4	4	－	右下	11	2.5	有		42	15
122	平瓦	SB1	1				1.6	5.7	普通	D	2	全面	3	－	2	右下	13	2.3	有		42	
123	平瓦	SB1	1		27.0		2.0	6.4	普通	D	3	全面	4	－	4	右下	14	2.0	有		42	
124	平瓦	SB1	1				1.8	5.7	普通	A	2	部分	4	－	4	不明	5	5.6	有		43	15
125	平瓦	SB1	1				1.6	7.2	普通	B	2	部分	3	－	1	左上	6	6.0	有		43	
126	平瓦	SB1	1				2.0	7.1	普通	A	－	無	3	－	－	不明	－	－	有		43	
127	平瓦	SB1	1				1.6	3.4	普通	A	－	無	－	4	－	右下	－	－	有		44	16
128	平瓦	SB1	1				1.5	6.9	普通	D	2	全面	4	4	－	左下	－	－			44	16
129	平瓦	SB1	1				2.0	3.5	普通	D	3	全面	－	－	4	不明	－	－			44	
130	平瓦	SB1	1				2.5	6.9	良好	D	2	全面	4	－	4	不明	－	1.9			44	16
156	平瓦	H1a11	Ⅲ				2.0	6.5	普通	B	2	部分	4	－	－	不明	15	1.8	有		46	
157	平瓦	H1d09	1				1.6	6.8	不良	A	3	部分	3	2	－	不明	－	－			46	
158	平瓦	H1d09	Ⅲ				2.4	6.8	普通	A	3	部分	－	－	－	不明	－	－			46	
159	平瓦	H1b11	Ⅲ				1.7	4.9	普通	D	3	全面	－	4	－	右下	－	－	有		47	
160	平瓦	表土掘削					2.2	5.4	良好	B	2	部分	4	－	－	不明	－	－			47	16
161	平瓦	H1b11	Ⅲ				2.4	6.6	普通	B	2	部分	4	－	－	不明	－	－	有		47	
162	平瓦	H1a09	Ⅰ				2.4	3.7	良好	C	－	無	－	－	－	右下	－	－			47	16
163	丸瓦	H1b11	Ⅲ				1.6	6.1	良好	B	2	部分	3	1	－	不明	－	－			47	16
164	丸瓦	表土掘削					1.6	7.0	良好	A	3	部分	3	－	－	不明	－	－			47	
221	平瓦	SD8	1				2.2	6.0	良好	D	2	全面	1	3	1	不明	－	－			74	
222	平瓦	SD8	1				2.4	7.4	普通	A	－	無	4	－	4	不明	－	－	有		74	16
265	平瓦	SV1	1				1.8	3.3	良好	C	－	無	－	－	－	不明	－	－			77	16
352	平瓦	SK283	5				2.1	5.7	良好	D	2	全面	4	－	4	右下	－	－			82	16
373	丸瓦	SK300	1		10.3		1.3	5.0	普通	D	1	全面	3	1	－	不明	－	－			84	16

※凸面叩き～骨幅までの属性、計測方法などは、第４章参照。

表26　近世以降の瓦観察表

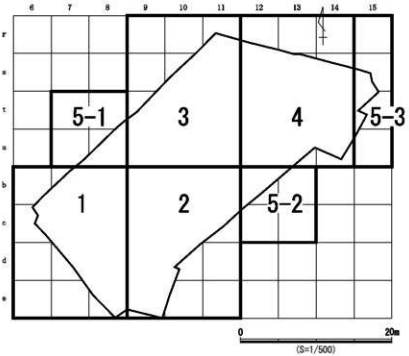
掲載番号	器種	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	瓦当幅縦(cm)	文様区幅縦(cm)	瓦当幅横(cm)	文様区幅横(cm)	周縁高(cm)	周縁厚(cm)	光沢	押印	挿図番号	図版番号
37	菊丸	横穴式石室	2			2.1							有	無	33	
198	不明	SD8	1										無	無	72	19
207	桟瓦	SD8	1	28.7		2.3							有	有	73	
208	桟瓦	SD8	1			1.8							有	有	73	
209	桟瓦	SD8	1			1.7							有	有	73	
210	桟瓦	SD8	1	29.8		1.7							有	有	73	
211	軒丸瓦	SD8	1		14.4	1.5							無	無	73	
212	不明	SD8	1			3.2							無	無	73	
213	不明	SD8	1			2.9							無	無	73	
223	軒桟瓦	SD10	1			2.0	4.4	13.9	25.5	13.9	0.9	0.9	有	無	75	19
224	桟瓦	SD10	1	29.5		1.7							有	有	75	
225	桟瓦	SD10	1			1.7							有	有	75	
226	棟瓦	SD10	1			1.7							有	有	75	
227	桟瓦	SD10	1	29.0		1.8							有	有	75	
228	桟瓦	SD10	1	29.8		1.6							有	有	75	
271	桟瓦	SV1	1	29.4		2.1							有	無	78	
272	軒桟瓦	SV1	1			4.7							有	無	78	
273	軒桟瓦	SV1	1			5.2							有	無	78	
274	不明	SV1	1			2.0							有	有	78	
275	桟瓦	SV1	1			2.0							有	有	78	
276	桟瓦	SV1	h-z			2.1							無	有	78	
277	桟瓦	SV1	a-j			1.9							有	有	78	
278	棟止瓦か	SV1	h-z			1.9							有	無	78	23
279	不明	SV1	1			4.1							無	無	78	
280	不明	SV1	1			3.5							無	無	78	
292	軒桟瓦	SK3	1	24.6	29.2	2.0	4.2	2.7	28.4	14.3	0.8	0.7	有	無	79	20
293	軒桟瓦	SK3	1	29.1	29.2	1.7	4.7	3.2	28.9	16.0	0.6	0.9	有	無	79	20
294	桟瓦	SK3	1			1.8							有	有	79	
295	軒桟瓦	SK3	1			1.5	4.1	3.0	17.6	8.6	0.7	1.3	有	無	79	20
296	桟瓦	SK3	1	29.0		1.9							有	有	79	
525	蓋瓦か	表面採集											有	無	92	22
526	不明	H1b11	Ⅲ			2.8							有	無	92	
527	不明	H1c06	Ⅲ			3.5							無	無	92	
528	桟瓦	H1a09	Ⅰ	29.5		1.5							有	有	92	
529	桟瓦	H1b07	Ⅲ			1.8							有	有	92	
530	桟瓦	H1c07	Ⅲ			2.3							有	有	92	
531	桟瓦	H1a09	Ⅲ			1.7							有	有	92	
532	桟瓦	H1b08	Ⅰ			1.6							無	有	92	
533	軒丸瓦	H1c07	Ⅲ										無	無	92	

表27　金属製品観察表

掲載番号	器種	遺構名	層位	素材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	挿図番号	図版番号
104	釘	中屋敷古墳	1	鉄	11.2	0.8	0.9	25.1		39	26
105	釘	中屋敷古墳	1	鉄	10.8	0.6	0.8	28.4		39	26
106	釘	中屋敷古墳	1	鉄	10.6	0.9	1.1	31.9		39	26
107	不明	中屋敷古墳	1	鉄	7.1	3.9	0.5	36.8	両端欠損	39	
181	釘	SD4	1	鉄	4.8	0.7	0.9	9.1	下端欠損	71	
182	不明	SD4	1	鉄	4.9	1.9	0.3	7.4	右欠損	71	26
201	釘	SD8	1	鉄	11.0	0.7	0.8	15.6		72	
203	銭貨	SD8	1	銅	2.5	2.5	0.1	2.9	元豊通寳（北宋，1078年）	72	26
243	火打金	SD11	1	鉄	4.1	8.9	0.4	23.2	穿孔あり	76	26
291	釘	SK3	1	鉄	7.4	0.5	0.5	4.7	上端欠損か	79	26
325	釘	SK82	1	鉄	5.7	0.7	0.5	3.5		81	26
326	釘	SK82	1	鉄	5.1	0.7	0.8	5.2	下端欠損	81	26
327	釘	SK82	1	鉄	4.5	0.8	6.0	3.8	下端欠損	81	26
328	刀子	SK276	3	鉄	3.4	1.9	0.4	13.4	両端欠損	81	
349	釘	SK283	5	鉄	6.4	0.7	0.6	6.0	下端欠損	82	
357	不明	SK509	1	鉄	3.2	3.4	0.5	13.3		83	
367	銭貨	SK365	1	銅	2.5	2.5	0.2	3.8	寛永通寳（日本，1636年）	83	26
368	銭貨	SK365	1	銅	2.5	2.5	0.1	2.1	寛永通寳（日本，1697年）	83	26
370	刀子	SK467	1	鉄	4.1	1.6	0.3	4.0	両端欠損	83	26
371	不明	SK445	1	鉄	6.0	0.6	0.9	13.6	下端欠損	83	
374	銭貨	SK459	1	銅	2.6	2.6	0.1	2.1	寛永通寳（日本，1668年）	84	26
402	不明	SK546	1	鉄	6.3	4.7	0.4	51.6	穿孔あり	85	26
434	刀子	SK540	r	鉄	6.6	1.5	0.5	7.3	右欠損	87	
542	銭貨	G1t13	Ⅲ	銅	2.5	2.4	0.1	3.2	元豊通寳（北宋，1078年）	94	26
543	銭貨	G1t13	Ⅲ	銅	2.6	2.6	0.1	3.3	元豊通寳（北宋，1078年）	94	26
544	銭貨	G1t13	Ⅲ	銅	2.4	2.4	0.1	2.8	紹聖元寳（北宋，1094年）	94	26
545	銭貨	G1t13	Ⅲ	銅	2.5	2.5	0.1	2.8	熙寧元寳（北宋，1068年）	94	26
546	銭貨	G1a13	Ⅲ	銅	2.4	2.4	0.1	2.4	熙寧元寳（北宋，1068年）	94	26
547	銭貨	表面採集		銅	2.6	2.6	0.1	2.8	寛永通寳（日本，1668年）	94	26
548	銭貨	G1t14	Ⅲ	銅	2.5	2.5	0.1	3.1	寛永通寳（日本，1668年）	94	26
549	銭貨	H1a14	Ⅲ	銅	2.3	2.3	0.1	1.8	寛永通寳（日本，1697年）	94	26
550	不明	H1b11	Ⅲ	鉄	7.0	1.1	0.4	29.0	線刻文様あり，先端三つ叉	94	26
551	不明	H1b11	Ⅲ	鉄	8.5	1.8	1.0	51.0		94	26
552	火打金か	H1b07	Ⅲ	鉄	9.2	1.4	0.4	8.6		94	26
553	不明	H1b07	Ⅲ	鉄	3.3	3.2	0.4	16.8		94	26
554	不明	H1d08	Ⅲ	銅	3.9	(3.4)	0.2	7.6	周縁欠損	94	26

※銭貨は、名称（国・王朝名、初鋳年）を備考に示した。

中屋敷古墳の墳丘とSV1・SV2の整地土あり



中屋敷古墳の墳丘とSV1・SV2の整地土除去後

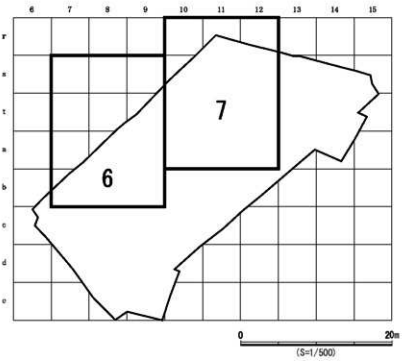


図95　遺構全体図割付図

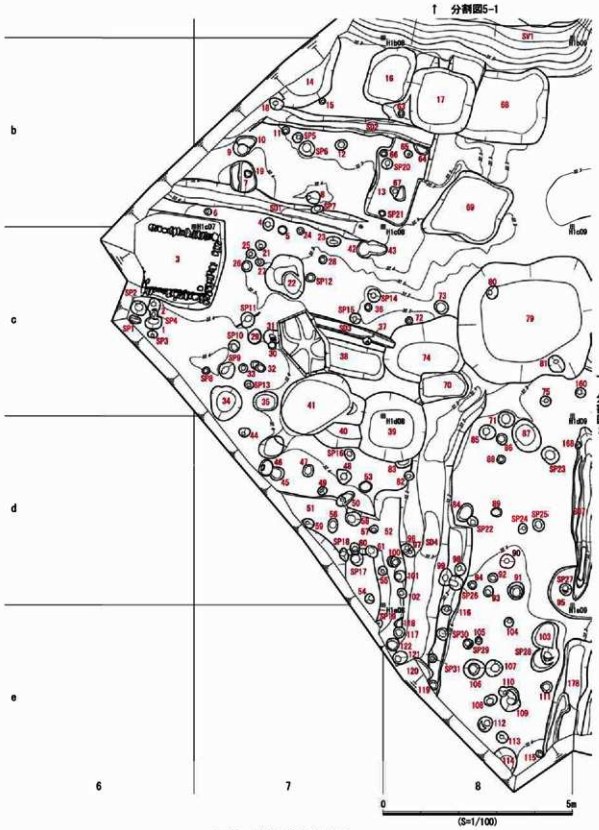


図96　遺構全体図分割図1

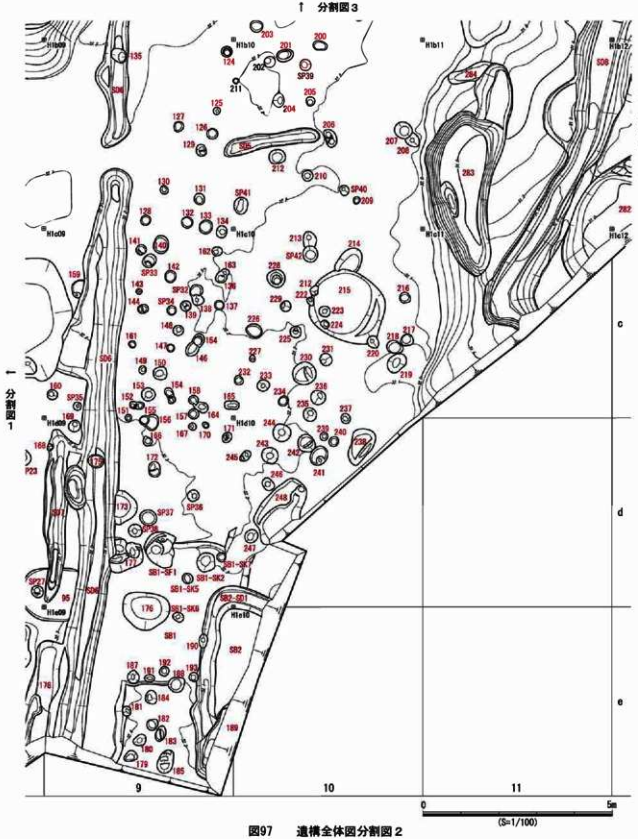


図97　遺構全体図分割図2

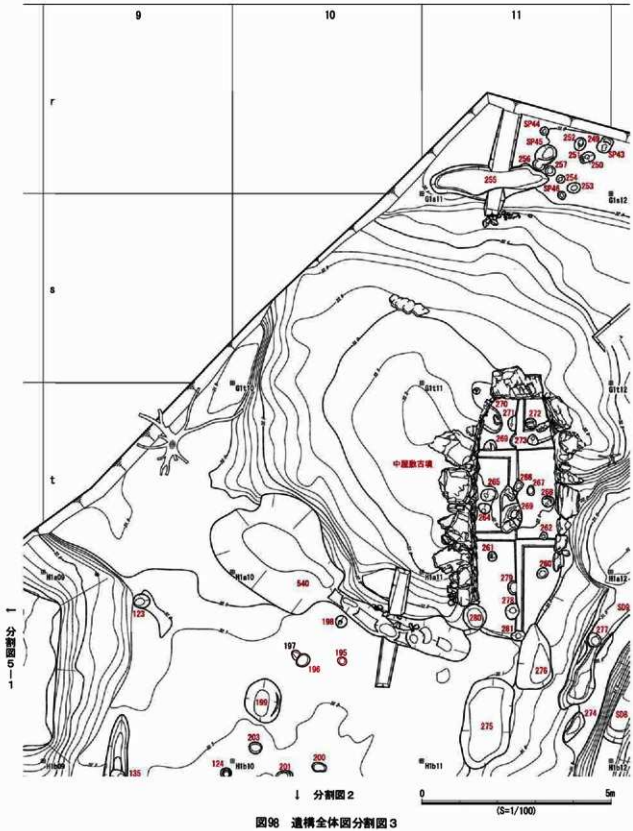


図98　遺構全体図分割図３

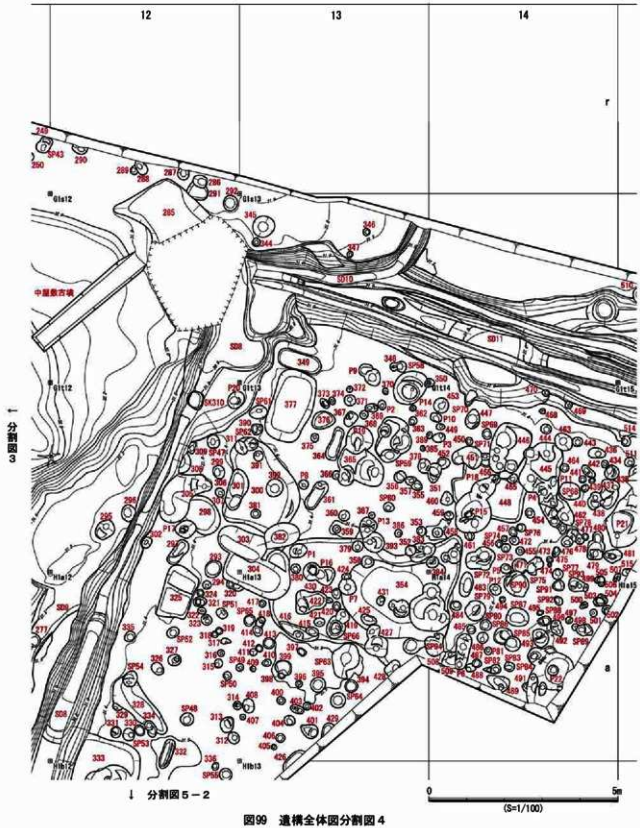


図99　遺構全体図分割図４

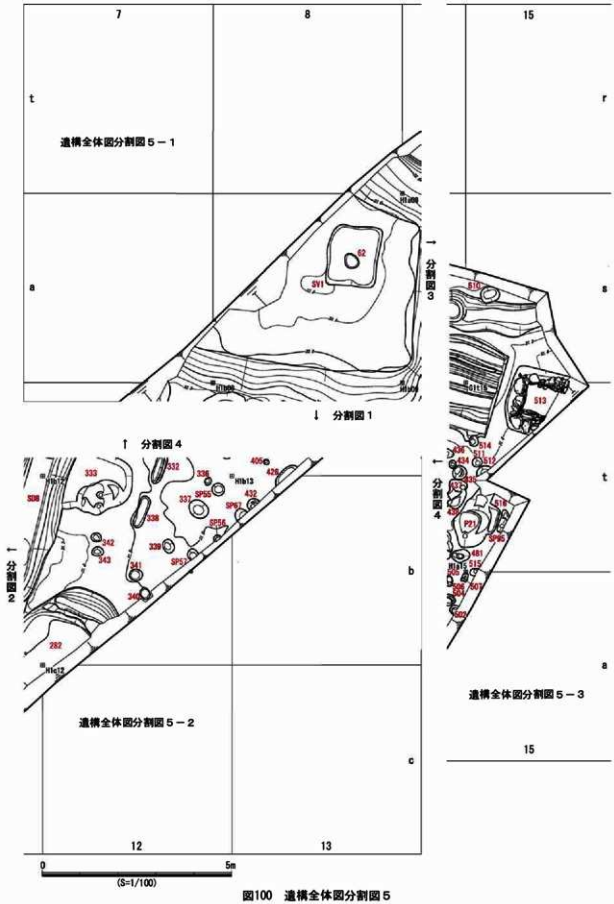


図100　遺構全体図分割図５

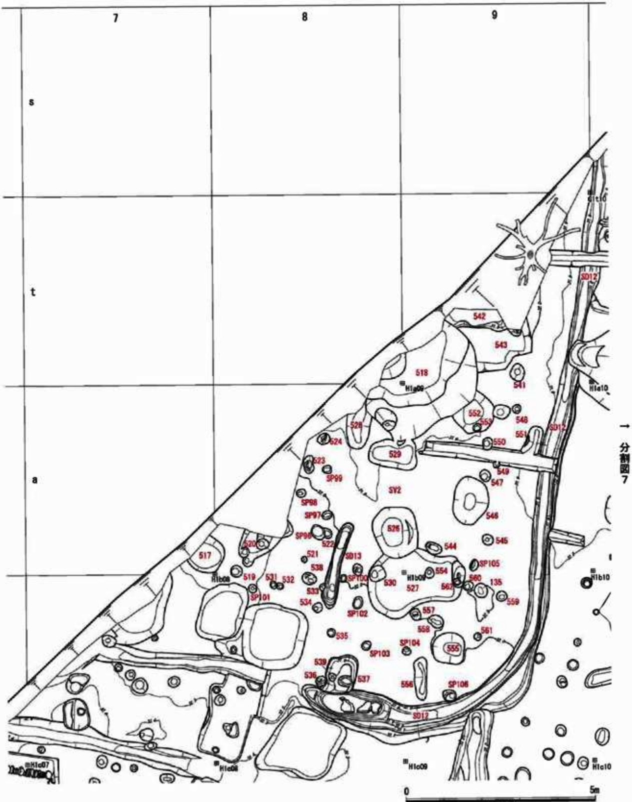


図101　遺構全体図分割図６

図102　遺構全体図分割図７

第4章　総括

今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡や古墳、室町時代から江戸時代の掘立柱建物跡や溝、土坑などを検出し、約1万点の遺物が出土した。本章では、遺構として中屋敷古墳と中近世の集落の変遷、出土遺物として古代瓦の属性分析と中近世陶磁器の計量分析等に焦点を絞り、地域史のなかでの当遺跡の位置付けを検討する。

1　中屋敷古墳

中屋敷古墳の概要は次のとおりである。古墳の墳丘規模は15m以上で、その墳形は不明である。内部主体は横穴式石室であり、玄室長5.48m、奥壁際の幅1.44m、最大幅2.08mで、羨道は遺存していない。玄室の平面形は、玄室中央付近が最も広がる胴張り形を呈し、玄室と羨道との境には玄門立柱が存在する両袖式石室もしくは擬似両袖式石室である。奥壁は一枚の大型石材を使用し、側壁はおよそ下2段を長手積み、上2段を小口積みとし、上2段の石材が大きい。また、石室の断面形は、基底石から上方にかけて外側に開いており、奥壁際において渡し架けが認められる。

石室床面直上の遺物は、大半が土師器の小破片である。唯一、器形が復元できる須恵器短頸壺（掲載番号8）も石室埋土中程の破片と床面直上の破片が接合しており、石室構築時に伴う遺物と断定できない。つまり、出土遺物から古墳の時期を推定することが困難である。そのため、以下に美濃地方における横穴式石室の論考の概略を記し、中屋敷古墳の築造時期を推定することとしたい。

成瀬正勝氏は、美濃地域の横穴式石室を石室の平面型、玄室の平面形、羨道の平面形の組み合わせから24形式に分類した。このうち、羨道が玄室の前面のほぼ中央部に連接された両袖式の平面形を呈する石室をⅡ型式、両側壁面から柱形を縦位置に張り出させ玄室を形成し、玄室と羨道との区分を明瞭にさせた両袖式の平面形を呈する石室をⅢ型式、玄室両側壁の基底部に顕著な胴張りが認められる平面形をC類とした。そして、Ⅱ－Cの組み合わせは6世紀後半から7世紀前半、Ⅲ－Cの組み合わせは6世紀末から7世紀前半に事例があることを示した。さらに、美濃地方の横穴式石室は、7世紀後半から末にかけて斉一的に小型化が進むとした（成瀬1990）。また、美濃の畿内系石室について、初期段階の6世紀前半代、定着期の6世紀後半代、最盛期の7世紀前半代と3時期に区分した。そして、6世紀後半代の特徴として、側壁石材や奥壁の大型化、玄門の形成、両袖式石室の成立、平面形の胴張り化などを挙げ、7世紀代には6世紀代よりもさらに大型の石材を使用することや長大な羨道の出現などの特徴を見いだしている（成瀬1992）。さらに、美濃地域における横穴式石室の側壁積石技法を5類に集約し、そのうちB類を側壁下段部を長手積みし、上段部を小口積みするものとした。そして、B類の技法は、美濃地域の横穴式石室導入期から終末期まで、長期に渡り採用されているとした（成瀬1999）。

一方、横幕大祐氏は、美濃地域の横穴式石室の変遷を木曽三川の流域ごとにまとめ、長良川流域のTK43～209型式併行期（6世紀後半～7世紀初頭）には、両袖式石室が出現するとした。そして、岐阜市大廻2号墳、同西山4号墳、同目野1号墳、美濃市殿岡1号墳を例として挙げ、後2者の方が石材の大型化が顕著で新しい様相を呈しているとした（横幕2001）。

以上の研究略史から、中屋敷古墳の築造時期は、6世紀後半から7世紀中頃までの範疇であること

が想定できる。そこで、長良川流域における６世紀後半以降の古墳のうち、両袖式で胴張りを呈する横穴式石室をもつ大廻２号墳と西山４号墳との比較を行い、石室の諸要素の違いから中屋敷古墳の構築時期について検討したい（図103）。

大廻２号墳は岐阜市三輪に位置する直径15m前後の円墳である。石室規模は玄室長5.6m、玄室最大幅2.2mで、奥壁は１枚の大型石材（高さ約1.3m）の平面を壁面としている。床面に敷石は検出されず、古墳の盛土に版築状の痕跡は確認されていない。時期は、出土遺物から６世紀中葉から後半とされている（岐阜市教育委員会1977、成瀬1990）。

西山４号墳は岐阜市長良に位置する直径15.5mの円墳である。石室規模は玄室長5.4m、玄室最大幅2.3mで、奥壁は１枚の大型石材（高さ1.9m）の平面を壁面としている。時期は出土遺物から７世紀前半とされている（岐阜市1979、成瀬1990）。

大廻２号墳と西山４号墳、中屋敷古墳は墳丘規模が類似し、玄室もほぼ同一規模で同一規格であることから、長良川流域における６世紀後半代に始まる大型石室の一連の系譜の中で変遷が把握できると思われる。その中で、大廻２号墳と西山４号墳は、奥壁際の平面形が直角に近く、立柱石が側壁より大きく内側に張り出す共通点がある。一方、中屋敷古墳は平面形が奥壁際から緩やかに開き、立柱石が側壁からわずかに張り出す程度と思われ、やや後出する要素を有する[1]。また、大廻２号墳の側壁基底石は平積で、奥壁はやや小さいことに対し、西山４号墳と中屋敷古墳の側壁基底石は長手積で、奥壁は大型化している共通点がある。

以上から、石室の諸要素の変化傾向は、大廻２号墳が最も古く、中屋敷古墳が最も新しいといえる。そして、中屋敷古墳の構築時期は西山４号墳と同時期か、それより後出する７世紀前半から中頃と推定でき、長良川流域における大型石室の最終形態に相当するものと考える[2]。

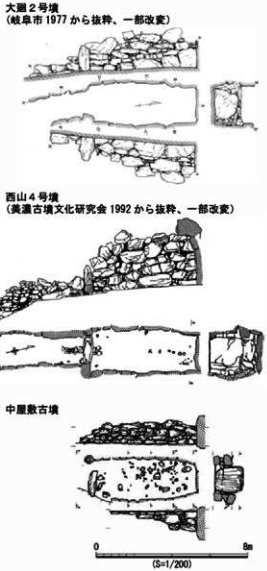


図 103　長良川流域の横穴式石室

注1）規模はやや小さいものの、このような石室の平面形は、同じ長良川流域の７世紀前半の円墳である塚穴１号墳と類似している（美濃市教育委員会 1993）。

2）横穴式石室の年代観について、成瀬正勝氏、横幕大祐氏に多くの御教示を得た。

2　古代瓦の分析

今回の調査で出土した古代瓦は、接合後の破片数で454点を数える。そのうち、約9割が平瓦、残り約1割が丸瓦で、軒平瓦や軒丸瓦などは出土していない。

ここでは、平瓦の諸属性と出土状況に着目し、分析を行う。

(1) 平瓦の属性分析

今回出土した平瓦の凹面には、粘土板を巻き付けた際に生じる合せ目や、布の綴じ合せ目、造瓦器具である桶の枠板圧痕（模骨痕）などが残り、凹面・凸面と側面の形成角度がほぼ直角であることなどから、平瓦の多くは粘土板桶巻き作りにより成形されたと考えられる（なお、凸面に縄叩きのみられる平瓦1点は、その限りでない）。このように、粘土板桶巻き作りにより成形された瓦が多く出土した岐阜市の遺跡として、城之内遺跡がある。城之内遺跡は長良廃寺推定地に位置し、昭和61年度の発掘調査で総数16,567点の平瓦が出土した（岐阜市教育委員会1990）。そして、その半数以上は凸面に斜格子叩きが残っており、縄叩きは確認されていない。このように、成形技法が類似する瓦が多い

表28　古代瓦の属性分類と集計結果

凸面の叩き目		個数	比率%
A類	一辺1.0cm以上の斜格子（城之内遺跡のA類）	13	36.1
B類	一辺0.9cm以下の斜格子（城之内遺跡のB・C類）	6	16.7
C類	斜線と縦線の組み合わせ（城之内遺跡E類）	2	5.6
D類	叩き目をすり消したもの（城之内遺跡G類）	14	38.8
E類	縄叩き	1	2.8
	合計	36	100.0

凸面のすり消し状況		個数	比率%
1類	側縁に平行するナデ調整（城之内遺跡G－1類）	0	0.0
2類	端縁に平行するナデ調整（城之内遺跡G－2類）	15	41.7
3類	ナデ調整の方向不明（城之内遺跡G－3類）	12	33.3
すり消し無し		9	25.0
	合計	36	100.0

凸面のすり消し範囲		個数	比率%
	全面	14	38.9
	部分	13	36.1
	無し	9	25.0
	合計	36	100.0

凹面の糸切り円弧中心位置		個数	比率%
	右下	17	47.2
	左上	1	2.8
	左下	2	5.6
	不明	16	44.4
	合計	36	100.0

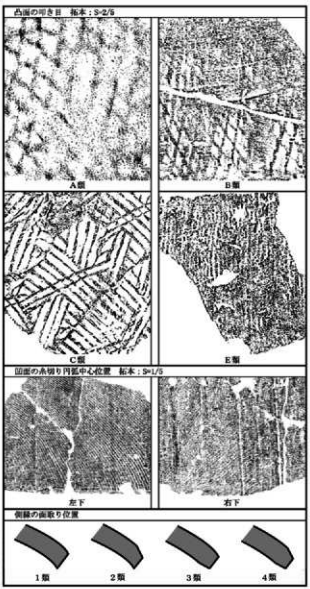
凹面の枠板圧痕数（凹面にみられる枠板圧痕の数）		個数	比率%
	5～6	8	66.7
	11～15	4	33.3
	合計	12	100.0

凹面の枠板幅平均値（枠板1枚の圧痕の平均幅）		個数	比率%
	1.8～2.5cm	5	38.5
	4.8～6.0cm	8	61.5
	合計	13	100.0

側縁の面取り位置		個数	比率%
1類	凹面側・凸面側ともになし（城之内遺跡1類）	4	11.1
2類	凸面側のみにあり	1	2.8
3類	凹面側のみにあり	9	25.0
4類	凹面側・凸面側ともにあり（城之内遺跡6類）	13	36.1
不明		9	25.0
	合計	36	100.0

狭端の面取り位置		個数	比率%
1類	凹面側・凸面側ともになし（城之内遺跡1類）	3	8.3
2類	凸面側のみにあり	1	2.8
3類	凹面側のみにあり	1	2.8
4類	凹面側・凸面側ともにあり（城之内遺跡6類）	6	16.7
不明		25	69.4
	合計	36	100.0

広端の面取り位置		個数	比率%
1類	凹面側・凸面側ともになし（城之内遺跡1類）	4	11.1
2類	凸面側のみにあり	1	2.8
3類	凹面側のみにあり	1	2.8
4類	凹面側・凸面側ともにあり（城之内遺跡6類）	9	25.0
不明		21	58.3
	合計	36	100.0



ことと、同じ長良川水系で両遺跡の直線距離が約4.5kmと近いことなどから、ここでは、城之内遺跡の平瓦の属性分類を参考とし、出土した平瓦を統計的に処理した（表28）。

表28からわかることは、以下のとおりである。

・凸面の叩き目はA類が多い。また、凸面の叩き目をすり消したD類も多い。
・凸面のすり消しは2類が多く、1類は確認できなかった。また、すり消し無しの破片は、焼成が須恵質で、厚手のものが多い。
・凸面のすり消し範囲は、破片の全面でみられるものと、部分的にみられるものがほぼ同数ある。
・凹面にみられる糸切り痕の中心位置は、右下にくるものが多い。瓦作りにおける作業工程に関連するかもしれない。
・造瓦器具である桶の枠板幅の平均値は1.8～2.5cmと狭いものと、4.8～6.0cmの広いものの二者がある。枠板圧痕数から推定できる桶枠の枚数は、前者が40～56枚程度、後者が16～20枚程度である。
・側縁の面取り位置は、凹面側にある破片（3・4類）が全体の半数以上あるものの、凸面側である破片（2類）は1破片のみである。使用時における瓦類の重ね方に関連する可能性がある。

(2) 出土状況

古代瓦は調査区全域から出土しており、なかでも中屋敷古墳の横穴式石室とSB1からの出土が目立つ。そして、SB1出土の平瓦はカマド周辺で多く出土し、被熱痕跡が残る破片が多いことから、その一部はカマドの部材、もしくはそれに付属する施設の部材に転用されていたと推定される。SB1出土の平瓦は、完形の平瓦の大きさと比較して、半分から3分の2程度に復元できるものが9破片あり、大きさが一定していない横穴式石室や遺物包含層出土の古代瓦の破片と異なる。このような破片の均一さは、瓦の転用時の利便性に関連していると推定される。

また、SB1出土の瓦は7世紀後葉から8世紀初頭の土器と共伴しており、瓦の年代はおよそ白鳳期であると推定できる。岐阜県における古代寺院の成立は、そのほとんどが白鳳期であるとされており（八賀1972）、寺院成立期の瓦が竪穴住居跡から出土したことになる。

では、何故、当遺跡において瓦が出土したのか。その理由の一つは、近隣の寺院創建に伴い、何らかの理由で当遺跡の住民が瓦を持ち込んだ（あるいは持ち込まれた）ということ、もう一つは、当遺跡の住民が瓦工人もしくは瓦工人に関係する人物であり、窯跡から失敗品を持ち込んだということ、などが想定できる。

前者の場合、無作為に瓦を持ち込んだならば軒丸瓦、軒平瓦などの出土があってもよさそうであるものの、それらは確認できていない。しかし、創建時に瓦を種類ごとにまとめて保管していたのであれば、数量の多い平瓦と丸瓦のみが当遺跡に運ばれたと理解できるかもしれない。

後者の場合は、焼成に失敗した破片や窯道具などが複数出土してもよさそうである。今回の調査では、歪んだ瓦が数点と、時期不明の窯壁と想定される破片が1点出土しているものの、総体的にはわずかな量である。また、当遺跡に持ち込まれた瓦の生産地（窯跡）の位置や数なども問題となるであろう。

このように、当遺跡において瓦が出土した理由を導き出すことはできないものの、今後、当遺跡周辺における発掘調査の進展や瓦の胎土分析等から検討すべき課題である。

3　中世から近世の遺構の変遷と出土遺物

(1)　遺構の変遷

中世から近世に属する主な遺構は、図104のとおりである。

中世後期から近世初頭（15世紀から17世紀前半頃）では、掘立柱建物跡ＳＨ１～４が、傾斜面から東側の下段のほぼ同じ位置に造り替えられている。このうち、ＳＨ４は柱間が約3.4m、柱穴掘方の深さが約0.65ｍと大規模な建物である。この建物群は北東側をＳＤ11に、南西側を傾斜面により区画されており、この居住域を造成する際に中屋敷古墳の墳丘の一部を破壊している。傾斜面から西側の上段では明確な建物跡は確認できなかったものの、地下式坑３基、土師器皿集積土坑、平行する２条の溝などを検出し、上段も集落域の一部として土地利用がなされていた。

近世前期から後期（17世紀後半から19世紀頃）では、上段・下段ともに建物跡は検出できなかった。しかし、下段の周縁に巡るＳＤ８・10、上段の整地遺構ＳＶ１の周辺に巡るＳＤ１・２・12は、調査前に実施した地形測量図から方形に巡る可能性が指摘できる。そして、近世以降の井戸が調査区に隣接して存在し、その直下にタマヤと想定される井戸に付属する石組遺構ＳＫ３・513を検出した。このことから、溝の内側は居住域であった可能性が高く、ＳＤ１とSD10の南辺ラインがそろうことから、ある程度の規則性をもった区画配置であったといえる。さらに、区画の間に中屋敷古墳が存在し、古墳のすべてを破壊せずに区画配置を行っている点も注目できる。なお、上段では、区画溝の南東隅に常滑甕を伴う土坑ＳＫ467・555と、近世墓と推定したＳＺ１が存在している。

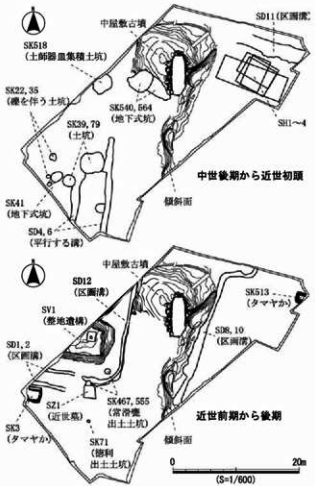


図104　中世から近世における遺構変遷図

(2)　出土遺物の分析

図105・106のグラフは、表29～31の破片数量表をもとに器種、時期、産地などを集約して作成した。なお、表29～31は藤澤良祐氏に鑑定していただき、それをまとめたものである。

まず、時期別の出土量について分析する（図105）。白瓷系陶器の皿、碗の破片数の比率は、およそ１：８である。碗は、第５型式まで尾張型山茶碗が優勢で、第６型式以降は東濃型山茶碗が優勢となる。片口鉢はすべて尾張産であり、なかでも多孔質で鉄分の吹き出しの顕著な瀬戸産が目立つ。第７型式から第10型式まで出土し、第10型式のものが最も多い。白瓷系陶器全体の出土量は、第５型式から第８型式まで安定しているのに対し、第10～11型式併行期（大洞東14号窯式～脇之島２号窯式）にかけて激増している。

瀬戸美濃製品の皿類の出土量は、大窯段階でピークがあり、その後、登窯第４小期を除いて減少傾向にある。一方、碗類は古瀬戸後Ⅳ期（古）から登窯第７小期まで多少の凹凸はあるものの、ほぼ安定した数量が出土しており、登窯第８小期以降に増加している。擂鉢は古瀬戸後Ⅳ期（新）が最も多いものの、全体的には古瀬戸後Ⅳ期から登窯第10小期まで、ほぼ安定して出土している。瀬戸美濃製品の碗・皿類の合計数値（図105の折れ線グラフ）は、時期により大きく異なるものの、擂鉢は比較的安定している。擂鉢の多くは底部内面が摩滅し、調理具以外の用途を想定しにくく、そのような器種が安定して搬入されたということは、この地に継続して人々が居住したことを裏付けている。

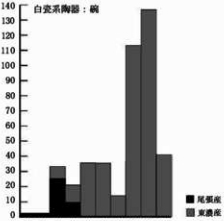
古瀬戸製品は、碗・皿類が後Ⅲ期以前から供給されているのに対し、擂鉢は後Ⅳ期（古）以降に供給されている。一方、白瓷系陶器の片口鉢は第10型式のものが最も多く、第11型式のものは出土していない。白瓷系陶器と古瀬戸製品の併行関係は、白瓷系陶器第10型式が古瀬戸後Ⅱ～Ⅲ期、白瓷系陶器第11型式が古瀬戸後Ⅳ期（古～新）であり（藤澤2007）、当遺跡においては、15世紀前半頃に調理具の主体が白瓷系陶器片口鉢から古瀬戸擂鉢へと移行したといえる。

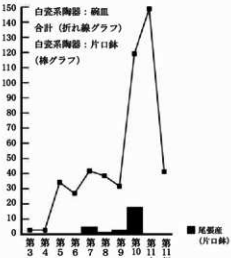
次に構成比について分析する（図106）。今回出土した土師器皿は、およそ古瀬戸後期から登窯第１段階までの遺物と共伴している。そこで、土師器皿が使用されていた、およそ中世後期の食器組成を算出するために、その時期の出土遺物数を計量し、比率を算出した（図106左上）。その結果、土師器皿は全体の約５割弱の比率であり、以下、瀬戸美濃陶器（古瀬戸・大窯・登窯第１段階の遺物数の合計）、白瓷系陶器の順に多く、中国陶磁器は1.3％という比率であった。また、瀬戸美濃製品の皿類、碗類、擂鉢の構成比では、古瀬戸段階では碗と皿の出土数がほぼ同じであることに対し、大窯段階になると皿類の出土数が全体の半数以上と高い比率となる。そして、登窯第１段階では碗・皿類の比率が近くなるものの、第２段階になると碗の比率が増え、第３段階では皿と碗の比率は1.0：7.5まで差が開く。一方、擂鉢は古瀬戸段階でやや比率が高いものの、大窯段階以降は全体の約３分の１以下に収まっている。

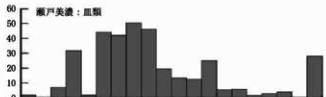
登窯製品の出土量は、段階別にみると第３段階が全体の半数以上を占めている。また、瀬戸と美濃の比率では、第１段階において美濃産の比率が高いものの、第２～３段階においてはほぼ同じ比率となった。なお、登窯第１～３段階における産地別の碗・皿類の組成は、瀬戸117破片（全体の20.7％、以下同様）、美濃333破片（58.8％）、瀬戸美濃82破片（14.5％）、肥前21破片（3.7％）、京信系７破片（1.2％）、信楽１破片（0.2％）、産地不明５破片（0.9％）、合計566破片であった。

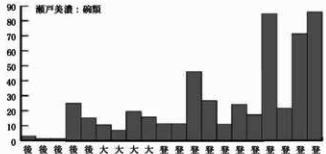
(3) まとめ

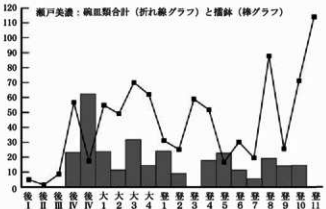
今回の調査区は、中世後期から近世にかけて集落域として機能し、この土地が近代まで継続して利用されてきたことが判明した。集落内では、古墳を意識した区画配置が注目できる。東海地方では、中世において古墳の石室内や墳丘上、墳丘裾に中世墓が造営されることがある。今回の調査で明確な中世墓は検出できなかったものの、墳丘上から出土した古瀬戸四耳壺、水注、瓶子などは蔵骨器としての使用が想定でき、当遺跡においても、古墳を古来の墓地と認識し、その周辺に中世墓を造営していた可能性がある。そして、16世紀頃に居住地を営む際に、墓地の象徴である古墳（あるいは露出している横穴式石室）を避けるように居住域を配置し、その思想が近世段階まで継続して伝えられたと考えたい。このような事例は、岐阜県可児市宮之脇遺跡Ａ地点（可児市教育委員会1994）や、愛知県名古屋市石神遺跡（名古屋市教育委員会1995）でも確認でき、中世の人々が古墳を霊場とし、居住











・グラフは下表の合計値を図化した。
・グラフの縦列の数値は接合後の破片数を示す。
・グラフの横列の文字は土器型式名を示す。しかし、白変系陶器は藤澤 1994 に従い、尾張型山茶椀の型式名に統一した。

白変系陶器（東濃産）：集計表

分類	数量	猿洞	白土原	明和	大畑大洞	大谷洞	大洞東	脇之島	生田	合計
皿	確定	0.0	3.0	2.0	1.0	6.0	2.0	4.0	0.0	18.0
皿	按分	0.0	2.8	3.9	1.9	11.6	3.9	7.9	0.0	32.0
皿	合計	0.0	5.8	5.9	2.9	17.6	5.9	11.9	0.0	50.0
碗	確定	5.0	7.0	17.0	11.0	5.0	45.0	54.0	25.0	169.0
碗	按分	3.2	4.4	18.6	26.4	8.8	68.8	93.7	16.1	228.0
碗	合計	8.2	11.4	35.6	35.4	13.8	113.8	137.7	41.1	397.0
合計		8.2	17.2	41.5	38.3	31.4	119.7	149.6	41.1	447.0

白変系陶器（尾張産）：集計表

分類	数量	第3型式	第4型式	第5型式	第6型式	第7型式	第8型式	第9型式	第10型式	合計
皿	確定	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
皿	合計	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
碗	確定	2.0	2.0	8.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0
碗	按分	0.0	0.0	16.7	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	23.0
碗	合計	2.0	2.0	24.7	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	38.0
片口鉢	確定	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	2.0	18.0	25.0
片口鉢	按分	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.3	0.7	0.9	3.0
片口鉢	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	1.3	2.7	18.9	28.0
合計		2.0	2.0	25.7	9.3	5.1	1.3	2.7	18.9	67.0

瀬戸美濃：集計表

分類	数量	古瀬戸後期 I	II	III	IV古	IV新	大窯 1	2	3	4	登窯 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計
皿類	確定	2.0	0.0	5.0	22.0	2.0	11.0	9.0	12.0	13.0	13.0	9.0	4.0	7.0	3.0	4.0	2.0	1.0	1.0	0.0	8.0	128.0
皿類	按分	0.0	0.0	2.2	9.8	0.0	33.2	33.1	38.8	33.2	6.6	4.7	8.8	18.1	2.6	1.9	0.0	2.1	3.1	0.0	20.1	218.0
皿類	合計	2.0	0.0	7.2	31.8	2.0	44.2	42.1	50.8	46.2	19.6	13.7	12.8	25.1	5.6	5.9	2.0	3.1	4.1	0.0	28.1	346.0
碗類	確定	2.0	1.0	1.0	15.0	8.0	8.0	6.0	15.0	13.0	4.0	4.0	12.0	7.0	2.0	4.0	7.0	25.0	6.0	38.0	62.0	230.0
碗類	按分	0.9	0.4	0.4	9.9	7.4	2.6	1.0	4.6	2.8	7.5	7.5	34.1	19.7	9.0	20.2	10.5	89.7	15.5	33.3	34.0	281.0
碗類	合計	2.9	1.4	1.4	24.9	15.4	10.6	7.0	19.6	15.8	11.5	11.5	46.1	26.7	11.0	24.2	17.5	84.7	21.5	71.3	96.0	511.0
擂鉢	確定	0.0	0.0	0.0	10.0	23.0	9.0	5.0	16.0	8.0	8.0	3.0	0.0	6.0	8.0	4.0	2.0	7.0	5.0	4.0	0.0	118.0
擂鉢	按分	0.0	0.0	0.0	13.0	39.2	14.6	6.3	15.6	6.3	15.8	8.9	0.0	11.6	14.5	7.2	3.5	12.0	9.1	10.4	0.0	185.0
擂鉢	合計	0.0	0.0	0.0	23.0	62.2	23.6	11.3	31.6	14.3	23.8	11.9	0.0	17.6	22.5	11.2	5.5	19.0	14.1	14.4	0.0	303.0
合計		4.9	1.4	8.6	79.7	79.6	78.4	60.4	101.7	76.3	54.9	34.1	58.9	69.4	39.1	41.3	25.0	104.8	39.7	85.7	114.1	1160.0

図 105　器種・時期・産地別の遺物数グラフ（1）

古瀬戸後期～登窯第１段階までの食器組成

種別	数量	割合(%)
白瓷系陶器	341.8	20.8
土師器皿	788.0	48.0
中国陶磁器	22.0	1.3
瀬戸美濃陶器	492.0	29.9
合計	1643.8	100.0

白瓷系陶器（東濃）

器種	数値	堂洞1	白土原1	明和1	大畑大洞4	大谷洞1	大洞東1	脇之島3	生田2	合計
皿	確定		3	2	1	6	2	4		18
	按分				15					15
	按分				17					17
碗	確定	5	7	17	11	5	45	54	25	169
	按分			13				1		14
	按分				18		90			108
	按分				106					106

白瓷系陶器（尾張）

器種	数値	第3型式	第4型式	第5型式	第6型式	第7型式	第8型式	第9型式	第 型式	合計
皿	確定			1						1
碗	確定	2	2	8	3					15
	按分			23						23
片口鉢	確定					4	1	2	18	25
	按分						2			2
	按分							1		1

※表の数値は、いずれも接合後の破片数を示す。

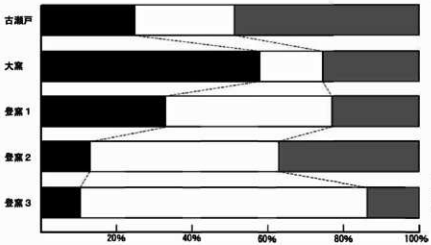
中国陶磁器

種別	器種	分類1	分類2	破片数
青磁	碗類	龍泉窯系	B１類	1
			B２類	1
			C類	1
			不明	5
	皿類	同安窯系	不明	2
		龍泉窯系	梅花皿	1
白磁	皿類		B群	6
			C１群	1
染付	碗類		E群	1
	皿類		B群	2
鉄釉	天目	天目系碗		1
		合計		22

常滑（口縁部破片のみ）

遺物時期	型式名	数量
12世紀後半	2型式	1
13世紀前半	5型式	7
13世紀後半	6ａ～6ｂ型式	5
15世紀後半	10型式	2
15世紀代		1
15～16世紀		1
17世紀前半		2
17世紀末～18世紀前半		1
18世紀後半		4
18世紀末～19世紀前半		1
19世紀前半		4
19世紀後半		1
不明		1
合計		31

瀬戸美濃製品の皿類・碗類・擂鉢の構成比



	皿類	碗類	擂鉢	合計
古瀬戸	43.0	46.0	85.2	174.2
大窯	183.0	53.0	80.8	316.8
登１	71.2	95.8	50.3	217.3
登２	13.5	52.7	39.2	105.4
登３	35.3	263.5	47.5	346.3
合計	346.0	511.0	303.0	1160.0

登窯第１～３段階の時期別・産地別構成比

種別	産地	第１段階					第２段階				第３段階					合計
		1	2	3	4	小計	5	6	7	小計	8	9	10	11	小計	
陶器	瀬戸			4.1	28.5	32.6	34.4	15.7	20.3	70.4	104.5	65.2	45.5	50.8	266.0	369.0
	美濃	34.6	26.3	53.3	56.3	170.5	15.5	29.4	31.6	76.5	116.1	21.9	112.5	13.5	264.0	511.0
	瀬戸美濃	18.3	6.8			25.1								10.9	10.9	36.0
磁器	瀬戸											2.0		1.0	3.0	3.0
	瀬戸美濃												4.4	73.6	78.0	78.0

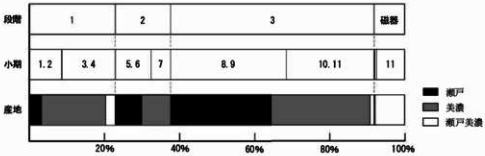


図106　器種・時期・産地別の遺物数グラフ（２）

表29 出土遺物破片数量表（古瀬戸・大窯）

中分類	器種	古瀬戸中期 I	古瀬戸中期 II	古瀬戸中期 III	古瀬戸中期 IV	古瀬戸後期 I	古瀬戸後期 II	古瀬戸後期 III	古瀬戸後期 IV古	古瀬戸後期 IV新	大窯 1前	大窯 1後	大窯 2前	大窯 2後	大窯 3前	大窯 3後	大窯 4前	大窯 4後	小計	合計
天目茶碗	天目茶碗					1			4	6		2	6			5	5	5	69	69
									2		4				9		2			
											4			2						
								5								4				
															3					
碗類	平碗					1	1	1	11	2	1								27	30
									1											
									2											
								7												
	丸碗										1					1			2	
	筒形碗																1		1	
皿類	緑釉小皿					1		4	21	2									39	113
									11											
	折縁中皿					1		1	1										3	
	八稜皿								1										1	
	端反皿										7								7	
	丸皿												9		9			1	33	
														11			2			
																1				
	丸皿or端反皿											9							10	
														1						
	丸皿or稜皿													1					1	
	稜皿													1					1	
	緑釉挟み皿										4								5	
												1								
	内禿皿															3			3	
	折縁皿																3		3	
	豆皿																1		1	
	志野丸皿																	4	4	
	志野菊皿																	2	2	
盤類	直縁大皿							1	3										4	63
	折縁深皿								4										4	
	卸目付大皿								1	3									5	
								1												
	盤類						2	2	1										50	
						13														
							6		22											
								4												
卸皿	卸皿		1			2			2										7	7
								2												
擂鉢	擂鉢								10	23	9		5		8	6	3	3	166	166
									34			7			2		2			
										14										
										5				4						
											3					7				
													5							
														16						
壺瓶類	水注	1																	1	62
	瓶子II類	1							1										4	
			2																	
	瓶子III類						1		2										3	
	壺or瓶		9						3										31	
										1										
								18												
	四耳壺						1		2	2									19	
									4											
										8										
								2												
	祖母懐壺							1											1	
	広口有耳壺										1								1	
	徳利													1					1	
	耳付水注													1					1	
灯明皿	灯明皿										13		15		6		1		36	36
														1						
神仏具	仏供								1										1	2
	袴腰形香炉									1									1	
鉢類	小鉢or小杯								1										1	4
	擂鉢形小鉢							1											1	
	建水														1				1	
	向付																	1	1	
小壺・小瓶類	小壺or小瓶								1										1	1
その他	志野小坏																	2	2	37
	釜									4									4	
	内耳鍋								2										24	
										22										
	鍋or釜									1									1	
	柄付片口							1											1	
	土瓶							4											4	
	土瓶or釜蓋							1											1	

値は接合後の破片数を示す。

表30 出土遺物破片数量表（登窯）

分類	器種	産地	登窯 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	小計	合計
天目茶碗	天目茶碗	瀬戸				1								21	21
		美濃	3	2	3	1									
		美濃	5												
		美濃		6											
陶器碗類	碗	瀬戸		4						11		2		65	326
		瀬戸									5				
		瀬戸									1				
		瀬戸										1			
		美濃		1						20		5			
		美濃				1					7				
		美濃									2				
		美濃						2							
		瀬戸美濃		3											
	丸碗	瀬戸			1		5		1	4				108	
		瀬戸		3				1							
		瀬戸				4		3							
		瀬戸					1								
		瀬戸						1							
		美濃	1	1	6	6	1		1	3		2			
		美濃	1		25		9		1			1			
		美濃		3				6		6					
		美濃						4			3				
		美濃						2							
		瀬戸美濃		2											
	丸碗（擂絵碗）	美濃					1							1	
	端反碗	美濃		1									1	5	
		美濃	1		1										
		美濃						1							
	黄瀬戸碗	瀬戸					2							2	
	腰錆茶碗	瀬戸									1	1		6	
		美濃						1		2					
		美濃					1								
	尾呂茶碗	美濃						3	2					10	
		美濃					4								
		美濃						1							
	刷毛目茶碗	瀬戸								1				1	
	御茶碗	美濃								11				13	
		美濃								1		1			
	鎧茶碗	瀬戸								1				2	
		瀬戸								1					
	輪花碗	瀬戸							3					3	
	染付碗	瀬戸										1		5	
		瀬戸								1		1			
		美濃									1				
		美濃										1			
	広東茶碗	瀬戸										3	1	21	
		瀬戸									1				
		瀬戸										3			
		美濃										9			
		美濃										4			
	筒形碗	美濃			1		1							4	
		美濃			2										
	志野丸碗	美濃	1		1									2	
	湯呑	瀬戸								8				17	
		瀬戸									2				
		瀬戸										2			
		美濃								1					
		美濃								4					
	長の	瀬戸								3	4			11	
		瀬戸								4					
	箱形湯呑	瀬戸								1				27	
		美濃										15	2		
		美濃									6				
		美濃										2			
		美濃										1			
	筒形湯呑	美濃										3		3	
	掛分湯呑	美濃								1				1	
	染付湯呑	瀬戸								1				1	
	梅文湯呑	瀬戸										1	1	2	
	小碗	美濃						1		2				13	
		美濃							2						
		美濃								2					
		美濃									1				
		瀬戸美濃											5		
	小坏	美濃			1									3	
		美濃			2										
陶器皿類	皿	瀬戸								1				10	
		瀬戸									1				
		美濃					1		2		1		1		
		美濃										1			
		美濃						2							
	豆皿	美濃		1										1	
	丸皿	瀬戸										1			

表31　出土遺物破片数量表（登窯）

分類	器種	産地	登窯 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	小計	合計
陶器 皿類	丸皿	美濃		1							2			3	35
		美濃			10							2		12	
	志野皿	美濃	1	2	1									4	6
		美濃	2											2	
	志野丸皿	美濃	5	4										9	14
		美濃	5											5	
	貫入皿	美濃	2											2	2
	鉄絵皿	美濃	1											1	1
	折縁鉄絵皿	美濃	4	3										7	12
		美濃	2		3									5	
	輪花皿	瀬戸										3		3	5
		美濃			2									2	
		瀬戸				1								1	
	菊皿	美濃				5								5	7
		美濃					1							1	
	反り皿	瀬戸						1						1	18
		美濃			1	6	2							9	
		美濃			5									5	
		美濃					3							3	
	間絵皿	美濃						4						4	6
		美濃						2						2	
	染付皿	瀬戸									1			1	5
		美濃										4		4	
	梅文皿	瀬戸								1	1			2	3
		瀬戸								1				1	
	馬の目皿	瀬戸									3			3	4
		瀬戸										1		1	
	笠原鉢	美濃				3		1						4	5
		美濃					1							1	
	折縁輪花鉢	美濃							2					2	2
	梅文鉢	美濃										1		1	1
	鉢	美濃								1		1		2	5
		美濃									1			1	
		瀬戸美濃						2						2	
陶器 鉢・盤類A	片口	瀬戸								1			5	6	27	73
		瀬戸									1	2		3	
		美濃			3					4	4	1		12	
		美濃	1	1						1	1			3	
		美濃									4			4	
	鉢鉢	瀬戸						1		3	2	3		9	29
		瀬戸								4				4	
		瀬戸										10		10	
		美濃									2	1		3	
		美濃										3		3	
	鉢鉢か	瀬戸									2			2	2
	鉢鉢or片口	美濃										1		1	1
	捏鉢	美濃								1				1	1
陶器 鉢・盤類B	仙鉢	瀬戸									2			2	2
	火鉢	瀬戸									1	1		2	6
		瀬戸										2		2	
		美濃										1		1	
	火入	美濃								2				2	2	18
	火入か	美濃										1		1	1
	蟹蟹	美濃						1	1					2	3
		美濃							1					1	
	香物	美濃									2			2	3
		美濃										1		1	
	香物か	美濃										1		1	1
陶器 擂鉢	擂鉢	瀬戸				6	8	4	2	7	5	4		36	137	137
		瀬戸	2		1		1					1		5	
		瀬戸		1								3		4	
		瀬戸						81						81	
		瀬戸美濃	8	3										11	
陶器 壺・瓶類	壺	瀬戸									9			9	15	94
		瀬戸										1		1	
		美濃										3		3	
		美濃										2		2	
	有耳壺	瀬戸				1								1	8
		瀬戸									3			3	
		美濃										3		3	
	壺or瓶	瀬戸			1			1						2	4
		美濃						2						2	
	壺or壺	瀬戸						2						2	2
	小壺or小瓶	美濃						1						1	1
	小瓶	瀬戸										1		1	2
		瀬戸										1		1	
	土瓶	瀬戸										1		1	8
		瀬戸										2		2	
		美濃										3		3	
		美濃										1		1	
	竹次	美濃											1	1	1

分類	器種	産地	登窯 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	小計	合計
陶器 壺・瓶類	小壺	瀬戸										1		1	1
	壺	瀬戸									2		3	5	19
		瀬戸										10		10	
		瀬戸										3		3	
	壺か	瀬戸							1					1	1
	半胴	瀬戸								2		1	3	6	35
		瀬戸									3		1	4	
		瀬戸									15		1	16	
		瀬戸										3		3	7
	水壺	瀬戸											1	1	
		瀬戸										1		1	
		美濃											1	1	
陶器 徳利	徳利	瀬戸								1		2		3	65	68
		瀬戸									1		4	5	
		美濃							1			1		2	
		美濃						5	1	3				9	
		美濃								2		7	5	14	
		美濃									1		20	21	
		美濃								8				8	
		瀬戸美濃	2										1	3	
	徳利か	美濃										1		1	1
	身徳利	瀬戸									1			1	2
		美濃									1			1	
陶器 灯火具	灯明皿	美濃									2	1	1	4	9	10
		美濃										2	2	4	
		美濃											1	1	
		美濃								1				1	
	受燈	美濃										1		1	1
陶器 その他	香炉	美濃										1	1	2	4
		瀬戸										2		2	
	筒形香炉	美濃								1				1	14
		美濃									5	1		6	
		美濃									3	3		6	
		美濃										1		1	
	鍋	瀬戸										1	1	2	2
	管平	瀬戸											1	1	3
		瀬戸											1	1	
	鞴か	瀬戸美濃								2				2	2
	蓋	瀬戸								1				1	3	61
		美濃										1	1	2	
		美濃											1	1	
	蓋か	瀬戸										1		1	1
	広東碗蓋	美濃											1	1	1
	水滴	美濃	1											1	1
		瀬戸										1		1	3
	仏飯具	美濃										1		1	
		瀬戸美濃											1	1	
	蕪斗	美濃										2		2	2
	焜炉	瀬戸美濃							1					1	1
	不明	瀬戸										3		3	24
		美濃										5		5	
		美濃											1	1	
		瀬戸美濃									9			9	
		瀬戸美濃									6			6	
磁器 碗類	碗	瀬戸美濃											12	12	19
		瀬戸美濃											7	7	
	丸碗	瀬戸										1		1	2
		瀬戸美濃											1	1	
	端反碗	瀬戸											1	1	23
		瀬戸美濃											17	17	
		瀬戸美濃											4	4	
	広東系碗	瀬戸美濃											21	21	64
		瀬戸美濃											2	2	
		瀬戸										1		1	
	蕎麦	瀬戸美濃											9	9	12
		瀬戸美濃											2	2	
	筒形湯呑	瀬戸美濃											1	1	1
	小坏	瀬戸美濃											2	2	2
	小碗	瀬戸美濃											1	1	
磁器 皿類	皿	瀬戸美濃											3	3	5
		瀬戸美濃											2	2	
	型打皿	瀬戸美濃											3	3	3	10
	丸皿	瀬戸美濃											1	1	
	端反皿	瀬戸美濃											1	1	
磁器 その他	鉢	瀬戸美濃											1	1	5
	徳利	瀬戸美濃											1	1	
	蓋	瀬戸美濃											1	1	
	不明	瀬戸美濃											1	1	2

域の配置の際にあえて古墳を壊さず、信仰の対象などのために残した結果と認識する。そして、当遺跡と宮之脇遺跡Ａ地点において、東海地方では検出例の極めて少ない地下式坑が発見されていることは、地下式坑の一性格を検討する上でも重要である。

また、土師器皿は一般的に城館など、地域の権力者や有力者の居住地ほど出土量が多い傾向にある（井川2006）。今回出土した土師器皿は、中世から近世初頭の出土遺物のうち約半数を占め、ＳＫ518のように完形に復元できる個体が複数まとまって出土したことから、これらは饗宴や儀式等に伴う一括廃棄の可能性がある。一般集落ではほとんど出土しない中国産の天目茶碗と鼠志野向付などが出土したことや、溝に区画された居住域や大型建物、地下式坑などの存在も加味すると、当遺跡は一般集落とはやや異なる性格を有していたといえよう。

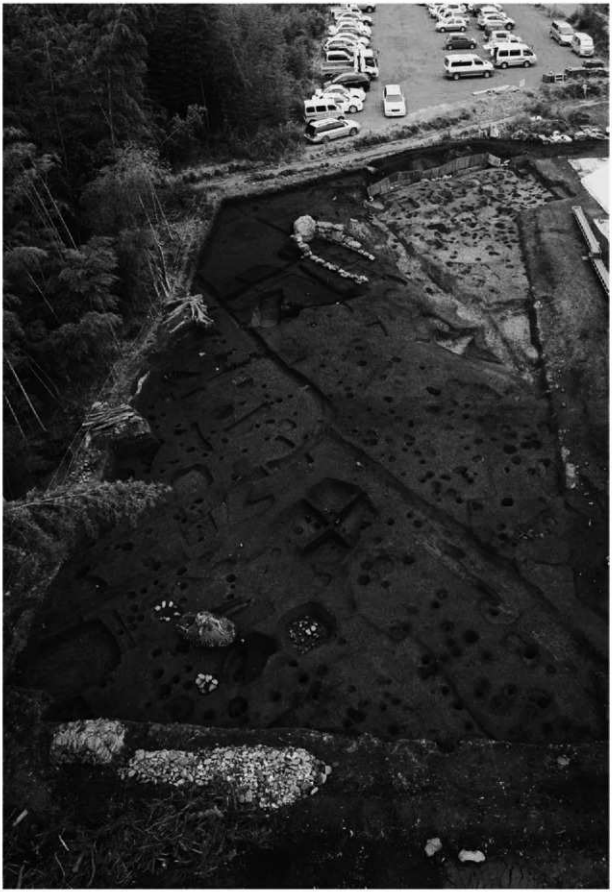
＜引用・参考文献＞

井川祥子2006「美濃中世後期土師器皿の分類と編年」『守護所と戦国城下町』高志書院
岩史誌編纂委員会2007『岩郷土誌』
可児市教育委員会1994『川合遺跡群』
岐阜県教育委員会2007『改訂版　岐阜県遺跡地図』
岐阜県文化財保護センター2009『岐阜県新発見考古速報2009 －平成21年度岐阜県発掘調査報告会－』
岐阜市1980『岐阜市史　通史編　原始・古代・中世』
岐阜市1979『岐阜市史　史料編　考古・文化財』
岐阜市教育委員会1977『大垣古墳群発掘調査報告書』
岐阜市教育委員会1987『寺田・日野１』
岐阜市教育委員会1990『城之内遺跡』
岐阜市教育委員会・岐阜市遺跡調査会1995『寺田遺跡』
岐阜市教育委員会1999『平成９・10年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』
岐阜市教育委員会・財団法人岐阜市教育文化振興事業団2004・2008『平成12・14・15、17・18・19年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『七反田番場山７・10・11号古墳』
名古屋市教育委員会1995『石神遺跡・玉ノ井遺跡・高蔵遺跡（第７次）発掘調査報告書』
成瀬正勝1990「美濃における畿内系横穴式石室の需要と展開」『岐阜史学』第83号　岐阜史学会
成瀬正勝1992「美濃の横穴式石室」『美濃の後期古墳』美濃古墳文化研究会
成瀬正勝1999「美濃における横穴式石室の築造技法－側壁の積石技法を中心に－」『岐阜史学　－考古・古代特集－』第96号　岐阜史学会
八賀晋1972「第六章　歴史時代初期の美濃と飛騨」『岐阜県史　通史編　原始』
藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター　研究紀要』第３号
藤澤良祐2007「第１章　総論」『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』
美濃古墳文化研究会1992『美濃の後期古墳』
美濃市教育委員会1993『塚穴古墳群発掘調査報告書』
横幕大祐2001「美濃地方における後期古墳の状況」『東海の後期古墳を考える　第８回東海考古学フォーラム　三河大会』

写真図版

調査区遠景（手前が中屋敷遺跡、左上が長良川）（南から）

図版２　調査区近景（１）



調査区近景（古墳等の盛土除去後）（南西から）

調査区近景（古墳等の盛土除去前）（南東から）

中屋敷古墳近景（南から）

図版4　中屋敷古墳（2）

石室完掘状況（南から）

石室西側壁（東から）

石室西側壁（南東から）

石室東側壁（南西から）

石室西側壁（南東から）

石室東側壁（南西から）

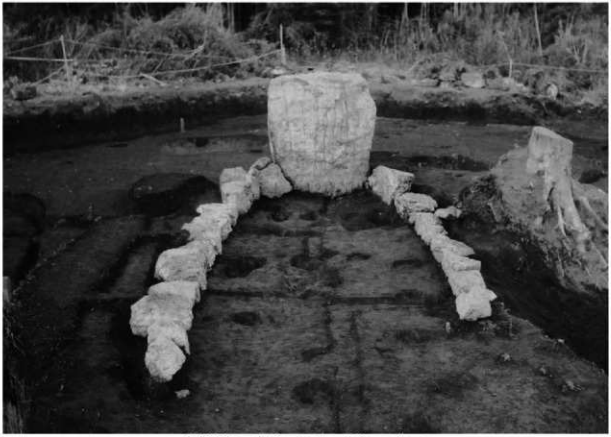
石室床面（南から）

石室西側壁（東から）

中屋敷古墳土層（南から）

中屋敷古墳土層（西から）

図版６　中屋敷古墳（４）



石室完掘状況（側壁１段目のみ残す）（南から）

石室掘方掘削状況（北東から）

石室掘方土層（南から）

奥壁掘方完掘状況（西から）

ＳＵ１　遺物出土状況（西から）

ＳＢ１・２ 完掘状況（南から）

ＳＢ１ 遺物出土状況（南から）

ＳＢ１−ＳＦ１ 土層（北西から）

ＳＢ３ 完掘状況（西から）

ＳＢ３ 土層（西から）

図版8　掘立柱建物跡・整地遺構・溝

ＳＨ１～４ 完掘状況（南西から）

ＳＤ６ 完掘状況（南から）

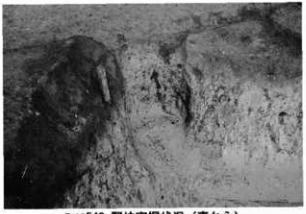
ＳＶ１ 土層（東から）

ＳＤ12 完掘状況（南から）

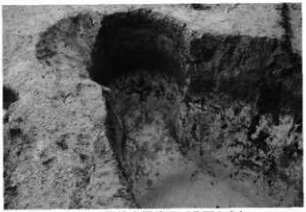
ＳＫ540・564 完掘状況（西から）

ＳＫ540 土層（南西から）

ＳＫ564 土層（北西から）



ＳＫ540 竪坑完掘状況（東から）

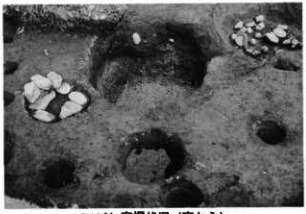


ＳＫ564 竪坑完掘状況（北西から）

図版10　地下式坑（2）・近世墓・土坑（1）

ＳＺ１ 蓋石検出状況（南から）

ＳＺ１ 完掘状況（南から）



ＳＫ41 完掘状況（南から）

ＳＫ41 土層（北東から）

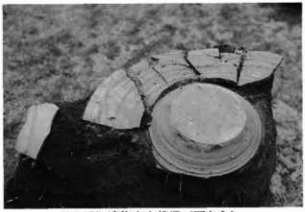
ＳＫ41 竪坑と地下室との段（北から）

ＳＫ39 礫出土状況（東から）

ＳＫ３ 完掘状況（北から）

ＳＫ３ 側壁（北から）

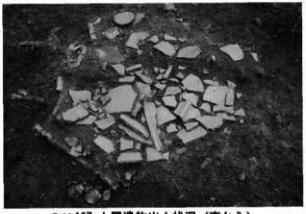
ＳＫ71 土層（東から）



ＳＫ79 遺物出土状況（西から）

ＳＫ433 四分割状況（南から）

ＳＫ555 遺物出土状況（南から）



ＳＫ467 上層遺物出土状況（南から）

ＳＫ467 下層遺物出土状況（東から）

ＳＫ518 遺物出土状況（北から）

ＳＫ518 土層（南から）

図版12　奈良時代以前の遺物（1）

横穴式石室と竪穴住居跡の出土遺物（７世紀後葉〜８世紀初頭）

8

113

6

43

136

49

138

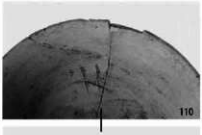
111

135

108

114

142

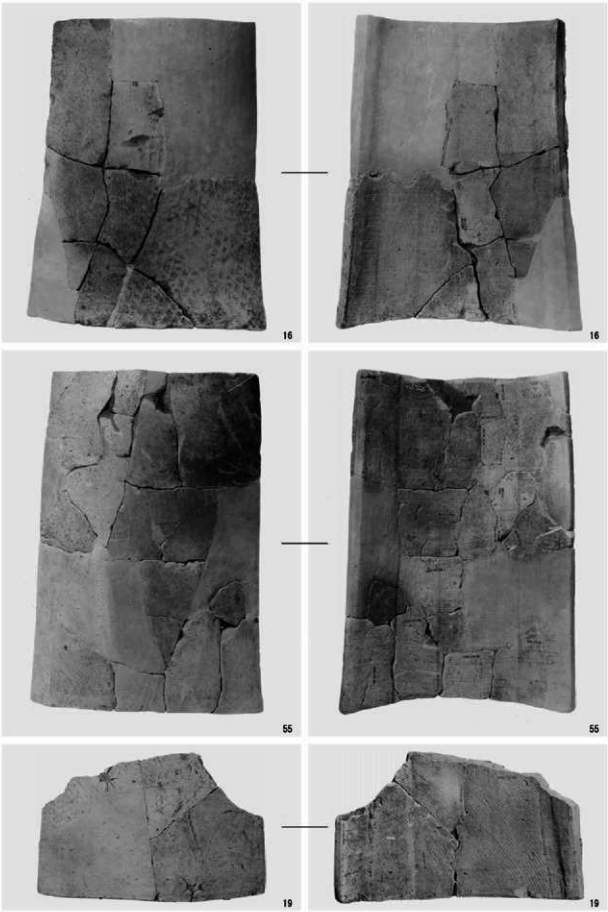

110

149

110

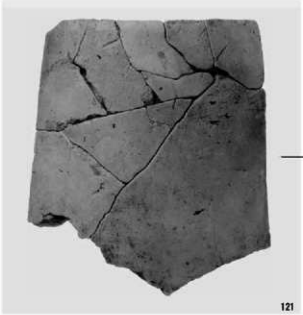
131

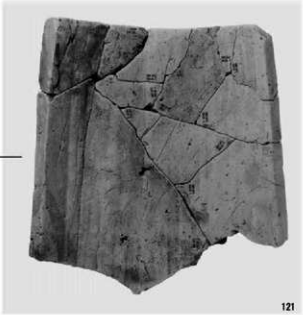
図版14　奈良時代以前の遺物（３）



119

119

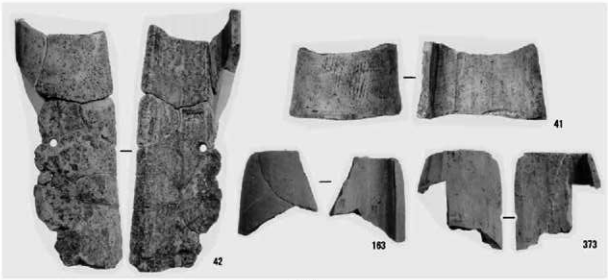

121


121

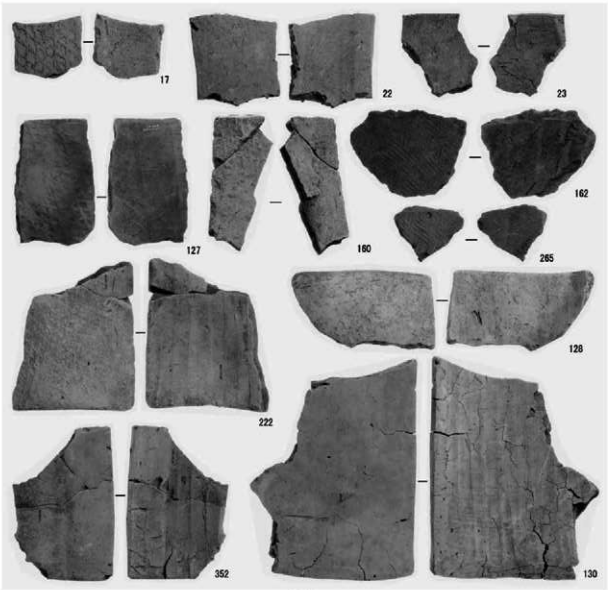
124

124

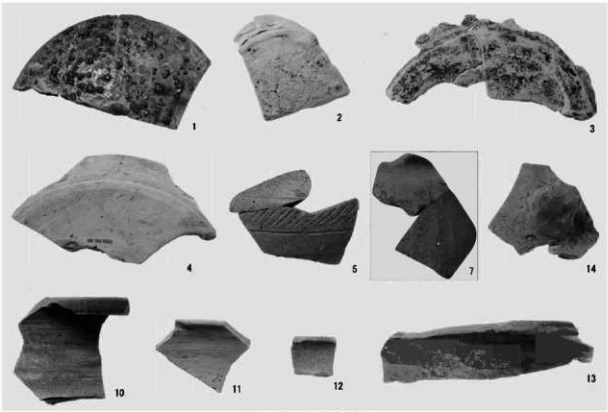
図版16　奈良時代以前の遺物（5）



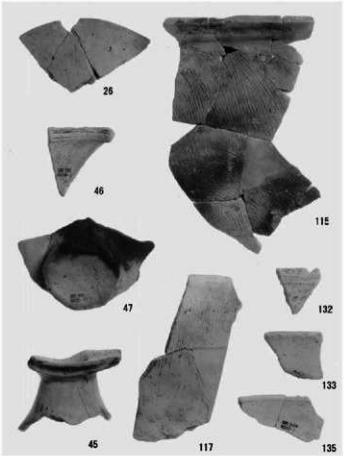
丸瓦



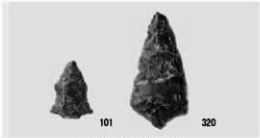
平瓦



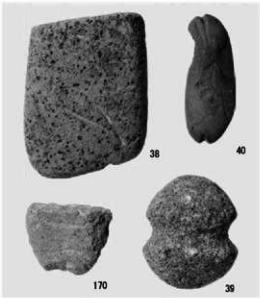
横穴式石室出土須恵器



弥生土器・土師器

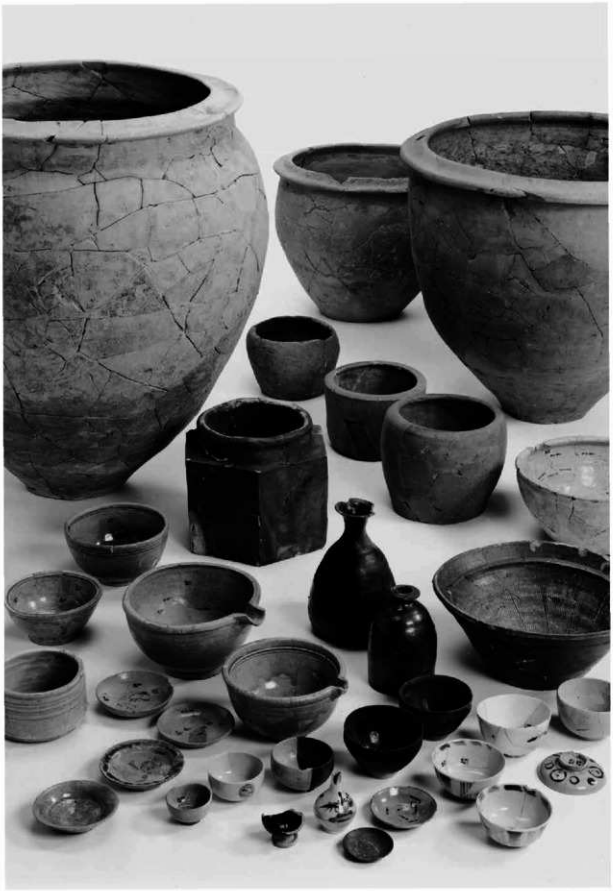


石鏃・有舌尖頭器



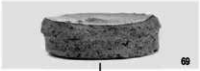
磨製石斧・石錘

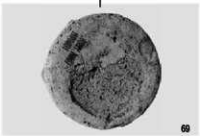
図版18　平安時代以降の遺物（1）



出土した近世陶磁器

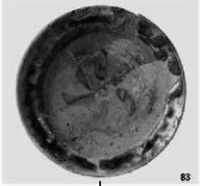
29


69


69

78

81


83

83

165

171

183

184

185

188

190

191

192

193

194

198

223

242

250

254

図版20　平安時代以降の遺物（3）

424

474

496

439

481

500

440

483

50

441

483

502

443

503

449

487

506

452

490

510

455

491

図版22　平安時代以降の遺物（5）

337

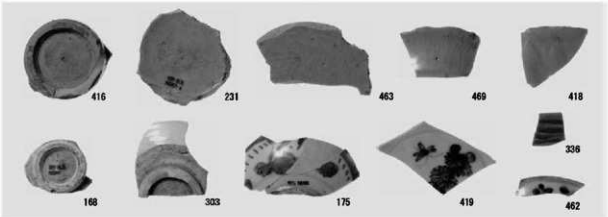
91

338

506

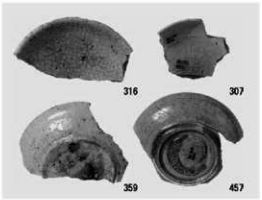
380

278

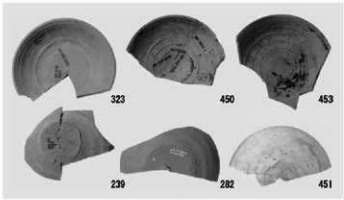


中国磁器

図版24　平安時代以降の遺物（7）



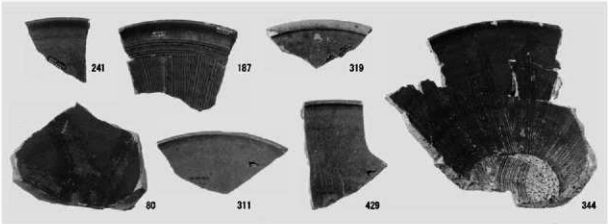
大窯丸皿



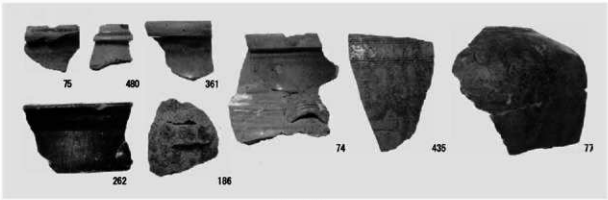
大窯灯明皿

古瀬戸・大窯碗類

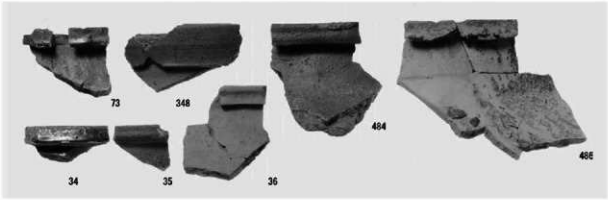
白愛系陶器碗・鉢類



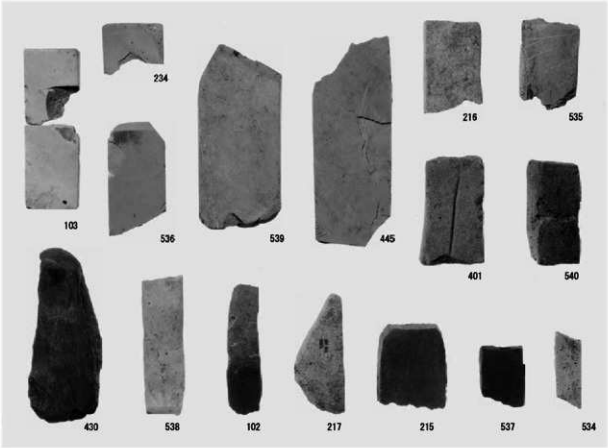
大窯擂鉢


75
480
361
74
435
77
262
186

壺・瓶類


73
348
484
486
34
35
36

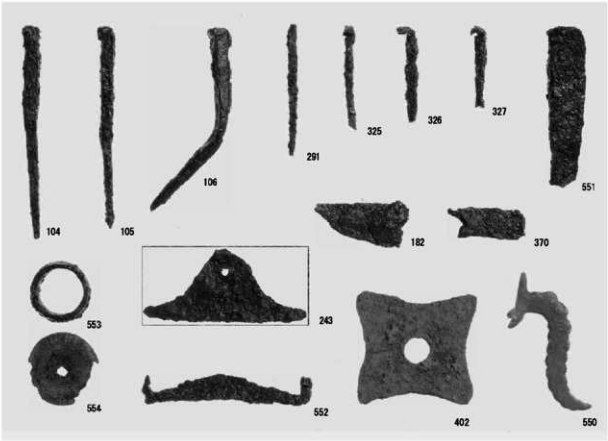
常滑壺


234
216
535
103
536
539
445
401
540
430
538
102
217
215
537
534

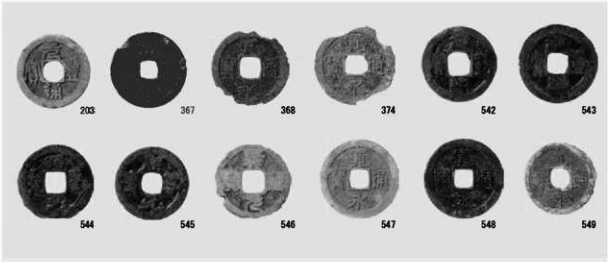
砥石

図版26　平安時代以降の遺物（9）

土錘・土鈴



金属製品



銭貨

報告書抄録

ふりがな	なかやしきいせき・なかやしきこふん
書名	中屋敷遺跡・中屋敷古墳
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第115集
編著者名	小野木学
編集機関	岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　℡058-237-8550
発行年月日	西暦2011年3月9日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
なかやしきいせき 中屋敷遺跡 なかやしきこふん 中屋敷古墳	ぎふけん 岐阜県 ぎふし 岐阜市 いわたにし 岩田西	21201 21201	11303 11327	35° 26' 27"	136° 49' 49"	20080702～20081218 898㎡	国道156号岐阜東バイパス建設に伴う

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中屋敷遺跡 中屋敷古墳	集落跡 古墳	古墳時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代	古墳　1基 竪穴住居跡　3軒 掘立柱建物跡　4棟 土坑　578基 溝　13条 整地遺構　2基 近世墓　1基 など	縄文土器　9点 弥生土器・土師器　1,177点 須恵器　653点 古代瓦　631点 中近世陶磁器　5,368点 石器・石製品　67点 金属製品　49点 など	横穴式石室を有する古墳1基と、古代瓦が出土した竪穴住居跡1軒、中近世の掘立柱建物跡4棟、地下式坑3基などを検出。

要約

中屋敷遺跡は古墳時代早期から近世までの複合遺跡である。古墳時代終末期の竪穴住居跡からは、7世紀後半から8世紀初頭の土器とともに瓦が出土した。瓦の大半は、粘土板桶巻き作りにより成形されており、瓦の年代を推定できる良好な資料である。また、室町時代から近世にかけての集落は、溝や傾斜面などにより居住域を区画している。その配置は中屋敷古墳を意識しており、中世から近世の人々が居住域の配置の際にあえて古墳を壊さず、信仰の対象などのために残した結果と推定した。なお、集落内には、16世紀から17世紀初頭頃に築造された地下式坑3基が存在している。地下式坑の発見は、岐阜県内において3遺跡目の事例となり、今後、その性格や遺跡との関連などについて検討する必要がある。

中屋敷古墳は横穴式石室を有する墳丘規模15m以上の古墳である。石室床面直上から出土した遺物は皆無であったものの、石室の形態等から、およそ7世紀前半から中頃に構築された古墳であると推定した。

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第115集

中屋敷遺跡・中屋敷古墳

2011年３月９日

編集・発行　岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
印　　刷　有限会社 もとすいんさつ